

大田区政に関する世論調査

平成26年7月実施

大 田 区

今後の区政運営のために

大田区は、平成 20 年 10 月に「大田区基本構想」を策定し、20 年後のめざすべき将来像を「地域力が区民の暮らしを支え、未来へ躍動する国際都市 おおた」としています。この将来像を実現するため、平成 21 年 3 月に「おおた未来プラン 10 年」、平成 26 年 3 月に「おおた未来プラン 10 年（後期）」を策定し、さまざまな施策を推進しております。

区は、将来像の実現に向けて着実に歩みを進めるために、区民の皆様のご意見・ご要望を的確に把握していくことが重要であると考えております。

この「大田区政に関する世論調査」は、広聴事業のひとつとして実施しており、今回で 34 回目となります。今回の調査では、「定住意向」、「生活環境の満足度」、「特に力を入れてほしい区の施策」など経年的に変化を把握するために毎回調査している項目に加え、「駅周辺のバリアフリー化」「羽田空港及び羽田空港跡地の地域経済活性化への貢献度」「ボランティア活動への意欲」などの項目についても調査いたしました。

調査の結果は、「おおた未来プラン 10 年（後期）」の中で、各施策のモノサシ（指標）に示した目標値の達成度の把握や、今後の区政運営のための貴重な資料として活用してまいります。

「大田区政に関する世論調査」にご協力くださった区民の皆様に、改めて厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 12 月

大田区長 松原 忠義

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査の設計	3
4. 回収の結果	3
5. この報告書の見方	4
6. 標本誤差について	4
7. 調査対象者の抽出	6
II 調査結果の概要	9
1. 回答者の属性	11
2. 質問と回答	13
III 調査結果の分析	31
1. 定住性	33
(1) 居住開始時期	33
(2) 定住意向	36
(3) 住みたい理由	41
(4) 住んでいるまちが魅力的か	44
2. 暮らしやすさ	47
(1) 生活環境の満足度	47
(2) 住んでいるまちの暮らしやすさ	54
《基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》	
3. 健康に暮らせるまち	57
(1) 食品の安全性についての不安	57
4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン	60
(1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度	60
(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区 の取り組み	65
(3) 駅周辺のバリアフリー化	68
5. 生涯教育の推進	71
(1) この1年間に行った生涯学習	71
(2) 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用	74
(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度	76

目次

6. 男女平等の推進	78
(1) 男女の地位平等	78
7. 高齢者虐待相談・通報窓口の周知度	85
(1) 高齢者虐待に関する相談窓口の周知度	85
《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市》	
8. 公園緑地	88
(1) 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか	88
9. 空港臨海部のまちづくり	91
(1) 羽田空港及び羽田空港跡地の地域経済活性化への貢献度	91
(2) 空港臨海部の身近さ	94
《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》	
10. 自治会町会等の活動について	97
(1) 参加したことがある地域活動	97
(2) ボランティア活動への意欲	101
11. 消費者支援	104
(1) 「大田区立消費者生活センター」での消費者相談実施の認知度	104
(2) 生活の中で困ったこと	106
(3) 相談状況	108
12. 防災対策（ペットの防災含む）	110
(1) 大震災発生時に不安だと思うもの	110
(2) 震災対策の実施状況	113
(3) 住まいの建物が建てられた時期	117
(4) 耐震補強工事の状況	119
(5) 耐震補強工事をしていない理由	121
(6) 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度	123
(7) 力を入れてほしい防災対策	125
(8) 飼育している動物	128
(9) ペットと避難するための準備	131
13. 緑化推進・省エネ推進	134
(1) エコライフ活動・緑化活動推進のための一部助成の認知度	134
(2) エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況	138

14. 地球環境	146
(1) 「生物多様性」の認知度	146
(2) 「コアジサシ」の認知度	148
15. 清掃・リサイクルの推進	150
(1) 紙ごみの分別状況	150
16. 区政への関心と要望	153
(1) 区の制度・施策・施設の認知度	153
(2) 区の情報を知るために利用する媒体	156
(3) 区の情報公開	159
(4) 区政への参画状況	162
(5) 区政に参加したことがない理由	175
(6) 施策要望	177
17. 自由意見	181
基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち	181
基本目標 2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市	185
基本目標 3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち	191
IV 調査結果の概観	201
(1) 定住性	204
(2) 生活環境の満足度	207

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

大田区の各行政分野における区民の意向・要望・生活実態を把握するとともに、今後の大田区政の設計や方向性を検討する際の基礎資料とする。

2. 調査項目

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| (1) 定住性 | (9) 空港臨海部のまちづくり |
| (2) 暮らしやすさ | (10) 自治会町会等の活動について |
| (3) 健康に暮らせるまち | (11) 消費者支援 |
| (4) バリアフリー・ユニバーサルデザイン | (12) 防災対策（ペットの防災含む） |
| (5) 生涯教育の推進 | (13) 緑化推進・省エネ推進 |
| (6) 男女平等の推進 | (14) 地球環境 |
| (7) 高齢者虐待相談・通報窓口の周知度 | (15) 清掃・リサイクルの推進 |
| (8) 公園緑地 | (16) 区政への関心と要望 |

3. 調査の設計

- | | |
|-----------|--|
| (1) 調査地域 | 大田区全域 |
| (2) 調査対象 | 大田区内に居住する満20歳以上の男女個人（外国人を含む） |
| (3) 標本数 | 2,000人 |
| (4) 調査地点数 | 200地点 |
| (5) 抽出法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (6) 調査方法 | 郵送調査。ただし、回収方法は郵送回収に加え、携帯電話およびパソコンを利用した電子申請からの回答も実施 |
| (7) 調査期間 | 平成26年7月18日～8月5日 |
| (8) 調査機関 | 株式会社エスピー研 |

4. 回収の結果

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| (1) 回収数 | 1,120人（電子申請102件含む）（回収率 56.0%） |
| (2) 有効回収数 | 1,119人（有効回収率 56.0%） |

5. この報告書の見方

- (1) 集計は小数第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答率を合計しても100%にならず、1%の範囲で増減することがある。
- (2) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数nとして算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- (3) クロス集計の図表では、分析軸となる質問(性別、性/年齢別等)に無回答だった人については掲載していない。そのため、各層のnの合計が総数とは一致しない場合がある。
- (4) 回答者数が30に満たないものについては、図示するに留め、この報告書の中では特に取りあげていない場合がある。
- (5) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。

6. 標本誤差について

この調査の基本誤差(サンプル誤差)はおおよそ下記の表のとおりである。基本誤差は次の式によって得られる。標本誤差の幅は、①比率算出の基数(n)、及び②回答の比率(P)によって異なる。

$$b = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差 (二段抽出の場合)
N = 母集団数 (大田区の満20歳以上の男女個人)
n = 比率算出の基数 (サンプル数)
P = 回答の比率 (%)

※後にかかげる表は $\frac{N - n}{N - 1} \div 1$ として算出した。本調査は層化を行っているので誤差はこの表よりやや小さくなる。

たとえば、回答者総数(1,119人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%で

あった場合の標本誤差を計算すると、 $b = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{0.5 \times (1 - 0.5)}{1,119}} = \pm 4.2\%$ となる。

つまり、回答者総数(1,119人)を100%とする比率について、ある質問の回答率が50%の時、大田区民(満20歳以上の男女)の真の値は45.8%~54.2%の間にあると考えられる。ただし、信頼度は95%であるので、95%の確率で間違いないと判断できるという意味である。

nとPを上記の式に代入すれば、必要な標本誤差はすべて計算できる。

標本誤差早見表は下記の図のとおりである。

図1 標本誤差早見表 (信頼度 95%)

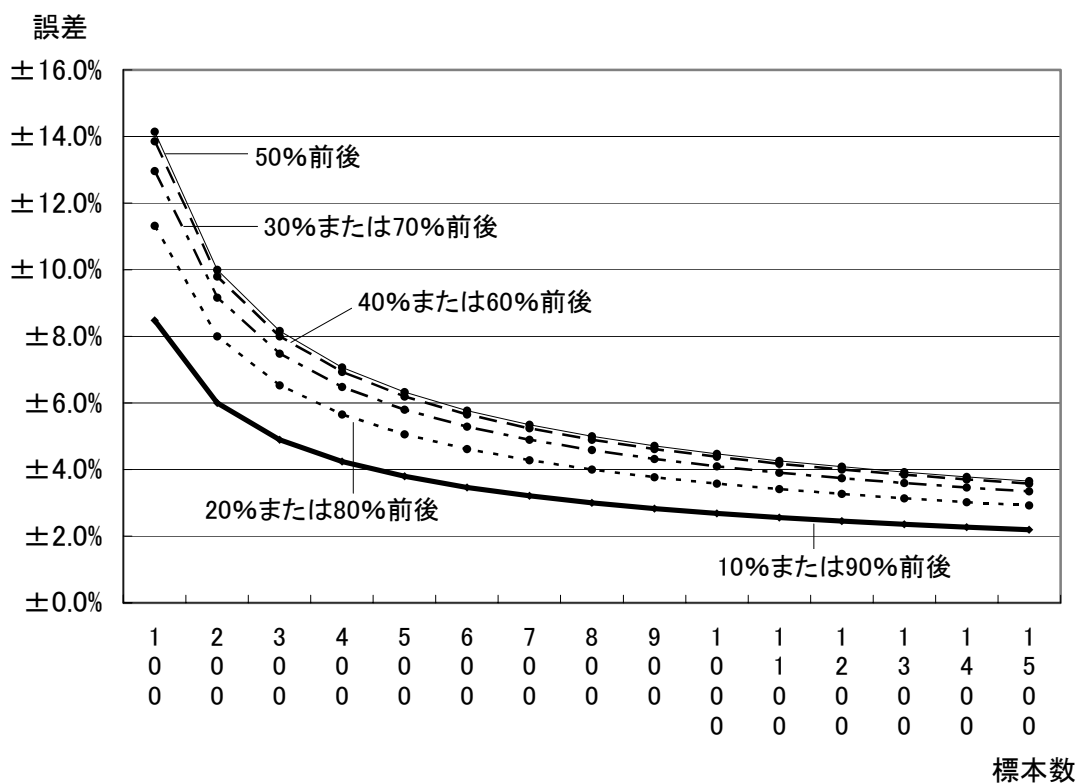


図2 本調査における標本誤差一覧 (信頼度 95%)

基数 (n)		回答の比率 (P)					
		10%または90%前後	20%または80%前後	30%または70%前後	40%または60%前後	50%前後	
全体		1,119	±2.5%	±3.4%	±3.9%	±4.1%	±4.2%
地域別	大森地域	378	±4.4%	±5.8%	±6.7%	±7.1%	±7.3%
	調布地域	282	±5.1%	±6.7%	±7.7%	±8.3%	±8.4%
	蒲田地域	320	±4.7%	±6.3%	±7.2%	±7.7%	±7.9%
	糀谷・羽田地域	111	±8.1%	±10.7%	±12.3%	±13.2%	±13.4%
性別	男性	409	±4.2%	±5.6%	±6.4%	±6.9%	±7.0%
	女性	648	±3.3%	±4.4%	±5.1%	±5.4%	±5.6%
性/年代別	男性20代	37	±13.9%	±18.6%	±21.3%	±22.8%	±23.2%
	男性30代	57	±11.2%	±15.0%	±17.2%	±18.4%	±18.7%
	男性40代	82	±9.4%	±12.5%	±14.3%	±15.3%	±15.6%
	男性50代	70	±10.1%	±13.5%	±15.5%	±16.6%	±16.9%
	男性60代	69	±10.2%	±13.6%	±15.6%	±16.7%	±17.0%
	男性70歳以上	93	±8.8%	±11.7%	±13.4%	±14.4%	±14.7%
	女性20代	51	±11.9%	±15.8%	±18.1%	±19.4%	±19.8%
	女性30代	119	±7.8%	±10.4%	±11.9%	±12.7%	±13.0%
	女性40代	118	±7.8%	±10.4%	±11.9%	±12.8%	±13.0%
	女性50代	106	±8.2%	±11.0%	±12.6%	±13.5%	±13.7%
	女性60代	113	±8.0%	±10.6%	±12.2%	±13.0%	±13.3%
	女性70歳以上	139	±7.2%	±9.6%	±11.0%	±11.8%	±12.0%

7. 調査対象者の抽出

- (1) 母集団 大田区内に在住する満 20 歳以上の男女個人（外国人を含む）
（平成 26 年 4 月 1 日時点）
- (2) 抽出台帳 大田区住民基本台帳
- (3) 標本数 2,000
- (4) 調査地点数 200 地点
- (5) 抽出法 層化二段無作為抽出法
- (6) 地域区分 区内を、4 地域（大森、調布、蒲田、糀谷・羽田）に分類し、それぞれを層とした。

地域名	所管区域
大森地域	大森東特別出張所管内、大森西特別出張所管内、入新井特別出張所管内、馬込特別出張所管内、池上特別出張所管内、新井宿特別出張所管内
調布地域	嶺町特別出張所管内、田園調布特別出張所管内、鶉の木特別出張所管内、久が原特別出張所管内、雪谷特別出張所管内、千束特別出張所管内
蒲田地域	六郷特別出張所管内、矢口特別出張所管内、蒲田西特別出張所管内、蒲田東特別出張所管内
糀谷・羽田地域	糀谷特別出張所管内、羽田特別出張所管内

図 3 地域図



- (7) 標本数の配分 1 地点は 10 標本になるように各地域における 20 歳以上の人口（平成 26 年 4 月 1 日現在）に応じて地点を比例分配した。（合計 200 地点）
- (8) 地点抽出 各地域ごとに地点数に応じた対象者人口インターバルを定め、各地点のスタート番号を無作為抽出した。
- (9) 対象者抽出 1 地点ごとに、「(7)」で設定した標本数を無作為抽出した。

以上の結果、地域別の地点数、標本数及び有効回収数は次のとおりである。

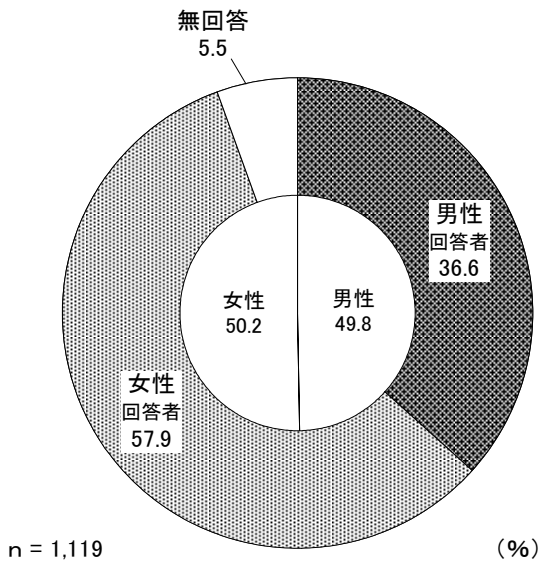
地域名	20歳以上人口(構成比)	地点数	標本数	有効回収数(率)
大森地域	199,253 (33.3%)	66	660	378 (57.3%)
調布地域	152,876 (25.5%)	51	510	282 (55.3%)
蒲田地域	181,672 (30.3%)	61	610	320 (52.5%)
糀谷・羽田地域	64,844 (10.8%)	22	220	111 (50.5%)
無回答				28
合計	598,645 (100.0%)	200	2,000	1,119 (56.0%)

Ⅱ 調査結果の概要

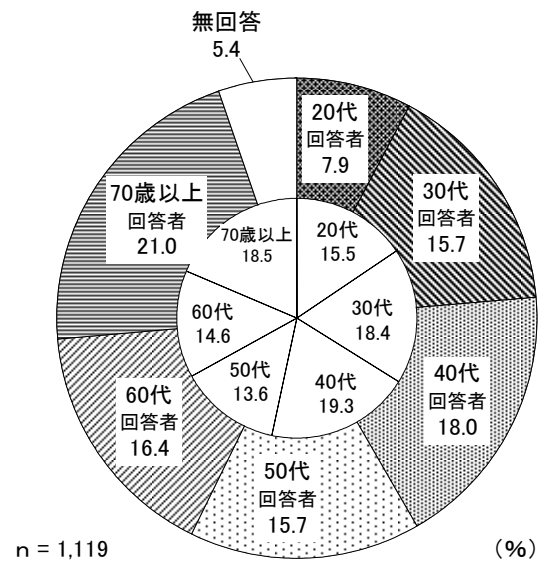
II 調査結果の概要

1. 回答者の属性

(1) 性別

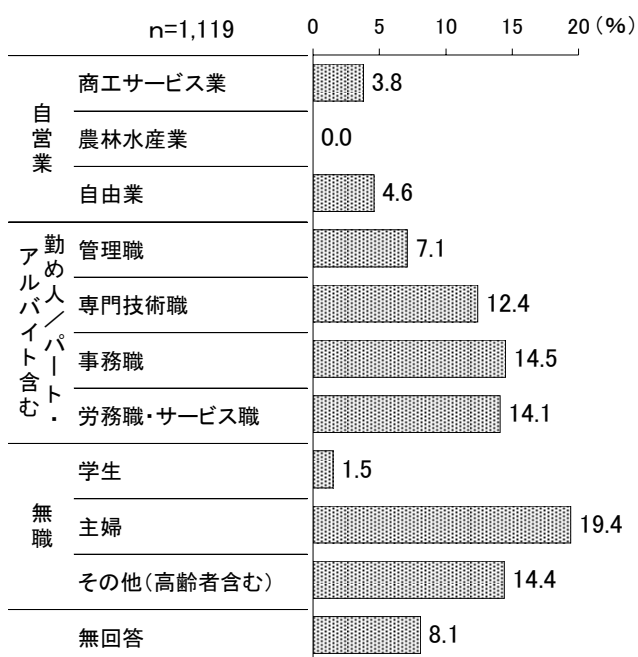


(2) 年齢

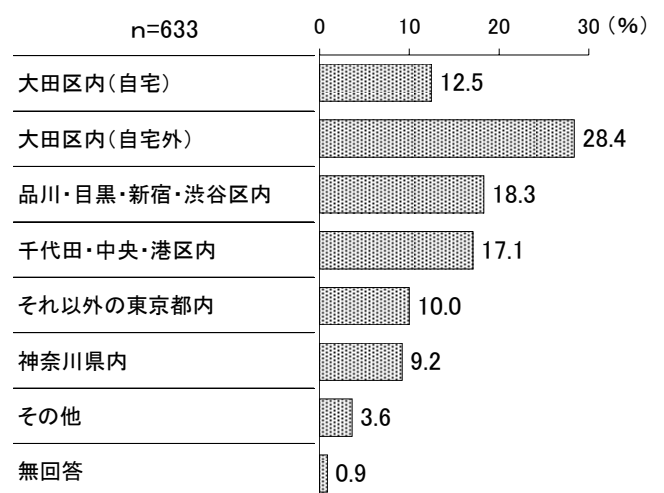


※内円は母集団の、外円は調査回答者の構成比を表している

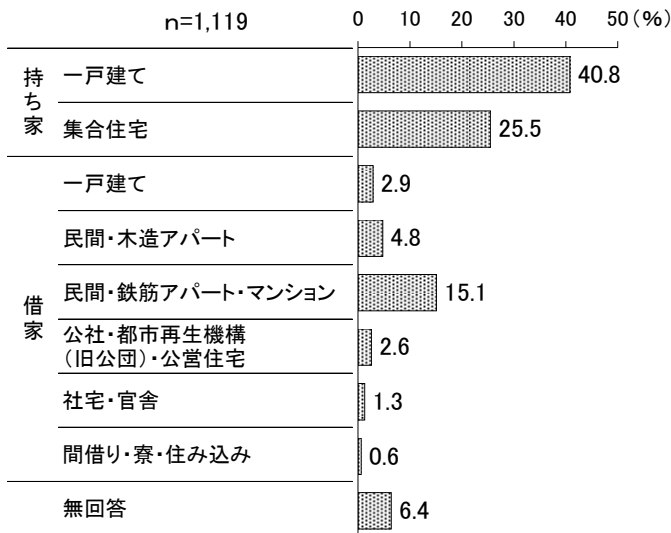
(3) 職業



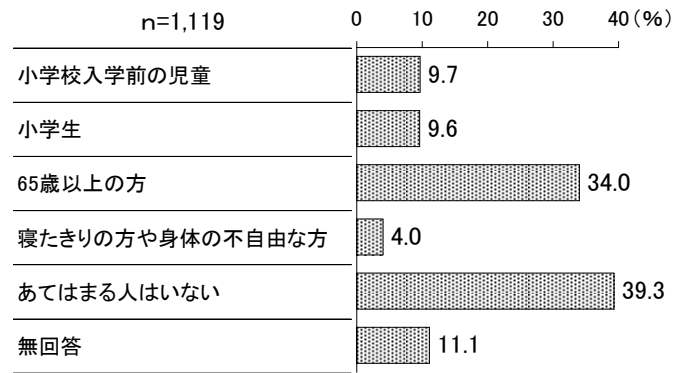
(4) 就業場所 (自営業・勤め人)



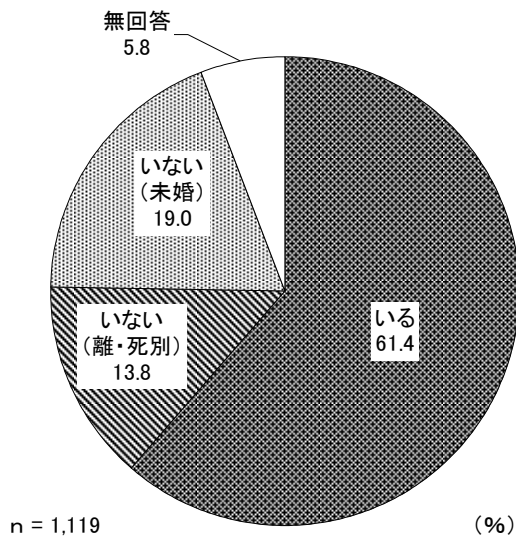
(5) 住居形態



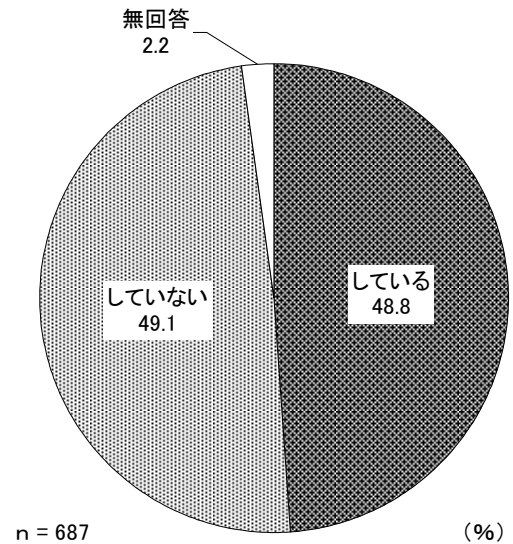
(6) 同居家族



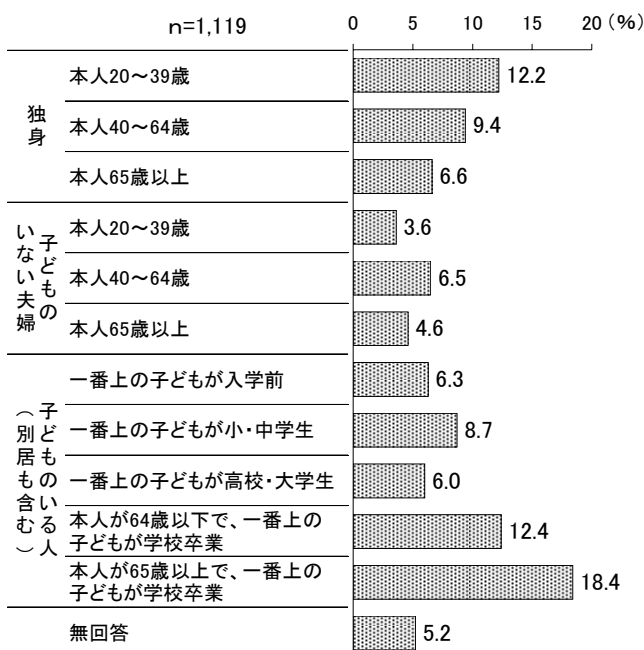
(7) 配偶者の有無



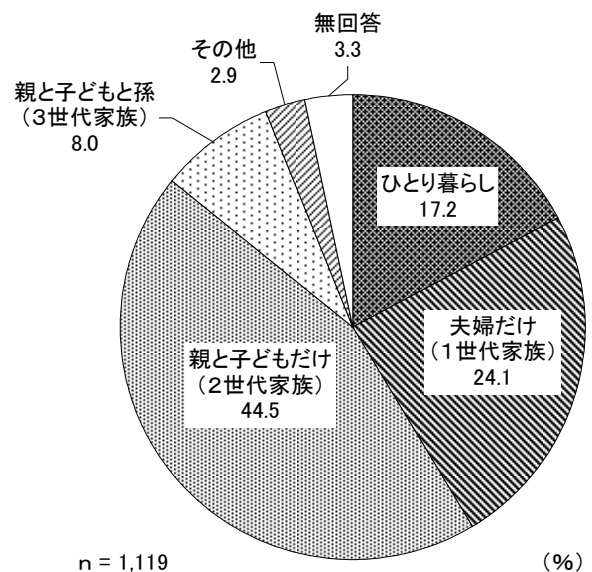
(8) 共働きの有無 (配偶者「いる」)



(9) ライフステージ



(10) 家族構成



2. 質問と回答

<定住性>

居住開始時期

問1 あなたは、いつ頃から大田区に住んでいますか。(○は1つだけ) n=1,119

1	昭和29年以前から	11.7%	6	平成12年～平成16年	8.1%
2	昭和30年～昭和49年	24.8%	7	平成17年～平成21年	9.5%
3	昭和50年～昭和59年	12.4%	8	平成22年～平成24年	8.7%
4	昭和60年～平成6年	14.0%	9	平成25年以降	3.5%
5	平成7年～平成11年	6.1%		無回答	1.3%

定住意向

問2 これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ) n=1,119

1	ずっと住み続けたい	46.1%	3	できれば大田区外へ移りたい	4.0%	} 問3へ
2	当分は住み続けたい	40.6%	4	大田区外へ移りたい	1.2%	
			5	わからない	7.6%	
				無回答	0.5%	

(問2で、「1」「2」と回答した方に)

→ 問2-1 これからも大田区に住みたい理由は何ですか。(○はいくつでも) n=970

1	出身地だから	24.1%	6	子どもの教育のため	6.1%
2	配偶者の出身地だから	12.3%	7	住環境がよいから	33.4%
3	仕事、通勤に都合が良いから	39.0%	8	その他(具体的に)	8.1%
4	土地、建物を持っているから	49.8%	9	わからない	0.8%
5	都心よりも家賃が安いから	4.6%		無回答	0.6%

問3 あなた(あて名のご本人)は、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。

(○は1つだけ) n=1,119

1	感じている	29.4%	4	感じていない	3.1%
2	やや感じている	35.2%	5	どちらともいえない	18.2%
3	あまり感じていない	11.7%		無回答	2.3%

暮らしやすさ

問4 あなたは、住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ) n=1,119

	満足している	ほぼ満足している	少し不満である	不満である	わからない	無回答
(1) 緑の多さ	9.7%	44.1%	25.1%	10.3%	2.7%	8.2%
(2) 道路の整備	10.9%	45.5%	24.3%	9.1%	3.1%	7.1%
(3) 公園や子どもの遊び場	9.5%	39.6%	23.5%	10.1%	9.7%	7.6%
(4) 通勤・通学の便	27.7%	45.4%	11.3%	4.6%	3.8%	7.1%
(5) 買い物の便	27.3%	43.5%	16.7%	6.7%	0.7%	5.1%
(6) 家並み、町並み	10.5%	47.4%	23.7%	7.4%	4.1%	6.9%
(7) 交通の安全性	11.3%	38.2%	29.8%	11.3%	3.5%	6.0%
(8) 災害時の安全性	4.0%	26.6%	27.6%	15.6%	19.7%	6.3%
(9) 周辺環境の状況	8.8%	48.7%	24.5%	8.1%	4.0%	5.9%
(10) 治安のよさ	10.7%	47.9%	21.5%	8.0%	5.4%	6.4%
(11) 医者や病院の便	19.3%	51.6%	15.4%	5.8%	2.6%	5.4%
(12) スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ	5.7%	33.0%	26.9%	11.4%	15.8%	7.1%
(13) あなたご自身の住宅事情	14.9%	47.8%	21.6%	8.3%	2.0%	5.4%
(14) 近所付き合い	7.9%	49.2%	17.3%	4.6%	15.4%	5.7%
(15) バリアフリー	3.4%	28.2%	27.1%	14.0%	20.4%	7.0%
(16) 全体としての「暮らしやすさ」	10.0%	62.1%	16.9%	3.5%	2.6%	4.9%

問5 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(○は1つだけ) n=1,119

1 とても暮らしやすいと感じている	9.2%	4 暮らしにくいと感じている	2.1%
2 暮らしやすいと感じている	66.3%	5 どちらともいえない	8.4%
3 あまり暮らしやすいと感じない	9.9%	無回答	4.0%

<基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち>

健康に暮らせるまち

問6 食品の安全性について不安を感じているものがありますか。(○は3つまで)

n=1,119

1	放射性物質	36.1%	9	ウイルス	10.2%
2	食品添加物	42.1%	10	遺伝子組換え食品	13.8%
3	残留農薬	24.1%	11	いわゆる健康食品	7.3%
4	輸入食品	52.9%	12	動物用医薬品	0.9%
5	食中毒	18.9%	13	その他(具体的に)	1.2%
6	表示	15.9%	14	不安を感じているものはない	6.5%
7	牛海綿状脳症(BSE:狂牛病)	4.9%		無回答	3.3%
8	汚染物質(カドミウム・水銀等)	9.4%			

バリアフリー・ユニバーサルデザイン

問7 あなたは、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」という言葉をご存知ですか。

(○はそれぞれ1つ) n=1,119

(1)「バリアフリー」

高齢者や障がいのある方が生活を営む上での障壁(バリア)を取り除く考え方

1	定義までよく理解している	29.1%	3	聞いたことはあるが定義がよくわからない	16.5%
2	定義はなんとなく理解している	48.9%	4	初めて聞いた言葉である	2.1%
				無回答	3.3%

(2)「ユニバーサルデザイン」

バリアフリーの考え方を一歩進め、年齢、性別、国籍(言語)、個人の能力に関わらず、あらかじめできるだけ多くの方が利用しやすいように生活環境を構築する考え方

1	定義までよく理解している	13.9%	3	聞いたことはあるが定義がよくわからない	29.7%
2	定義はなんとなく理解している	30.7%	4	初めて聞いた言葉である	21.7%
				無回答	4.0%

問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

n=1,119

1	ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布	36.0%
2	広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動	30.6%
3	行政情報の入手のしやすさの向上	27.4%
4	行政相談窓口の一本化	19.7%
5	学校教育・社会教育の充実	32.8%
6	区の職員の意識啓発	26.4%
7	区民の意識啓発	26.1%
8	商店街などの事業主の意識啓発	23.9%
9	鉄道事業者の意識啓発	19.1%
10	高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置	29.2%
11	その他(具体的に)	2.9%
12	特にない	5.8%
	無回答	4.6%

問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

n=1,119

1 感じている	15.0%	4 感じていない	8.6%
2 やや感じている	30.9%	5 どちらともいえない	8.3%
3 あまり感じていない	34.1%	無回答	3.0%

生涯教育の推進

問10 あなたは、この1年間にどのような生涯学習の活動を行いましたか。(○はいくつでも)

n=1,119

※「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や区が行う講座などの学習機会に限らず、自らすすんで行う学習、文化、スポーツ、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

1 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)	28.3%
2 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)	15.5%
3 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境問題など)	7.7%
4 地域社会に関するもの(地域の歴史・自然・文化など)	4.9%
5 健康づくり・スポーツ	35.4%
6 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、編み物など)	10.5%
7 子育て、教育に関するもの	9.1%
8 職業上必要な知識・技能・資格取得	12.9%
9 パソコンやインターネットの知識や技術	12.7%
10 ボランティア活動のために必要な知識や技能	4.8%
11 学校(高等・専門・各種学校、大学、大学院など)の正規課程での学習	2.7%
12 その他(具体的に)	1.2%
13 何もしていない → 問11へ	29.0%
無回答	3.6%

(問10で、「1」～「12」と回答した方に)

▶ 問10-1 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしていますか。(○はいくつでも) n=754

1 自分の人生がより豊かになっている	51.6%
2 家庭・日常の生活に活かしている	37.9%
3 自分の健康を維持・増進している	48.0%
4 仕事や就職に活かしている	25.7%
5 地域や社会での活動に活かしている(学習・文化・スポーツ活動などの指導やボランティア活動など)	12.6%
6 その他(具体的に)	1.2%
7 活かしていない	3.4%
無回答	4.2%

問11 あなたは、この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
 なお、運動には30分程度の散歩なども含まれます。(○は1つだけ)

n=1,119

1	週に1回以上	43.7%	3	年に数回	10.2%	無回答	3.8%
2	月に1～3回	20.0%	4	していない	22.3%		

男女平等の推進

問12 下記にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

n=1,119

	女性が優遇 されている	やや女性が優遇 されている	平等になっ ている	やや男性が優遇 されている	男性が優遇 されている	どちらとも いえない	無回 答
(1) 家庭生活	2.9%	8.9%	29.7%	25.4%	10.5%	14.8%	7.8%
(2) 職場	1.6%	5.8%	19.0%	32.1%	19.5%	11.9%	10.1%
(3) 教育の場	0.9%	3.9%	50.8%	10.7%	4.7%	18.5%	10.5%
(4) 政治の場	0.9%	1.4%	9.3%	28.9%	41.3%	9.7%	8.6%
(5) 法律や制度	1.2%	4.9%	26.6%	23.5%	15.3%	19.1%	9.4%
(6) 社会通念や慣習	1.4%	3.9%	13.4%	32.6%	24.8%	15.5%	8.3%

高齢者虐待相談・通報窓口の周知度

問13 大田区内の高齢者虐待に関する相談や通報の窓口は、さわやかサポート(地域包括支援センター)、
 大田区の各地域福祉課・高齢福祉課ですが、いずれかの窓口をご存知ですか。(○は1つだけ)

n=1,119

1	知っている	26.8%	2	知らない	71.3%	無回答	1.9%
---	-------	-------	---	------	-------	-----	------

<基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市>

公園緑地

問14 身近な場所で水や緑に親しめると感じていますか。(○は1つだけ)

n=1,119

1	感じている	22.4%	3	あまり感じていない	30.1%	5	どちらともいえない	6.4%
2	やや感じている	29.9%	4	感じていない	9.6%	無回答	1.5%	

空港臨海部のまちづくり

問 15 羽田空港及び羽田空港跡地が、地域経済の活性化に貢献すると感じていますか。(○は1つだけ)
n=1,119

1 感じている	27.3%	4 感じていない	9.4%
2 やや感じている	24.8%	5 どちらともいえない	11.8%
3 あまり感じていない	24.8%	無回答	1.9%

問 16 埋立地の空港臨海部では羽田空港や港湾・物流施設、工場などが広がる中に、大森ふるさとの浜辺公園などの公園緑地や海辺の散策路の整備などが進められてきていますが、あなたにとって身近なまちとなってきましたか。(○は1つだけ)
n=1,119

1 身近である	8.1%	4 身近でない	21.5%
2 以前と比べると身近になってきた	17.7%	5 どちらともいえない	11.8%
3 あまり身近でない	39.4%	無回答	1.4%

<基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち>

自治会町会等の活動について

問 17 あなたは、今まで、大田区内の地域活動に参加したことがありますか。参加したことのある活動をお答えください。(○はいくつでも)
n=1,119

1 清掃やリサイクル活動	15.5%
2 お祭りや地域行事	39.7%
3 文化・スポーツ・レクリエーション	12.8%
4 防火・防災	19.1%
5 子育てや子どもの健全育成	7.6%
6 交通安全	10.5%
7 通学路や公園などで子どもを見守ったことや、地域安全・安心パトロールなどの活動	13.3%
8 高齢者や障がいのある方に対する支援	4.9%
9 地域のまちづくり	3.2%
10 国際交流・国際協力	1.1%
11 人権・平和	0.4%
12 募金	29.1%
13 献血	8.1%
14 学校、児童館などが開いた講座・教室や催し物	16.2%
15 その他(具体的に)	0.5%
16 参加したことがない	34.4%
無回答	2.5%

問 18 あなたは、ボランティア活動をしてみたいと思いますか。(○は1つだけ)

※ボランティア活動とは、特定の団体活動のみならず、地域のお祭りやイベント活動、自治会町会活動、PTA、子ども会活動などにスタッフとして参加した場合を含みます。
n=1,119

1 すでにしている	14.9%	3 してみたいが今はできない	42.5%	無回答	2.2%
2 してみたいと思う	17.4%	4 してみたいと思わない	22.9%		

消費者支援

問 19 あなたは、「大田区立消費者生活センター」で、各種消費者相談を行っていることをご存知ですか。(○は1つだけ) n=1,119

1	相談したことがある	3.4%	3	聞いたことがある	28.2%	無回答	1.6%
2	知っている	29.7%	4	知らない	37.1%		

問 20 あなたは、下記のことについて困ったことはありますか。(○はいくつでも) n=1,119

1	携帯電話やパソコンなどの架空請求	6.0%
2	投資等の勧誘電話	17.2%
3	消火器等の訪問販売	4.1%
4	アパート家賃等の賃借トラブル	3.9%
5	その他悪質商法等(具体的に)	5.6%
6	困ったことはない → 問21へ	62.9%
	無回答	7.3%

(問 20 で、「1」～「5」と回答した方に)

▶ 問 20-1 あなたは、どなたかに相談しましたか。(○はいくつでも) n=333

1	家族や友人に相談した	30.0%	4	警察に相談した	9.9%
2	消費者生活センターに相談した	9.0%	5	その他(具体的に)	12.0%
3	国民生活センター、消費者 ホットラインに相談した	3.6%	6	誰にも相談しなかった	43.8%
				無回答	2.4%

防災対策(ペットの防災含む)

問 21 今後、東京に大震災が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。(○は3つまで) n=1,119

1	火災の発生	61.8%	8	医療体制の確保	14.9%
2	建物の倒壊	43.9%	9	ガスもれ	4.0%
3	停電・断水・電話の不通	47.6%	10	家具の転倒	2.9%
4	食糧・水の確保	36.7%	11	その他(具体的に)	1.8%
5	家族の安否確認、情報取得手段	36.2%	12	特になし	0.4%
6	浸水・津波、地盤の液状化	15.3%		無回答	1.2%
7	避難場所・避難路の安全性、 通行車両による道路の混乱	19.8%			

問 22 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。(○はいくつでも)

n=1,119

※1「自助」とは、災害発生直後「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということです。

※2「共助」とは、地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということです。

1	食糧の準備 → () 日分	50.0%
2	飲料水の準備 → () 日分 (大人1人1日3ℓ)	59.1%
3	災害用(簡易)トイレの準備	20.2%
4	貴重品の持ち出し方法の確認	19.7%
5	家族との連絡方法	35.8%
6	近所の人とのつきあい・声掛け	15.1%
7	タンスなどの大型家具の転倒防止対策	28.0%
8	避難方法・避難所・避難場所の確認	23.8%
9	ポリバケツやお風呂などの生活用水のためおき	19.7%
10	消火器や救急セットの点検	14.4%
11	防災訓練などへの定期的な参加	8.0%
12	屋根瓦・ブロック塀などの定期点検	2.8%
13	その他(具体的に)	1.5%
14	特になし	13.3%
	無回答	4.2%

問 23 あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。(○は1つだけ)

n=1,119

1	昭和56年5月以前	24.4%	2	昭和56年6月以降	63.8%	3	わからない	9.2%
							無回答	2.6%

(問 23 で、「1」と回答した方に)

→ 問 24 へ

問 23-1 あなたのご家庭は、耐震補強工事をしていますか。(○は1つだけ)

n=273

1	している → 問23-3へ	17.9%	2	していない	77.7%	無回答	4.4%
---	---------------	-------	---	-------	-------	-----	------

(問 23-1 で、「2」と回答した方に)

問 23-2 耐震補強工事をしていない理由は何ですか。(○は1つだけ)

n=212

1	建設時に耐震設計を考慮しているため	9.9%	6	家が倒壊するような大地震は来ないと思うので	1.4%
2	近いうちに住み替えを考えているため	3.8%	7	借家のため	15.6%
3	資金にゆとりがないため	36.3%	8	その他(具体的に)	15.1%
4	依頼先や方法がわからないため	2.8%		無回答	3.3%
5	倒壊したら仕方がないと思うので	11.8%			

→ 問 23-3 へお進みください

(問 23 で、「1」と回答した方に)

問 23-3 大田区では災害に強いまちづくりを進めるため、昭和 56 年 5 月以前の耐震基準で建てられた住宅やマンションの耐震化を推進しています。耐震診断や耐震改修工事を行う際に助成制度を設けていますが、あなたは、この制度をご存知ですか。(〇は 1 つだけ)
n=273

1	助成制度を利用した	3.3%	3	知らない	36.3%
2	知っている	38.1%		無回答	22.3%

問 24 あなたが、大地震の際の防災対策として、大田区に特に力を入れてほしいことは何ですか。
(〇は 3 つまで) n=1,119

1	非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保	78.2%
2	情報の収集・伝達手段の確保	51.2%
3	避難方法・避難所・避難場所の確保	55.9%
4	津波対策	14.1%
5	液状化対策	10.4%
6	高齢者・障がいのある方などの災害時要援護者対策	22.1%
7	住宅の耐震診断・耐震化と建物の不燃化促進	14.1%
8	地域の防災訓練の充実	3.8%
9	家具の転倒防止器具の支給制度	6.5%
10	防災用品のあっせん	7.2%
11	その他(具体的に)	1.4%
12	特にない	0.9%
	無回答	3.3%

問 25 あなたの家庭では、どのような動物を飼育していますか。(〇はいくつでも)

n=1,119

1 犬	10.4%
2 ねこ	6.2%
3 小型の哺乳類 (犬、ねこを除く。うさぎ、ハムスターなど)	1.6%
4 鳥類	1.5%
5 は虫類	0.9%
6 その他 (具体的に)	4.2%
7 飼育していない → 問26へ	73.0%
無回答	5.2%

(問 25 で、「1」～「6」と回答した方に)

▶ 問 25-1 東日本大震災の被災地では、自宅に残したペットが餓死をしたり、ペットと車の中で過ごしていた飼主がエコノミー症候群で死亡するなどの事例が報告されています。ペットと避難するための準備として、どのような取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

n=244

1 ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している	47.1%
2 ペットと避難するために、ケージなどを備えている	34.4%
3 吠えない、ケージに嫌がらずに入るなど、緊急時に備えたしつけをしている	9.4%
4 ペット用の薬を備蓄している	4.9%
5 ワクチン接種等の感染症予防対策をしている	34.4%
6 身元表示をしている(迷子札、マイクロチップ、犬鑑札や狂犬病予防注射済票の装着など)	18.4%
7 何もしていない	29.1%
無回答	4.9%

緑化推進・省エネ推進

問 26 エコライフ活動・緑化活動を推進するにあたり、大田区では工事費等の一部費用を助成しています。あなたは、下記制度についてご存知ですか。(〇はそれぞれ1つ)

n=1,119

	知っている	知らない	無回答
(1) 太陽エネルギー利用機器設置費用助成	28.8%	63.6%	7.6%
(2) 屋上・壁面緑化費用助成	14.3%	77.1%	8.6%
(3) 生垣造成費用助成	11.6%	80.1%	8.3%

問 27 あなたは、今後、ご自宅でもできるエコライフ活動・緑化活動に関する下記の内容について、設置される予定はありますか。(○はそれぞれ1つ) n=1,119

	設置済み	設置予定	検討中 設置について	今は検討予定 はない	無回答
(1) 太陽光発電システム※1 の設置	2.3%	0.5%	4.3%	81.8%	11.1%
(2) 太陽熱温水器※2 の設置	0.4%	-	2.6%	85.4%	11.5%
(3) 太陽熱ソーラーシステム※3 の設置	0.5%	0.1%	3.3%	85.0%	11.1%
(4) 家庭用燃料電池※4 の設置	0.7%	0.3%	2.9%	84.8%	11.3%
(5) HEMS※5 の設置	0.2%	0.2%	2.0%	85.8%	11.9%
(6) 屋上・壁面の緑化	0.5%	0.2%	3.3%	84.1%	11.9%
(7) 生垣の造成	2.2%	0.1%	2.1%	84.2%	11.4%

※1 太陽電池を利用し、太陽光のエネルギーを直接的に電力に変換する発電方式のシステム

※2 太陽光に含まれる赤外線を熱として利用することで水を温める装置で、建物の屋根の上に設置する集熱器とタンクが一体となっているもの

※3 太陽光に含まれる赤外線を熱として利用することで水を温める装置で、タンクと集熱器を分離させたもの

※4 ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて発電し、同時に発生する熱を給湯や暖房に利用するもの

※5 住宅用エネルギー管理システム。住宅内のエネルギー消費機器や発電設備をネットワークでつなぎ、各機器を最適な状態に制御し、省エネを実現するシステム

地球環境

問 28 大田区では、平成 24 年 3 月に大田区環境基本計画を作成し、生物多様性の保全に取り組んでいます。あなたは、「生物多様性」をご存知ですか。(○は 1 つだけ) n=1,119

※「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物の遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

1 知っている	11.1%	3 知らない	60.1%
2 聞いたことがある	25.3%	無回答	3.5%

問 29 生物多様性の保全の取り組みのひとつとして、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」※1の営巣地の整備作業をNPOと一緒にしています。あなたは、「コアジサシ」をご存知ですか。(○は 1 つだけ) n=1,119

※1「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリスト※2では、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に指定されています。

※2「環境省レッドリスト」とは、環境省が整理した保護が必要な生物のリスト。危険度が高い順にEX、EW、CR、VU、NT、DD、LPの7ランクで評価。

1 知っている	10.8%	3 知らない	66.7%
2 聞いたことがある	19.1%	無回答	3.4%

清掃・リサイクルの推進

問 30 あなたの家庭で資源化できる紙ごみの分別はしていますか。(○は 1 つだけ) n=1,119

※区が収集した可燃ごみの中には、資源化できるトイレットペーパーやラップの芯・包装紙・封筒・菓子箱・ティッシュの箱・紙袋などの紙ごみ(雑がみ)が20%入っています。雑がみは、紙袋に入れてしばって「資源」の日に出していただくとごみの減量と資源化を進めることができます。

1 している	65.6%	3 あまりしていない	10.4%
2 時々している	12.9%	4 していない	8.8%
		無回答	2.4%

区政への関心と要望

問 31 下記の大田区の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知なものをすべて挙げてください。

(○はいくつでも) n=1,119

1	介護保険サービスや高齢者の総合相談窓口である「さわやかサポート（地域包括支援センター）」	37.7%
2	認知症、知的障がいなどによって判断能力が不十分な人を法的に保護・支援する「成年後見制度」	34.1%
3	避難所から機能拡充している「学校防災活動拠点」	11.7%
4	福祉、環境、まちづくりなどさまざまな分野の区民活動を集約し掲載している区民活動情報サイト「オーちゃんネット」	6.0%
5	ボランティアによる復興支援の活動を続けている「大田区被災地支援ボランティア調整センター」	6.9%
6	65歳以上の方が緊急連絡先や医療情報等を区に登録する「高齢者見守りキーホルダー」	22.3%
7	高齢者の健康や介護、福祉に関する相談を、区役所が閉庁している夜間、休日にお受けする「高齢者ほっとテレフォン（夜間・休日専用高齢者電話相談）」	9.7%
8	障がいのある方が災害時や日常の外出先での緊急時など困ったときに手助けを求められる「ヘルプカード（たすけてねカード）」	8.0%
9	子育てに関する行政情報や地域情報を手軽に入手できる子育て応援サイト「おおた子育てナビ」	12.2%
10	平成25年10月から開始した携帯電話等の小型家電10品目回収する「小型家電リサイクル事業」	14.5%
11	どれも知らない	27.4%
	無回答	9.9%

問 32 あなたは、大田区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用しますか。

(○はいくつでも) n=1,119

1	区報	63.0%	6	テレビ	12.0%
2	ホームページ	51.7%	7	新聞（一般紙）	9.1%
3	ツイッター	1.3%	8	家族・知人など	12.7%
4	デジタルサイネージ（電子掲示板）	0.4%	9	区の窓口にお問い合わせる	27.6%
5	ポスターなど掲示物	18.0%	10	その他（具体的に）	1.3%
				無回答	2.6%

問 33 あなたは、区政情報が適切に公開されていると感じていますか。(○は1つだけ) n=1,119

1	感じている	10.3%	3	あまり感じていない	29.6%	5	どちらともいえない	28.2%
2	やや感じている	20.6%	4	感じていない	8.0%		無回答	3.4%

問 34 あなたは、今までに下記の区政に参画したことがありますか。

(○はどちらか1つ) n=1,119

(「ない」場合、○は1つだけ)

	あ る	な い	無 回 答		今 後 参 加 し て み たい	今 後 も 参 加 し た く な い	わ か ら な い	無 回 答	
(1) 区長選挙・区議会議員選挙での投票	75.8%	18.8%	5.5%		26.7%	16.7%	42.4%	14.3%	n=210
(2) 区が開催する事業説明会への参加	3.8%	87.4%	8.8%		9.1%	18.4%	58.8%	13.7%	n=978
(3) 区民と区長との懇談会への参加	1.8%	89.5%	8.8%	→	11.3%	22.1%	52.7%	13.9%	n=1,001
(4) パブリックコメントへの応募（区民意見公募手続）	0.8%	90.1%	9.1%	→	11.0%	19.5%	55.8%	13.7%	n=1,008
(5) 区民協働による活動への参加（区民活動団体、区民フォーラムなど）	4.7%	86.0%	9.3%	→	9.3%	19.2%	58.7%	12.8%	n=962
(6) 区の審議会等への参加（委員公募、傍聴）	1.3%	89.7%	9.0%	→	9.2%	23.6%	53.4%	13.8%	n=1,004
(7) 「区政へのご意見・ご要望」等の送付	2.5%	88.2%	9.3%	→	12.3%	16.1%	58.8%	12.9%	n=987
(8) その他（具体的に）	0.4%	49.1%	50.5%	→	3.1%	14.8%	59.4%	22.8%	n=549

(問 34 で、1つでも「ない」と回答した方に)

▶ 問 34-1 参加したことがない理由は何ですか。(○はいくつでも)

n=1,028

1 時間的余裕がないから	36.5%	4 特に興味がないから	34.1%
2 参加したいが情報がないから	20.7%	5 その他（具体的に）	4.7%
3 参加するきっかけがないから	46.1%	無回答	5.8%

問 35 あなたは、大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。(〇はいくつでも)
n=1,119

1	道路の整備	24.3%	17	男女平等の推進	7.5%
2	清掃・リサイクルの推進	21.4%	18	消費者問題対策	8.2%
3	公共交通網の整備	18.9%	19	産業振興	10.6%
4	都市再開発の推進	11.9%	20	住宅対策	14.3%
5	公園・児童遊園の整備	23.4%	21	学校施設・設備の整備	13.9%
6	緑化推進	31.5%	22	生涯学習の推進	15.1%
7	防災対策	50.1%	23	スポーツの振興	13.4%
8	公害対策	18.9%	24	青少年の健全育成	12.8%
9	交通安全対策	24.5%	25	情報提供の充実	15.1%
10	保健・健康	23.3%	26	ホームページを使った行政サービスの推進	8.8%
11	休日診療	24.5%	27	各種区民相談事業	8.4%
12	食品衛生	13.9%	28	文化事業の推進	7.3%
13	心身障がい者(児)福祉	11.5%	29	国際交流の推進	8.6%
14	高齢者福祉	37.4%	30	地域活動活性化の推進	9.4%
15	児童福祉	17.7%	31	その他の施策	1.5%
16	低所得世帯の援護	16.9%	32	特にない	2.8%
				無回答	4.3%

自由意見

大田区政についてのご意見・ご要望がありましたら、どのようなことでも結構ですのでご記入ください。

フェイスシート

- 最後に、これまでのお答えの内容を統計的に分類するために必要なことをおたずねします。
あなたご自身のことについて、さしさわりのない範囲でお答えください。

F 1 性別 (○は1つだけ)

n=1,119

1 男性	36.6%	2 女性	57.9%	無回答	5.5%
------	-------	------	-------	-----	------

F 2 年齢／あなたのお年は満でおいくつですか。(○は1つだけ)

n=1,119

1 20～29歳	7.9%	4 50～54歳	8.8%	7 65～69歳	9.3%
2 30～39歳	15.7%	5 55～59歳	7.0%	8 70～74歳	8.9%
3 40～49歳	18.0%	6 60～64歳	7.1%	9 75歳以上	12.1%
				無回答	5.4%

F 3 本人職業／あなたのご職業は何ですか。(○は1つだけ)

n=1,119

自営業	1 商工サービス業	3.8%	F 3-1へ
	2 農林水産業	-	
	3 自由業	4.6%	
勤め人／パート・アルバイト含む	4 管理職	7.1%	
	5 専門技術職	12.4%	
	6 事務職	14.5%	
	7 労務職・サービス職	14.1%	
無職	8 学生	1.5%	F 4へ
	9 主婦	19.4%	
	10 その他 (高齢者含む)	14.4%	
	無回答	8.1%	

(F 3で、「1」～「7」と回答した方に)

F 3-1 就業場所／あなたが仕事をしているところはどこですか。(○は1つだけ)

n=633

1 大田区内 (自宅)	12.5%	5 それ以外の東京都内	10.0%
2 大田区内 (自宅外)	28.4%	6 神奈川県内	9.2%
3 品川・目黒・新宿・渋谷区内	18.3%	7 その他 (具体的に)	3.6%
4 千代田・中央・港区内	17.1%	無回答	0.9%

F 4 住居形態／住宅の種類は、下記のどれでしょうか。(○は1つだけ)

n=1,119

持ち家	1 一戸建て	40.8%
	2 集合住宅	25.5%
借家	3 一戸建て	2.9%
	4 民間・木造アパート	4.8%
	5 民間・鉄筋アパート・マンション	15.1%
	6 公社・都市再生機構(旧公団)・公営住宅	2.6%
	7 社宅・官舎	1.3%
	8 間借り・寮・住み込み	0.6%
	無回答	6.4%

F 5 配偶者の有無／配偶者の方はいらっしゃいますか。(○は1つだけ)

n=1,119

1 いる	61.4%	2 いない(離・死別)	13.8%	} F 6へ
		3 いない(未婚)	19.0%	
		無回答	5.8%	

(F 5で、「1」と回答した方に)

F 5-1 共働きの有無／お宅では共働きをされていますか。(○は1つだけ)

n=687

1 している	48.8%	2 していない	49.1%	無回答	2.2%
--------	-------	---------	-------	-----	------

F 6 同居家族／現在一緒に暮らしているご家族の中で、あなたご自身を含めて、あてはまる方をすべてあげてください。

n=1,119

1 小学校入学前の児童	9.7%	4 寝たきりの方や身体の不自由な方	4.0%
2 小学生	9.6%	5 あてはまる人はいない	39.3%
3 65歳以上の方	34.0%	無回答	11.1%

F7 ライフステージ／人間の人生にはさまざまな段階がありますが、現在のあなたご自身は、下記のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,119

独身	1 本人 20～39 歳	12.2%
	2 本人 40～64 歳	9.4%
	3 本人 65 歳以上	6.6%
子どものいない夫婦	4 本人 20～39 歳	3.6%
	5 本人 40～64 歳	6.5%
	6 本人 65 歳以上	4.6%
子どものいる人 (別居も含む)	7 一番上の子どもが入学前	6.3%
	8 一番上の子どもが小・中学生	8.7%
	9 一番上の子どもが高校・大学生	6.0%
	10 本人が 64 歳以下で、一番上の子どもが学校卒業	12.4%
	11 本人が 65 歳以上で、一番上の子どもが学校卒業	18.4%
	無回答	5.2%

F8 あなたの家族構成は、下記のどれにあたりますか。(○は1つだけ) n=1,119

1 ひとり暮らし	17.2%	4 親と子どもと孫 (3世代家族)	8.0%
2 夫婦だけ (1世代家族)	24.1%	5 その他 (具体的に)	2.9%
3 親と子どもだけ (2世代家族)	44.5%	無回答	3.3%

F9 あなたのお住まいの地域はどちらですか。各地域の () 内は、管轄する特別出張所です。
(○は1つだけ) n=1,119

1 大森地域 (大森東、馬込、大森西、入新井、池上、新井宿)	33.8%
2 調布地域 (嶺町、田園調布、鶉の木、雪谷、久が原、千束)	25.2%
3 蒲田地域 (蒲田東、六郷、矢口、蒲田西)	28.6%
4 糀谷・羽田地域 (糀谷、羽田)	9.9%
無回答	2.5%

長時間ご協力いただき、ありがとうございました。

Ⅲ 調査結果の分析

Ⅲ 調査結果の分析

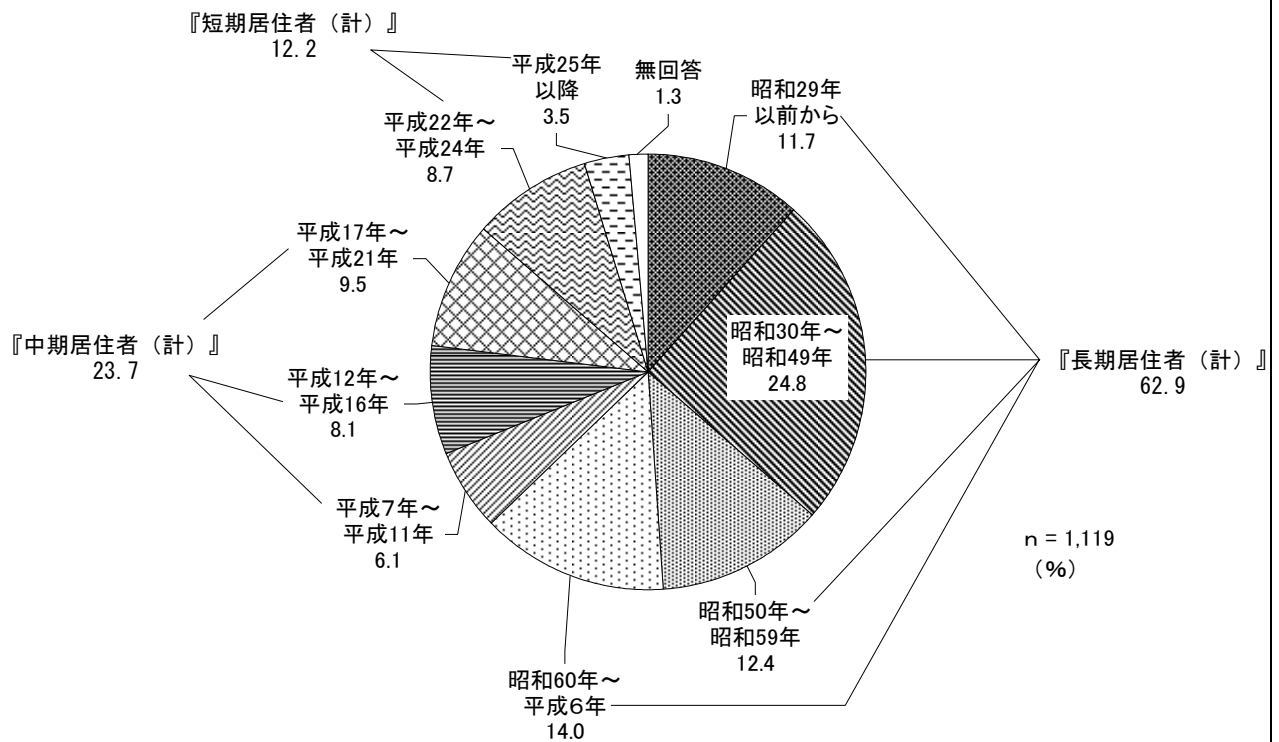
1. 定住性

(1) 居住開始時期

◇「昭和 60 年以前から住んでいる方」を表す『長期居住者（計）』は6割を超える

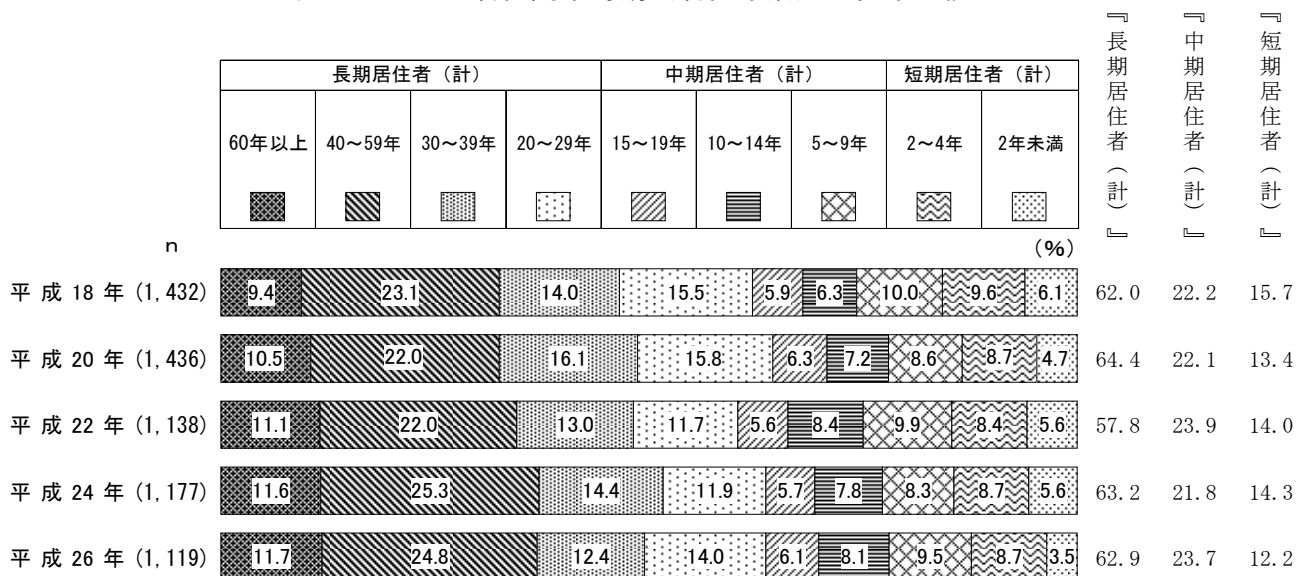
問1 あなたは、いつ頃から大田区に住んでいますか。(○は1つだけ)

図 1-1-1



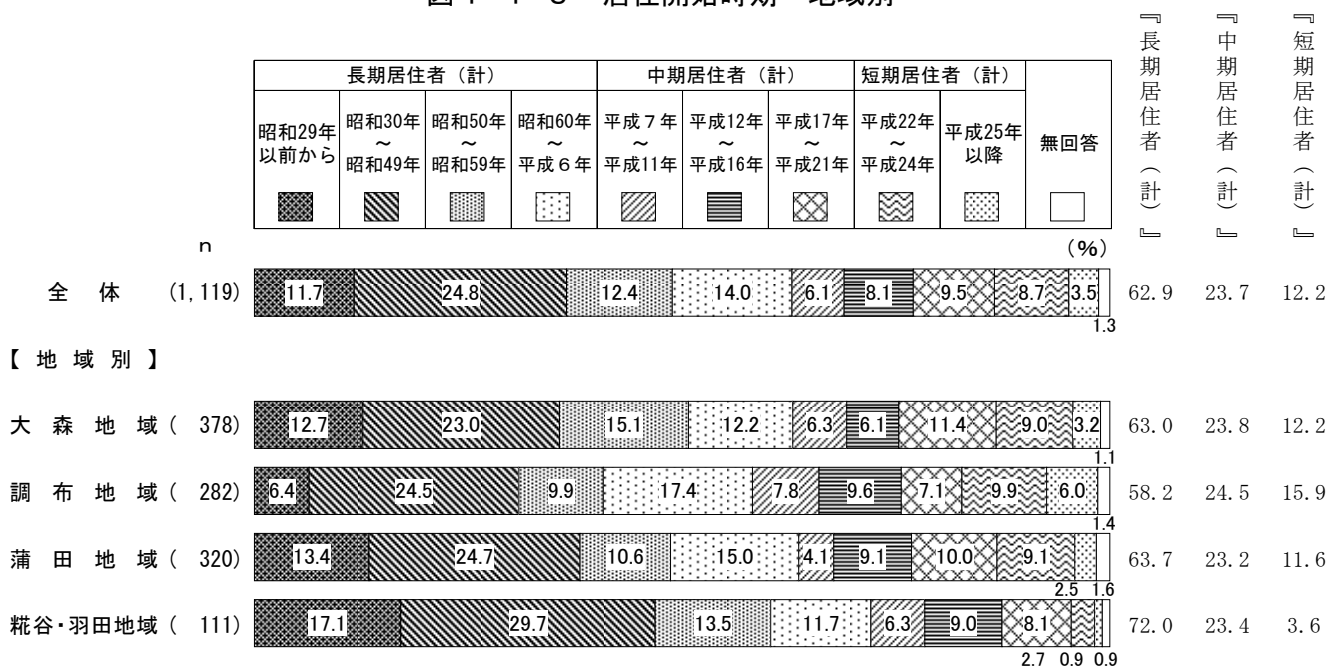
居住開始時期を聞いたところ、「昭和 30 年～昭和 49 年」（24.8%）が 2 割半ばで最も高く、これに「昭和 29 年以前から」（11.7%）、「昭和 50 年～昭和 59 年」（12.4%）、「昭和 60 年～平成 6 年」（14.0%）を合わせた『長期居住者（計）』（62.9%）は 6 割を超えている。また、「平成 7 年～平成 11 年」（6.1%）、「平成 12 年～平成 16 年」（8.1%）、「平成 17 年～平成 21 年」（9.5%）を合わせた『中期居住者（計）』（23.7%）は 2 割を超え、「平成 22 年～平成 24 年」（8.7%）と「平成 25 年以降」（3.5%）を合わせた『短期居住者（計）』（12.2%）は 1 割を超えている。（図 1-1-1）

図 1-1-2 居住開始時期（居住年数）一経年比較



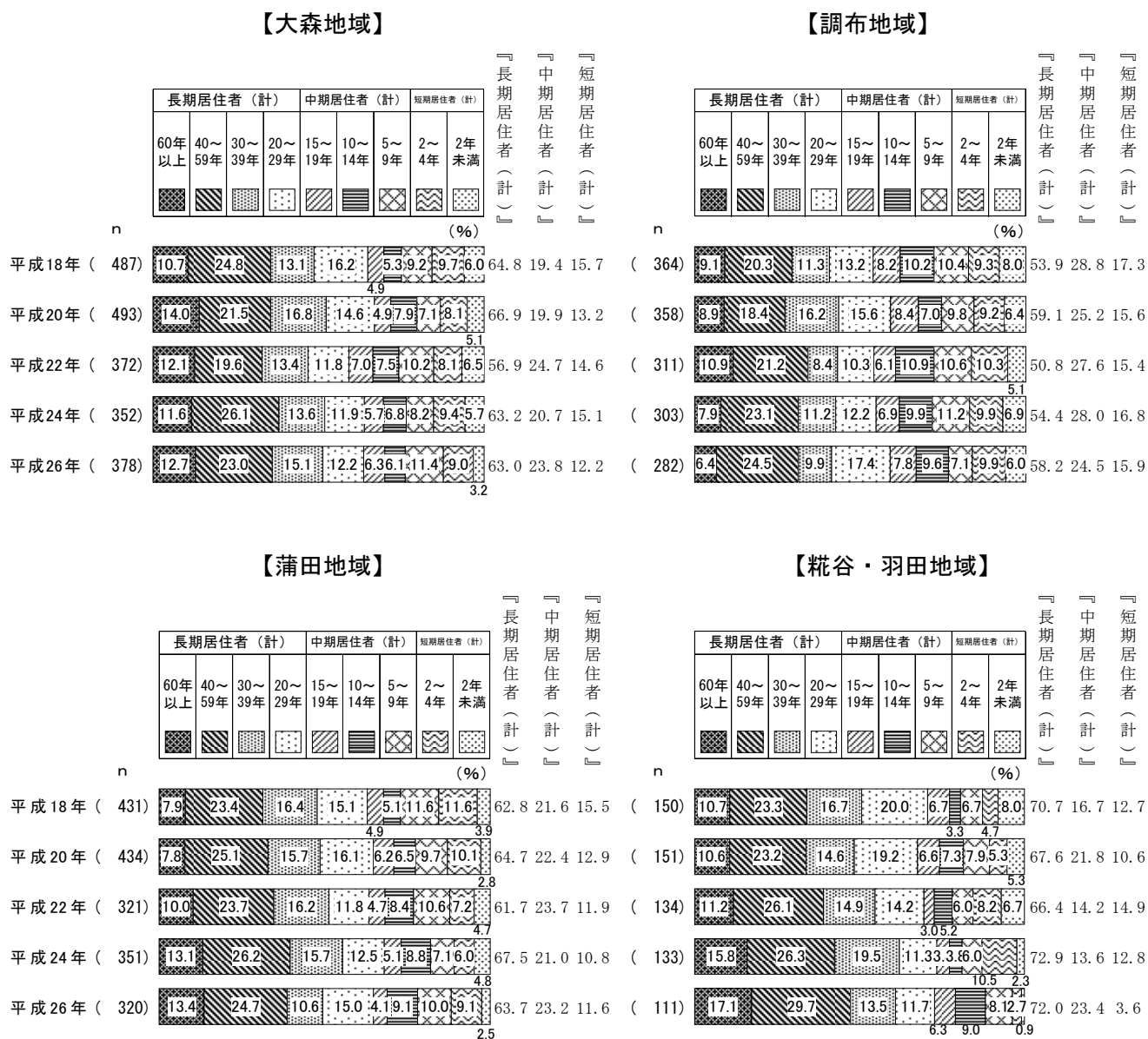
大田区への居住開始時期を居住年数に換算して経年比較をした。『長期居住者（計）』は前は5.4ポイント増加していたが、今回はほぼ横ばいとなっている。また、『中期居住者（計）』は前回より微増、『短期居住者（計）』は前回より微減となっている。（図 1-1-2）

図 1-1-3 居住開始時期一地域別



地域別でみると、『長期居住者（計）』は糀谷・羽田地域（72.0%）で7割を超え高くなっている。一方、『短期居住者（計）』は調布地域（15.9%）で1割半ばと高くなっている。（図 1-1-3）

図 1-1-4 居住開始時期—地域別（経年比較）



地域別に経年比較すると、『長期居住者 (計)』は調布地域で前回より 3.8 ポイント増加しているが、蒲田地域では前回より 3.8 ポイント減少している。また、糎谷・羽田地域では『中期居住者 (計)』が前回より 9.8 ポイント増加し、『短期居住者 (計)』が前回より 9.2 ポイント減少している。

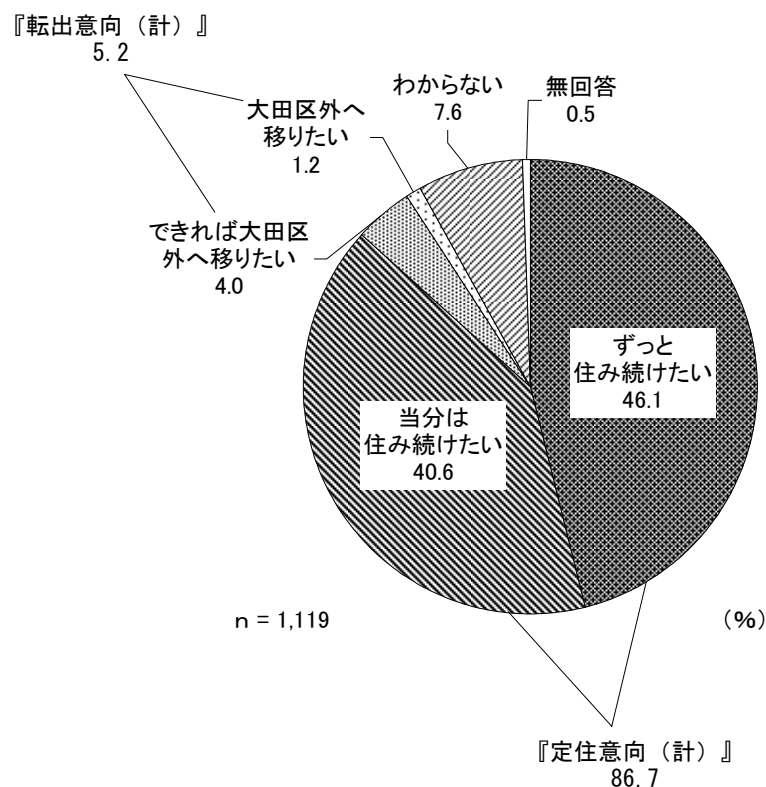
(図 1-1-4)

(2) 定住意向

◇「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせた『定住意向（計）』は9割近く

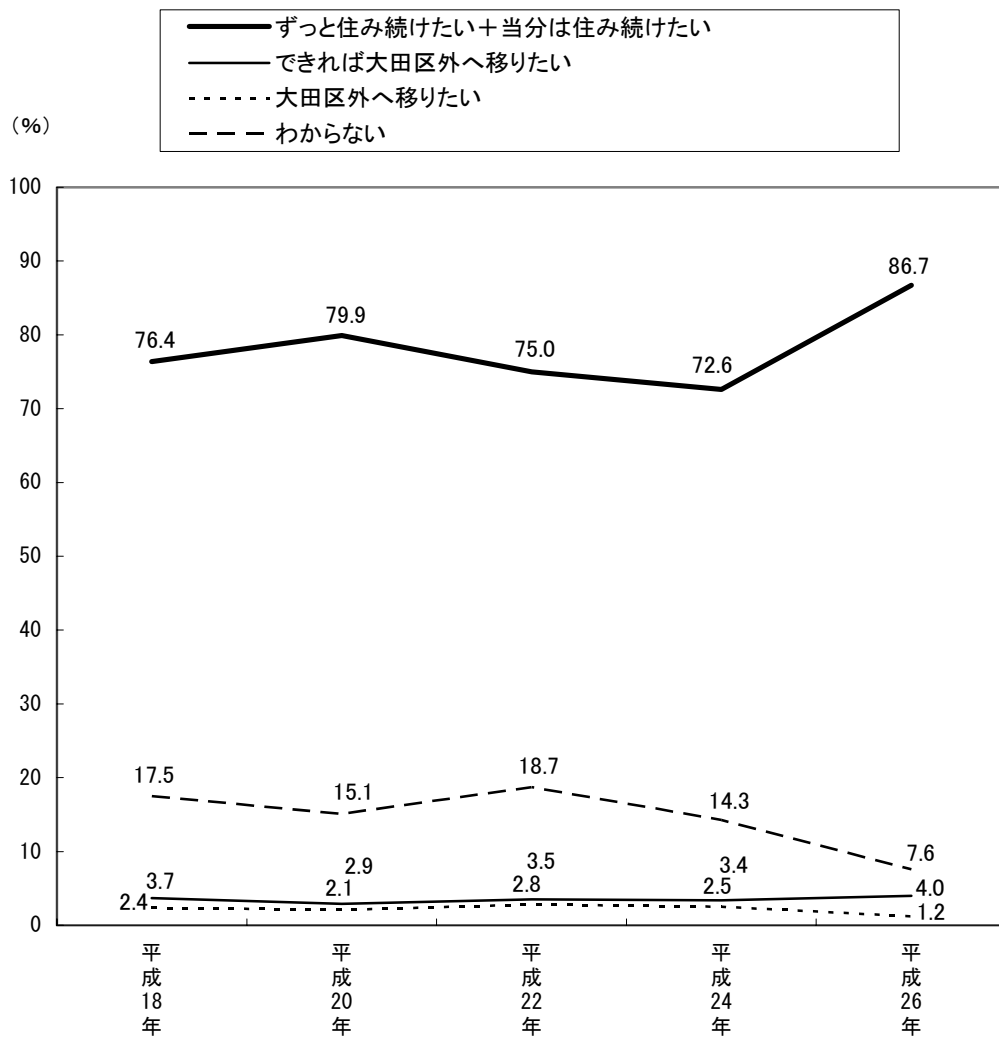
問2 これからも大田区に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

図1-2-1



定住意向を聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(46.1%)が4割半ばで最も高く、これに「当分は住み続けたい」(40.6%)を合わせた『定住意向（計）』(86.7%)は9割近くとなっている。一方、「できれば大田区外へ移りたい」(4.0%)と「大田区外へ移りたい」(1.2%)を合わせた『転出意向（計）』(5.2%)は1割未満となっている。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住意向一経年比較



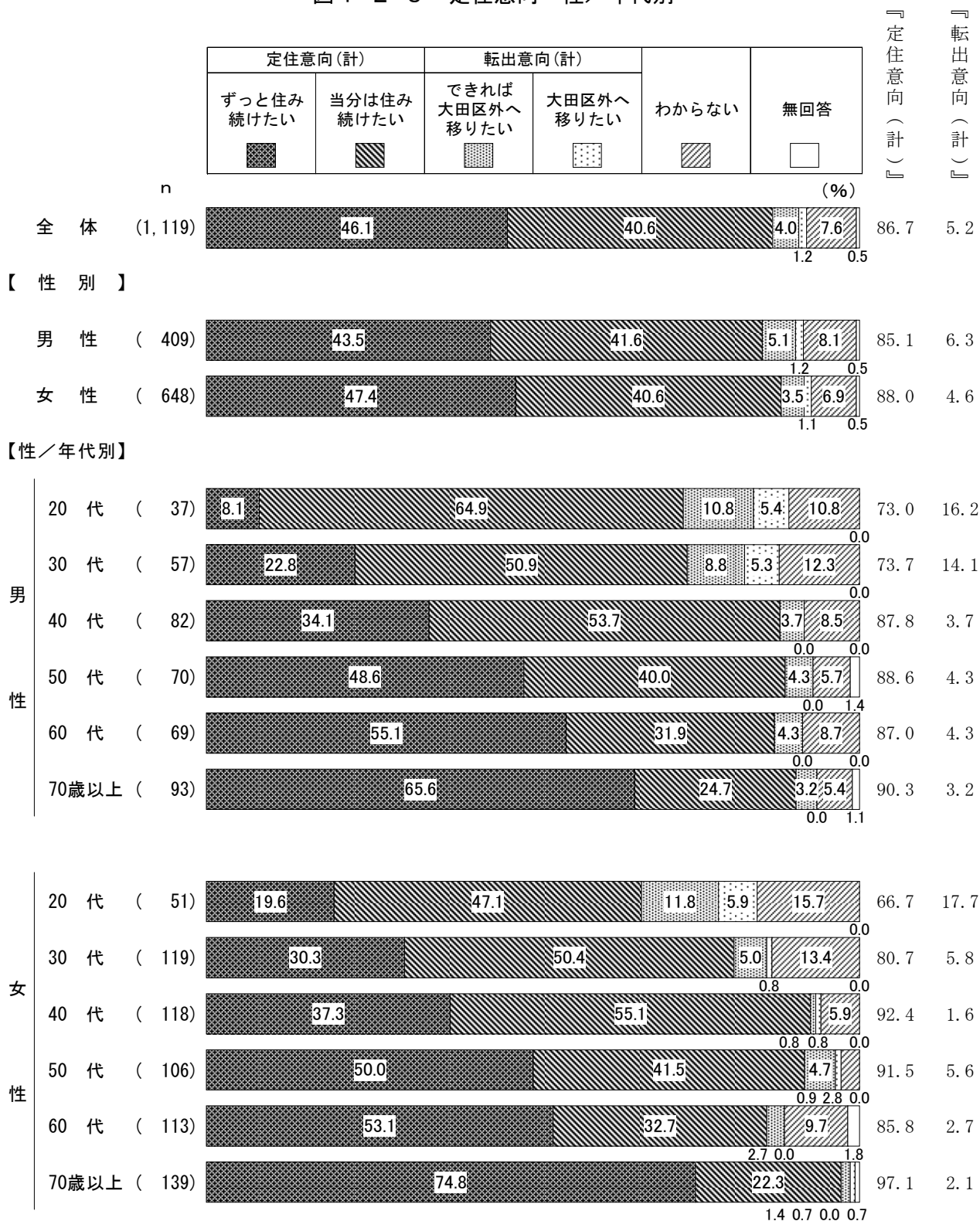
[※1]今回から選択肢を4肢[※2]から5肢へ変更したため、今回調査の「ずっと住みたい」と「当分は住みたい」を合計し、過年度の「これからも住みたい」と比較した。また、今回調査の「できれば大田区外へ移りたい」は過年度の「あまり長く住みたくない」と比較した。

[※2]前回選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。

(図 1-2-2)

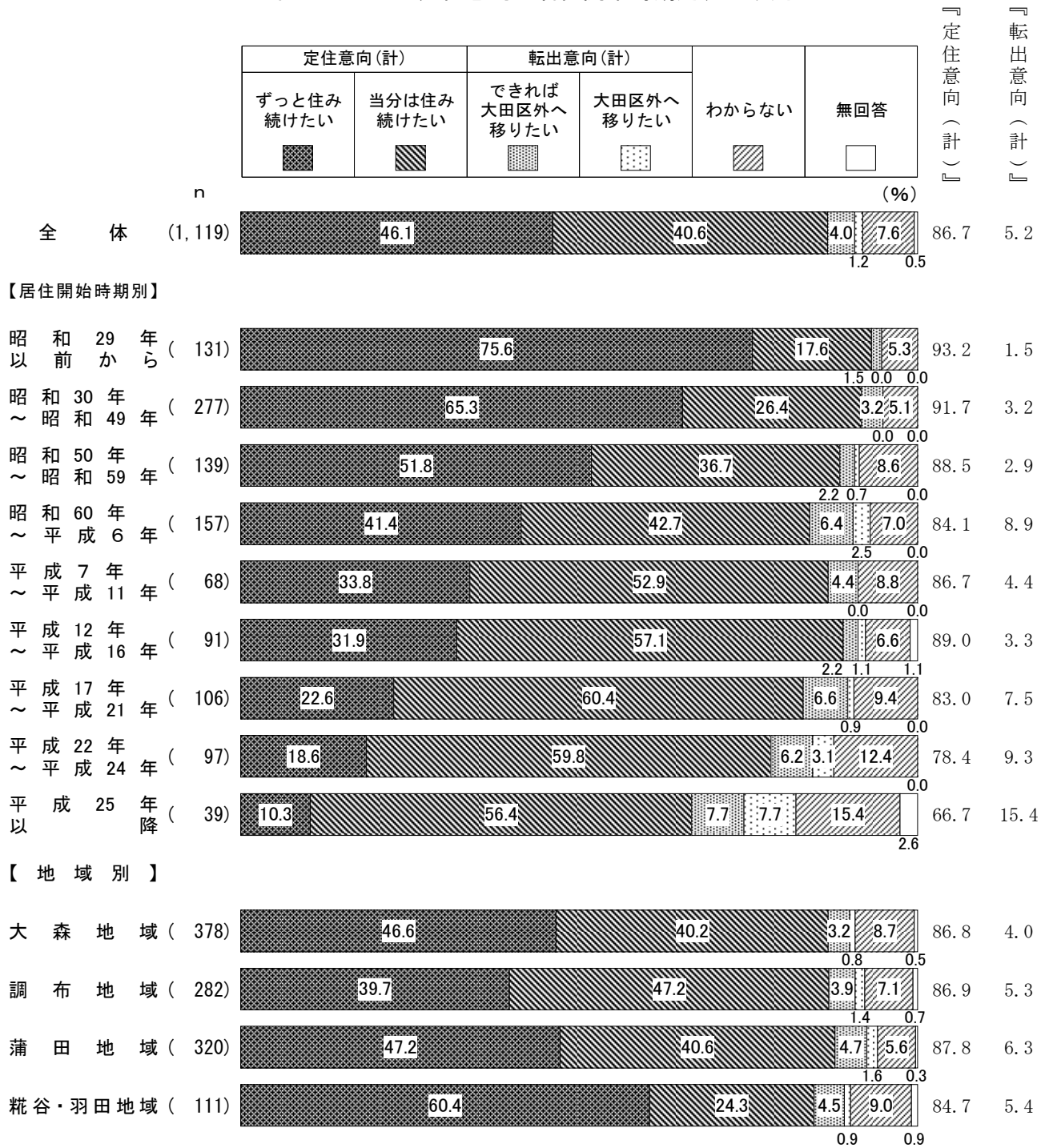
図1-2-3 定住意向一性／年代別



性別でみると、「ずっと住み続けたい」は女性（47.4%）が男性（43.5%）より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ずっと住み続けたい」は男女ともに年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（74.8%）で7割半ば、男性70歳以上（65.6%）で6割半ばと高くなっている。また、『定住意向（計）』は女性の40代（92.4%）、50代（91.5%）、70歳以上（97.1%）と男性70歳以上（90.3%）で9割台と高くなっている。一方、『転出意向（計）』は女性20代（17.7%）で2割近くと高くなっている。（図1-2-3）

図 1-2-4 定住意向—居住開始時期別、地域別

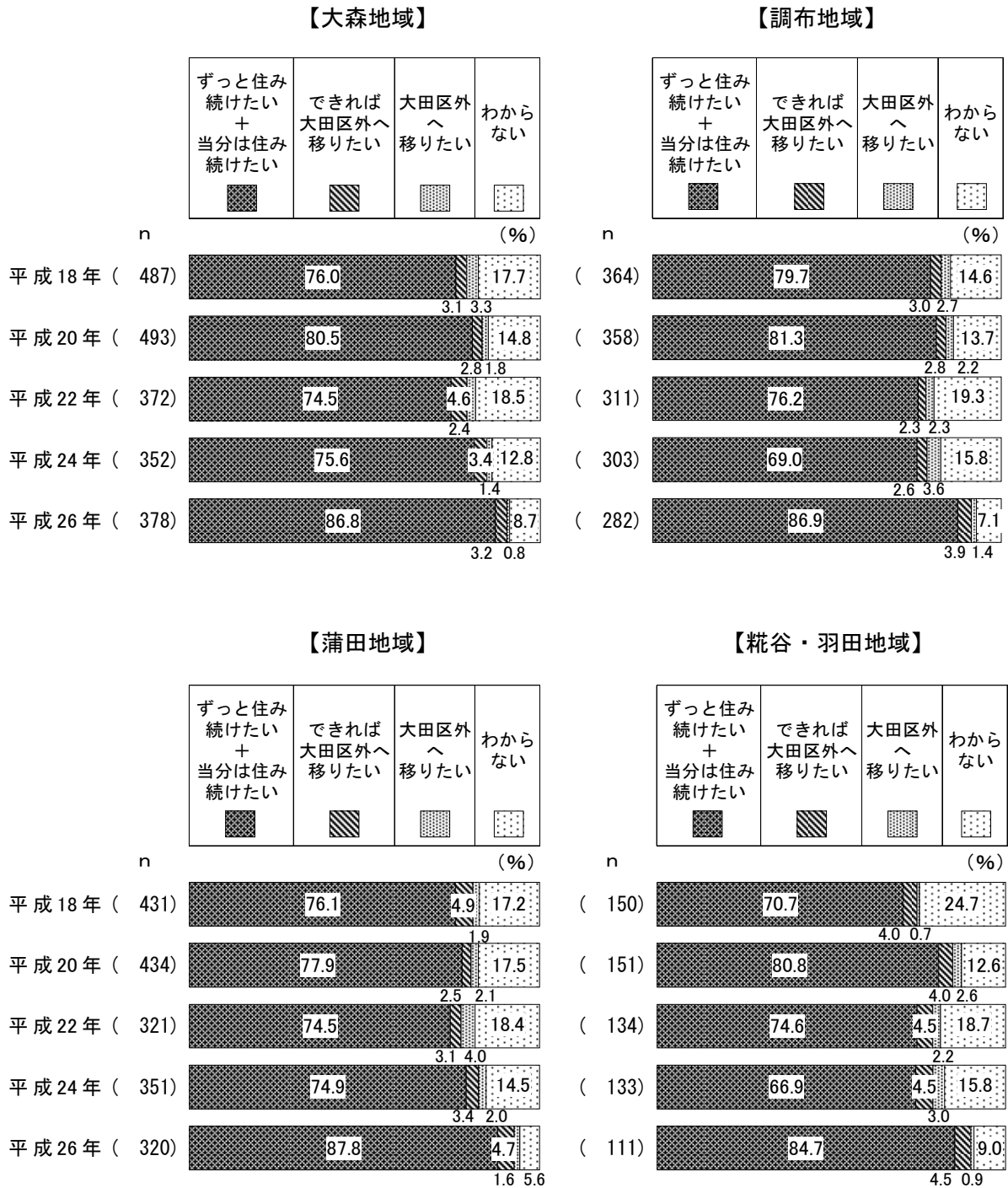


居住開始時期別で見ると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が高く、“昭和29年以前から（居住年数60年以上）”（75.6%）で7割半ばと高くなっている。また、『定住意向（計）』は“昭和29年以前から（居住年数60年以上）”（93.2%）と“昭和30年～昭和49年（居住年数40～59年）”（91.7%）で9割を超え高くなっている。

地域別で見ると、「ずっと住み続けたい」は糞谷・羽田地域（60.4%）で6割と高くなっている。

（図 1-2-4）

図 1-2-5 定住意向—地域別（経年比較）



【※ 1】今回から選択肢を 4 肢【※ 2】から 5 肢へ変更したため、今回調査の「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合計し、過年度の「これからも住みたい」と比較した。また、今回調査の「できれば大田区外へ移りたい」は過年度の「あまり長く住みたくない」と比較した。

【※ 2】前回選択肢「これからも住みたい」「あまり長く住みたくない」「大田区外へ移りたい」「わからない」

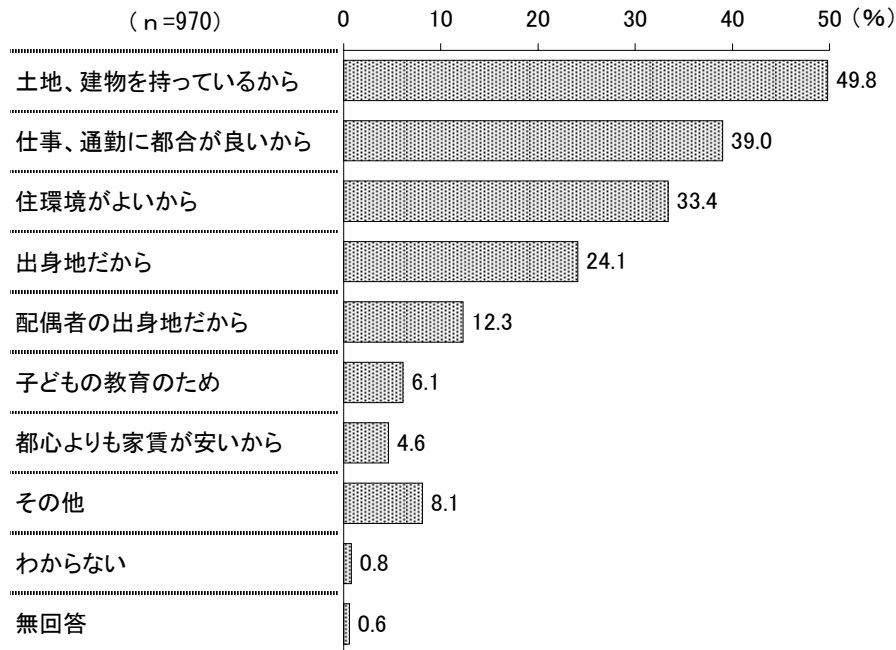
地域別の定住意向の経年比較は、過年度の調査と選択肢を変更しているため、参考までに図示する。(図 1-2-5)

(3) 住みたい理由

◇「土地、建物を持っているから」が5割

(問2で、「ずっと住みたい」「当分は住みたい」と回答した方に)
問2-1 これからも大田区に住みたい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

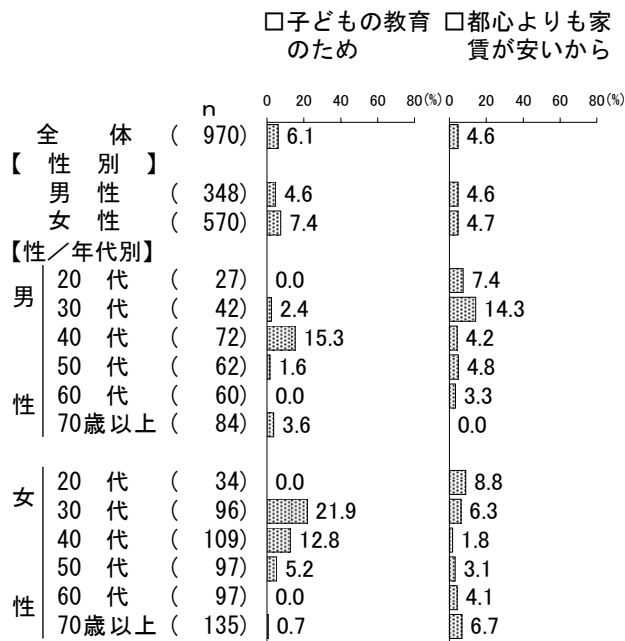
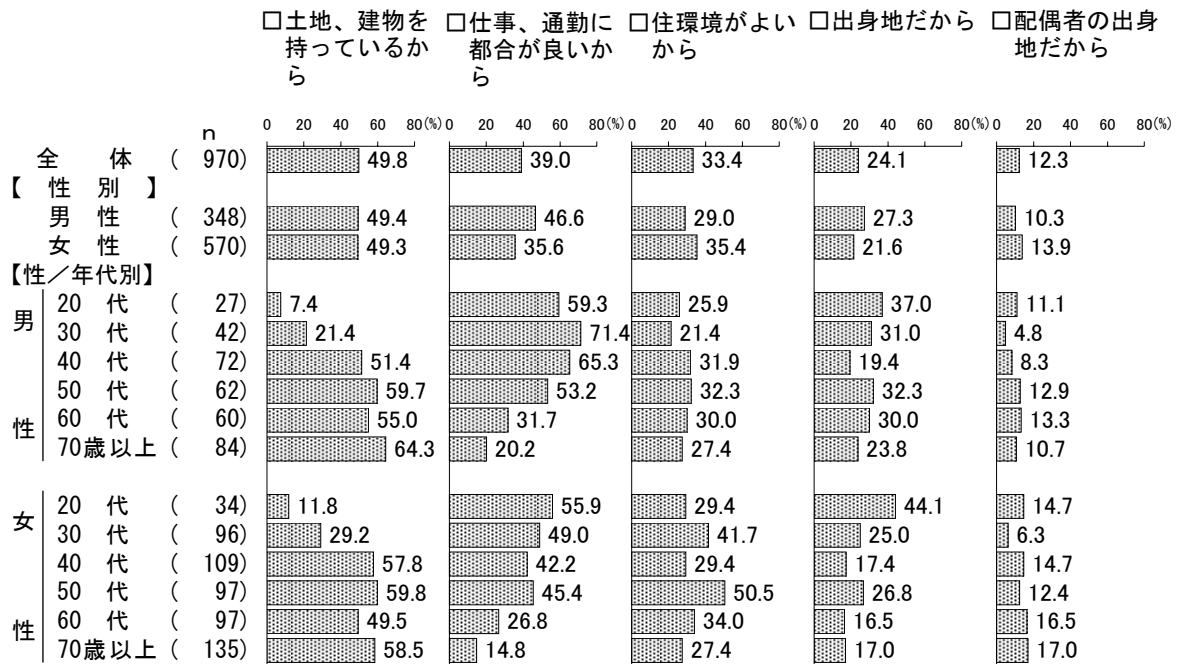
図1-3-1



これからも大田区に「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」と答えた人(970人)に、その理由を聞いたところ、「土地、建物を持っているから」(49.8%)が5割で最も高く、次いで「仕事、通勤に都合が良いから」(39.0%)、「住環境がよいから」(33.4%)、「出身地だから」(24.1%)、「配偶者の出身地だから」(12.3%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「交通の便が良い」、「都心へアクセスしやすい」、「羽田空港が近い」、「家族・友人が住んでいる」、「医療機関が充実している」などがあげられている。(図1-3-1)

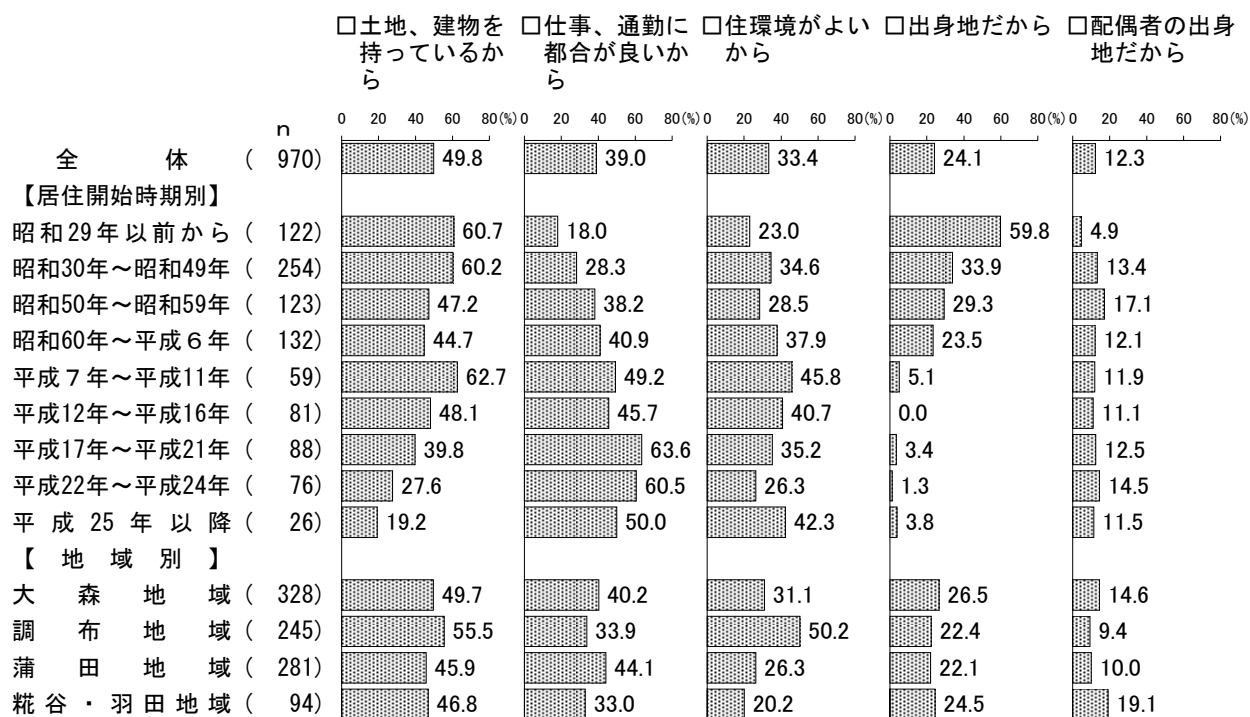
図 1-3-2 住みたい理由—性／年代別



性別で見ると、「仕事、通勤に都合が良いから」は男性（46.6%）が女性（35.6%）より11.0ポイント高くなっている。一方、「住環境がよいから」は女性（35.4%）が男性（29.0%）より6.4ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「土地、建物を持っているから」は男性70歳以上（64.3%）で6割半ばと高くなっている。また、「仕事、通勤に都合が良いから」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男性30代（71.4%）で7割を超え、「住環境がよいから」は女性50代（50.5%）で約5割と高くなっている。（図1-3-2）

図 1-3-3 住みたい理由—居住開始時期別、地域別



居住開始時期別で見ると、「土地、建物を持っているから」は“平成7年～平成11年（居住年数15～19年）”（62.7%）で6割を超え、「仕事、通勤に都合が良いから」は“平成17年～平成21年（居住年数5～9年）”（63.6%）で6割を超え高くなっている。

地域別で見ると、「土地、建物を持っているから」は調布地域（55.5%）で5割半ば、「住環境がよいから」は調布地域（50.2%）で5割と高くなっている。（図1-3-3）

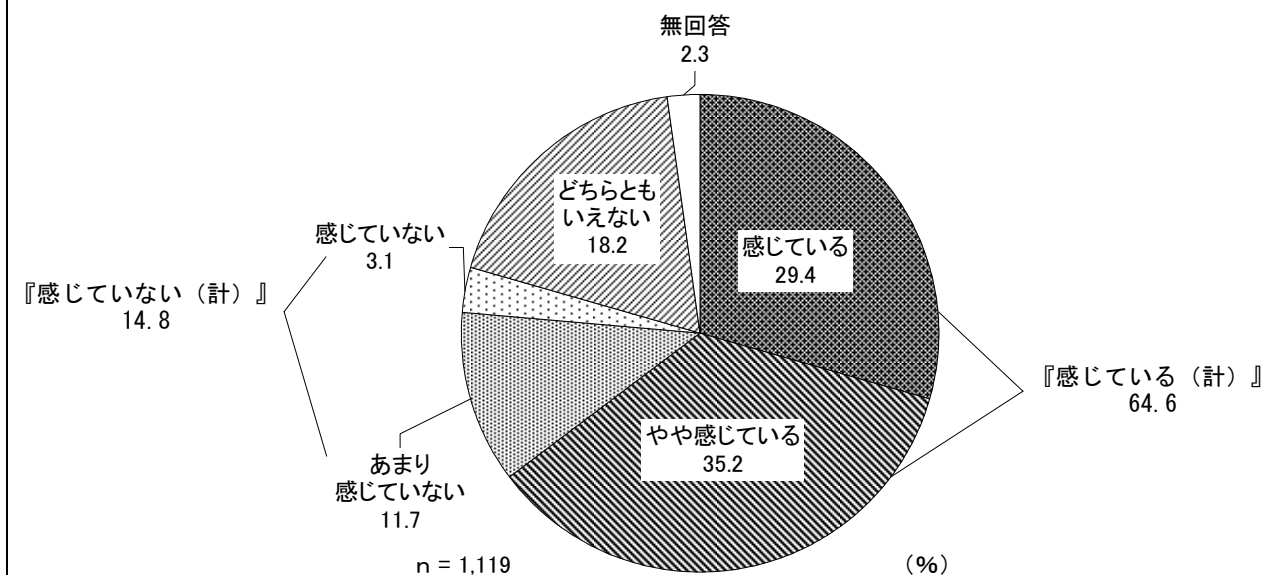
(4) 住んでいるまちが魅力的か

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』は6割半ば

問3 あなた(あて名のご本人)は、住んでいるまちが魅力的であると感じていますか。

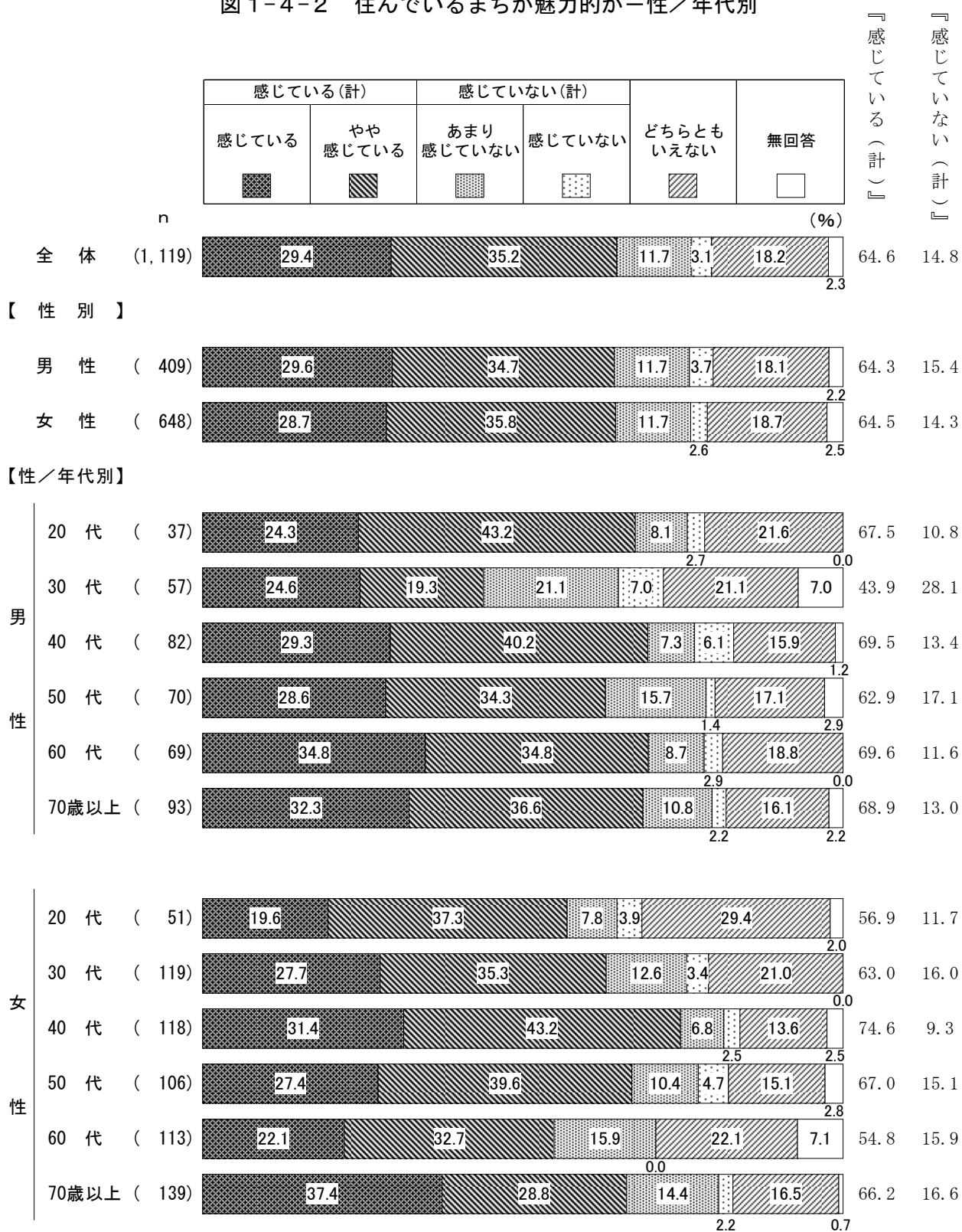
(○は1つだけ)

図1-4-1



住んでいるまちが魅力的であると感じているか聞いたところ、「やや感じている」(35.2%)が3割半ばで最も高く、これに「感じている」(29.4%)を合わせた『感じている(計)』(64.6%)は6割半ばとなっている。一方、「あまり感じていない」(11.7%)と「感じていない」(3.1%)を合わせた『感じていない(計)』(14.8%)は1割半ばとなっている。(図1-4-1)

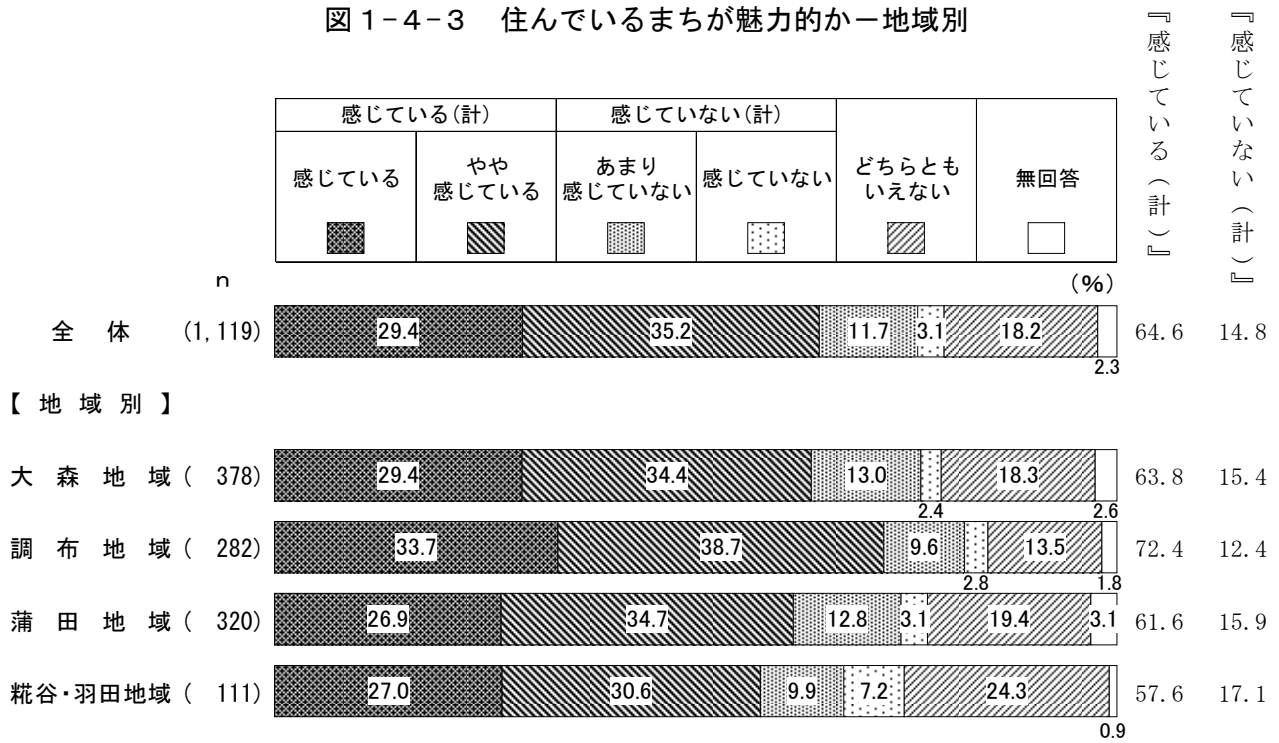
図 1-4-2 住んでいるまちが魅力的かー性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は女性40代(74.6%)で7割半ばと高くなっている。一方、『感じていない(計)』は男性30代(28.1%)で3割近くと高くなっている。(図1-4-2)

図 1-4-3 住んでいるまちが魅力的かー地域別



地域別でみると、『感じている(計)』は調布地域(72.4%)で7割を超え高くなっている。一方、『感じていない(計)』は糀谷・羽田地域(17.1%)で2割近くと高くなっている。(図1-4-3)

2. 暮らしやすさ

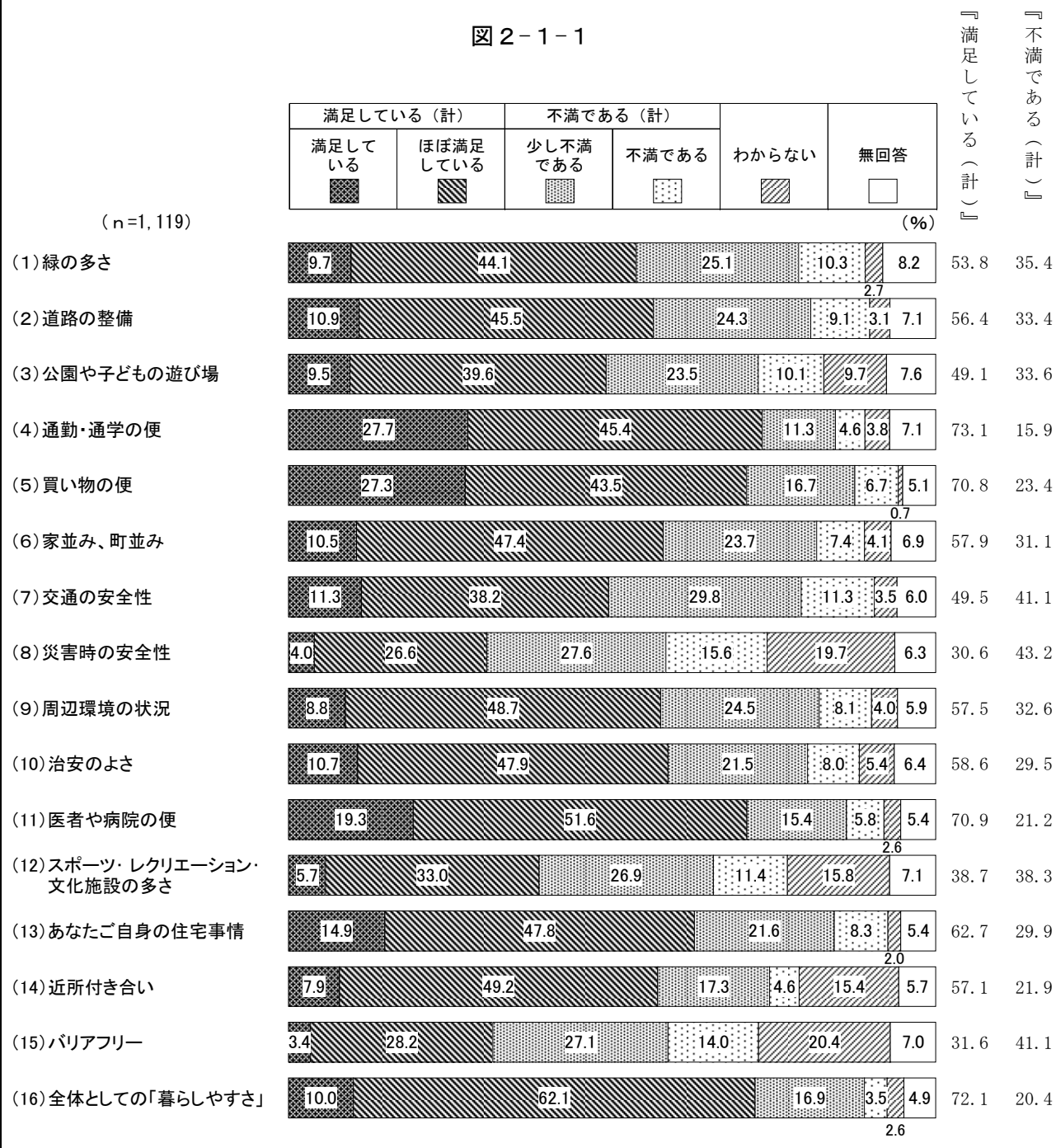
(1) 生活環境の満足度

◇「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している（計）』は“通勤・通学の便”と“全体としての「暮らしやすさ」”で7割を超える

問4 あなたは、住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



住んでいるまちの生活環境について聞いたところ、『満足している（計）』は“通勤・通学の便”（73.1%）と“全体としての「暮らしやすさ」”（72.1%）で7割を超え高くなっている。一方、「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満である（計）』は“災害時の安全性”（43.2%）、“交通の安全性”と“バリアフリー”（ともに41.1%）で4割を超え高くなっている。（図2-1-1）

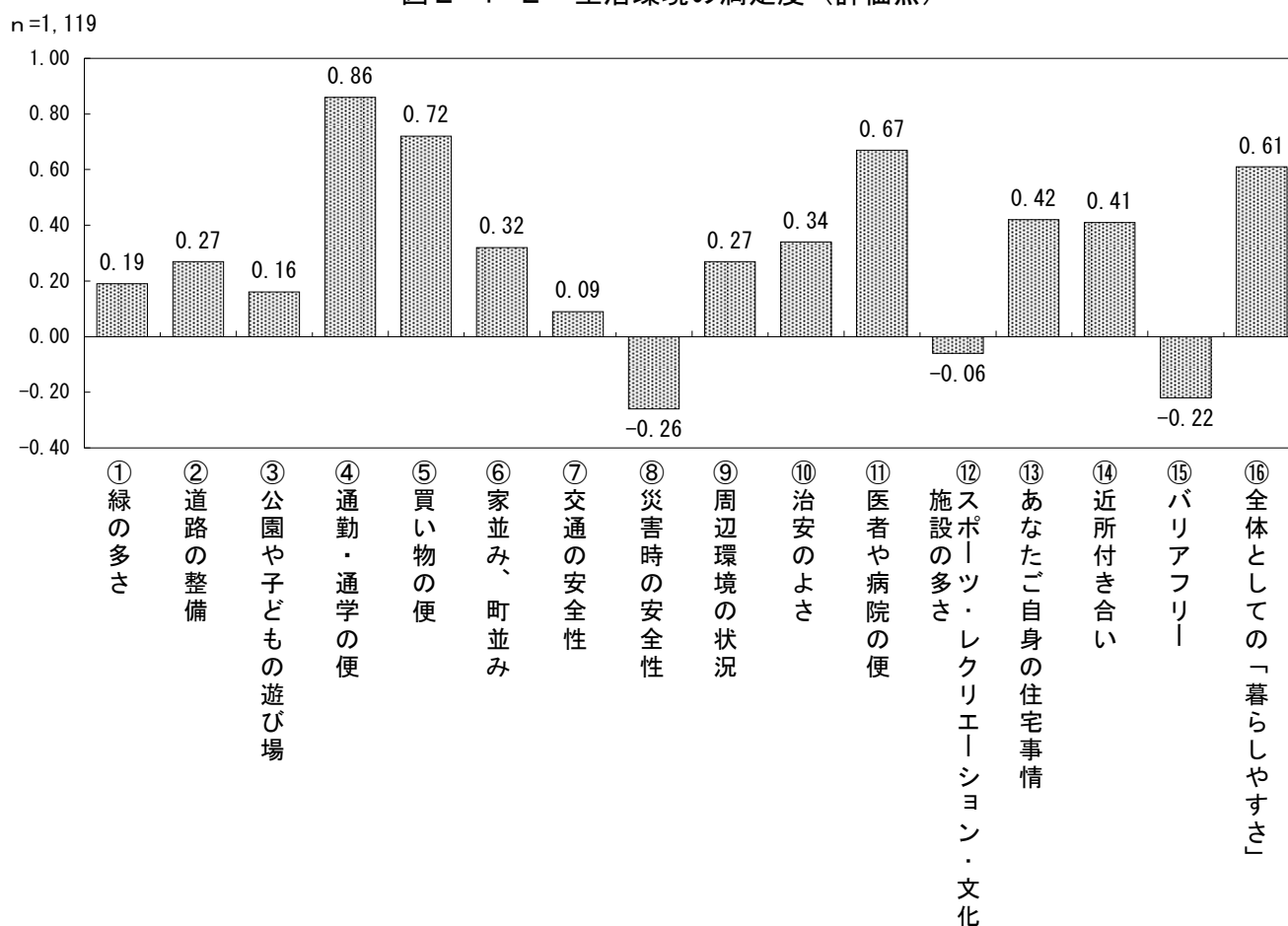
16項目にわたる生活環境評価の比較をしやすくするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-1.00 から+1.00 の間に分布し、0.00 が中間値で+1.00 に近いほど評価が高く、-1.00 に近いほど評価が低いことになる。また、「わからない」は計算から除外した。

16項目の生活環境評価を評価点で見ると、⑯を除いた個別の15項目のうち評価が高いのは、「通勤・通学の便」(0.86)、「買い物の便」(0.72)、「医者や病院の便」(0.67)の順となっている。一方、評価が低いのは「災害時の安全性」(-0.26)、「バリアフリー」(-0.22)、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」(-0.06)の順となっている。(図2-1-2)

図2-1-2 生活環境の満足度（評価点）



以下、生活環境評価の評価点を地域別にみる。地域ごとに、全体と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大森地域】

全体と比較すると、「医者や病院の便」が0.13ポイント、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が0.09ポイント、「あなたご自身の住宅事情」が0.01ポイント上回っている。

前回調査と比べると、今回ベスト3に入っている上位2項目は前回と同様の項目となっている。また、前回では「買い物の便」が3位であったが、今回は「あなたご自身の住宅事情」が3位となっている。一方、ワースト3では前回3位であった「災害時の安全性」が1位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「周辺環境の状況」が2位、「交通の安全性」が3位となっている。(図2-1-3、表2-1-1)

図2-1-3 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の比較)

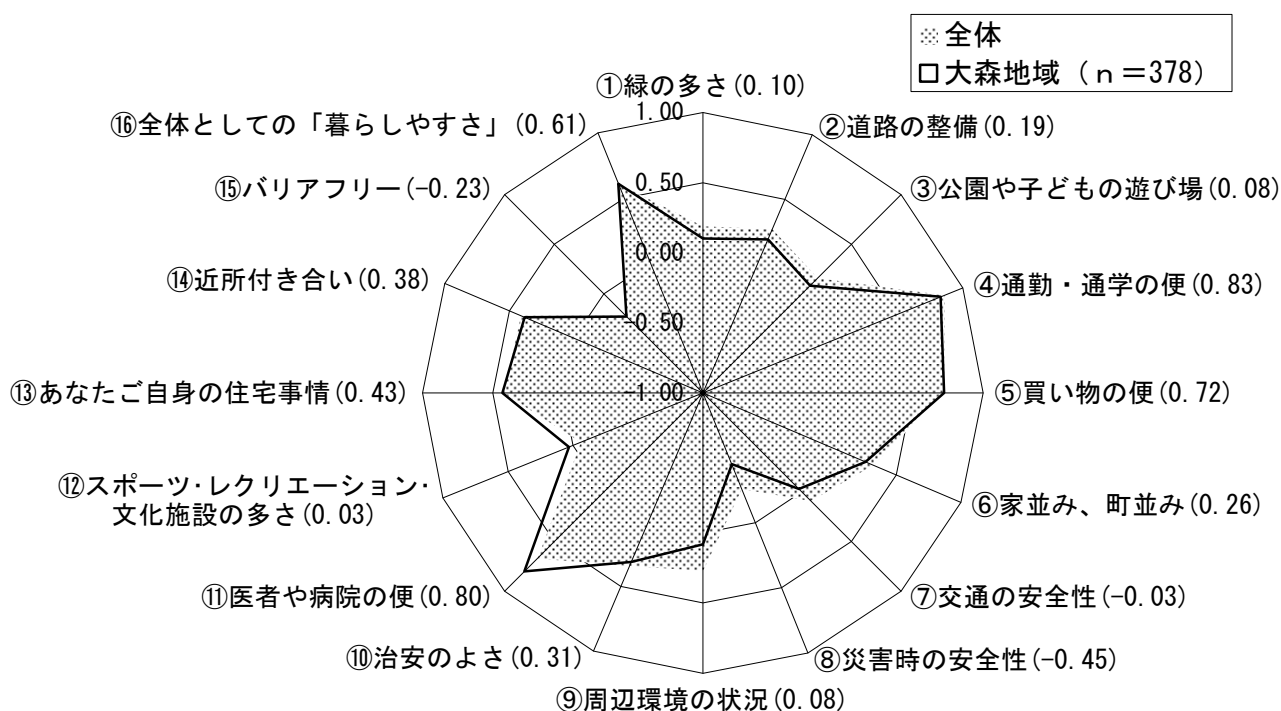


表2-1-1 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑪ 医者や病院の便 0.13	⑫ スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.09	⑬ あなたご自身の住宅事情 0.01
ワースト3	⑧ 災害時の安全性 -0.19	⑨ 周辺環境の状況 -0.19	⑦ 交通の安全性 -0.12

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【調布地域】

全体と比較すると、「周辺環境の状況」が 0.52 ポイント、「家並み、町並み」が 0.38 ポイント、「治安のよさ」が 0.38 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では「周辺環境の状況」が前回3位から今回1位、「家並み、町並み」は前回に引き続き2位となっている。また、前回のベスト3にはなかった項目の「治安のよさ」が3位となっている。一方、ワースト3では、項目は前回と同様となっており、「買い物の便」が前回2位から今回1位、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が前回1位から今回2位、「バリアフリー」は前回に引き続き3位となっている。

(図2-1-4、表2-1-2)

図2-1-4 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の比較)

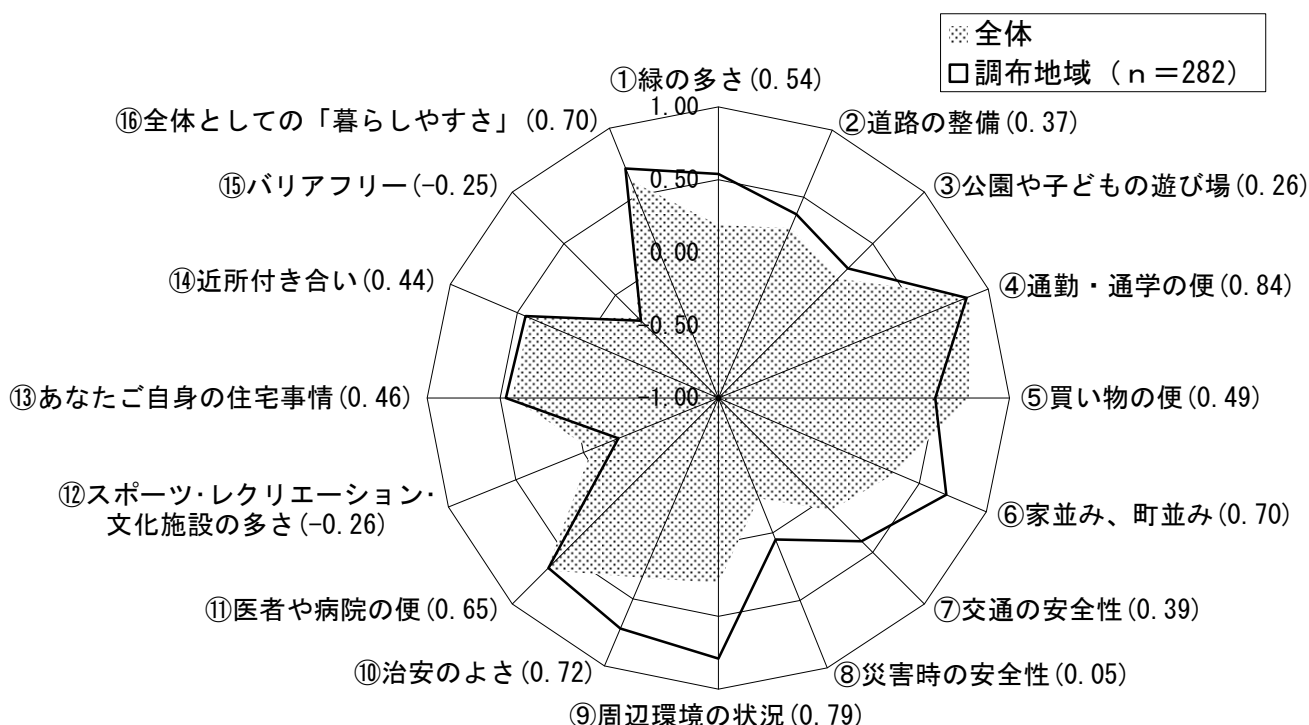


表2-1-2 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑨ 周辺環境の状況 0.52	⑥ 家並み、町並み 0.38	⑩ 治安のよさ 0.38
ワースト3	⑤ 買い物の便 -0.23	⑫ スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ -0.20	⑮ バリアフリー -0.03

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【蒲田地域】

全体と比較すると、「治安のよさ」が 0.28 ポイント、「家並み、町並み」が 0.21 ポイント、「緑の多さ」が 0.19 ポイント下回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では「バリアフリー」が前回3位から今回1位、前回のベスト3にはなかった項目の「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が2位、「買い物の便」が前回2位から今回3位となっている。一方、ワースト3では「治安のよさ」が前回に引き続き1位、「家並み、町並み」が前回3位から今回2位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「緑の多さ」が3位となっている。(図2-1-5、表2-1-3)

図2-1-5 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の比較)

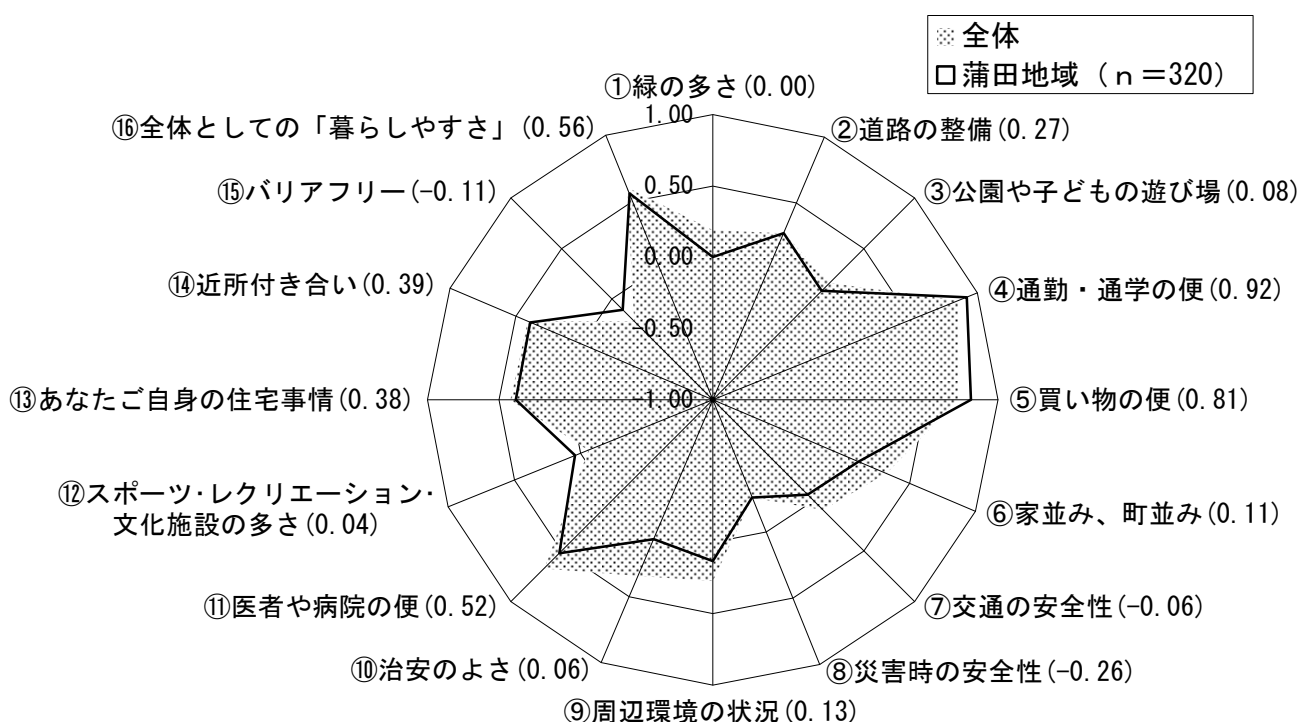


表2-1-3 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑮バリアフリー 0.11	⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.10	⑤買い物の便 0.09
ワースト3	⑩治安のよさ -0.28	⑥家並み、町並み -0.21	①緑の多さ -0.19

【糞谷・羽田地域】

全体と比較すると、「周辺環境の状況」が 0.32 ポイント、「緑の多さ」が 0.26 ポイント、「家並み、町並み」が 0.22 ポイント下回っている。

前回調査と比べると、「公園や子どもの遊び場」が前回 2 位から今回 1 位となっている。また、前回のベスト 3 にはなかった項目の「買い物の便」が 2 位、「医者や病院の便」が 3 位となっている。一方、ワースト 3 では全て前回と異なる項目となっており、「周辺環境の状況」が 1 位、「緑の多さ」が 2 位、「家並み、町並み」が 3 位となっている。(図 2-1-6、表 2-1-4)

図 2-1-6 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】(全体との評価点の比較)

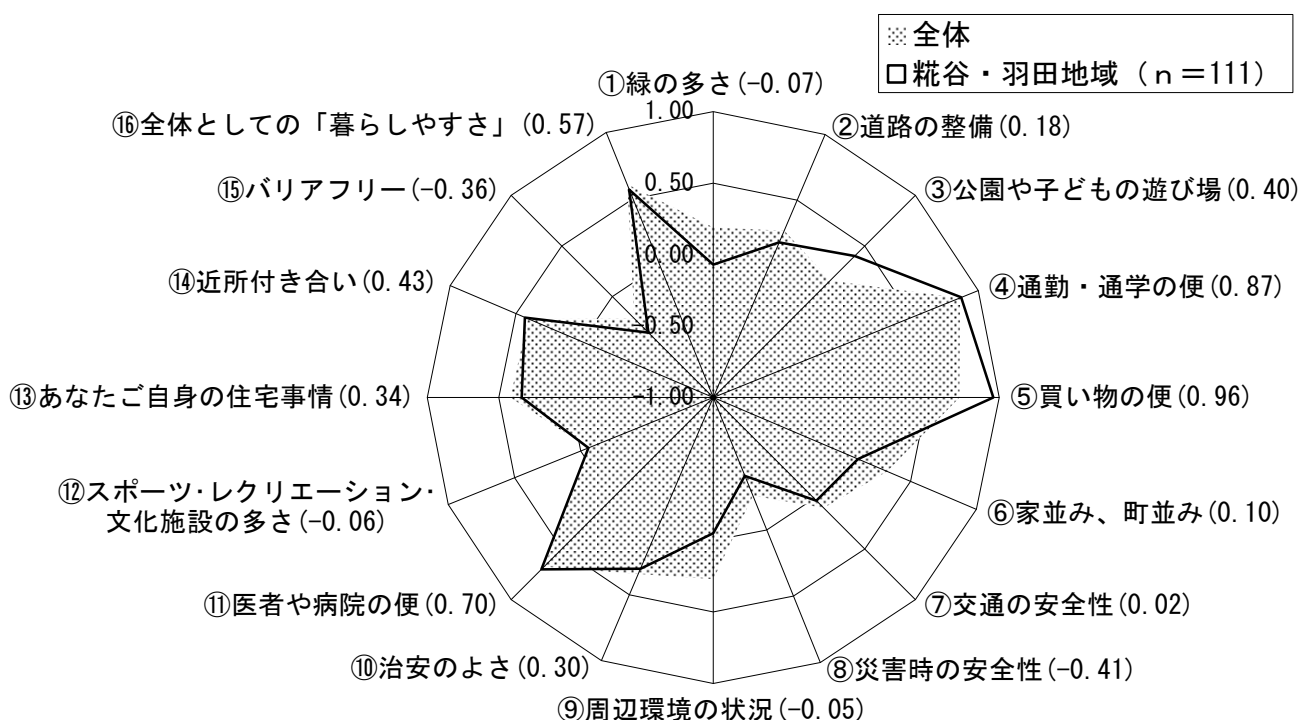
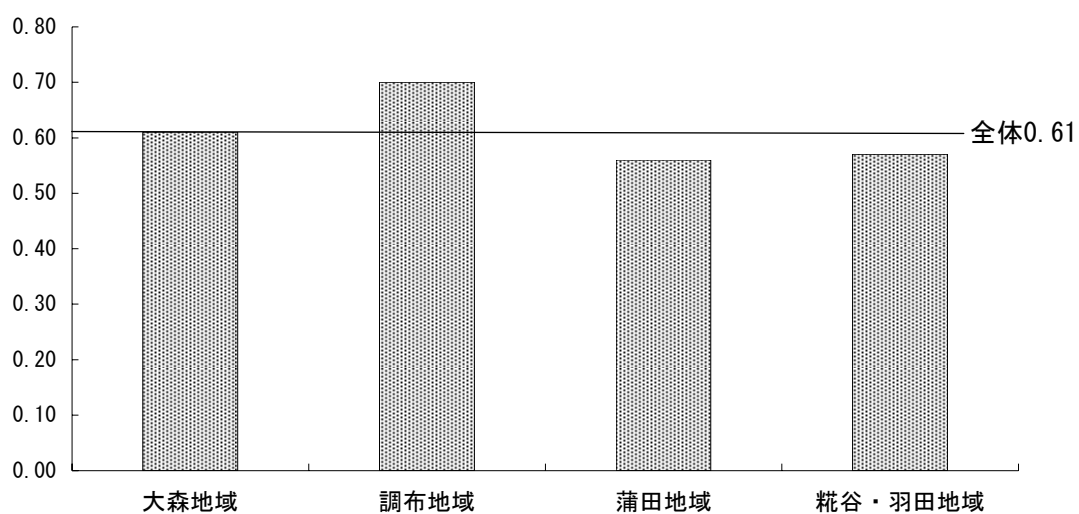


表 2-1-4 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】(全体との評価点の差ベスト 3・ワースト 3)

全体との差	1 位	2 位	3 位
ベスト 3	③公園や子どもの遊び場 0.24	⑤買い物の便 0.24	⑪医者や病院の便 0.03
ワースト 3	⑨周辺環境の状況 -0.32	①緑の多さ -0.26	⑥家並み、町並み -0.22

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

図 2-1-7 生活環境の満足度＜全体としての「暮らしやすさ」＞—地域別



総合満足度を示す＜全体としての「暮らしやすさ」＞を地域別にみると、全体では 0.61 ポイントとなっており、前回調査の 0.62 ポイントより 0.01 ポイント減少している。

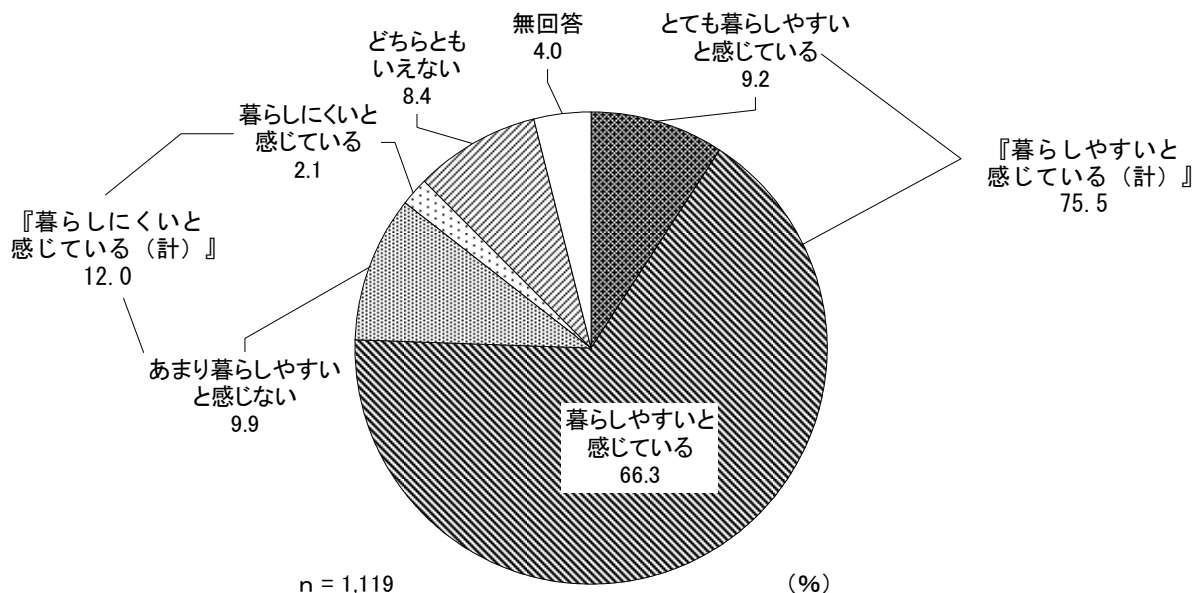
地域別でみると、調布地域が全体を上回っており、大森地域は全体と同数、蒲田地域と糀谷・羽田地域では全体を下回っている。(図 2-1-7)

(2) 住んでいるまちの暮らしやすさ

◇「とても暮らしやすいと感じている」と「暮らしやすいと感じている」を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』は7割半ば

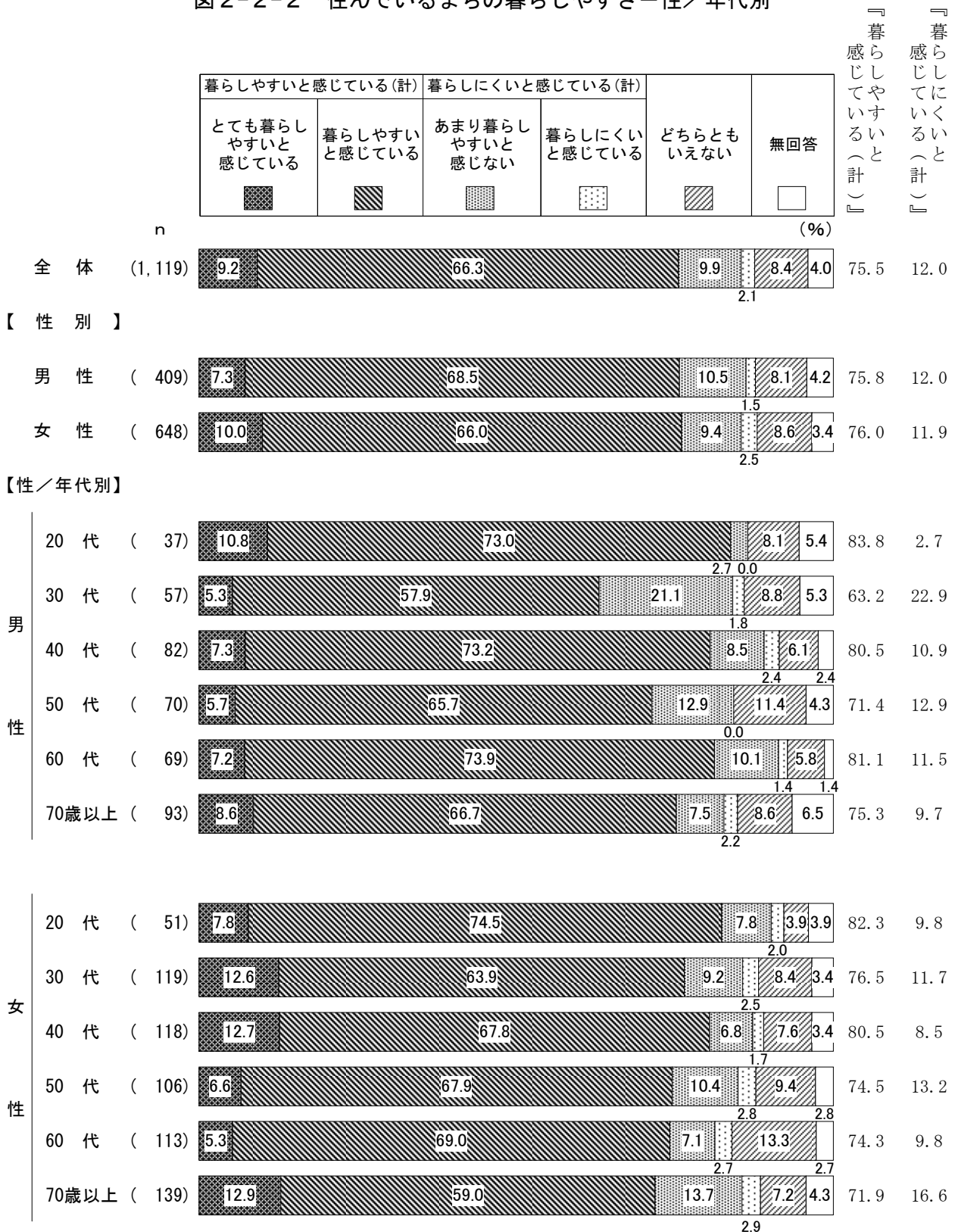
問5 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

図 2-2-1



現在住んでいるまちの暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと感じている」(66.3%)が6割半ばで最も高く、これに「とても暮らしやすいと感じている」(9.2%)を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』(75.5%)は7割半ばとなっている。また、「あまり暮らしやすいと感じない」(9.9%)と「暮らしにくいと感じている」(2.1%)を合わせた『暮らしにくいと感じている（計）』(12.0%)は1割を超えている。(図2-2-1)

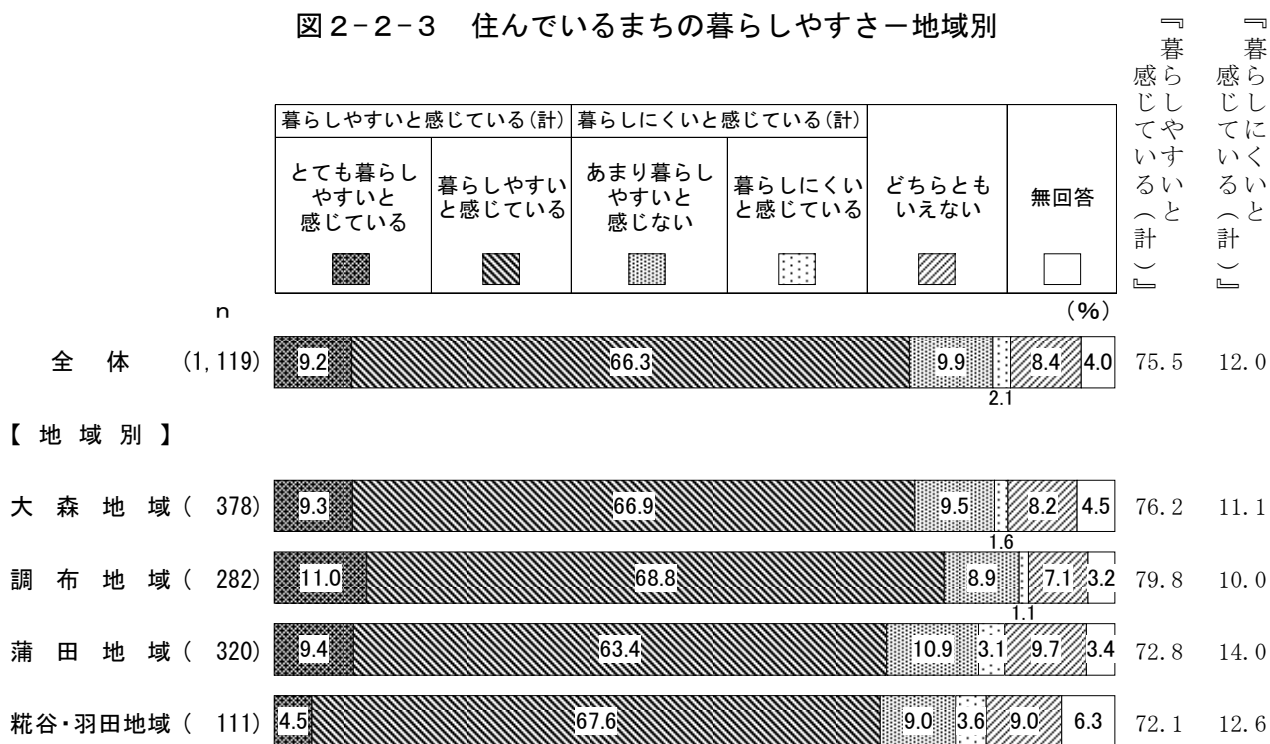
図2-2-2 住んでいるまちの暮らしやすさ—性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は男性の20代(83.8%)と60代(81.1%)、女性20代(82.3%)で8割を超え高くなっている。一方、『暮らしにくいと感じている(計)』は男性30代(22.9%)で2割を超え高くなっている。(図2-2-2)

図2-2-3 住んでいるまちの暮らしやすさ—地域別



地域別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は調布地域(79.8%)で8割と高くなっている。一方、『暮らしにくいと感じている(計)』は蒲田地域(14.0%)で1割半ばと高くなっている。(図2-2-3)

《基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

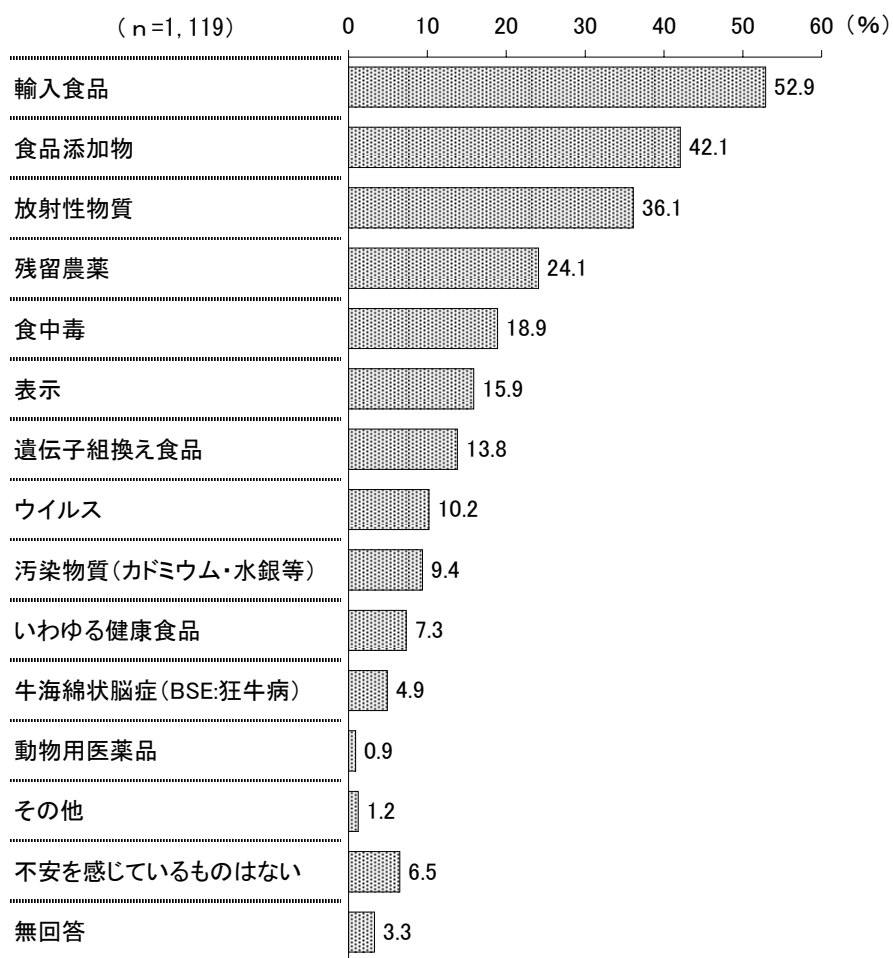
3. 健康に暮らせるまち

(1) 食品の安全性についての不安

◇「輸入食品」が5割を超える

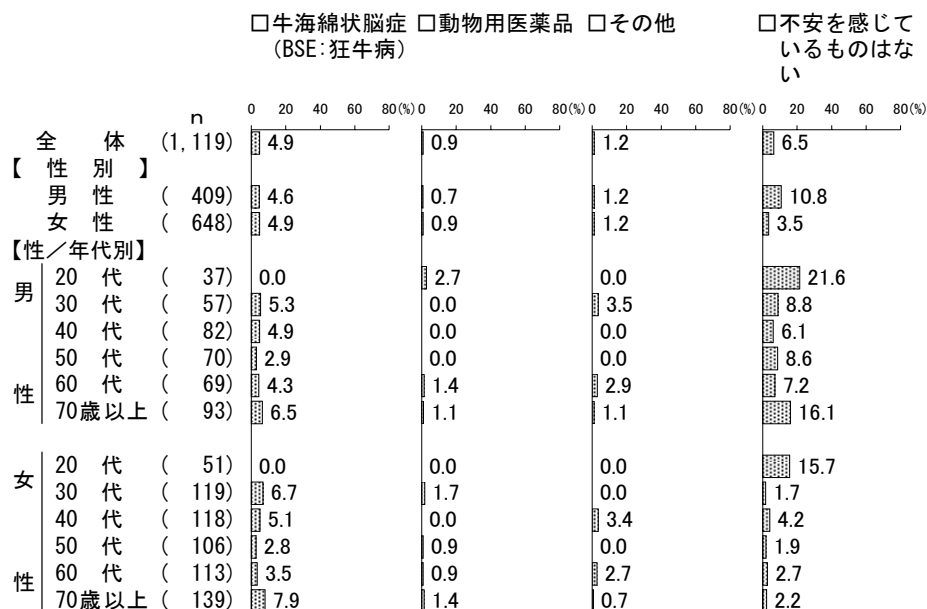
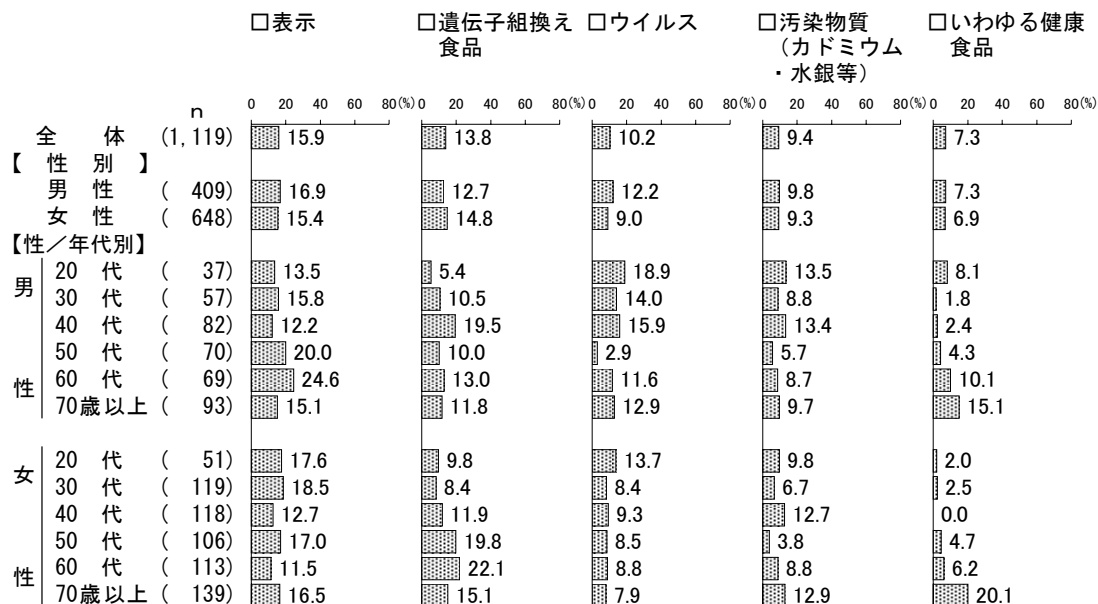
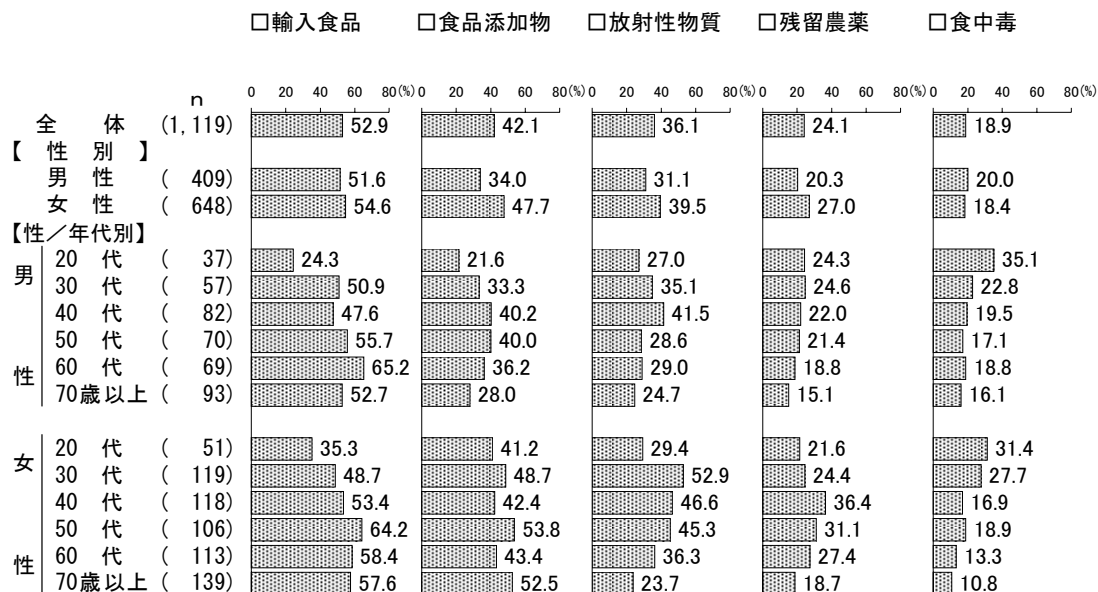
問6 食品の安全性について不安を感じているものがありますか。(○は3つまで)

図 3-1-1



食品の安全性について不安を感じているものがあるか聞いたところ、「輸入食品」(52.9%)が5割を超え最も高く、次いで「食品添加物」(42.1%)、「放射性物質」(36.1%)、「残留農薬」(24.1%)、「食中毒」(18.9%)などの順になっている。(図3-1-1)

図3-1-2 食品の安全性についての不安—性/年代別



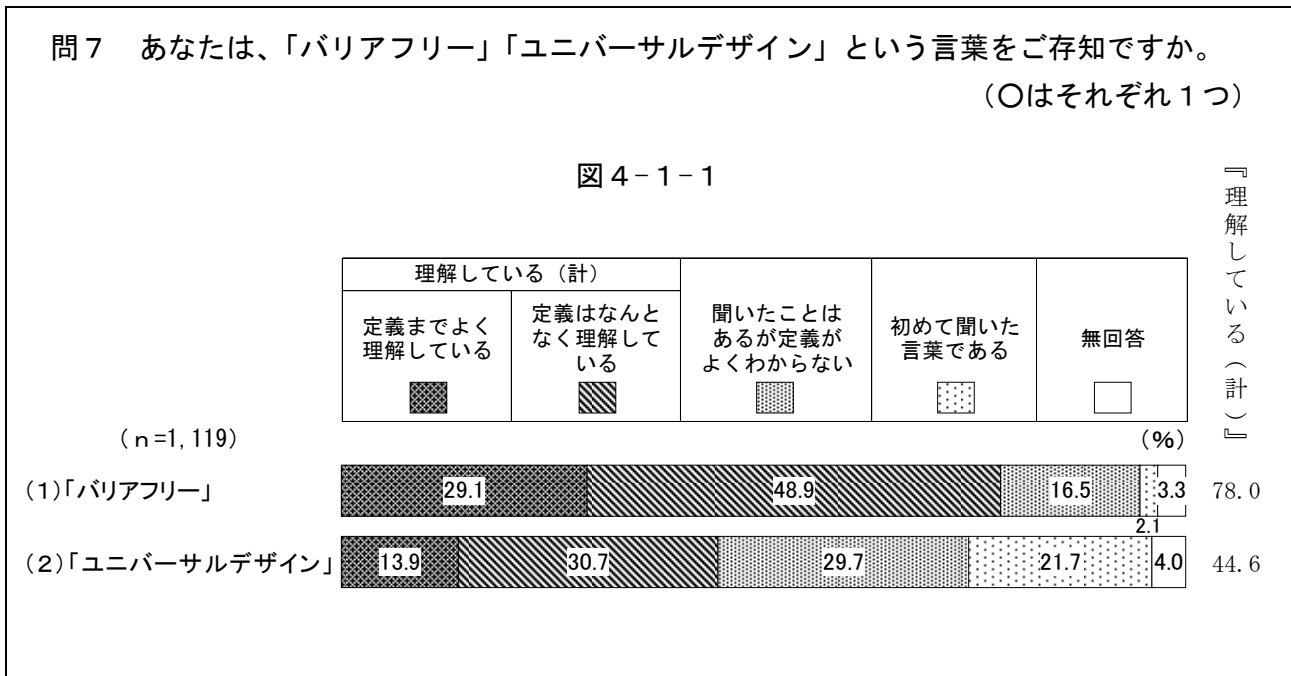
性別で見ると、「食品添加物」は女性（47.7%）が男性（34.0%）より13.7ポイント高く、「放射性物質」は女性（39.5%）が男性（31.1%）より8.4ポイント高くなっている。一方、「不安を感じているものはない」は男性（10.8%）が女性（3.5%）より7.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「輸入食品」は男性60代（65.2%）と女性50代（64.2%）で6割半ば、「食品添加物」は女性の50代（53.8%）と70歳以上（52.5%）で5割を超え高くなっている。また、「放射性物質」は女性30代（52.9%）で5割を超え、「残留農薬」は女性40代（36.4%）で3割半ばと高くなっている。（図3-1-2）

4. バリアフリー・ユニバーサルデザイン

(1) 「バリアフリー」、「ユニバーサルデザイン」の認知度

◇「定義までよく理解している」と「定義はなんとなく理解している」を合わせた『理解している(計)』は「バリアフリー」が8割近く、「ユニバーサルデザイン」が4割半ば

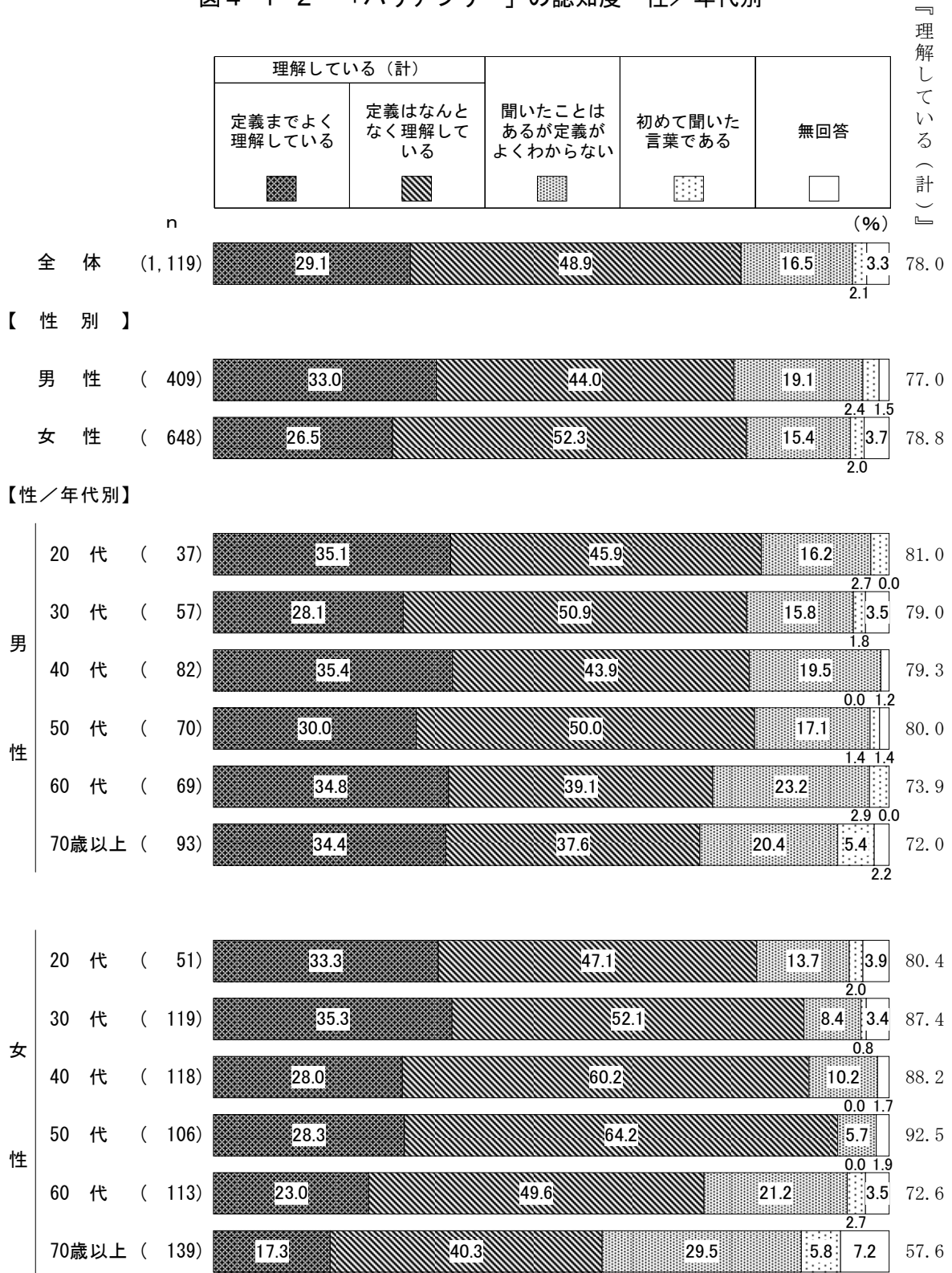


「バリアフリー」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(48.9%)が5割近くで最も高く、これに「定義までよく理解している」(29.1%)を合わせた『理解している(計)』(78.0%)は8割近くとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(16.5%)は2割近く、「初めて聞いた言葉である」(2.1%)はわずかとなっている。

「ユニバーサルデザイン」という言葉を知っているか聞いたところ、「定義はなんとなく理解している」(30.7%)が約3割で最も高く、これに「定義までよく理解している」(13.9%)を合わせた『理解している(計)』(44.6%)は4割半ばとなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」(29.7%)は3割、「初めて聞いた言葉である」(21.7%)は2割を超えている。

(図4-1-1)

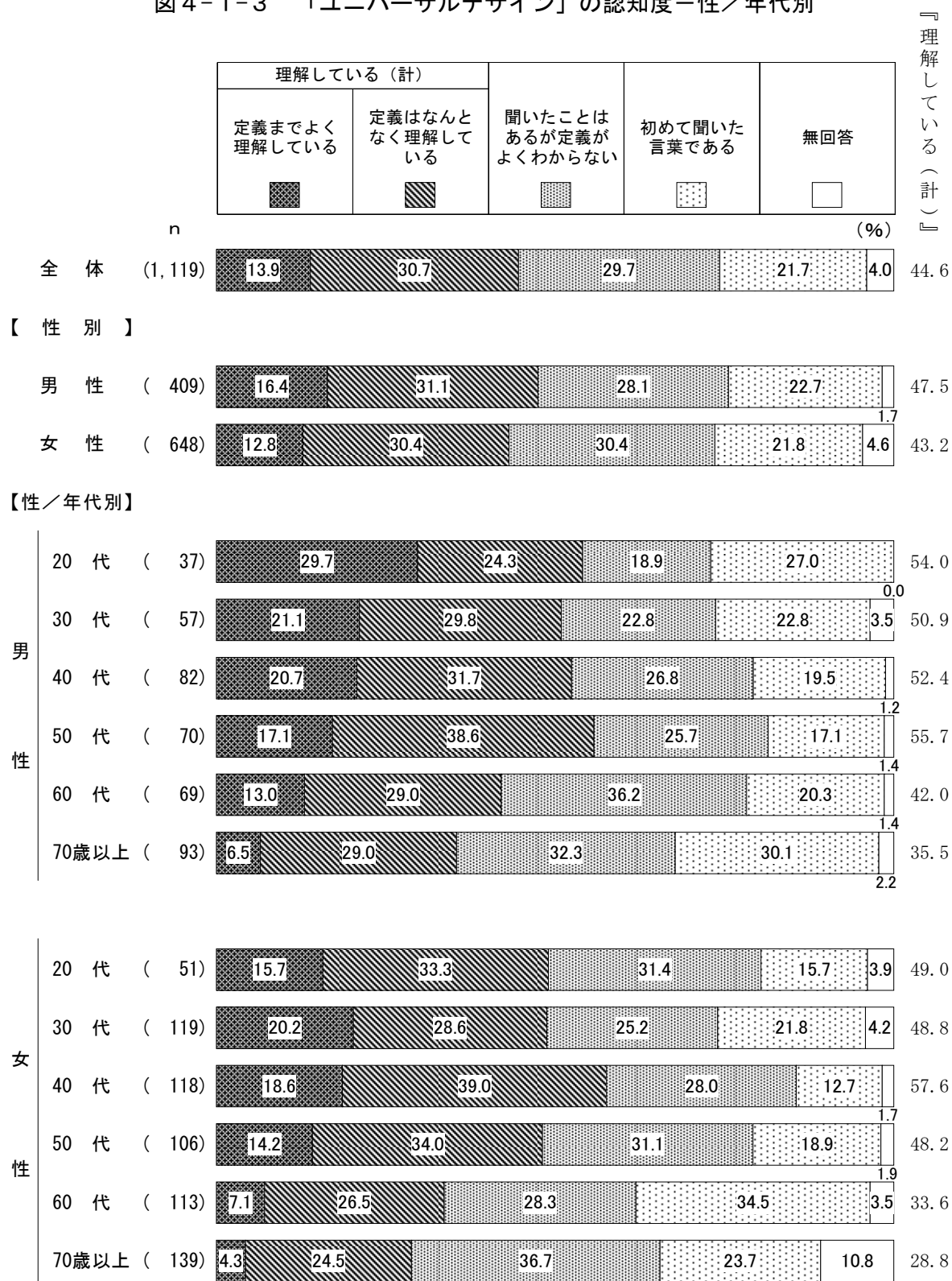
図4-1-2 「バリアフリー」の認知度—性／年代別



「バリアフリー」の認知度を性別でみると、「定義はなんとなく理解している」は女性（52.3%）が男性（44.0%）より8.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『理解している(計)』は女性50代（92.5%）で9割を超え高くなっている。また、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は女性70歳以上（29.5%）で3割と高くなっている。（図4-1-2）

図 4-1-3 「ユニバーサルデザイン」の認知度—性／年代別



「ユニバーサルデザイン」の認知度を性別で見ると、『理解している (計)』は男性 (47.5%) が女性 (43.2%) より4.3ポイント高くなっている。

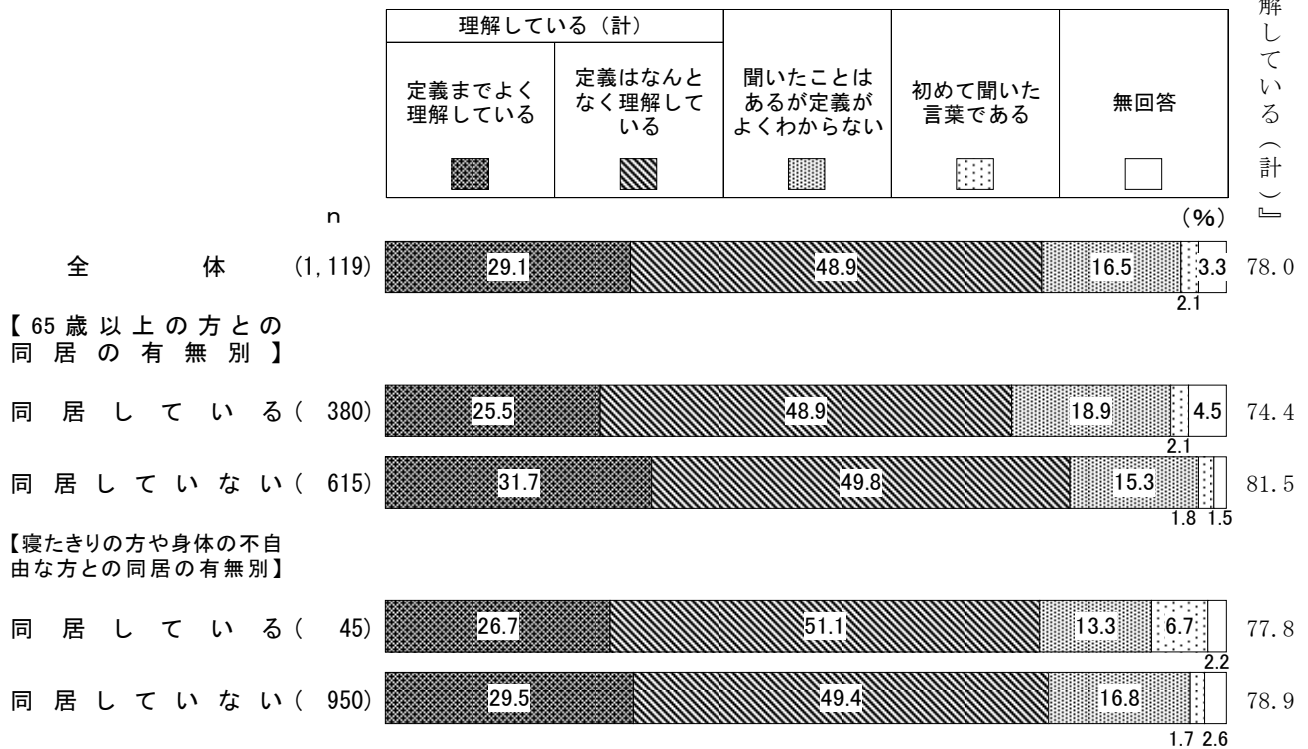
性／年代別で見ると、『理解している (計)』は女性40代 (57.6%) で6割近くと高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は女性60代 (34.5%) で3割半ばと高くなっている。

(図 4-1-3)

図4-1-4 「バリアフリー」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

『理解している（計）』



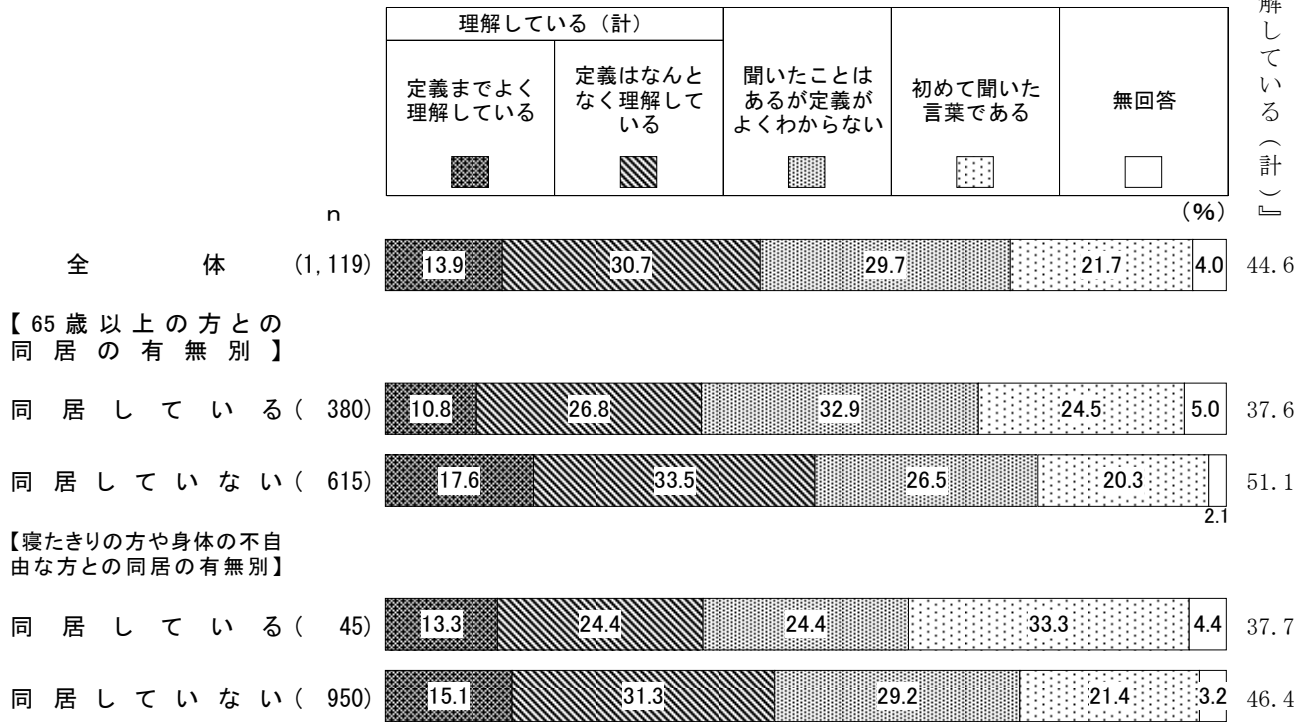
「バリアフリー」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別で見ると、『理解している（計）』は“同居していない”人（81.5%）が“同居している”人（74.4%）より7.1ポイント高くなっている。

寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別で見ると、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は“同居していない”人（16.8%）が“同居している”人（13.3%）より3.5ポイント高くなっている。（図4-1-4）

図4-1-5 「ユニバーサルデザイン」の認知度

-65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別

『理解している(計)』



「ユニバーサルデザイン」の認知度を65歳以上の方との同居の有無別で見ると、『理解している(計)』は“同居していない”人(51.1%)が“同居している”人(37.6%)より13.5ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはあるが定義がよくわからない」は“同居している”人(32.9%)が“同居していない”人(26.5%)より6.4ポイント高くなっている。

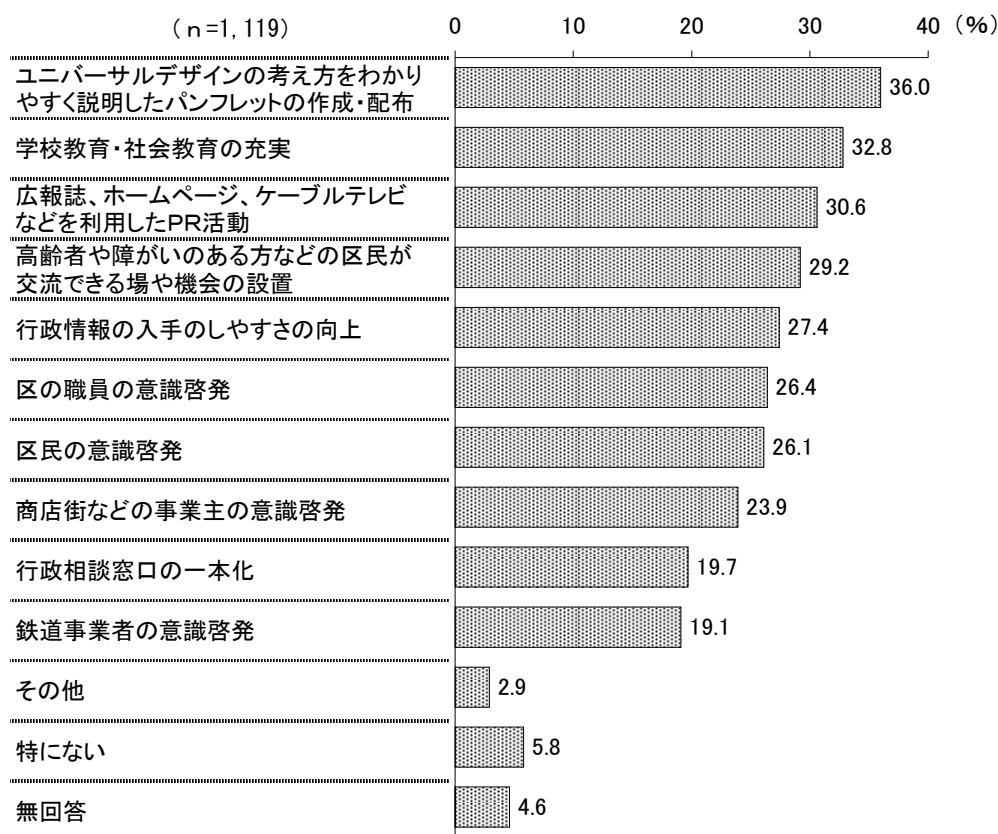
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別で見ると、『理解している(計)』は“同居していない”人(46.4%)が“同居している”人(37.7%)より8.7ポイント高くなっている。一方、「初めて聞いた言葉である」は“同居している”人(33.3%)が“同居していない”人(21.4%)より11.9ポイント高くなっている。(図4-1-5)

(2) 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み

◇「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」が3割半ば

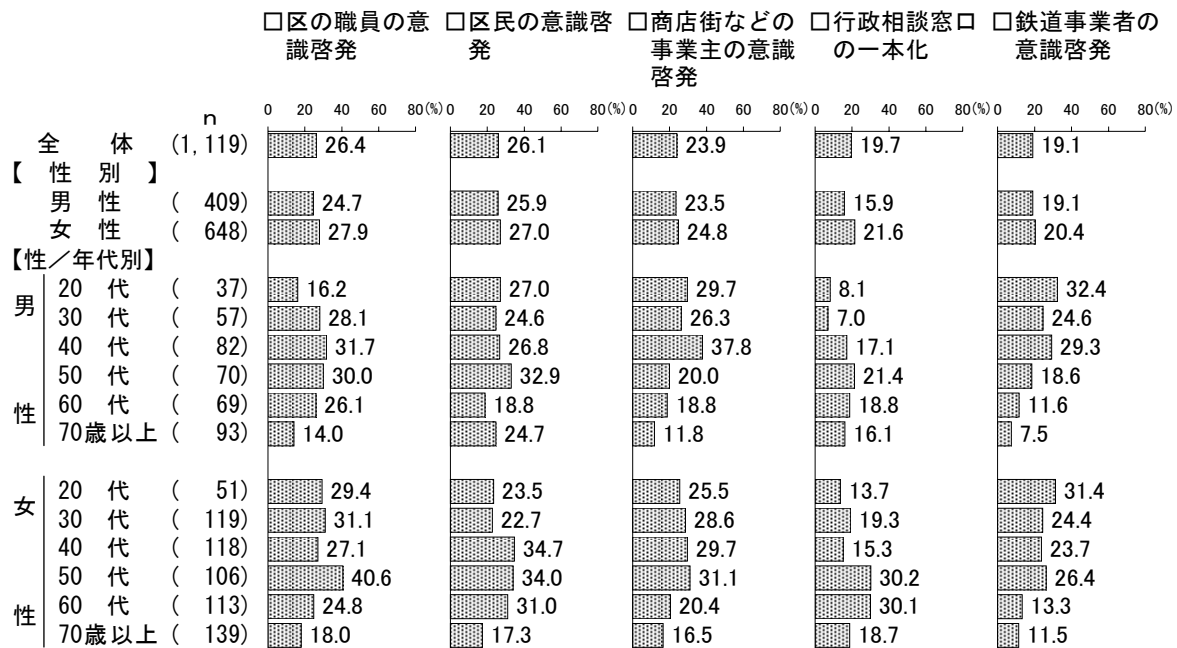
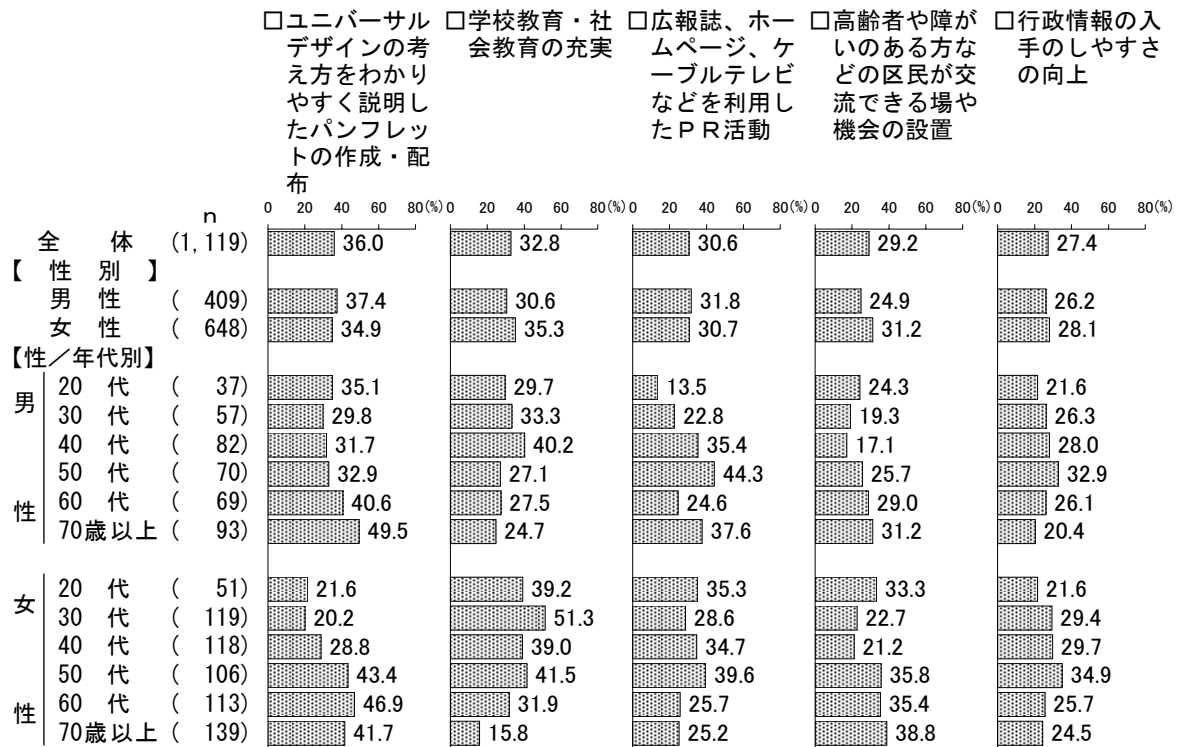
問8 バリアフリーやユニバーサルデザインの視点でまちづくりを進めるにあたり、広報や啓発活動で区としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

図4-2-1



「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組みについて聞いたところ、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」(36.0%)が3割半ばで最も高く、次いで「学校教育・社会教育の充実」(32.8%)、「広報誌、ホームページ、ケーブルテレビなどを利用したPR活動」(30.6%)、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」(29.2%)、「行政情報の入手のしやすさの向上」(27.4%)などの順になっている。(図4-2-1)

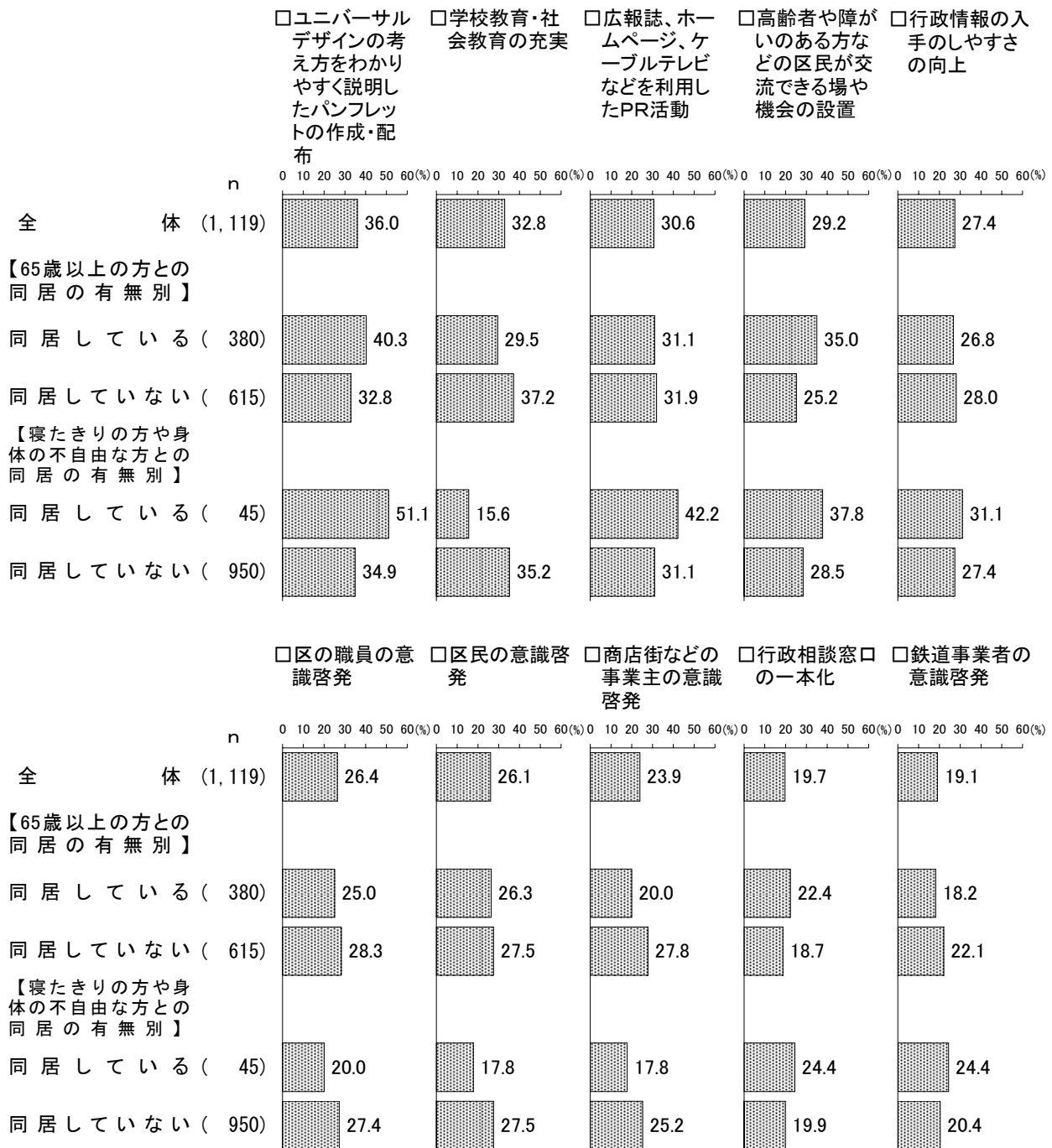
図4-2-2 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み
—性／年代別



性別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は女性（31.2%）が男性（24.9%）より6.3ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は男性70歳以上（49.5%）で5割、「学校教育・社会教育の充実」は女性30代（51.3%）で5割を超え高くなっている。（図4-2-2）

図4-2-3 「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」を進めるために必要な区の取り組み
 -65歳以上の方との同居の有無別、寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別



65歳以上の方との同居の有無別でみると、「高齢者や障がいのある方などの区民が交流できる場や機会の設置」は“同居している”人（35.0%）が“同居していない”人（25.2%）より9.8ポイント高くなっている。

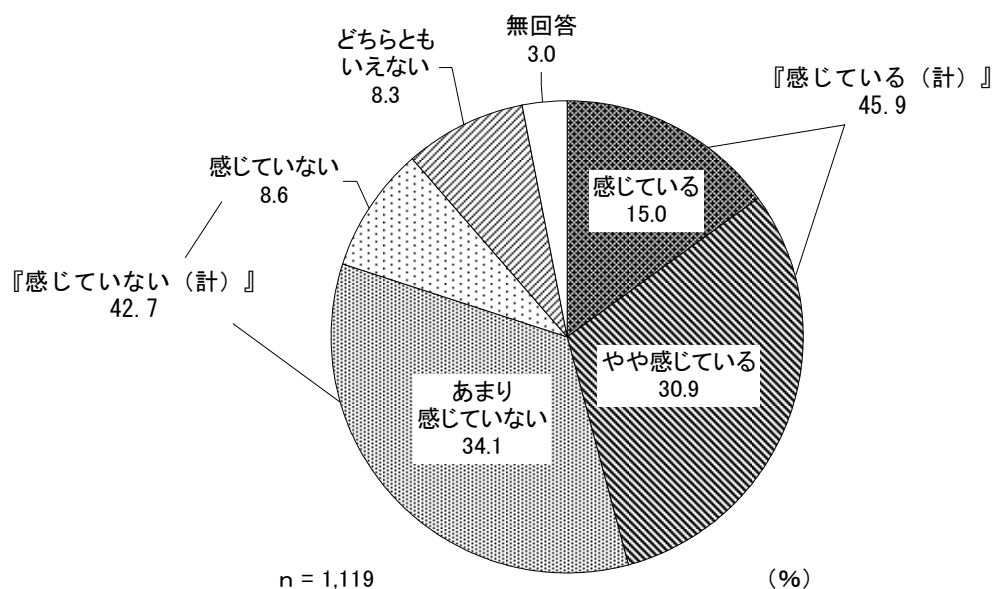
寝たきりの方や身体の不自由な方との同居の有無別でみると、「学校教育・社会教育の充実」は“同居していない”人（35.2%）が“同居している”人（15.6%）より19.6ポイント高くなっている。一方、「ユニバーサルデザインの考え方をわかりやすく説明したパンフレットの作成・配布」は“同居している”人（51.1%）が“同居していない”人（34.9%）より16.2ポイント高くなっている。（図4-2-3）

(3) 駅周辺のバリアフリー化

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている（計）』は4割半ば

問9 駅周辺のバリアフリー化が進んだと感じていますか。(○は1つだけ)

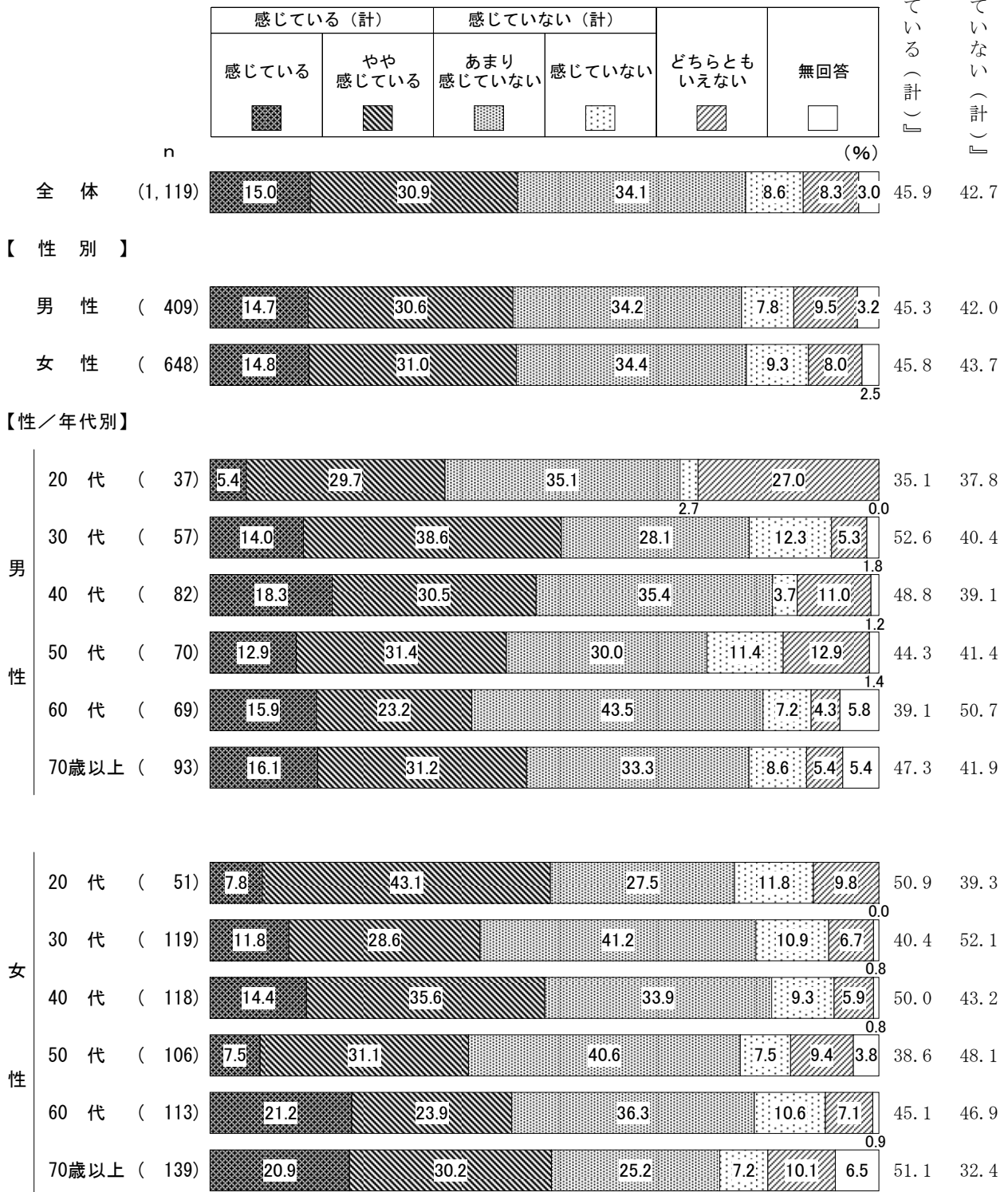
図4-3-1



駅周辺のバリアフリー化について聞いたところ、「感じている」(15.0%)と「やや感じている」(30.9%)を合わせた『感じている(計)』(45.9%)は4割半ばとなっている。一方、「あまり感じている」(34.1%)と「感じている」(8.6%)を合わせた『感じている(計)』(42.7%)は4割を超えている。(図4-3-1)

図4-3-2 駅周辺のバリアフリー化—性／年代別

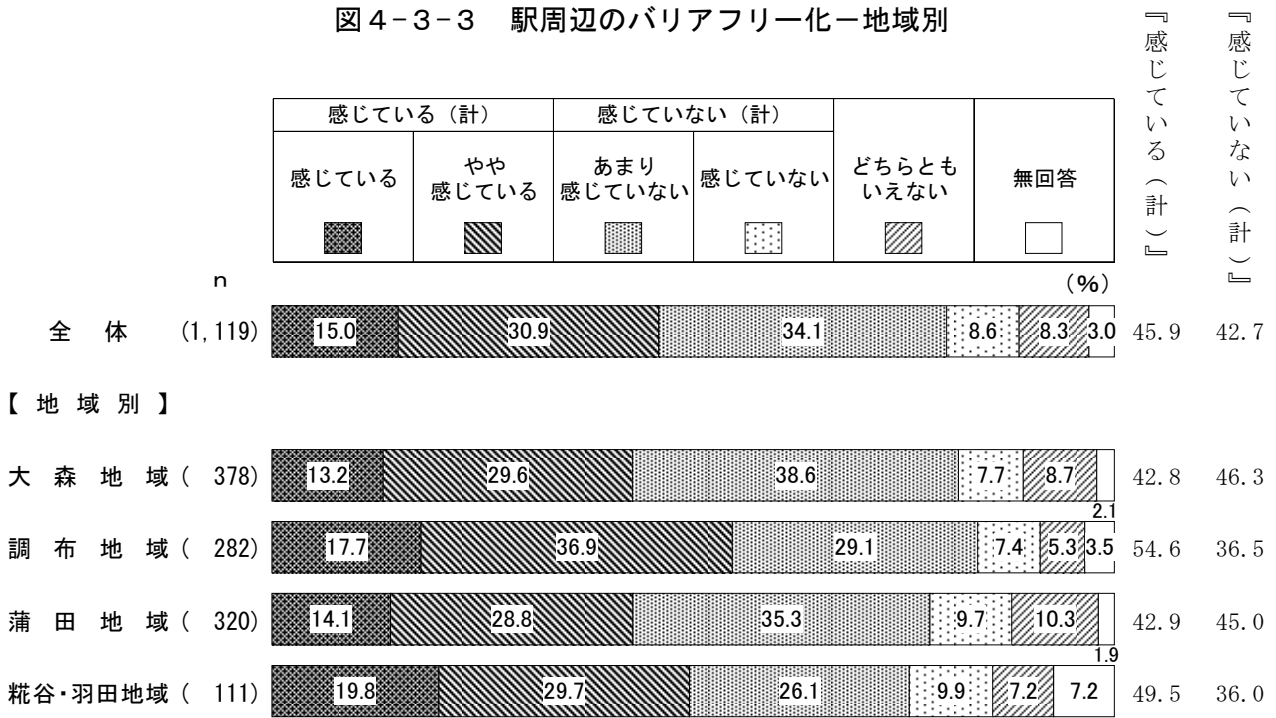
『感じている(計)』
『感じていない(計)』



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『感じている(計)』は男性30代(52.6%)、女性の20代(50.9%)、40代(50.0%)、70歳以上(51.1%)で5割台と高くなっている。一方、『感じていない(計)』は女性30代(52.1%)と男性60代(50.7%)で5割台と高くなっている。(図4-3-2)

図 4-3-3 駅周辺のバリアフリー化—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は調布地域 (54.6%) で5割半ばと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は大森地域 (46.3%) と蒲田地域 (45.0%) で4割半ばと高くなっている。
(図 4-3-3)

5. 生涯教育の推進

(1) この1年間に行った生涯学習

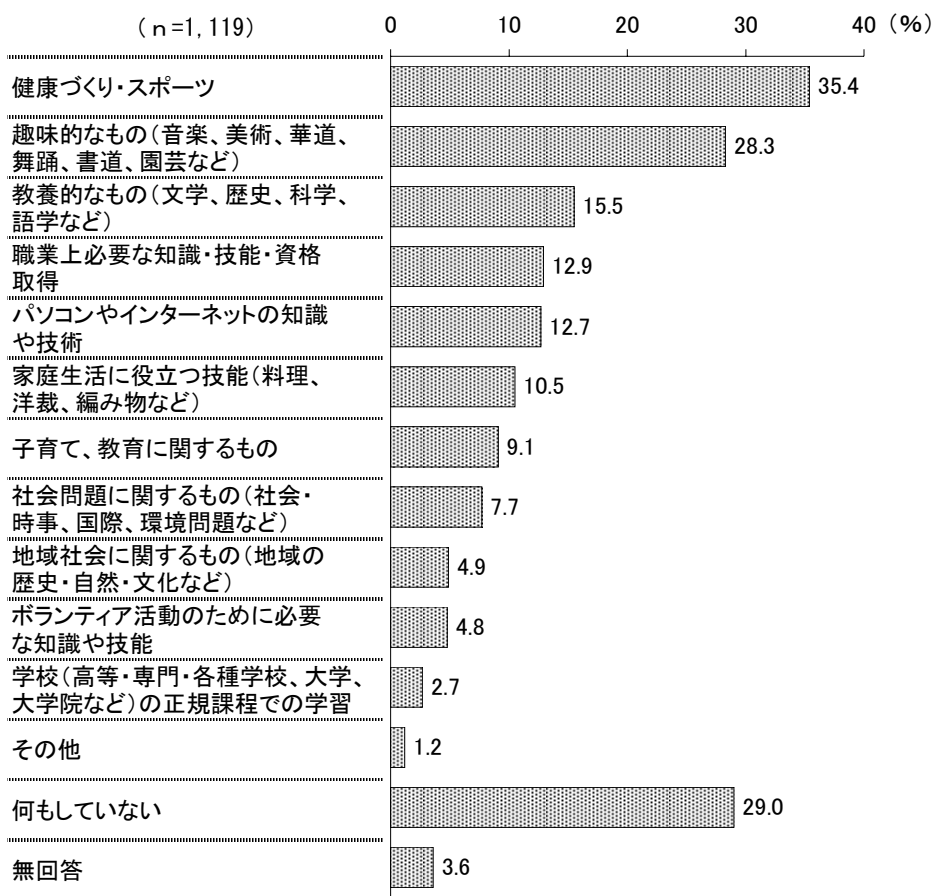
◇「健康づくり・スポーツ」は3割半ば

問10 あなたは、この1年間にどのような生涯学習の活動を行いましたか。

(○はいくつでも)

※「生涯学習」とは、人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や区が行う講座などの学習機会に限らず、自らすすんで行う学習、文化、スポーツ、趣味、ボランティア活動などにおけるさまざまな学習活動のことをいいます。

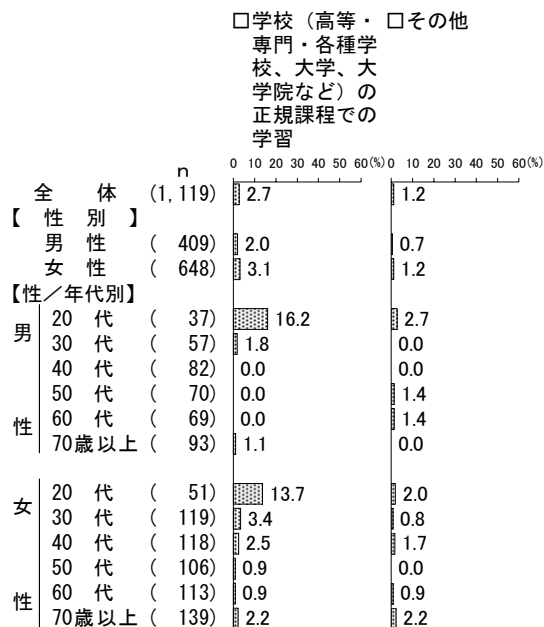
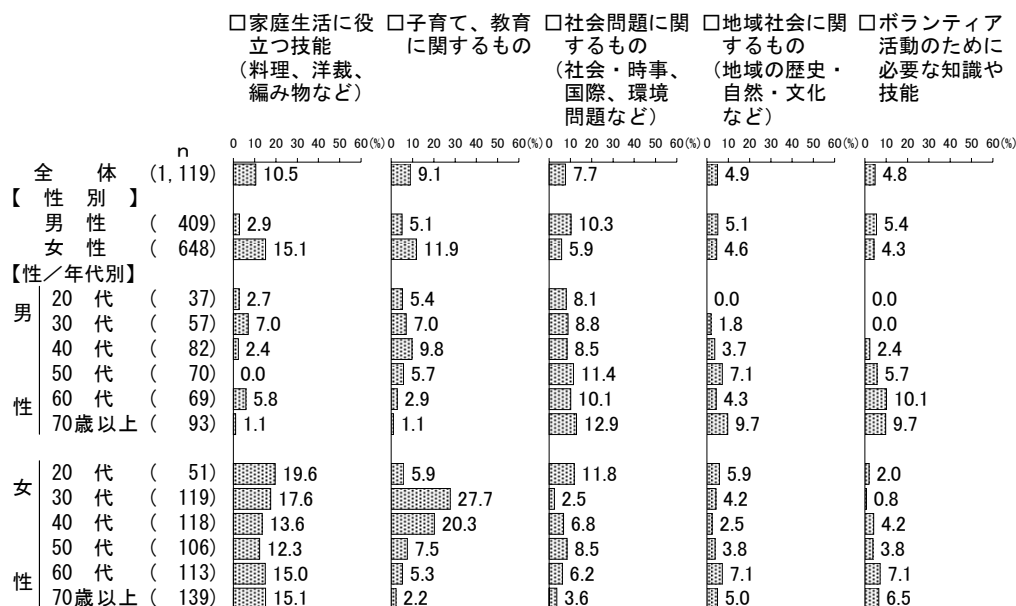
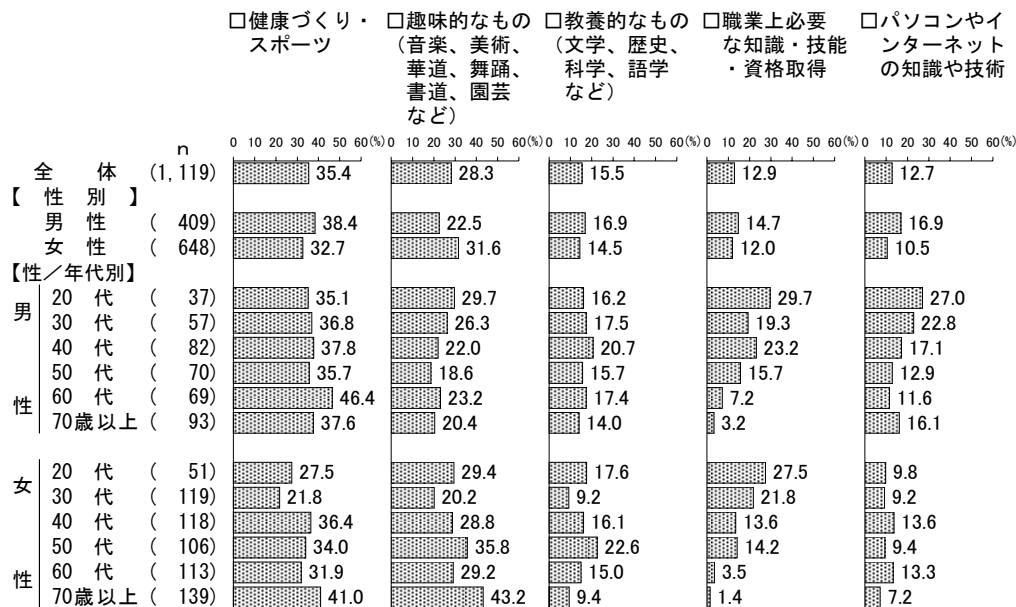
図5-1-1



この1年間に行った生涯学習を聞いたところ、「健康づくり・スポーツ」(35.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」(28.3%)、「教養的なもの(文学、歴史、科学、語学など)」(15.5%)、「職業上必要な知識・技能・資格取得」(12.9%)、「パソコンやインターネットの知識や技術」(12.7%)などの順になっている。一方、「何もしていない」(29.0%)は約3割となっている。

「その他」への回答として、「介護関係」、「手話」などがあげられている。(図5-1-1)

図5-1-2 この1年間に行った生涯学習—性／年代別



性別でみると、「家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、編み物など)」は女性(15.1%)が男性(2.9%)より12.2ポイント高く、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」は女性(31.6%)が男性(22.5%)より9.1ポイント高くなっている。一方、「パソコンやインターネットの知識や技術」は男性(16.9%)が女性(10.5%)より6.4ポイント高くなっている。

性/年代別でみると、「健康づくり・スポーツ」は男性60代(46.4%)で4割半ば、「趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、園芸など)」は女性70歳以上(43.2%)で4割を超え高くなっている。また、「職業上必要な知識・技能・資格取得」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男性20代(29.7%)で3割、女性20代(27.5%)で3割近くと高くなっている。

(図5-1-2)

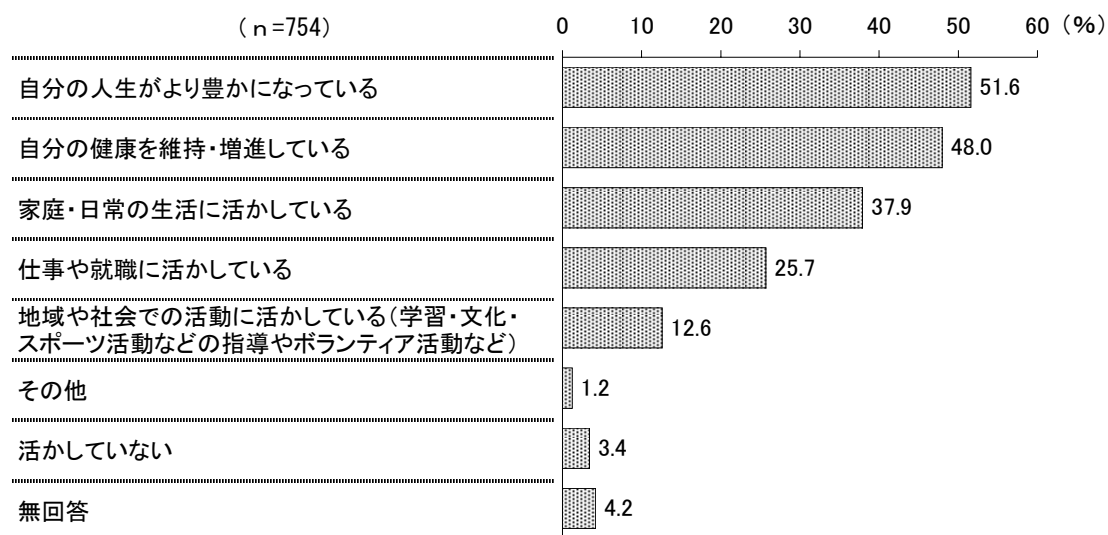
(2) 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用

◇「自分の人生がより豊かになっている」が5割を超える

(問 10 で、この 1 年間に「生涯学習活動を行った」と回答した方に)

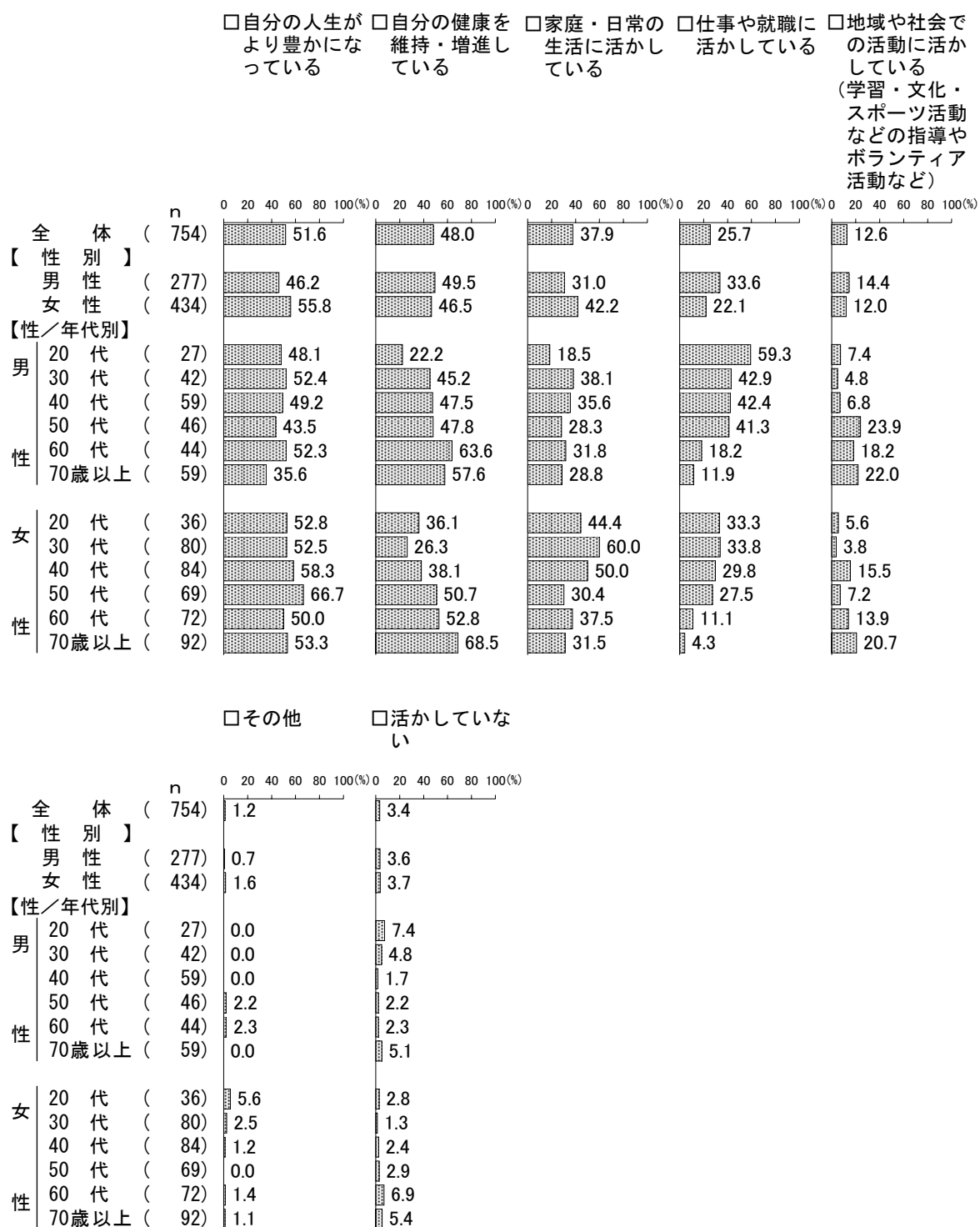
問 10-1 あなたは、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしていますか。(〇はいくつでも)

図 5-2-1



この1年間に「生涯学習活動を行った」と答えた人(754人)に、生涯学習を通じて身につけた知識・技能を、どのように活かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」(51.6%)が5割を超え最も高く、次いで「自分の健康を維持・増進している」(48.0%)、「家庭・日常の生活に活かしている」(37.9%)、「仕事や就職に活かしている」(25.7%)、「地域や社会での活動に活かしている(学習・文化・スポーツ活動などの指導やボランティア活動など)」(12.6%)などの順になっている。(図5-2-1)

図5-2-2 生涯学習を通じて身につけた知識・技能の活用一性／年代別



性別で見ると、「仕事や就職に活かしている」は男性（33.6%）が女性（22.1%）より11.5ポイント高くなっている。一方、「家庭・日常の生活に活かしている」は女性（42.2%）が男性（31.0%）より11.2ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「自分の人生がより豊かになっている」は女性50代（66.7%）で7割近く、「自分の健康を維持・増進している」は女性70歳以上（68.5%）で7割近くと高くなっている。

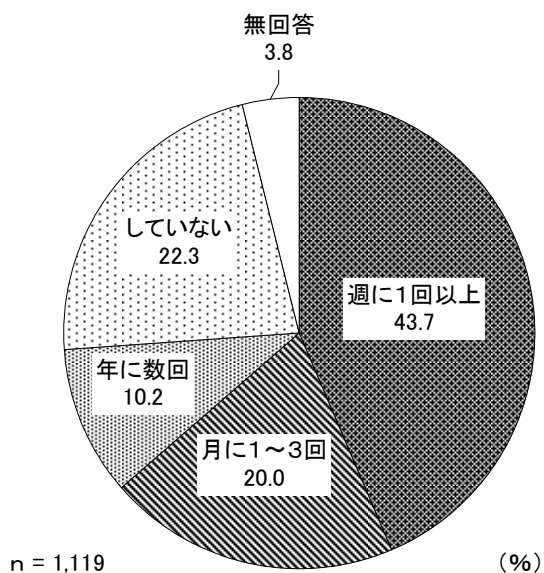
(図5-2-2)

(3) この1年間の運動・スポーツ活動の頻度

◇「週に1回以上」が4割を超える

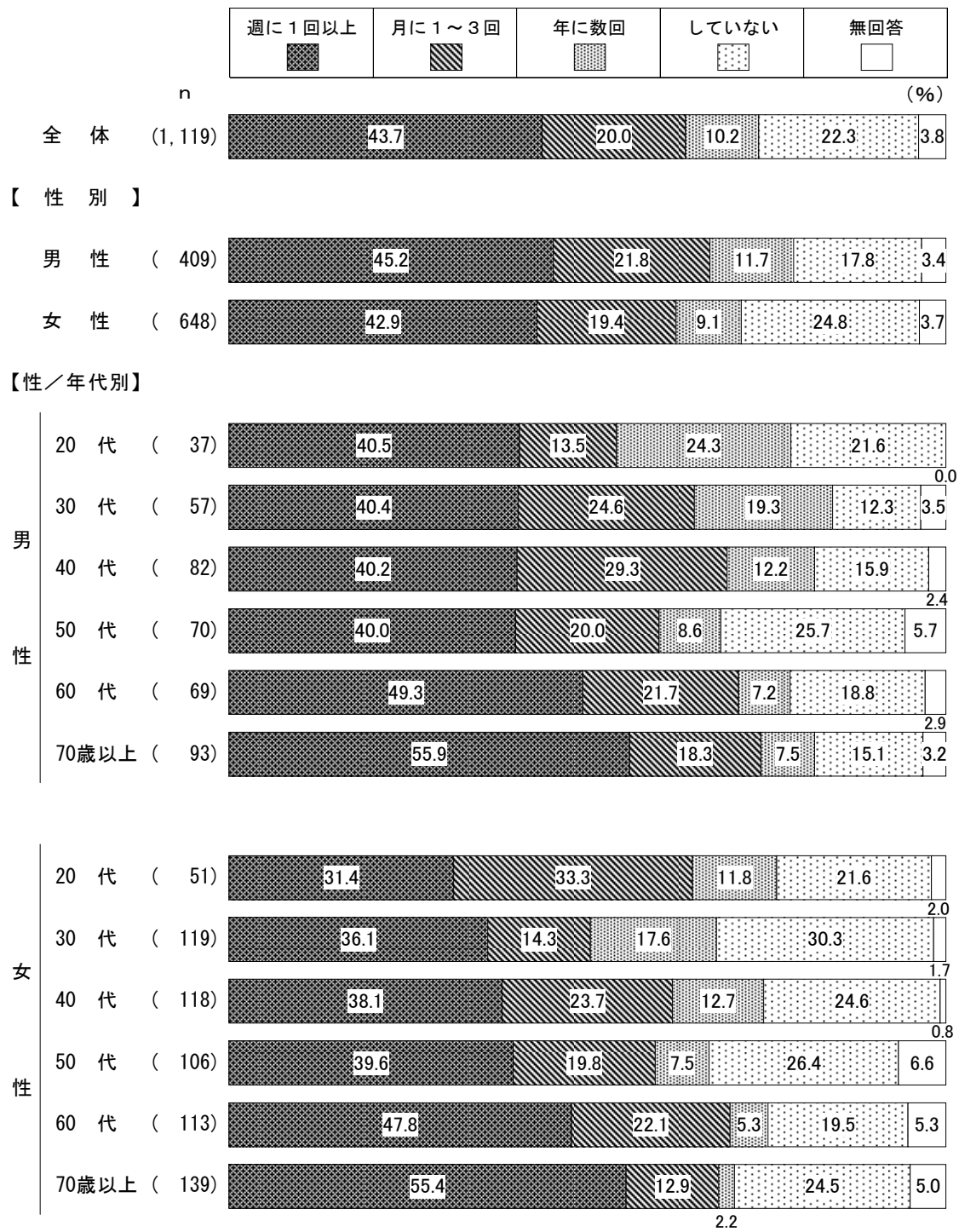
問11 あなたは、この1年間に、どれくらいの頻度で運動・スポーツ活動をしましたか。
なお、運動には30分程度の散歩なども含みます。(〇は1つだけ)

図5-3-1



この1年間の運動・スポーツ活動の頻度を聞いたところ、「週に1回以上」(43.7%)が4割を超え最も高く、次いで「月に1~3回」(20.0%)、「年に数回」(10.2%)となっている。一方、「していない」(22.3%)は2割を超えている。(図5-3-1)

図5-3-2 この1年間の運動・スポーツ活動の頻度－性／年代別



性別で見ると、「していない」は女性（24.8%）が男性（17.8%）より7.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「週に1回以上」は男性70歳以上（55.9%）と女性70歳以上（55.4%）で5割半ばと高く、女性では年代が高くなるほど割合が高くなっている。一方、「していない」は女性30代（30.3%）で3割と高くなっている。（図5-3-2）

6. 男女平等の推進

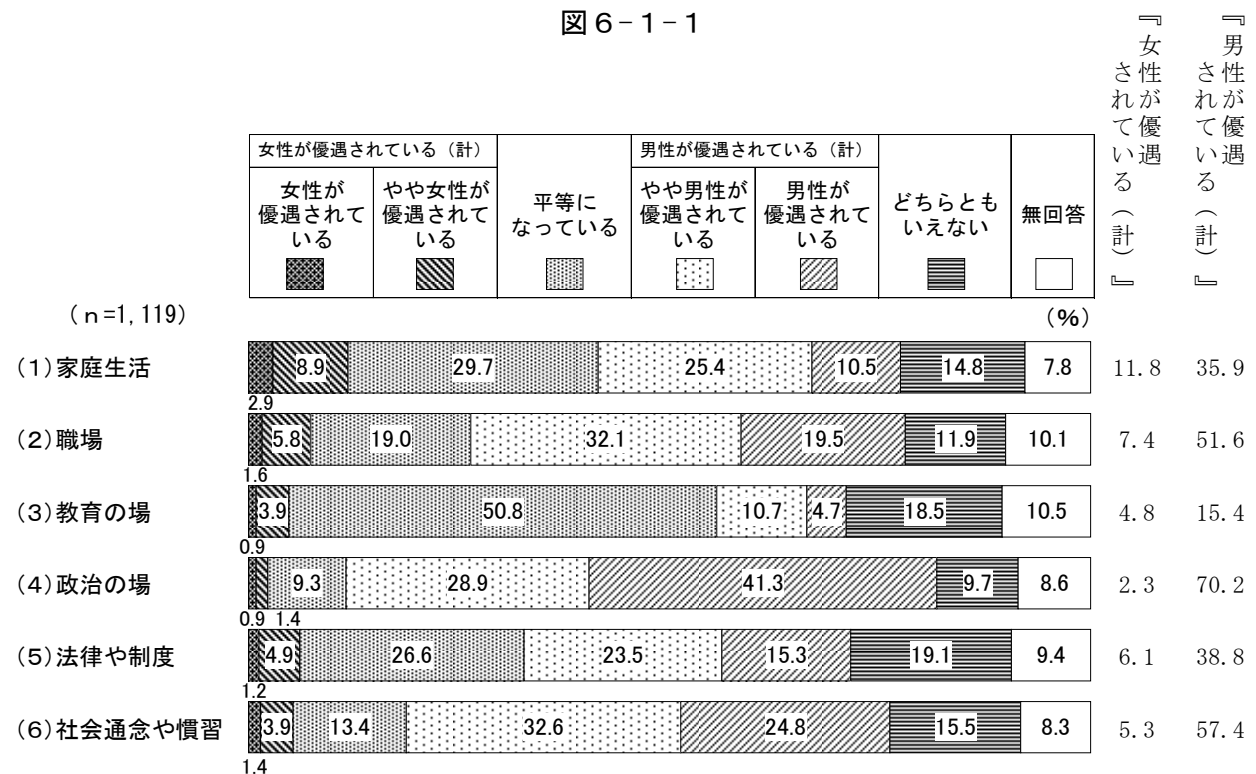
(1) 男女の地位平等

- ◇『女性が優遇されている（計）』は“家庭生活”で1割を超える
- 「平等になっている」は“教育の場”で約5割
- 『男性が優遇されている（計）』は“政治の場”で7割

問 12 下記にあげる分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

(○はそれぞれ1つ)

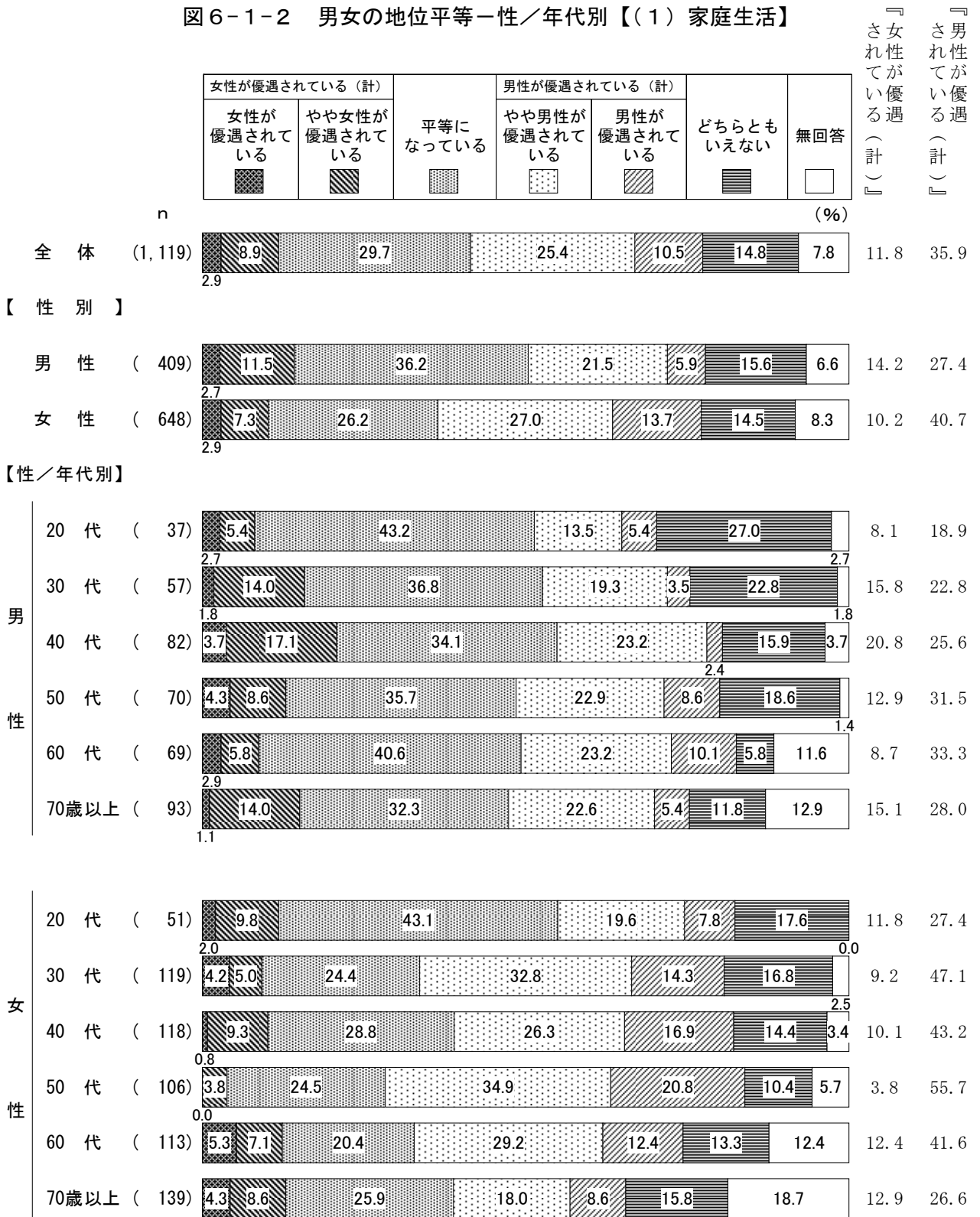
図 6-1-1



男女の地位について聞いたところ、「女性が優遇されている」と「やや女性が優遇されている」を合わせた『女性が優遇されている（計）』は“家庭生活”（11.8%）で1割を超えている。一方、「やや男性が優遇されている」と「男性が優遇されている」を合わせた『男性が優遇されている（計）』は“政治の場”（70.2%）で7割、“社会通念や慣習”（57.4%）と“職場”（51.6%）で5割台となっている。また、「平等になっている」は“教育の場”（50.8%）で約5割となっている。

(図 6-1-1)

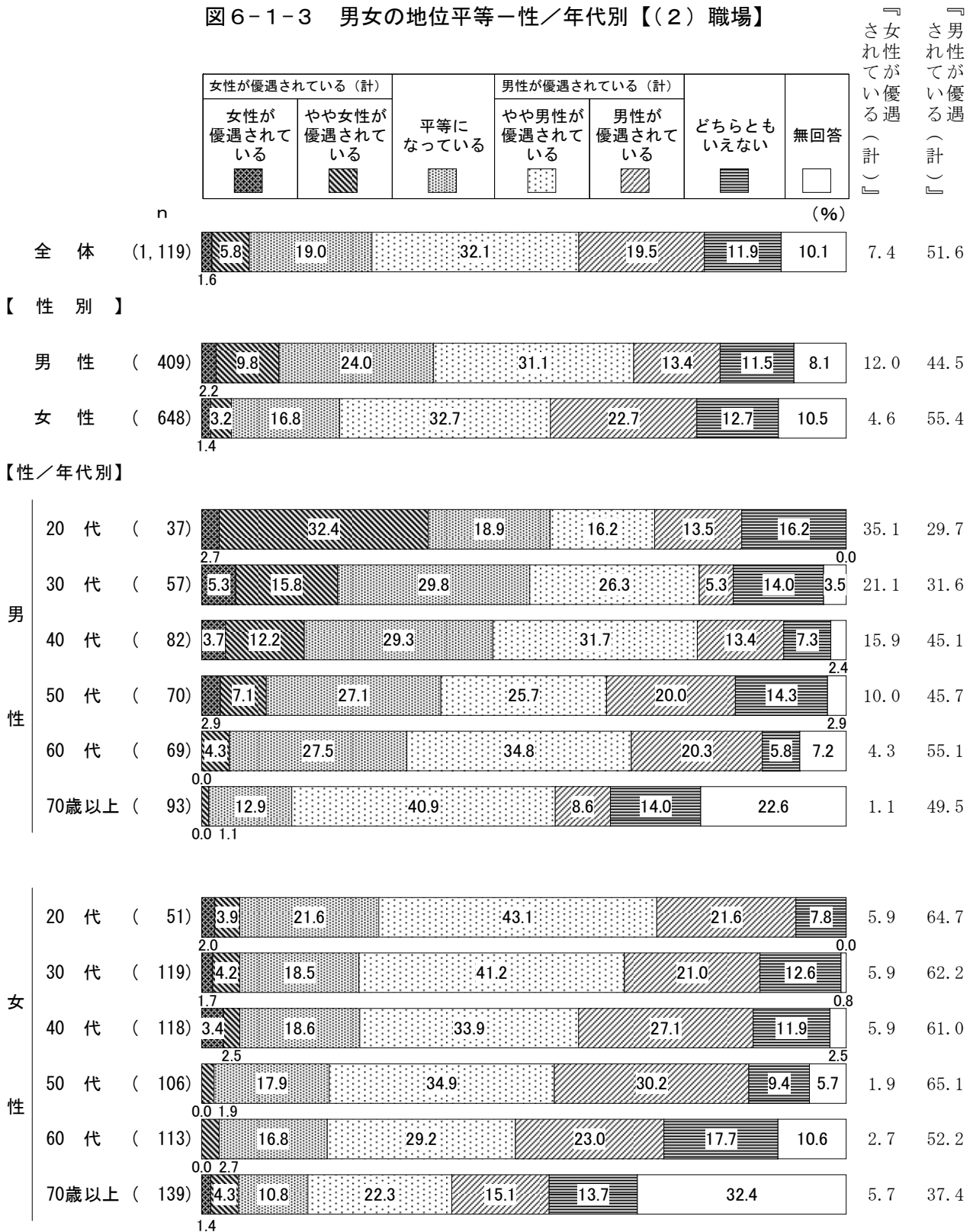
図6-1-2 男女の地位平等－性／年代別【(1) 家庭生活】



“家庭生活”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (40.7%) が男性 (27.4%) より13.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性40代 (20.8%) で約2割と高くなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性50代 (55.7%) で5割半ばと高くなっている。また、「平等になっている」は男性20代 (43.2%) と女性20代 (43.1%) で4割を超え高くなっている。(図6-1-2)

図6-1-3 男女の地位平等—性／年代別【(2) 職場】

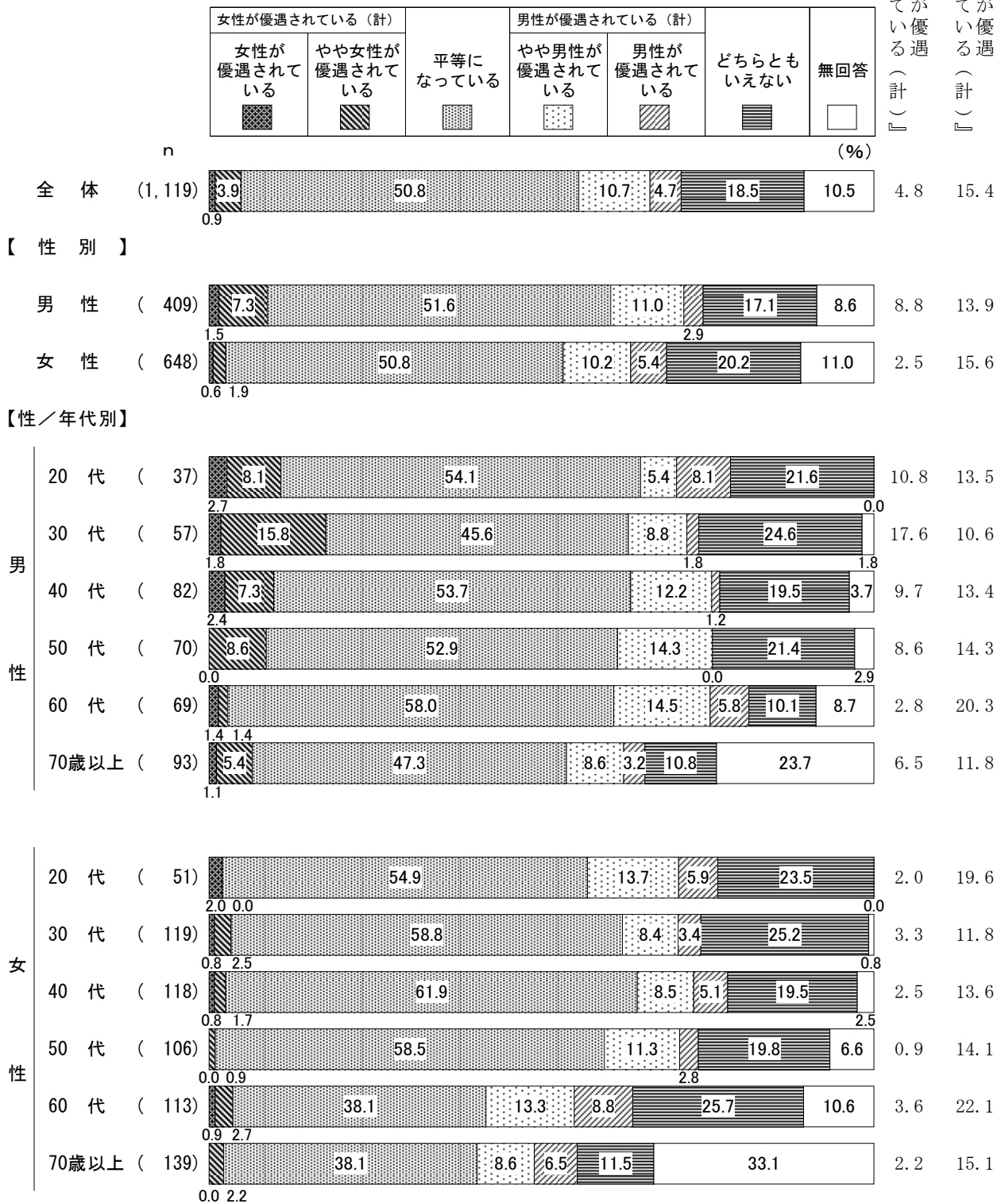


“職場”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (55.4%) が男性 (44.5%) より10.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性では年代が低くなるほど割合が高く、男性20代 (35.1%) で3割半ばと高くなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性の20代から50代の年代で6割台と高くなっている。(図6-1-3)

図6-1-4 男女の地位平等—性／年代別【(3) 教育の場】

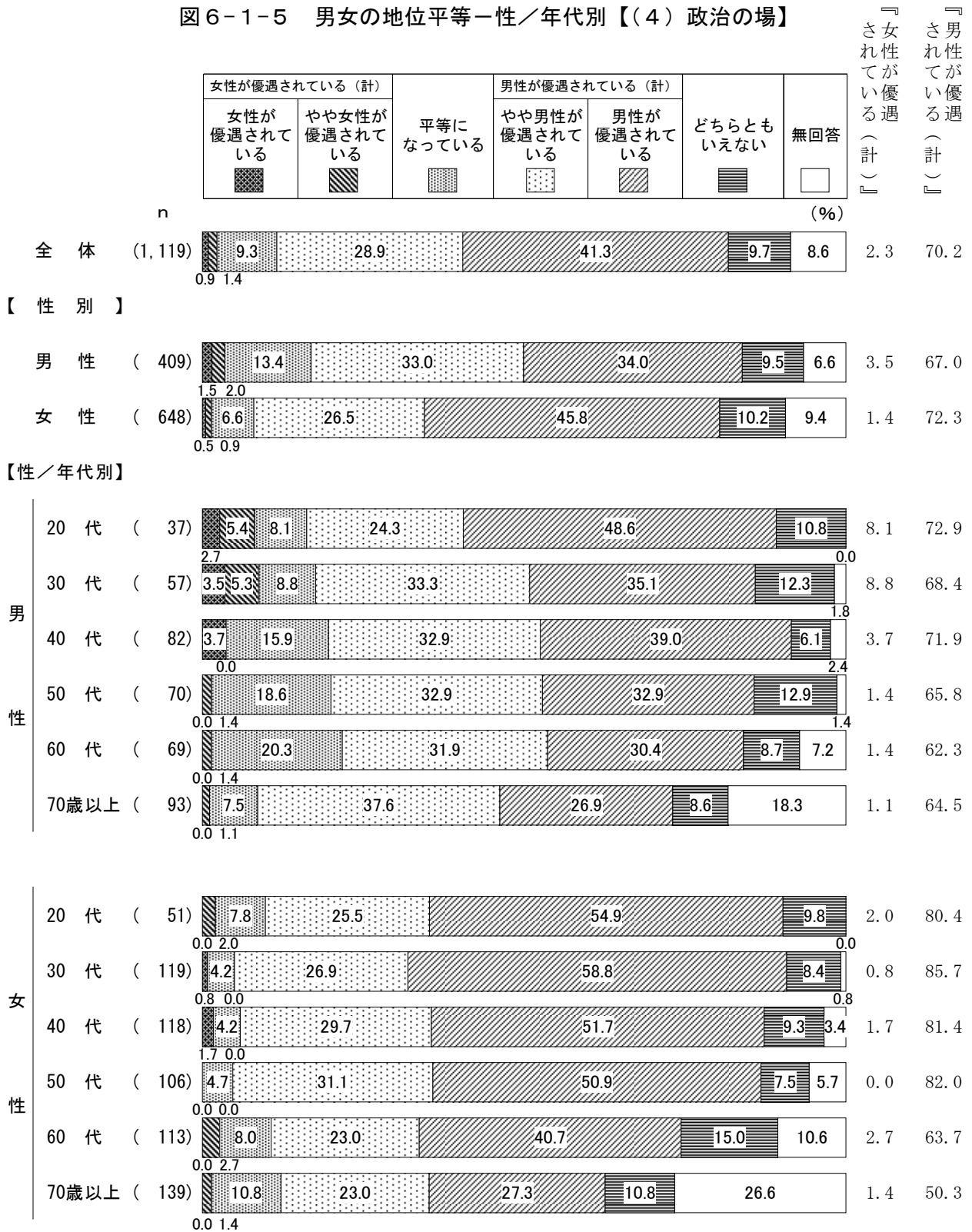
『女性
が優遇
されて
いる
(計)』
『男性
が優遇
されて
いる
(計)』



“教育の場”を性別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性 (8.8%) が女性 (2.5%) より6.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性30代 (17.6%) で2割近くと高くなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性60代 (22.1%) と男性60代 (20.3%) で2割台と高くなっている。また、「平等になっている」は女性40代 (61.9%) で6割を超え高くなっている。(図6-1-4)

図6-1-5 男女の地位平等—性／年代別【(4) 政治の場】

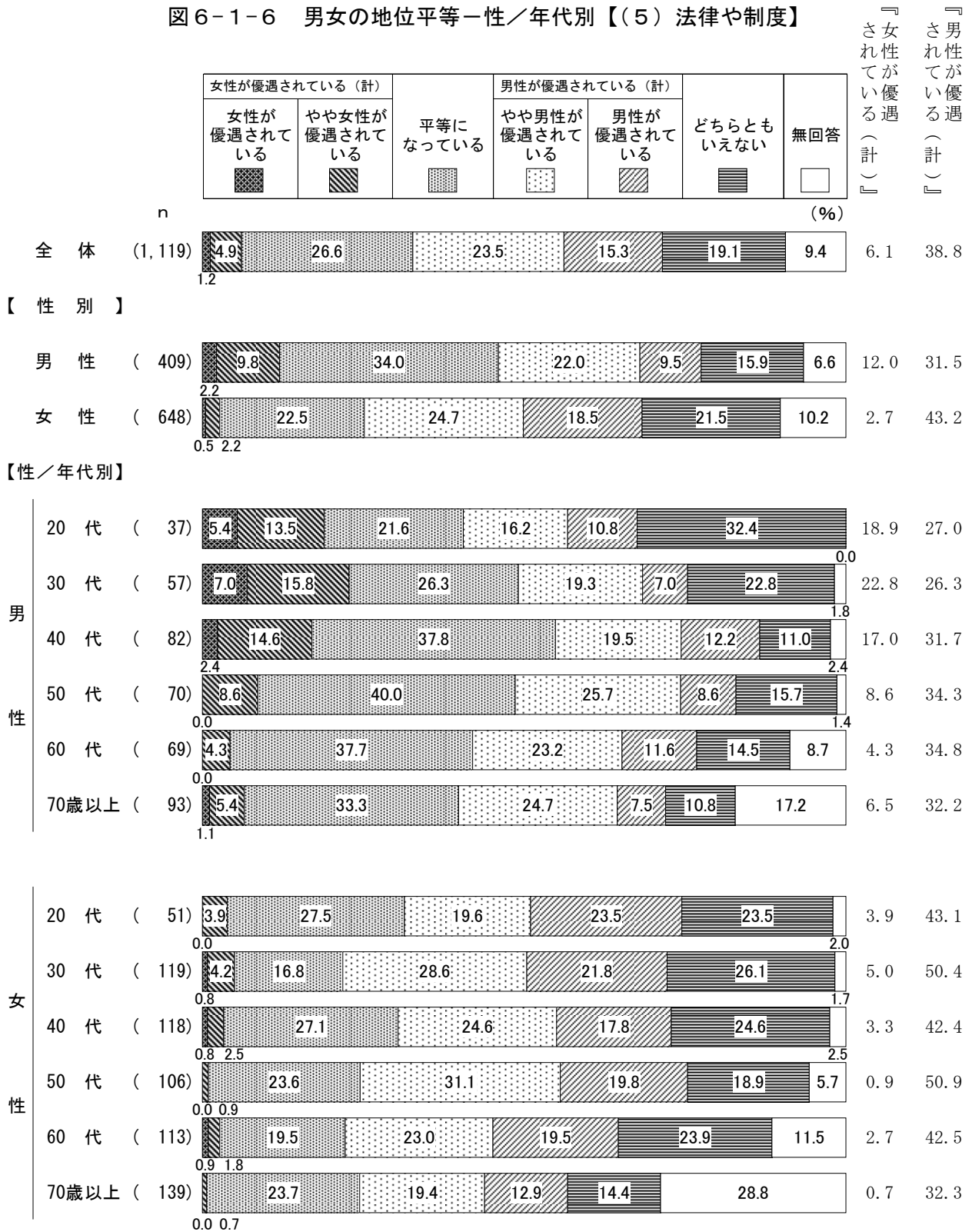


“政治の場”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (72.3%) が男性 (67.0%) より5.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性の20代から50代の年代で8割台と高くなっている。また、「平等になっている」は男性60代 (20.3%) で2割と高くなっている。

(図6-1-5)

図6-1-6 男女の地位平等—性／年代別【(5) 法律や制度】

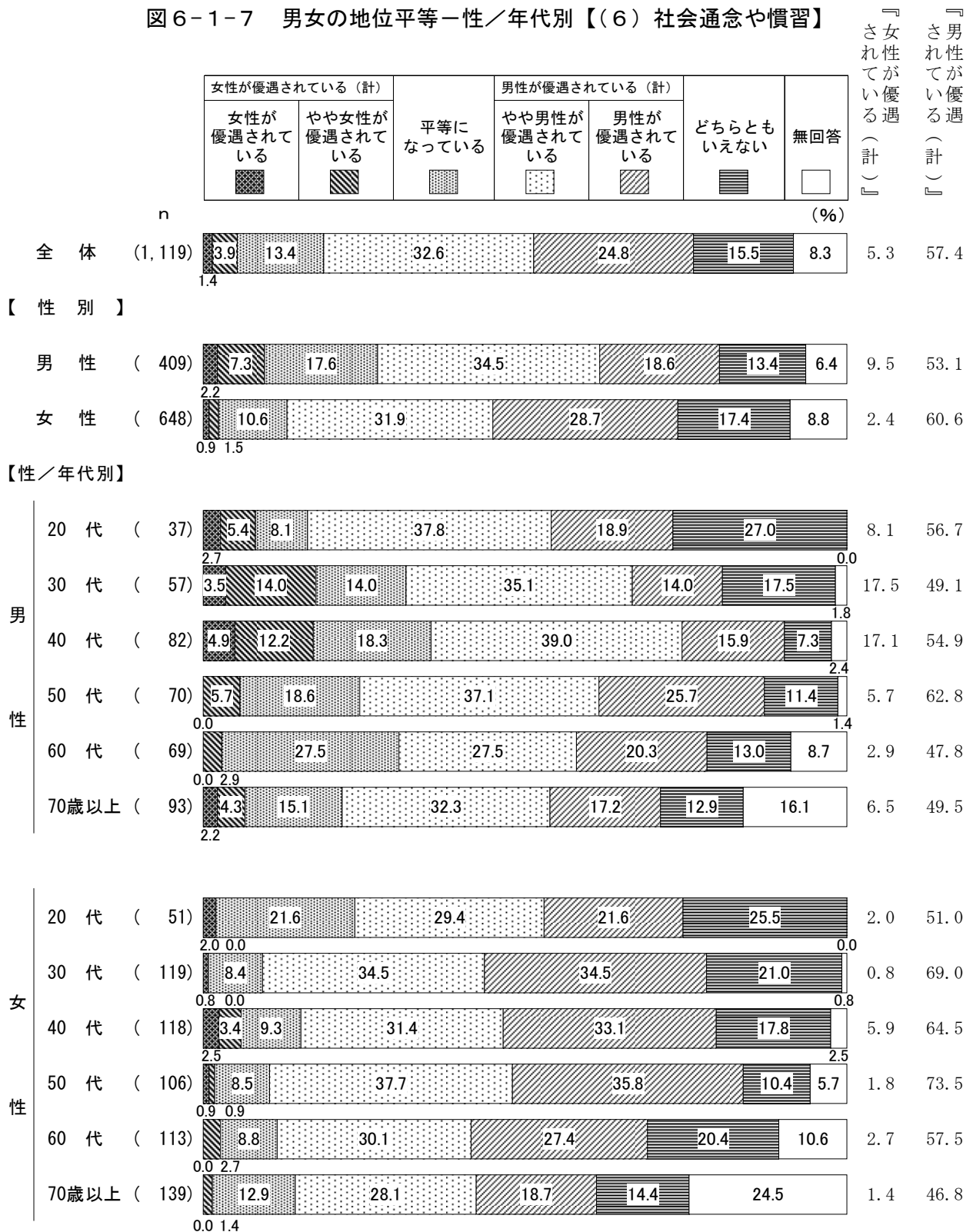


“法律や制度”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (43.2%) が男性 (31.5%) より11.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性30代 (22.8%) で2割を超え高くなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性の30代 (50.4%) と50代 (50.9%) で5割台と高くなっている。また、「平等になっている」は男性50代 (40.0%) で4割と高くなっている。

(図6-1-6)

図6-1-7 男女の地位平等—性／年代別【(6) 社会通念や慣習】



“社会通念や慣習”を性別で見ると、『男性が優遇されている (計)』は女性 (60.6%) が男性 (53.1%) より7.5ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『女性が優遇されている (計)』は男性の30代 (17.5%) と40代 (17.1%) で2割近くと高くなっている。一方、『男性が優遇されている (計)』は女性50代 (73.5%) で7割を超え高くなっている。(図6-1-7)

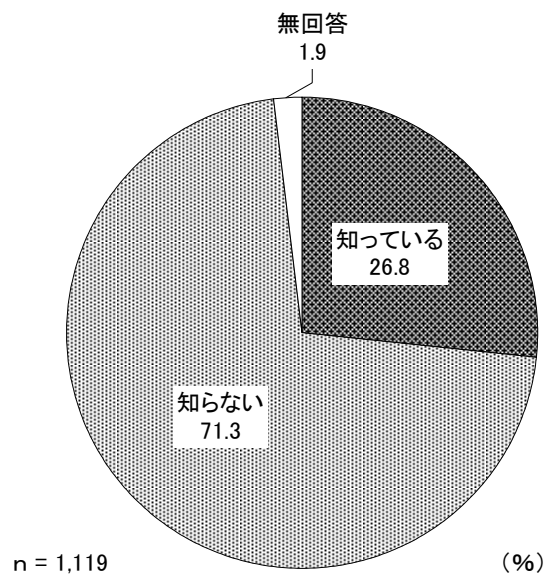
7. 高齢者虐待相談・通報窓口の周知度

(1) 高齢者虐待に関する相談窓口の周知度

◇「知っている」は3割近く

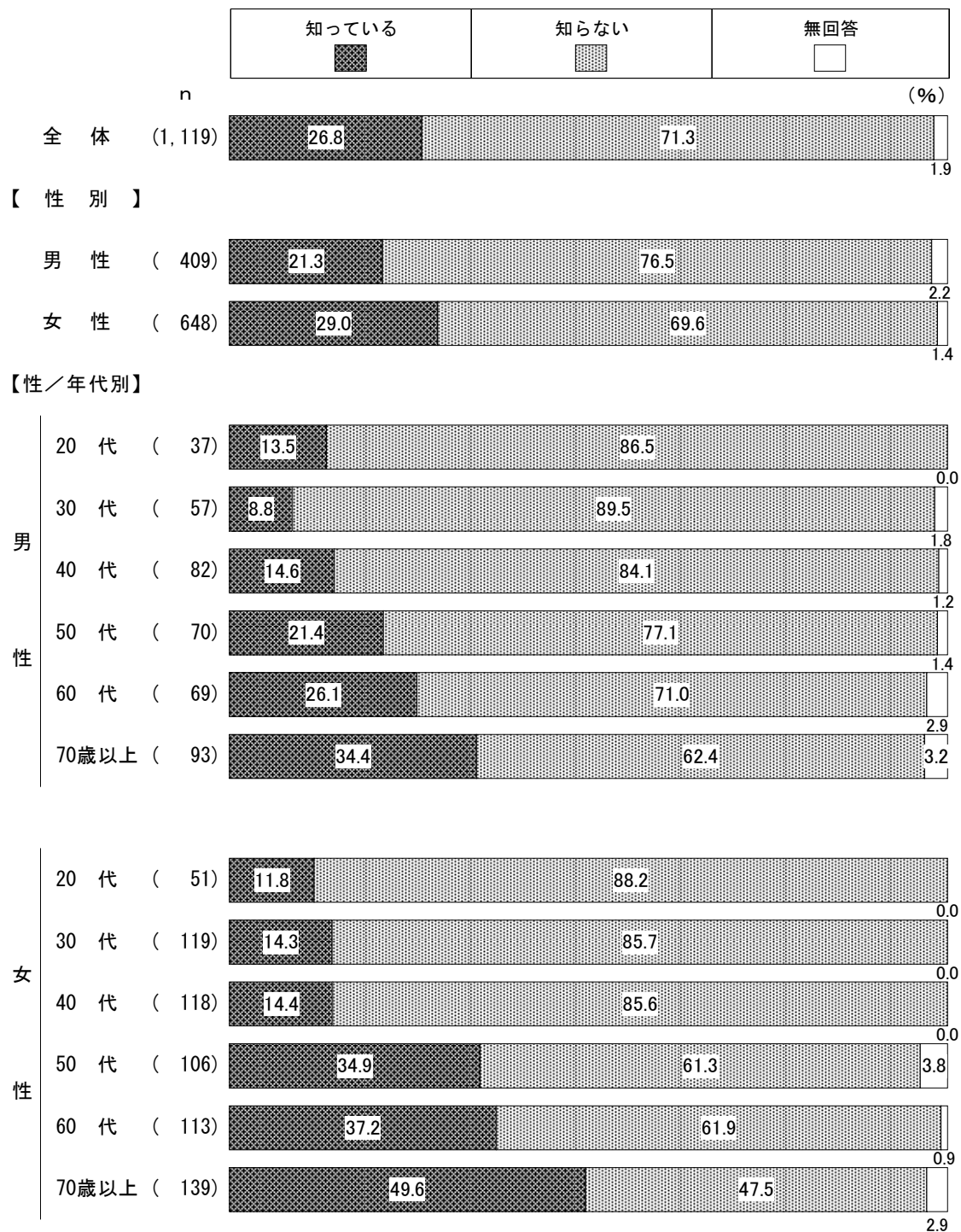
問 13 大田区内の高齢者虐待に関する相談や通報の窓口は、さわやかサポート（地域包括支援センター）、大田区の各地域福祉課・高齢福祉課ですが、いずれかの窓口をご存知ですか。（○は1つだけ）

図 7-1-1



区内の高齢者虐待に関する相談や通報の窓口を知っているか聞いたところ、「知っている」(26.8%) は3割近く、「知らない」(71.3%) が7割を超えている。(図 7-1-1)

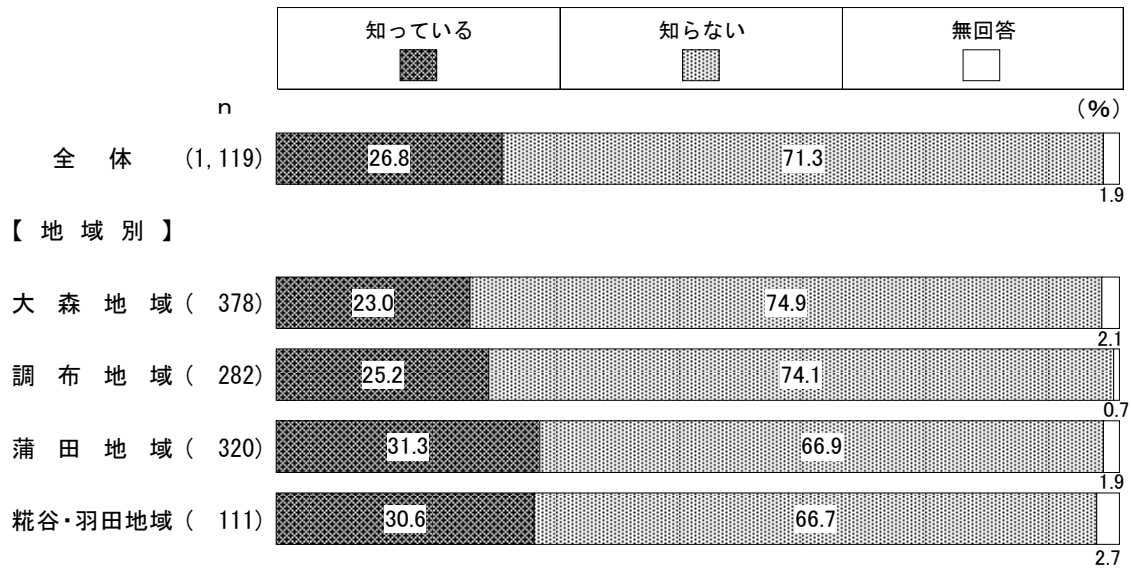
図7-1-2 高齢者虐待に関する相談窓口の周知度—性／年代別



性別でみると、「知っている」は女性（29.0%）が男性（21.3%）より7.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「知っている」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（49.6%）で5割と高くなっている。一方、「知らない」は男性30代（89.5%）で9割と高くなっている。（図7-1-2）

図7-1-3 高齢者虐待に関する相談窓口の周知度—地域別



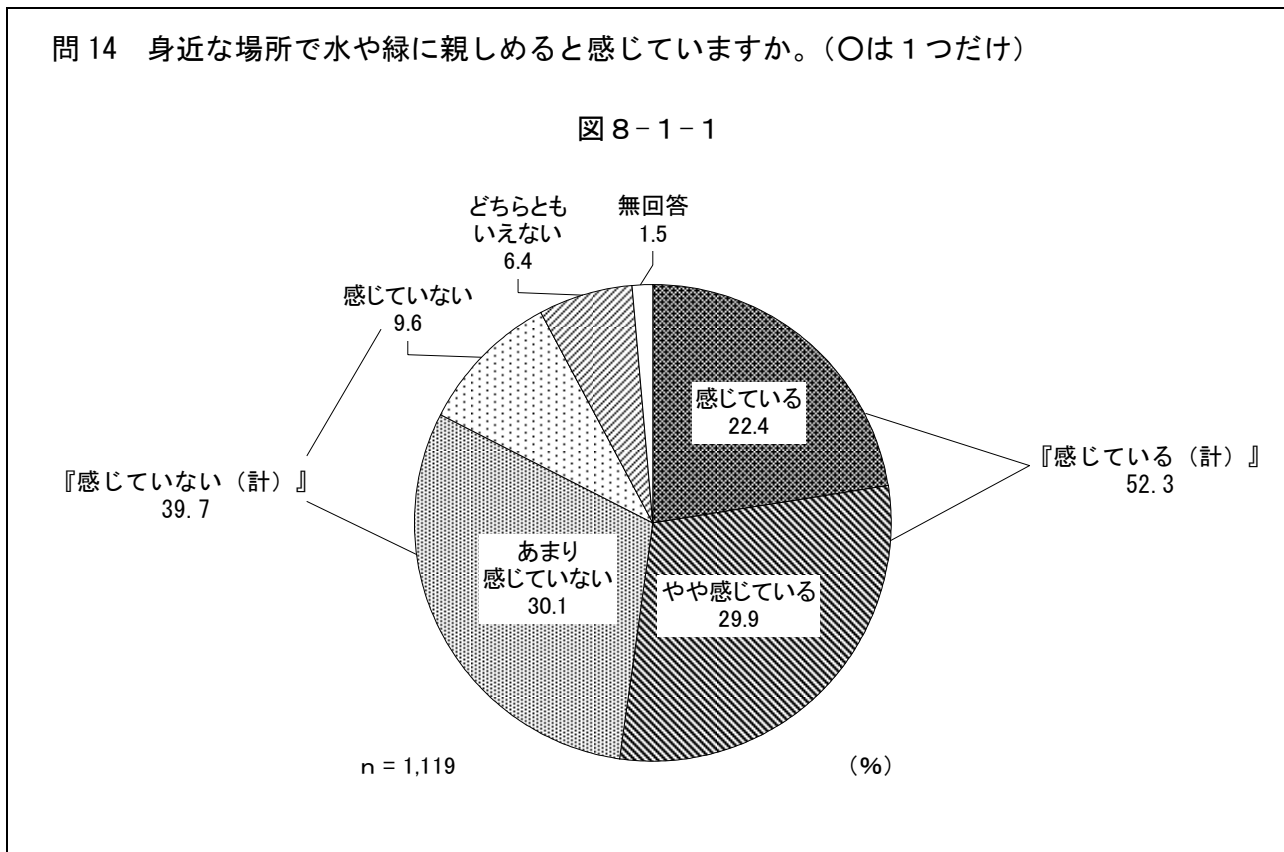
地域別でみると、「知っている」は蒲田地域（31.3%）と糀谷・羽田地域（30.6%）で3割台と高くなっている。一方、「知らない」は大森地域（74.9%）と調布地域（74.1%）で7割半ばと高くなっている。（図7-1-3）

《基本目標2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く都市》

8. 公園緑地

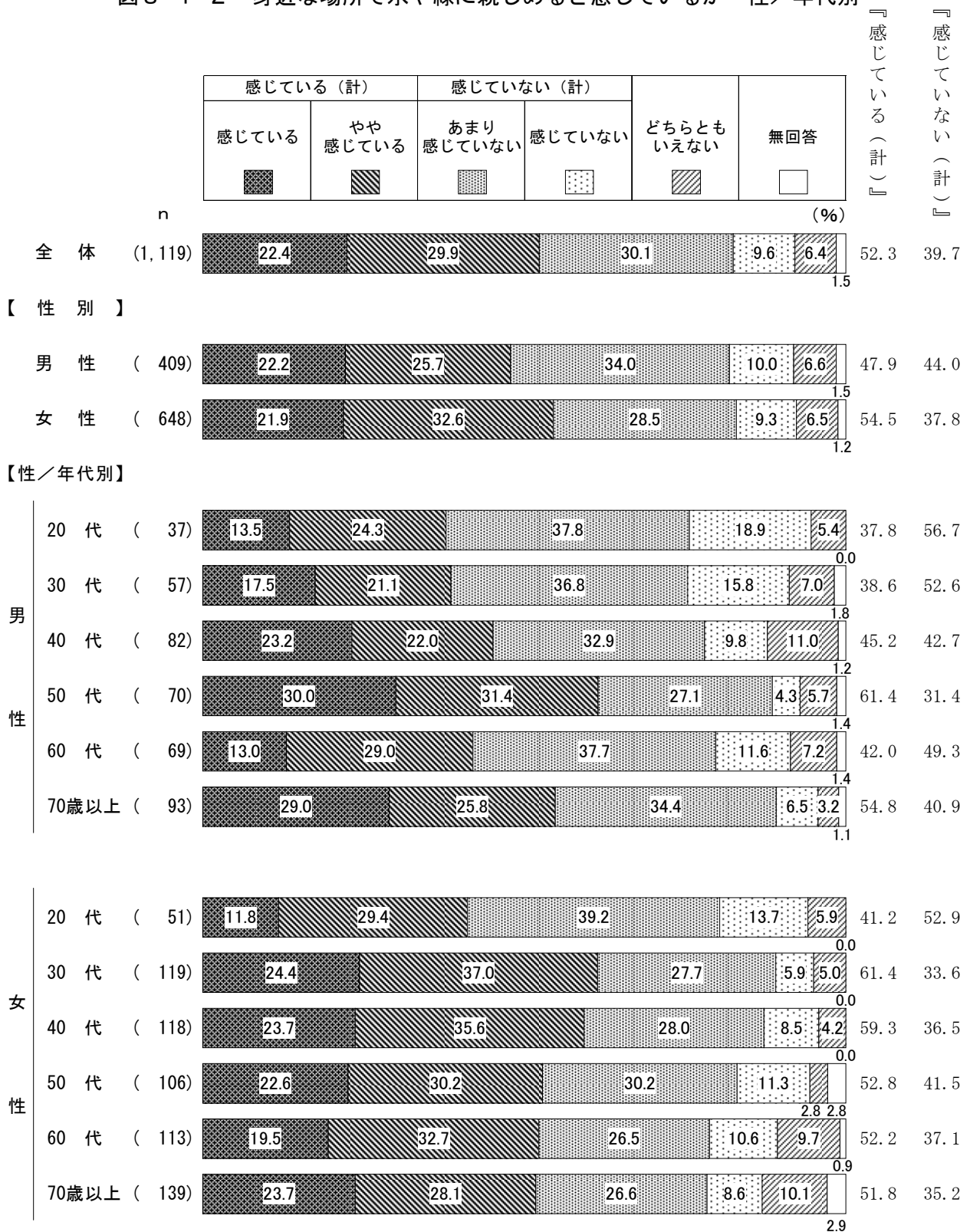
(1) 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』が5割を超える



身近な場所で水や緑に親しめると感じているか聞いたところ、「感じている」(22.4%)と「やや感じている」(29.9%)を合わせた『感じている(計)』(52.3%)は5割を超えている。一方、「あまり感じている」(30.1%)と「感じている」(9.6%)を合わせた『感じている(計)』(39.7%)は4割となっている。(図8-1-1)

図 8-1-2 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—性／年代別

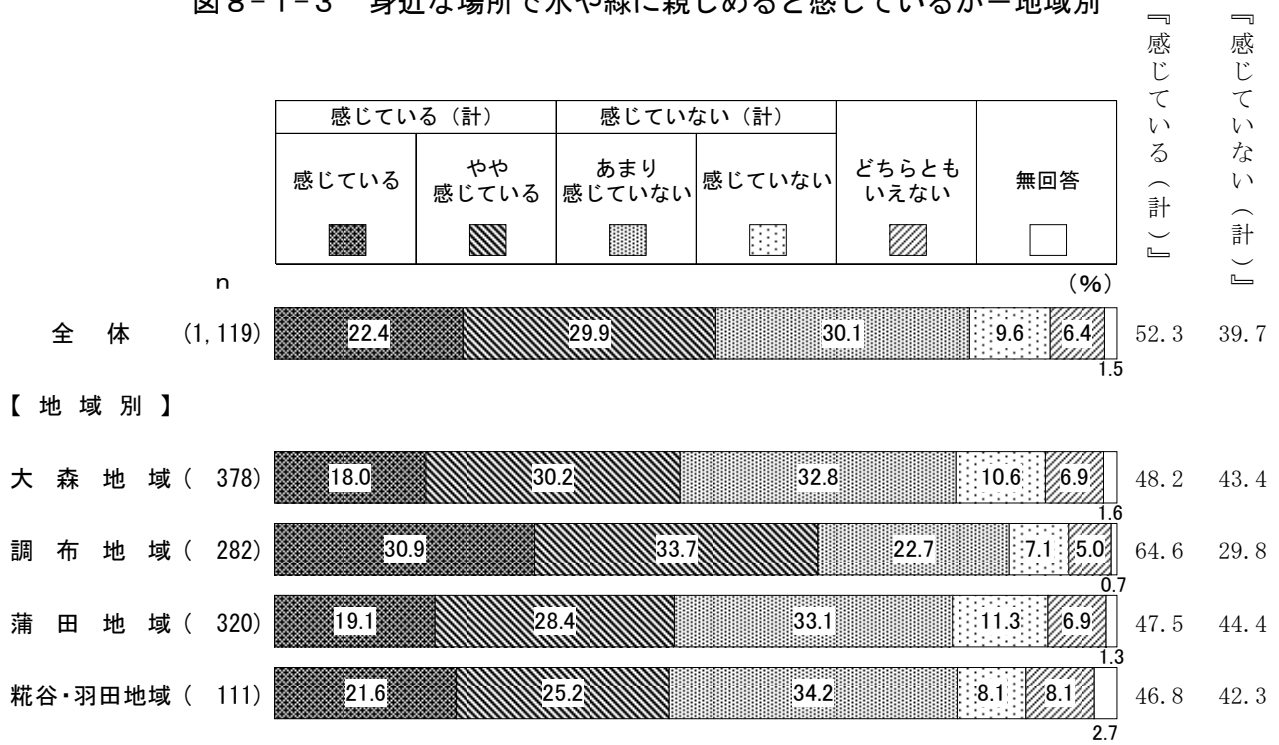


性別でみると、『感じている (計)』は女性 (54.5%) が男性 (47.9%) より6.6ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、『感じている (計)』は男性50代と女性30代 (ともに61.4%) で6割を超え高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性20代 (56.7%) で6割近くと高くなっている。

(図 8-1-2)

図8-1-3 身近な場所で水や緑に親しめると感じているか—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は調布地域 (64.6%) で6割半ばと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は蒲田地域 (44.4%) で4割半ばと高くなっている。(図8-1-3)

9. 空港臨海部のまちづくり

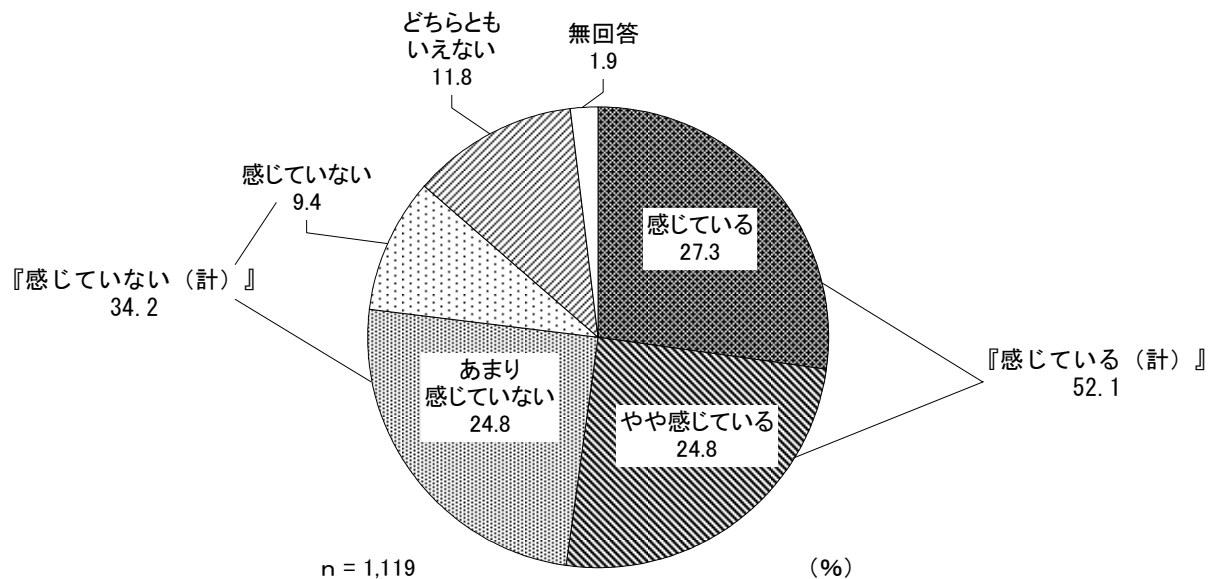
(1) 羽田空港及び羽田空港跡地の地域経済活性化への貢献度

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている(計)』が5割を超える

問 15 羽田空港及び羽田空港跡地が、地域経済の活性化に貢献すると感じていますか。

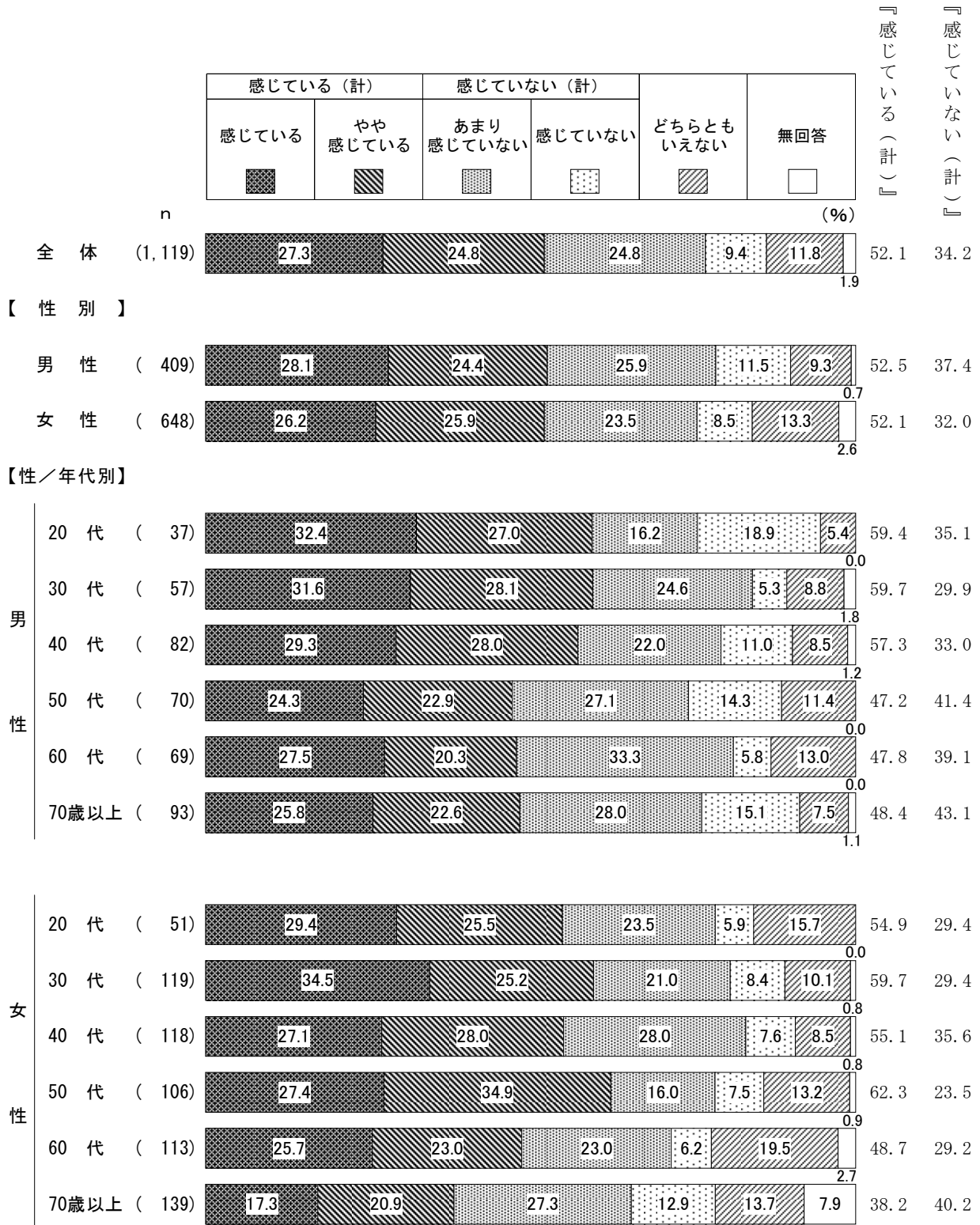
(○は1つだけ)

図 9-1-1



羽田空港及び羽田空港跡地が、地域経済の活性化に貢献すると感じるか聞いたところ、「感じている」(27.3%)と「やや感じている」(24.8%)を合わせた『感じている(計)』(52.1%)は5割を超えている。一方、「あまり感じていない」(24.8%)と「感じていない」(9.4%)を合わせた『感じていない(計)』(34.2%)は3割半ばとなっている。(図9-1-1)

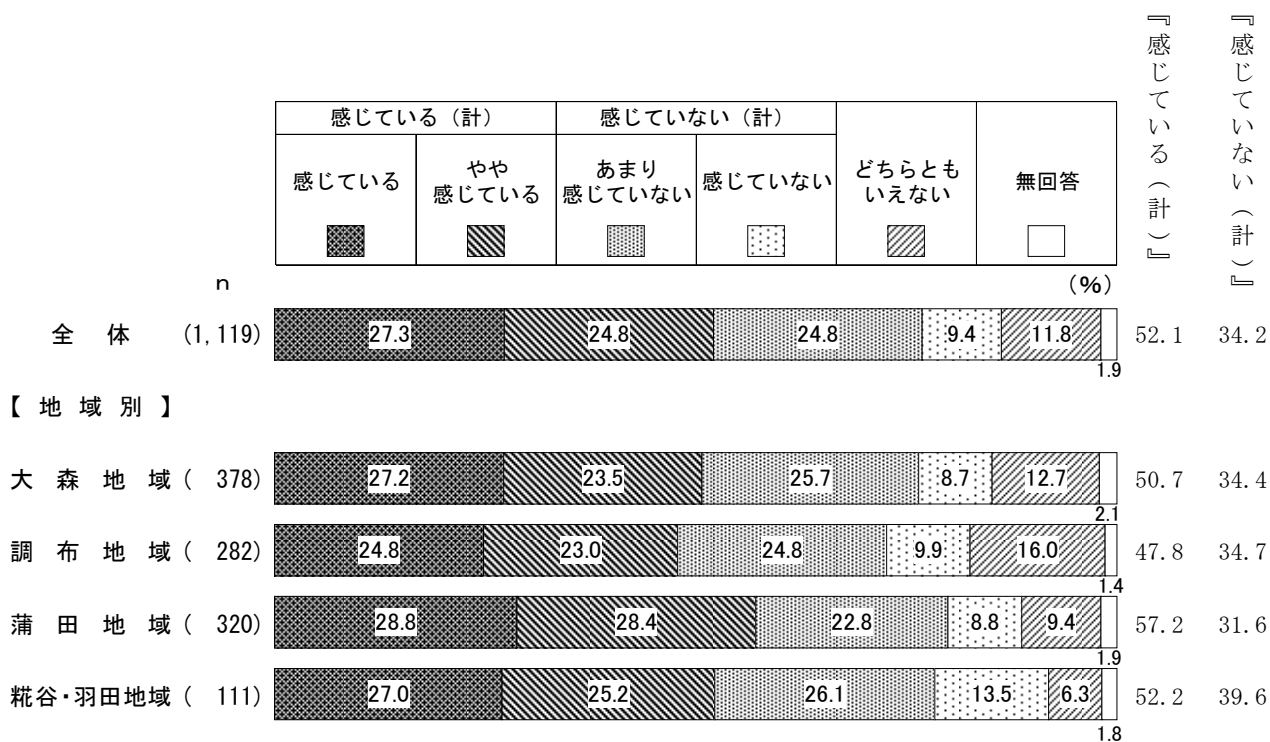
図9-1-2 羽田空港及び羽田空港跡地の地域経済活性化への貢献度—性／年代別



性別で見ると、『感じていない (計)』は男性 (37.4%) が女性 (32.0%) より5.4ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『感じている (計)』は女性50代 (62.3%) で6割を超え高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性の50代 (41.4%) と70歳以上 (43.1%)、女性70歳以上 (40.2%) で4割台と高くなっている。(図9-1-2)

図 9-1-3 羽田空港及び羽田空港跡地の地域経済活性化への貢献度—地域別



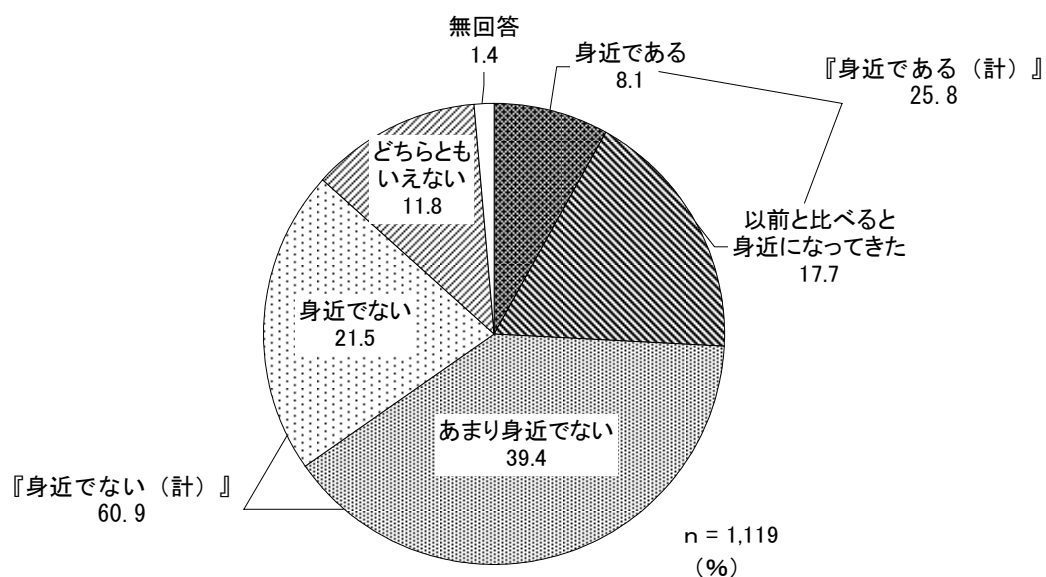
地域別で見ると、『感じている (計)』は蒲田地域 (57.2%) で6割近くと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は糀谷・羽田地域 (39.6%) で4割と高くなっている。(図9-1-3)

(2) 空港臨海部の身近さ

◇「身近である」と「以前と比べると身近になってきた」を合わせた『身近である(計)』は2割半ば

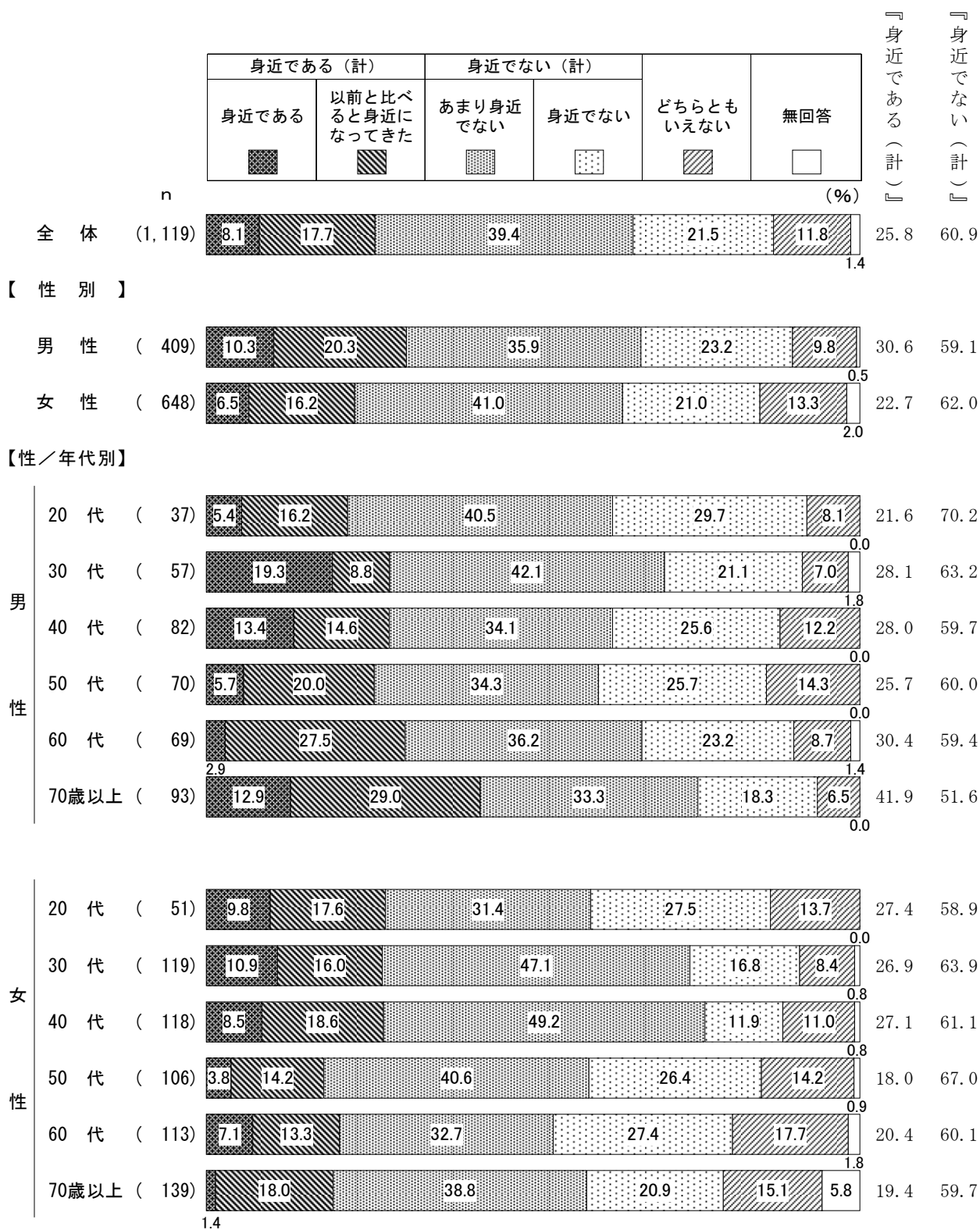
問 16 埋立地の空港臨海部では羽田空港や港湾・物流施設、工場などが広がる中に、大森ふるさとの浜辺公園などの公園緑地や海辺の散策路の整備などが進められてきていますが、あなたにとって身近なまちとなってきましたか。(○は1つだけ)

図 9-2-1



空港臨海部が身近なまちとなってきたか聞いたところ、「身近である」(8.1%)と「以前と比べると身近になってきた」(17.7%)を合わせた『身近である(計)』(25.8%)は2割半ばとなっている。一方、「あまり身近でない」(39.4%)と「身近でない」(21.5%)を合わせた『身近でない(計)』(60.9%)は約6割となっている。(図9-2-1)

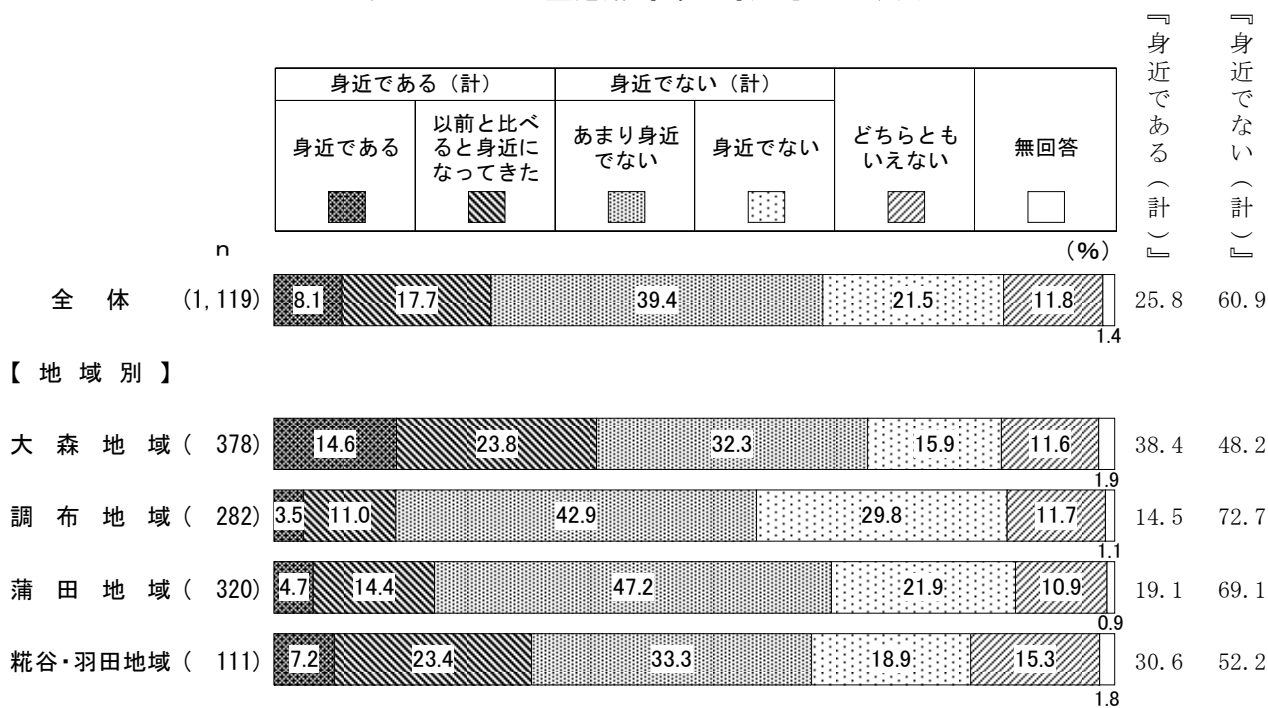
図9-2-2 空港臨海部の身近さ－性／年代別



性別で見ると、『身近である (計)』は男性 (30.6%) が女性 (22.7%) より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『身近である (計)』は男性70歳以上 (41.9%) で4割を超え高くなっている。一方、『身近でない (計)』は男性20代 (70.2%) で7割と高くなっている。(図9-2-2)

図 9-2-3 空港臨海部の身近さ—地域別



地域別でみると、『身近である (計)』は大森地域 (38.4%) で4割近くと高くなっている。一方、『身近でない (計)』は調布地域 (72.7%) で7割を超え、蒲田地域 (69.1%) で約7割と高くなっている。(図 9-2-3)

《基本目標3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち》

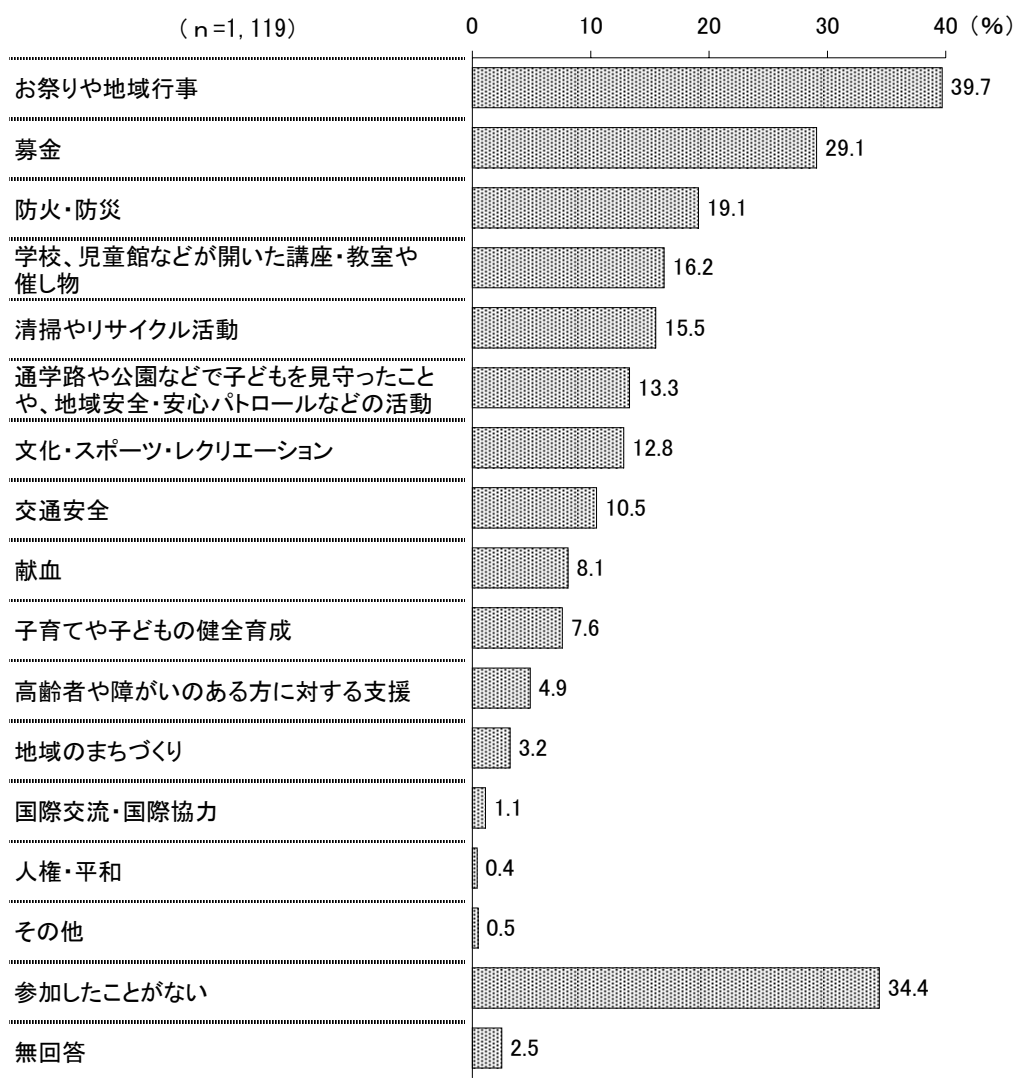
10. 自治会町会等の活動について

(1) 参加したことがある地域活動

◇「お祭りや地域行事」が4割

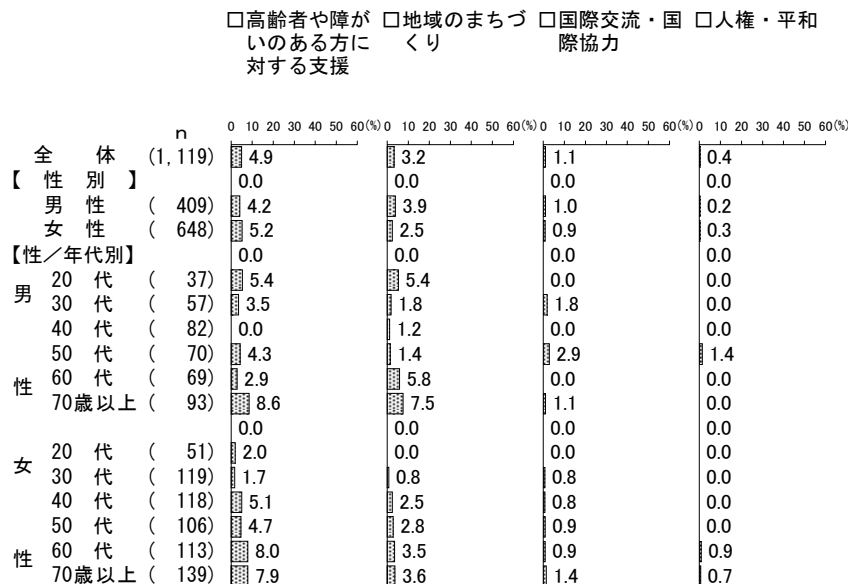
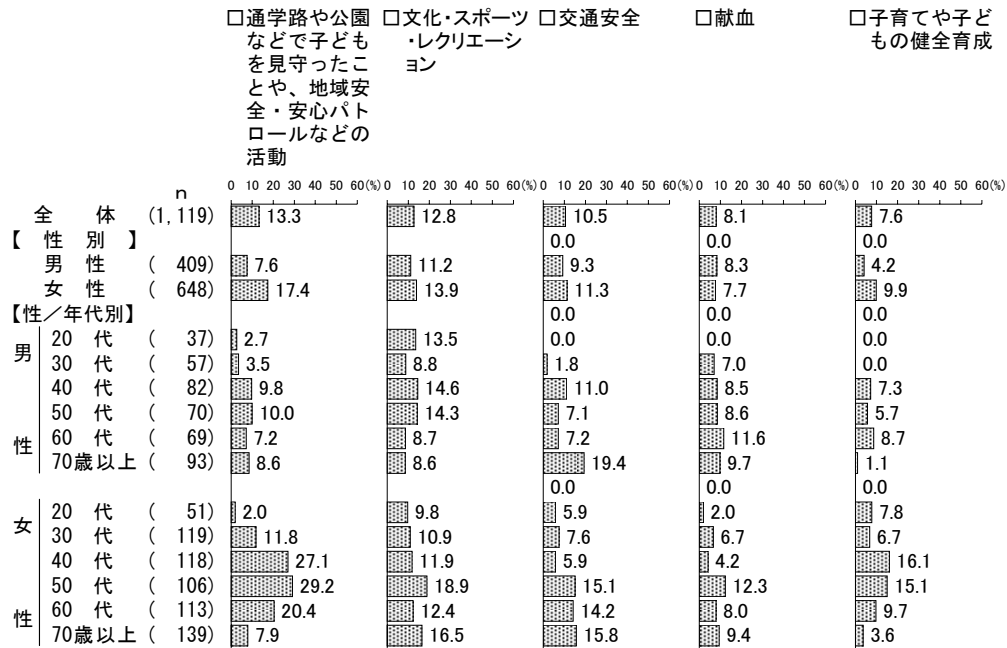
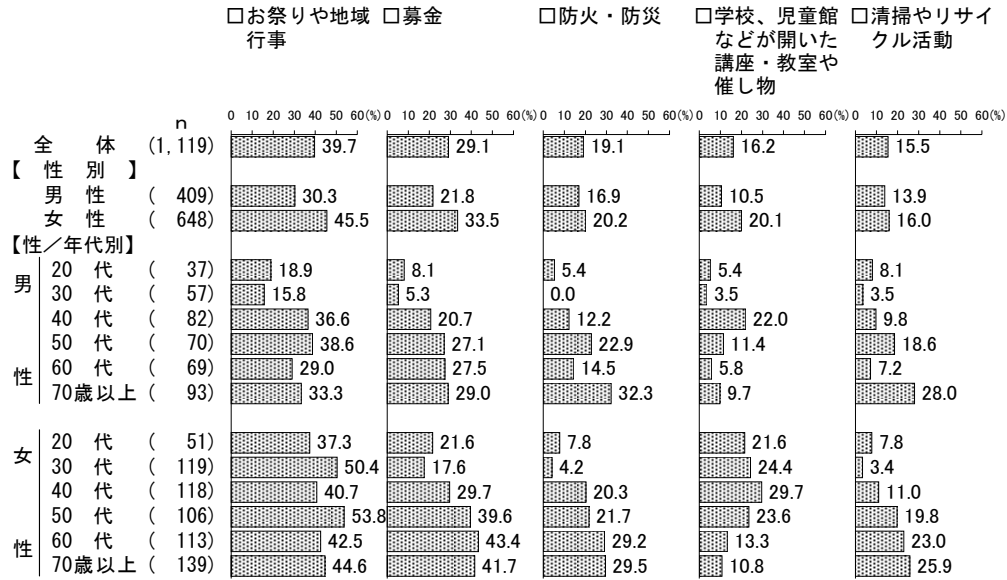
問17 あなたは、今まで、大田区内の地域活動に参加したことがありますか。参加したことがある活動をお答えください。(〇はいくつでも)

図 10-1-1



区内の地域活動に参加したことがあるか聞いたところ、「お祭りや地域行事」(39.7%)が4割で最も高く、次いで「募金」(29.1%)、「防火・防災」(19.1%)、「学校、児童館などが開いた講座・教室や催し物」(16.2%)、「清掃やリサイクル活動」(15.5%)などの順になっている。一方、「参加したことがない」(34.4%)は3割半ばとなっている。(図 10-1-1)

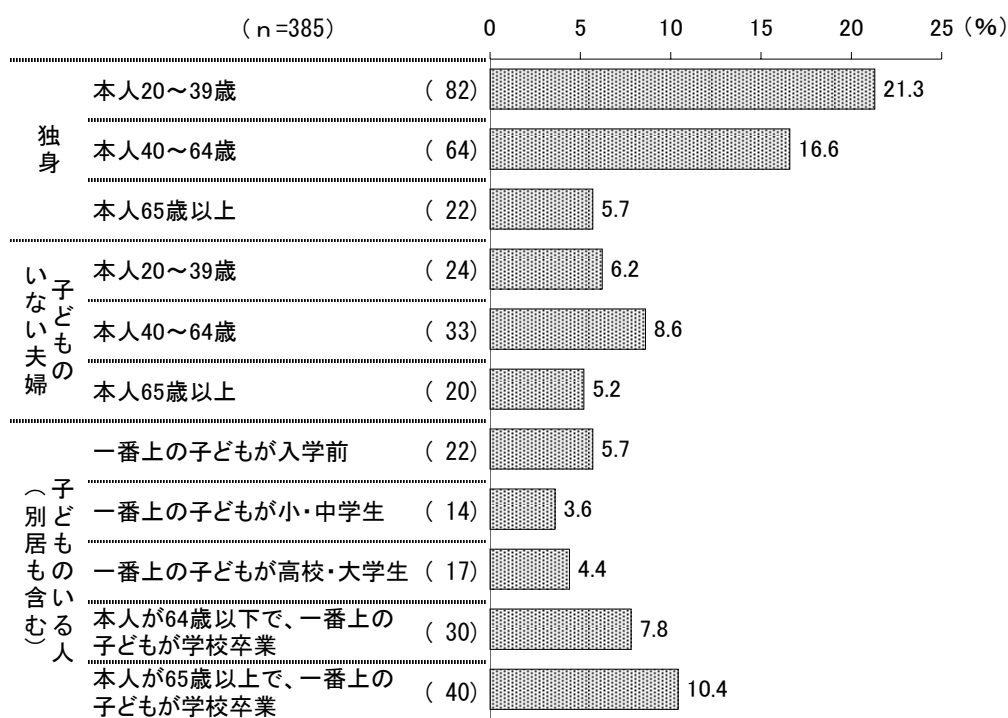
図 10-1-2 参加したことがある地域活動－性／年代別



性別で見ると、ほとんどの項目で女性が男性を上回っており、「お祭りや地域行事」は女性（45.5%）が男性（30.3%）より15.2ポイント高く、「募金」は女性（33.5%）が男性（21.8%）より11.7ポイント高くなっている。

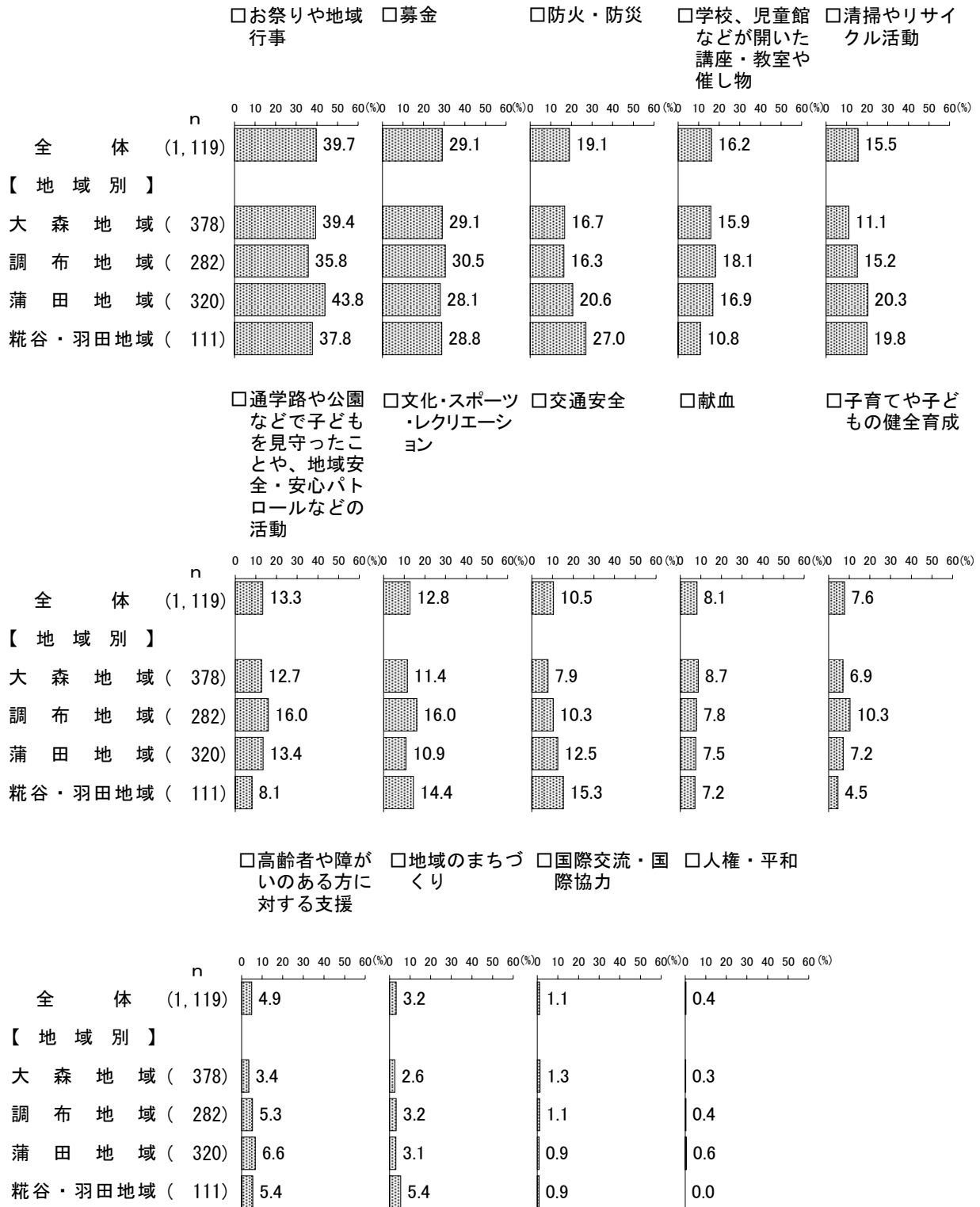
性／年代別で見ると、「お祭りや地域行事」は女性の30代（50.4%）と50代（53.8%）で5割台と高くなっている。また、「募金」は女性の60代（43.4%）と70歳以上（41.7%）で4割を超え、「防火・防災」は男性70歳以上（32.3%）で3割を超え高くなっている。（図10-1-2）

図 10-1-3 参加したことがある地域活動ー「参加したことがない」と答えた人のライフステージ



区内の地域活動に「参加したことがない」と答えた人（385人）のライフステージを見ると、「独身／本人20～39歳」（21.3%）が2割を超え最も高く、次いで「独身／本人40～64歳」（16.6%）、「子どもがいる人（別居も含む）／本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業」（10.4%）などの順になっている。（図10-1-3）

図 10-1-4 参加したことがある地域活動—地域別



地域別でみると、「お祭りや地域行事」は蒲田地域（43.8%）で4割を超え高くなっている。また、「防火・防災」は糞谷・羽田地域（27.0%）で3割近く、「清掃やリサイクル活動」は蒲田地域（20.3%）と糞谷・羽田地域（19.8%）で2割と高くなっている。（図10-1-4）

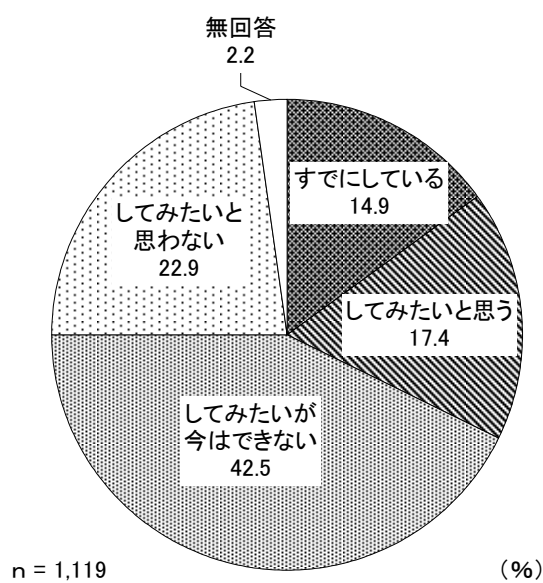
(2) ボランティア活動への意欲

◇「してみたいが今はできない」が4割を超える

問 18 あなたは、ボランティア活動をしてみたいと思いますか。(○は1つだけ)

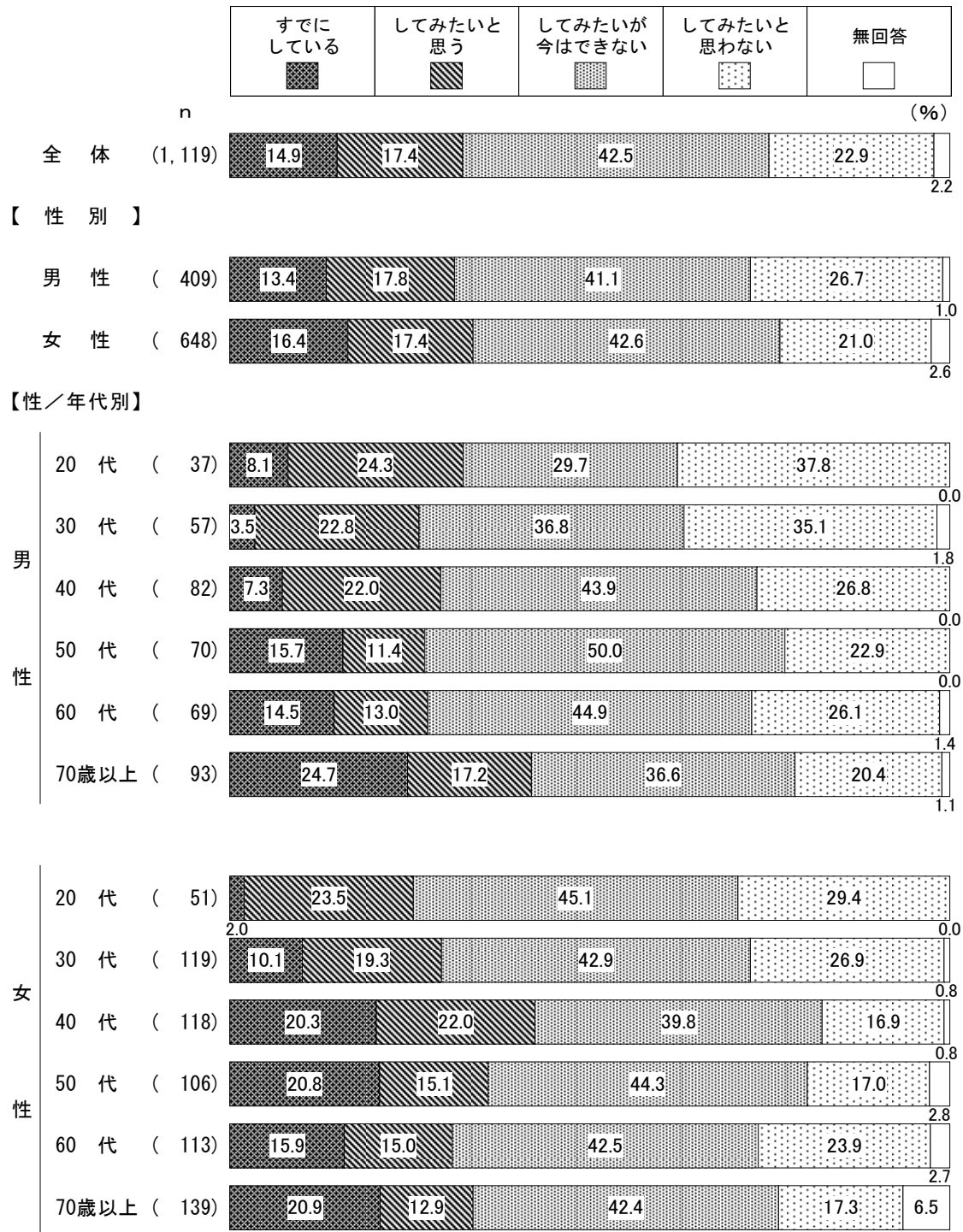
※ボランティア活動とは、特定の団体活動のみならず、地域のお祭りやイベント活動、自治会町会活動、PTA、こども会活動などにスタッフとして参加した場合は含みます。

図 10-2-1



ボランティア活動をしてみたいと思うか聞いたところ、「すでにしている」(14.9%)は1割半ば、「してみたいと思う」(17.4%)は2割近く、「してみたいが今はできない」(42.5%)が4割を超えている。一方、「してみたいと思わない」(22.9%)は2割を超えている。(図 10-2-1)

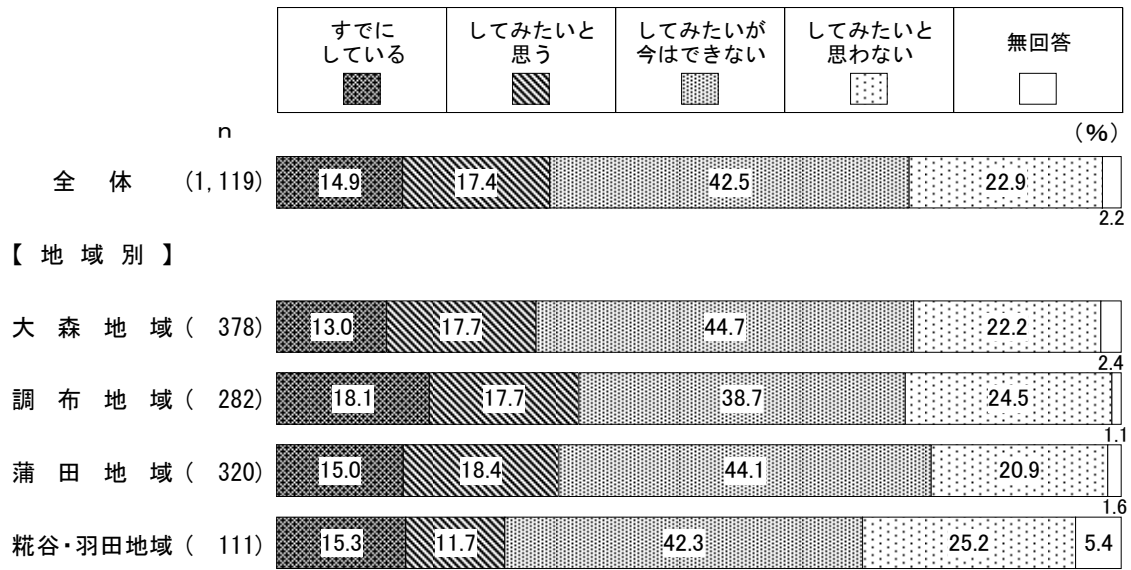
図 10-2-2 ボランティア活動への意欲－性／年代別



性別でみると、「してみたいと思わない」は男性（26.7%）が女性（21.0%）より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「してみたいが今はできない」は男性50代（50.0%）で5割と高くなっている。また、「してみたいと思わない」は男性の20代（37.8%）と30代（35.1%）で3割台、「すでにしている」は男性70歳以上（24.7%）で2割半ばと高くなっている。（図10-2-2）

図 10-2-3 ボランティア活動への意欲—地域別



地域別でみると、「すでにしている」は調布地域（18.1%）で2割近くと高くなっている。

(図10-2-3)

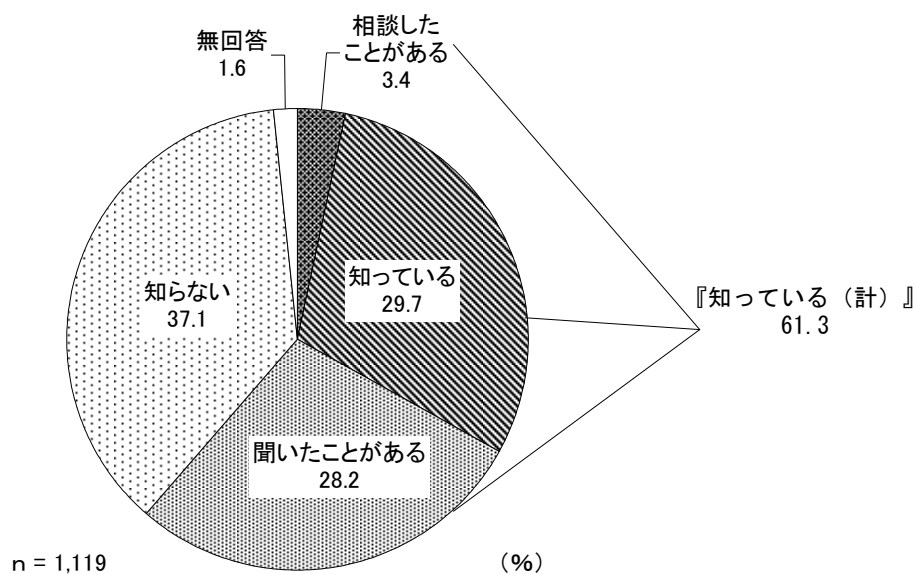
11. 消費者支援

(1) 「大田区立消費者生活センター」での消費者相談実施の認知度

◇「相談したことがある」と「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』が6割を超える

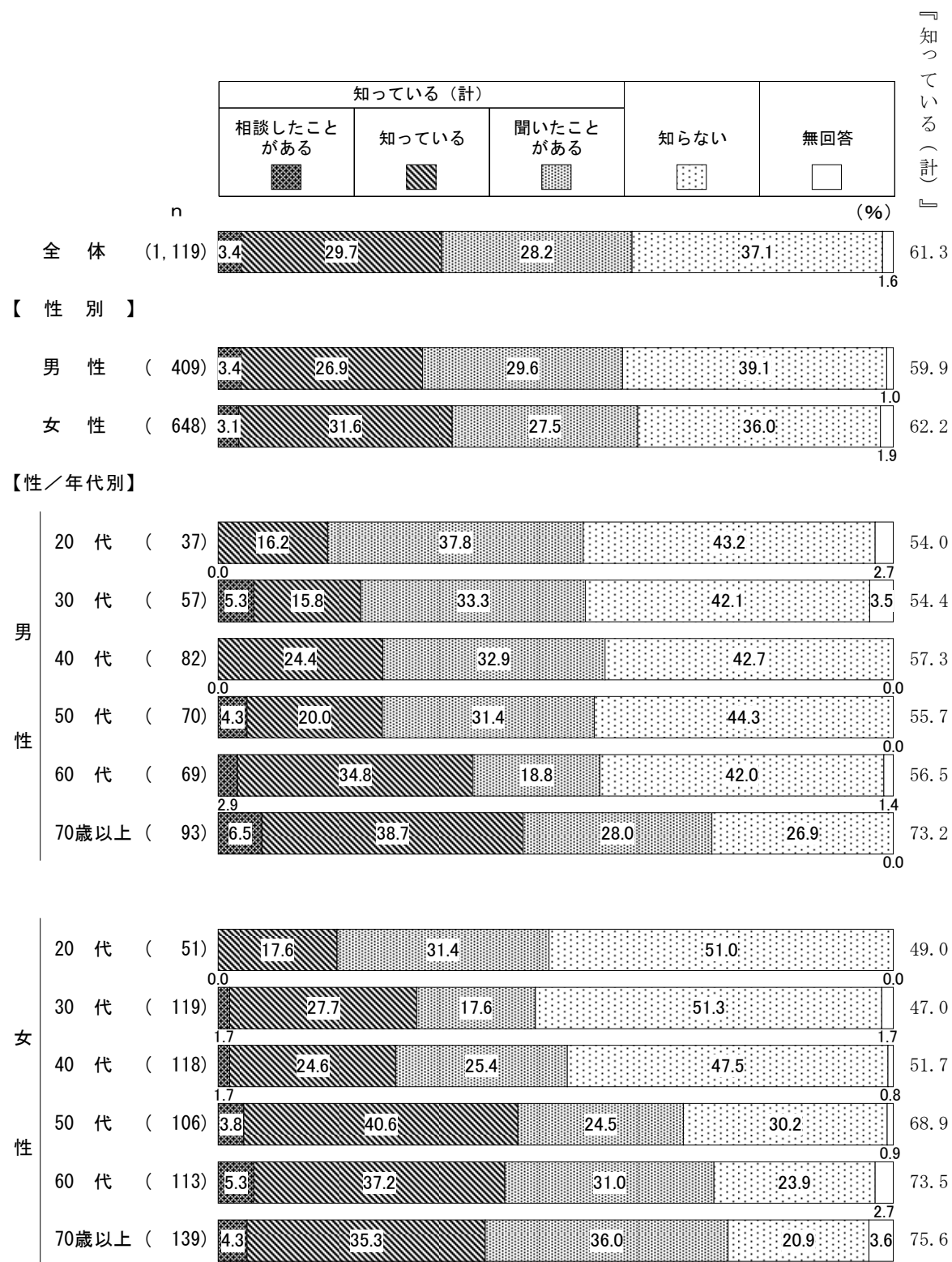
問 19 あなたは、「大田区立消費者生活センター」で、各種消費者相談を行っていることをご存知ですか。(〇は1つだけ)

図 11-1-1



「大田区立消費者生活センター」で、各種消費者相談を行っていることを知っているか聞いたところ、「相談したことがある」(3.4%)と「知っている」(29.7%)と「聞いたことがある」(28.2%)を合わせた『知っている(計)』(61.3%)は6割を超えている。一方、「知らない」(37.1%)は4割近くとなっている。(図 11-1-1)

図 11-1-2 「大田区立消費者生活センター」での消費者相談実施の認知度－性／年代別



性別でみると、「知っている」は女性（31.6%）が男性（26.9%）より4.7ポイント高くなっている。

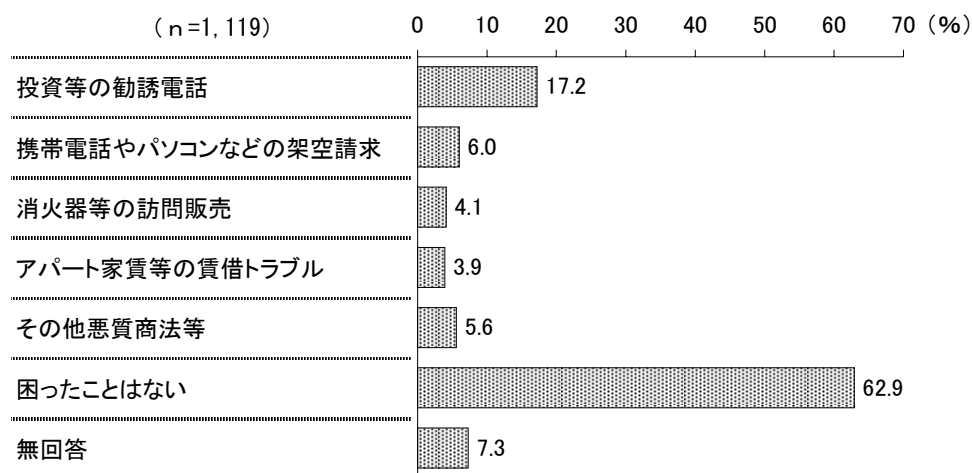
性／年代別でみると、『知っている（計）』は女性の60代（73.5%）と70歳以上（75.6%）、男性70歳以上（73.2%）で7割台と高くなっている。（図11-1-2）

(2) 生活の中で困ったこと

◇「投資等の勧誘電話」が2割近く

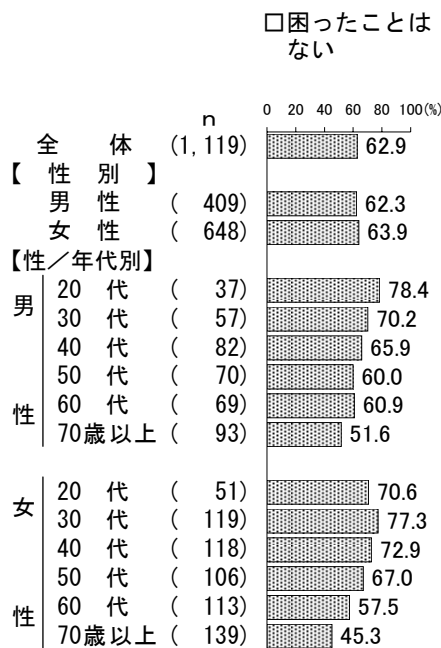
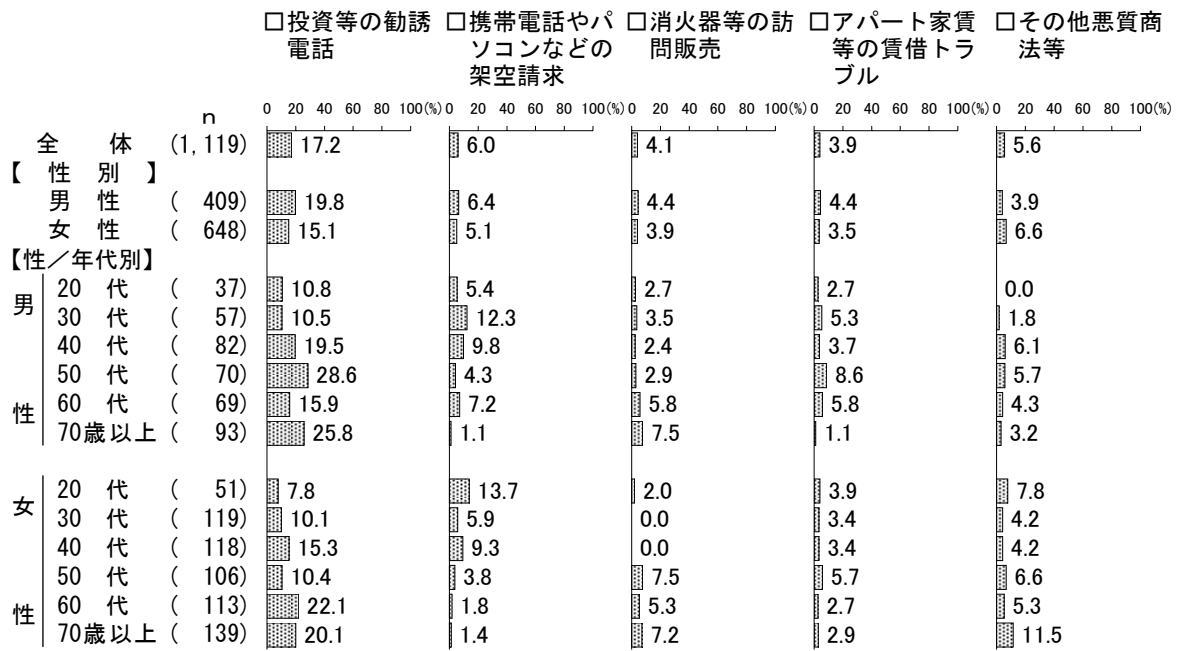
問 20 あなたは、下記のことについて困ったことはありますか。(〇はいくつでも)

図 11-2-1



生活の中で困ったことを聞いたところ、「投資等の勧誘電話」(17.2%)が2割近くと高く、次いで「携帯電話やパソコンなどの架空請求」(6.0%)、「消火器等の訪問販売」(4.1%)、「アパート家賃等の賃借トラブル」(3.9%)などの順になっている。一方、「困ったことはない」(62.9%)は6割を超えている。(図 11-2-1)

図 11-2-2 生活の中で困ったこと－性／年代別



性別でみると、「投資等の勧誘電話」は男性（19.8%）が女性（15.1%）より4.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「投資等の勧誘電話」は男性50代（28.6%）で3割近く、「携帯電話やパソコンなどの架空請求」は女性20代（13.7%）と男性30代（12.3%）で1割を超え高くなっている。一方、「困ったことはない」は男女ともにおおむね年代が低くなるほど割合が高く、男性20代（78.4%）と女性30代（77.3%）で8割近くと高くなっている。（図11-2-2）

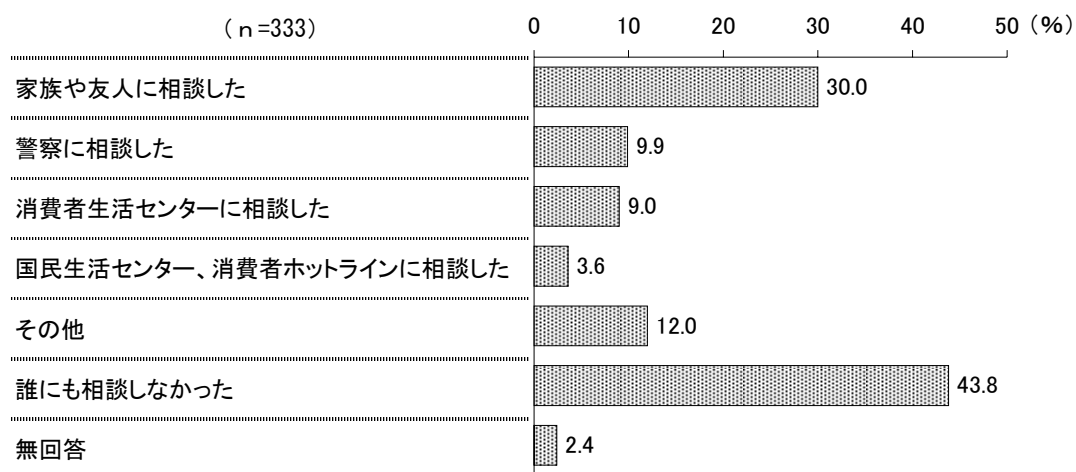
(3) 相談状況

◇「家族や友人に相談した」が3割、「誰にも相談しなかった」は4割を超える

(問 20 で、生活の中で「困ったことがある」と回答した方に)

問 20-1 あなたは、どなたかに相談しましたか。(〇はいくつでも)

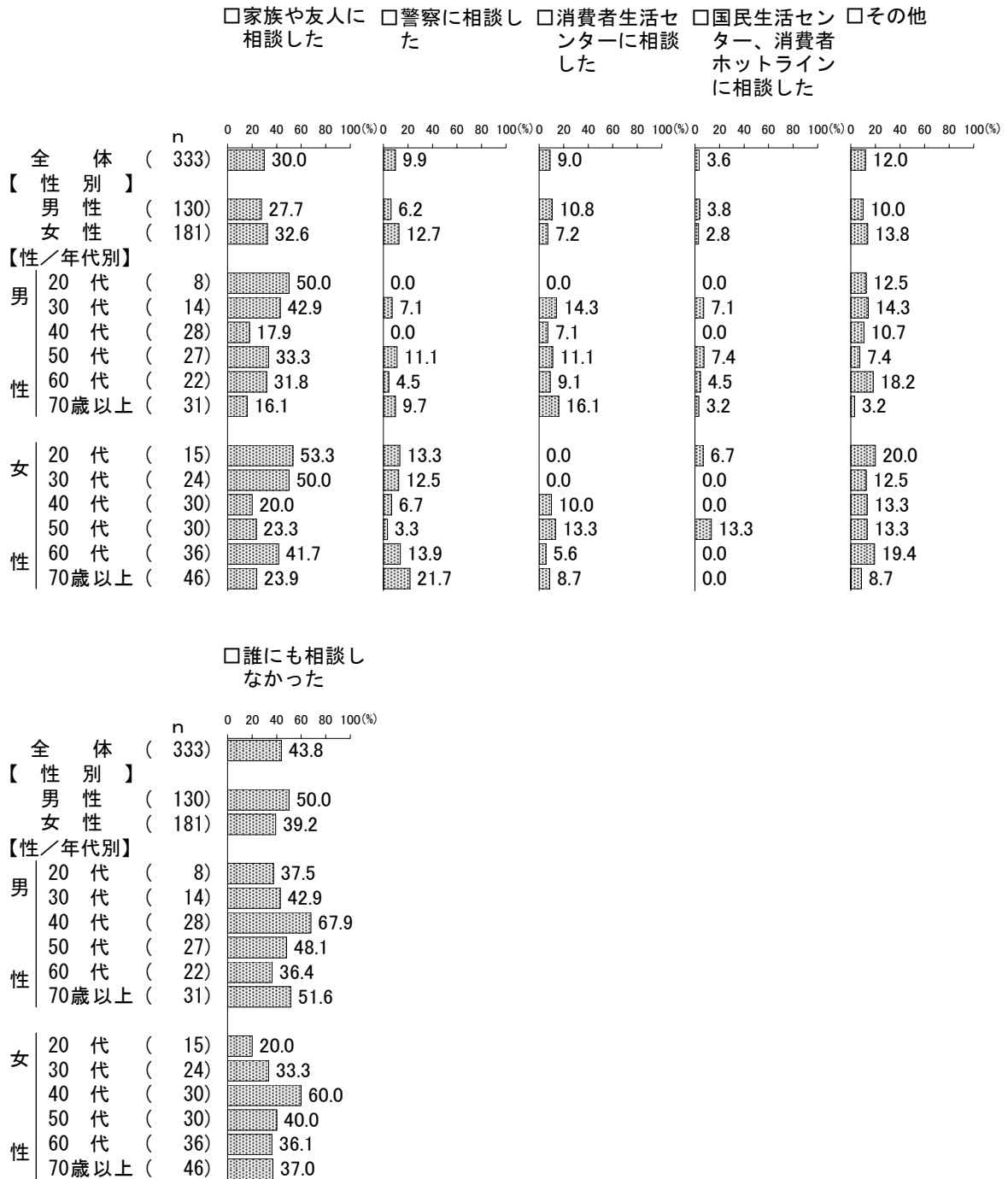
図 11-3-1



生活の中で「困ったことがある」と答えた人(333人)に、困ったときに誰かに相談したか聞いたところ、「家族や友人に相談した」(30.0%)が3割と高く、次いで「警察に相談した」(9.9%)、「消費者生活センターに相談した」(9.0%)、「国民生活センター、消費者ホットラインに相談した」(3.6%)の順になっている。一方、「誰にも相談しなかった」(43.8%)は4割を超えている。

「その他」への回答として、「弁護士」、「不動産屋」などがあげられている。(図 11-3-1)

図 11-3-2 相談状況一性／年代別



性別でみると、「警察に相談した」は女性（12.7%）が男性（6.2%）より6.5ポイント高くなっている。一方、「誰にも相談しなかった」は男性（50.0%）が女性（39.2%）より10.8ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「家族や友人に相談した」は女性の20代（53.3%）と30代（50.0%）、男性20代（50.0%）で5割台と高くなっている。また、「警察に相談した」は女性70歳以上（21.7%）で2割を超え高くなっている。一方、「誰にも相談しなかった」は男性40代（67.9%）と女性40代（60.0%）で6割台と高くなっている。（図11-3-2）

12. 防災対策（ペットの防災含む）

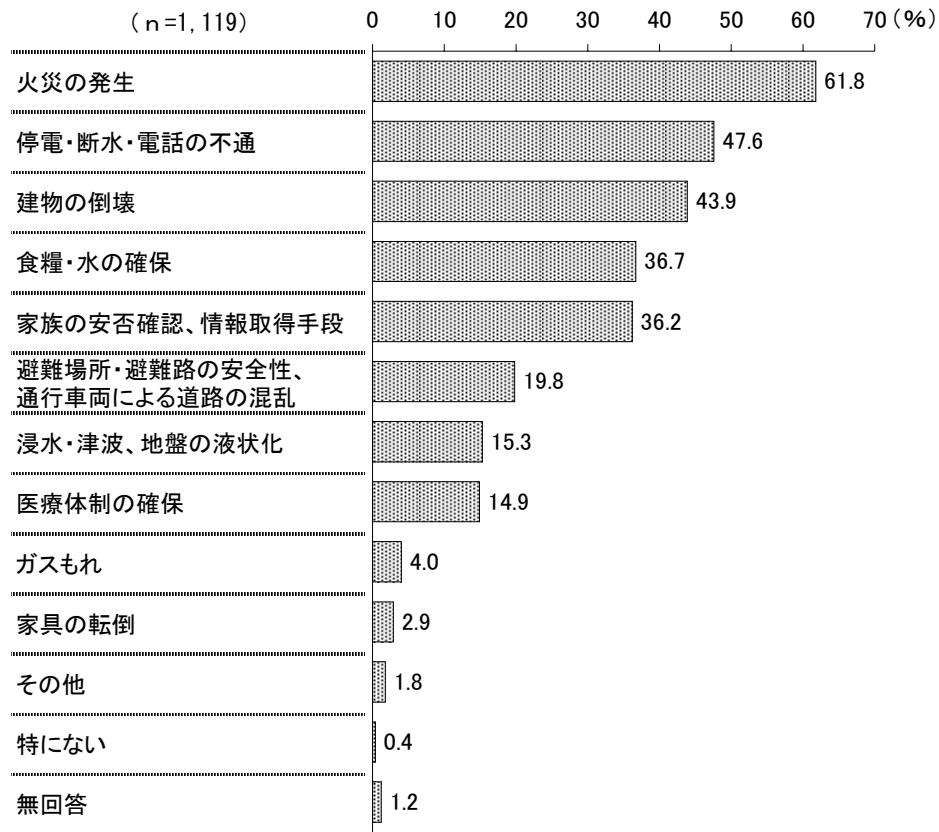
（１）大震災発生時に不安だと思うもの

◇「火災の発生」が6割を超える

問 21 今後、東京に大震災が発生した場合、あなたが特に不安だと思うものは何ですか。

（○は3つまで）

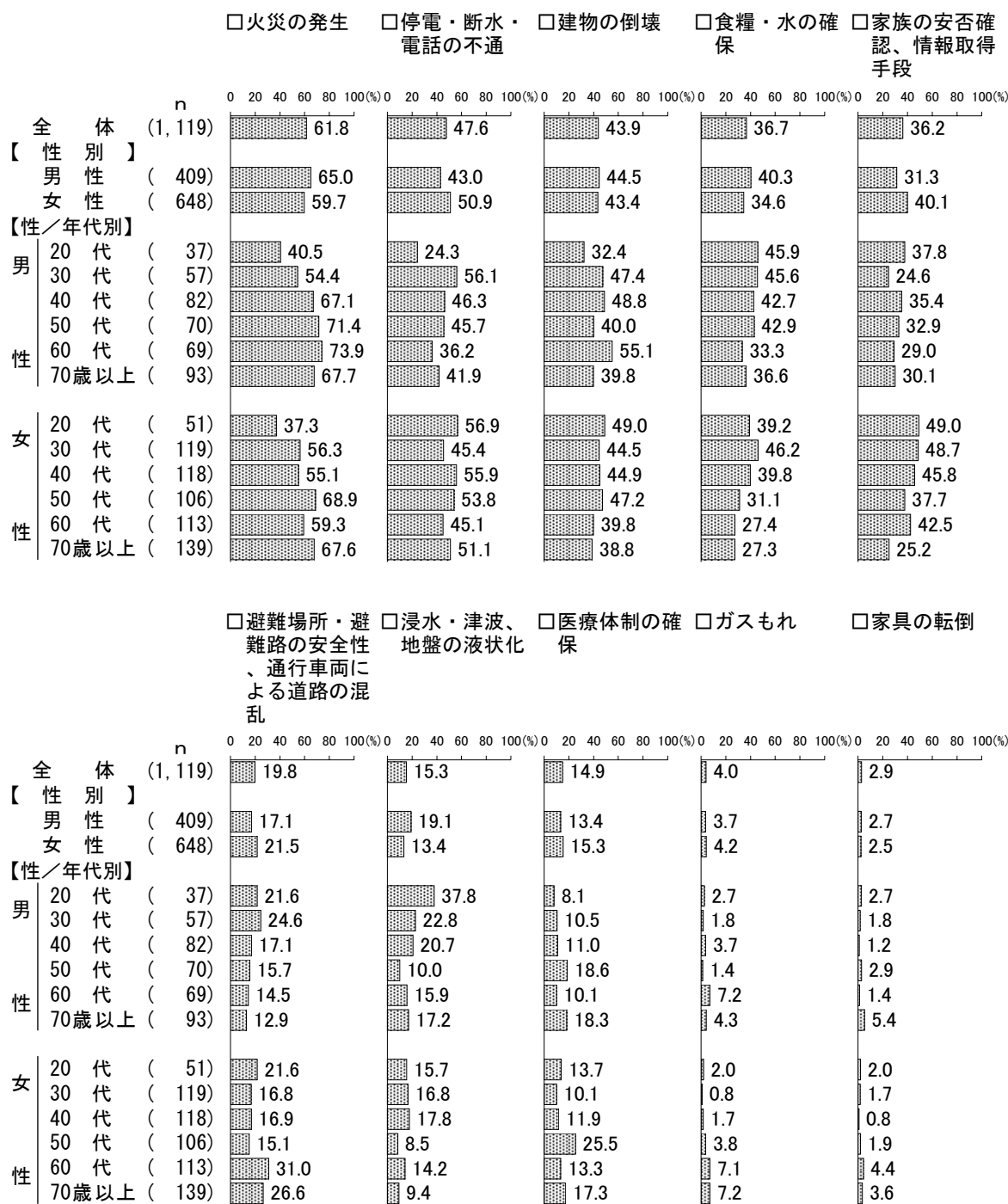
図 12-1-1



東京に大震災が発生した場合、特に不安だと思うものを聞いたところ、「火災の発生」(61.8%)が6割を超え最も高く、次いで「停電・断水・電話の不通」(47.6%)、「建物の倒壊」(43.9%)、「食糧・水の確保」(36.7%)、「家族の安否確認、情報取得手段」(36.2%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「子どもの安全確保」、「ペットの避難場所」などがあげられている。(図 12-1-1)

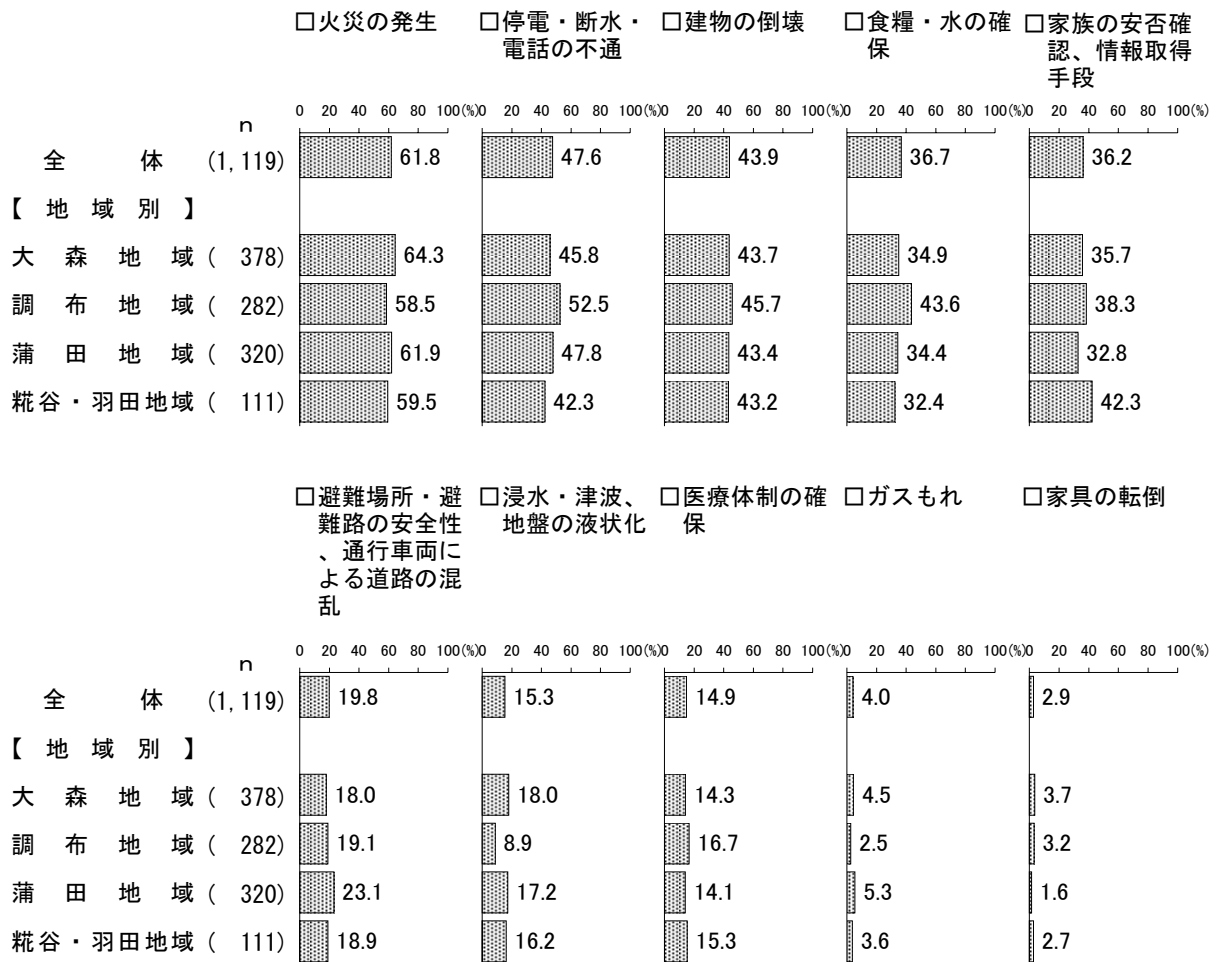
図 12-1-2 大震災発生時に不安だと思うもの－性／年代別



性別でみると、「家族の安否確認、情報取得手段」は女性（40.1%）が男性（31.3%）より8.8ポイント高く、「停電・断水・電話の不通」は女性（50.9%）が男性（43.0%）より7.9ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「火災の発生」は男性の50代（71.4%）と60代（73.9%）で7割を超え、「停電・断水・電話の不通」は女性の20代（56.9%）で6割近く、「建物の倒壊」は男性60代（55.1%）で5割半ばと高くなっている。（図12-1-2）

図 12-1-3 大震災発生時に不安だと思うもの—地域別



地域別でみると、「火災の発生」は大森地域（64.3%）で6割半ば、「停電・断水・電話の不通」は調布地域（52.5%）で5割を超え高くなっている。また、「食糧・水の確保」は調布地域（43.6%）で4割を超え、「家族の安否確認、情報取得手段」は糀谷・羽田地域（42.3%）で4割を超え高くなっている。（図12-1-3）

(2) 震災対策の実施状況

◇「飲料水の準備」が約6割

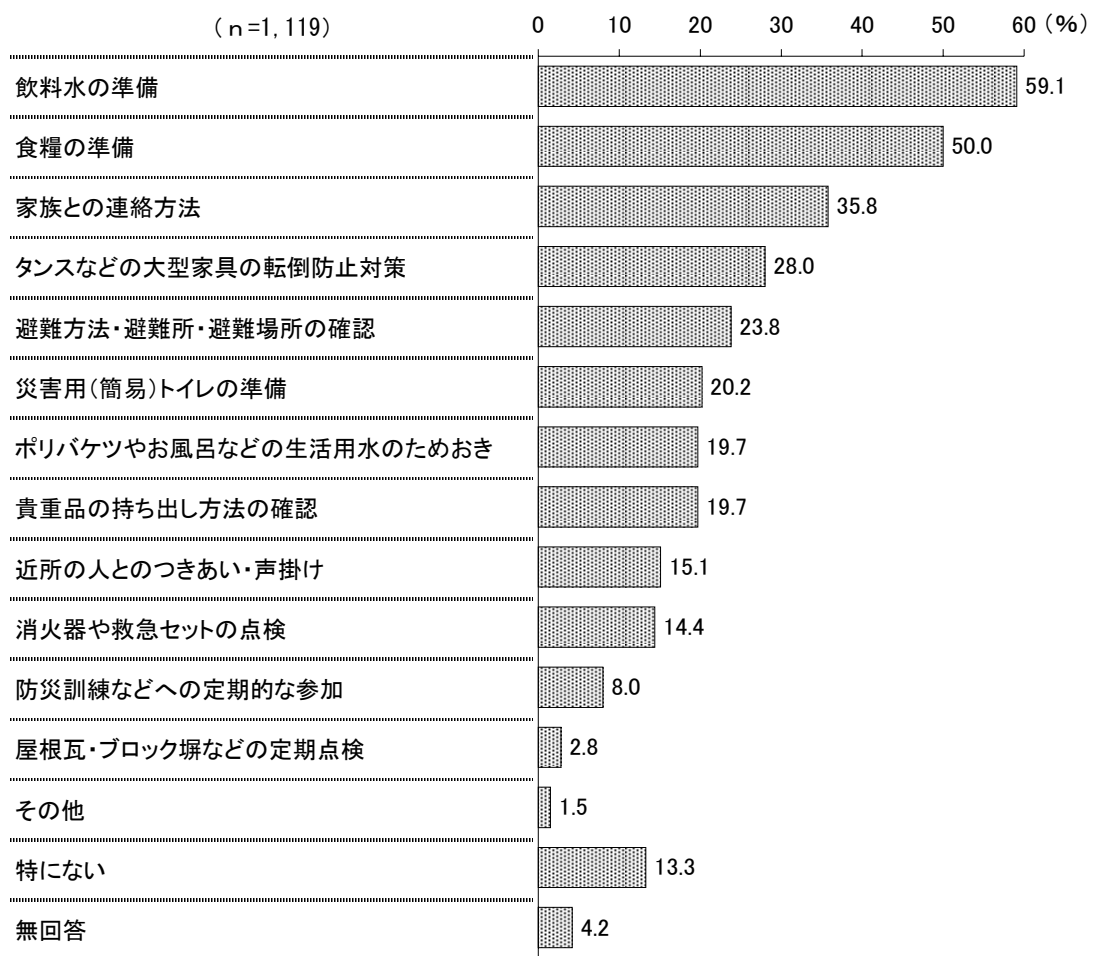
問 22 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。
あなたの家庭で、大地震に備えて普段から特に心がけていることは何ですか。

(○はいくつでも)

※1「自助」とは、災害発生直後「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということです。

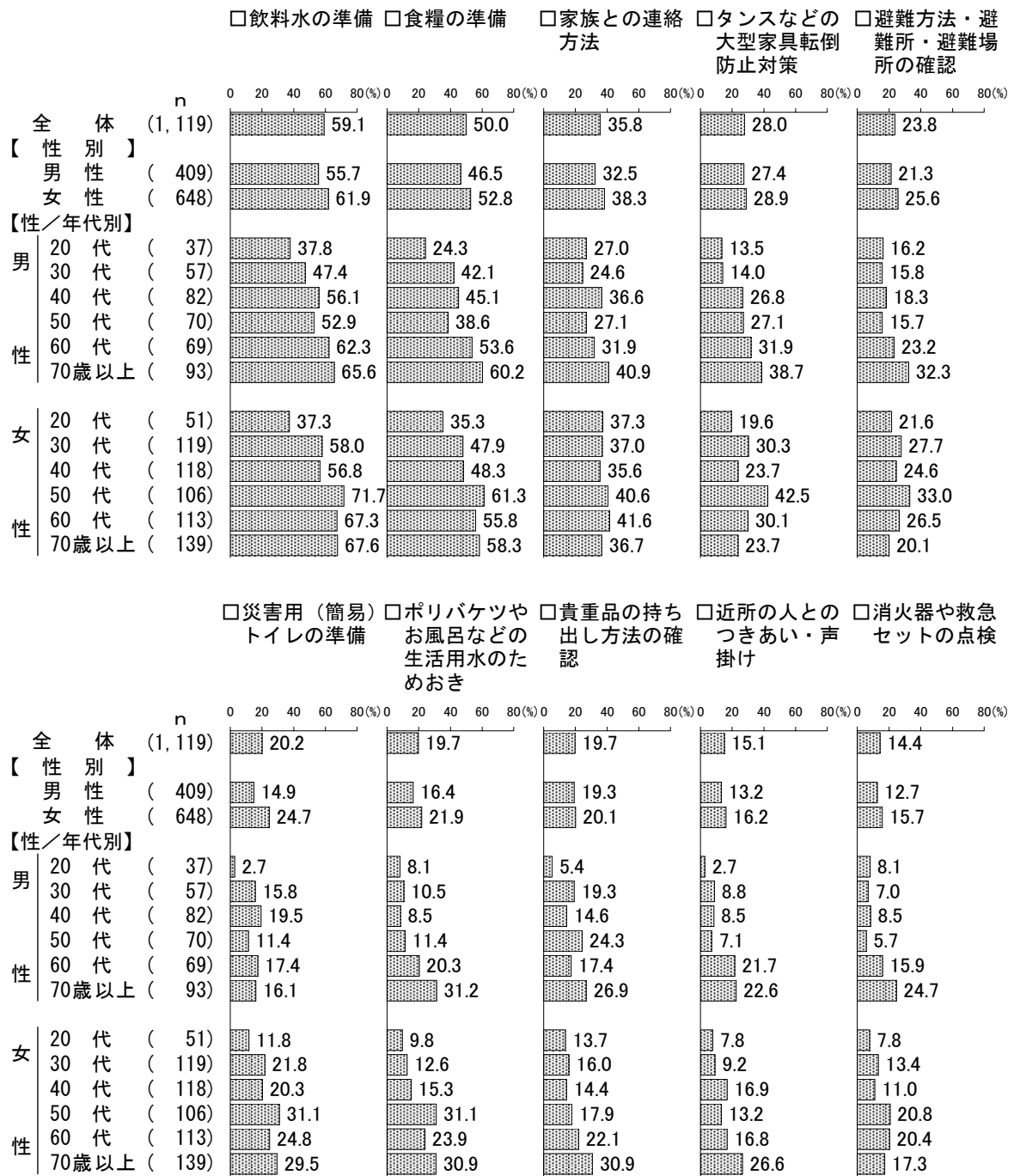
※2「共助」とは、地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということです。

図 12-2-1



大地震に備えて普段から特に心がけていることを聞いたところ、「飲料水の準備」(59.1%)が約6割で最も高く、次いで「食糧の準備」(50.0%)、「家族との連絡方法」(35.8%)、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」(28.0%)、「避難方法・避難所・避難場所の確認」(23.8%)などの順になっている。(図 12-2-1)

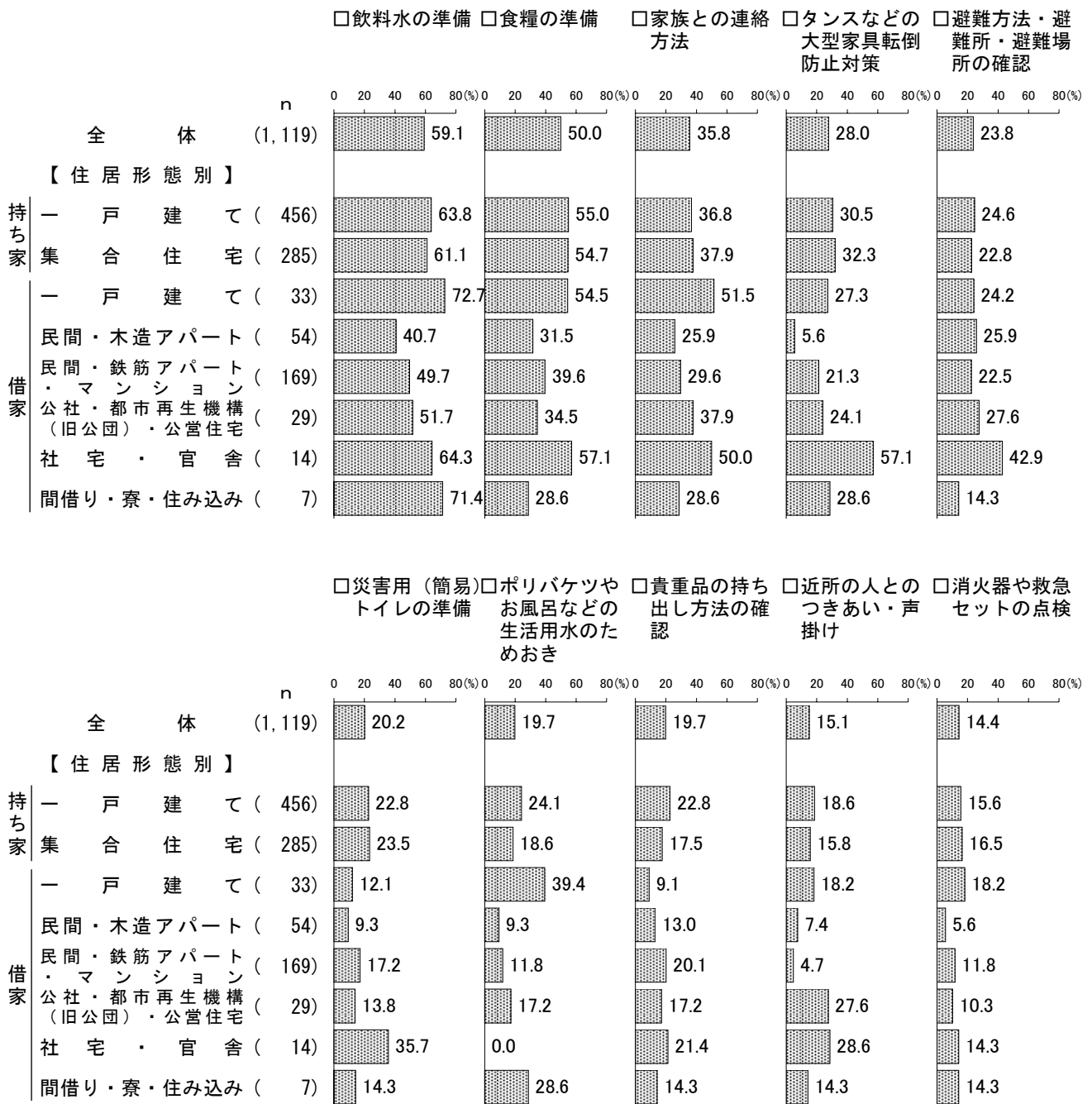
図 12-2-2 震災対策の実施状況－性／年代別（上位 10 項目）



上位10項目を性別で見ると、全ての項目で女性が男性を上回っており、「災害用（簡易）トイレの準備」は女性（24.7%）が男性（14.9%）より9.8ポイント高く、「食糧の準備」は女性（52.8%）が男性（46.5%）より6.3ポイント高くなっている。

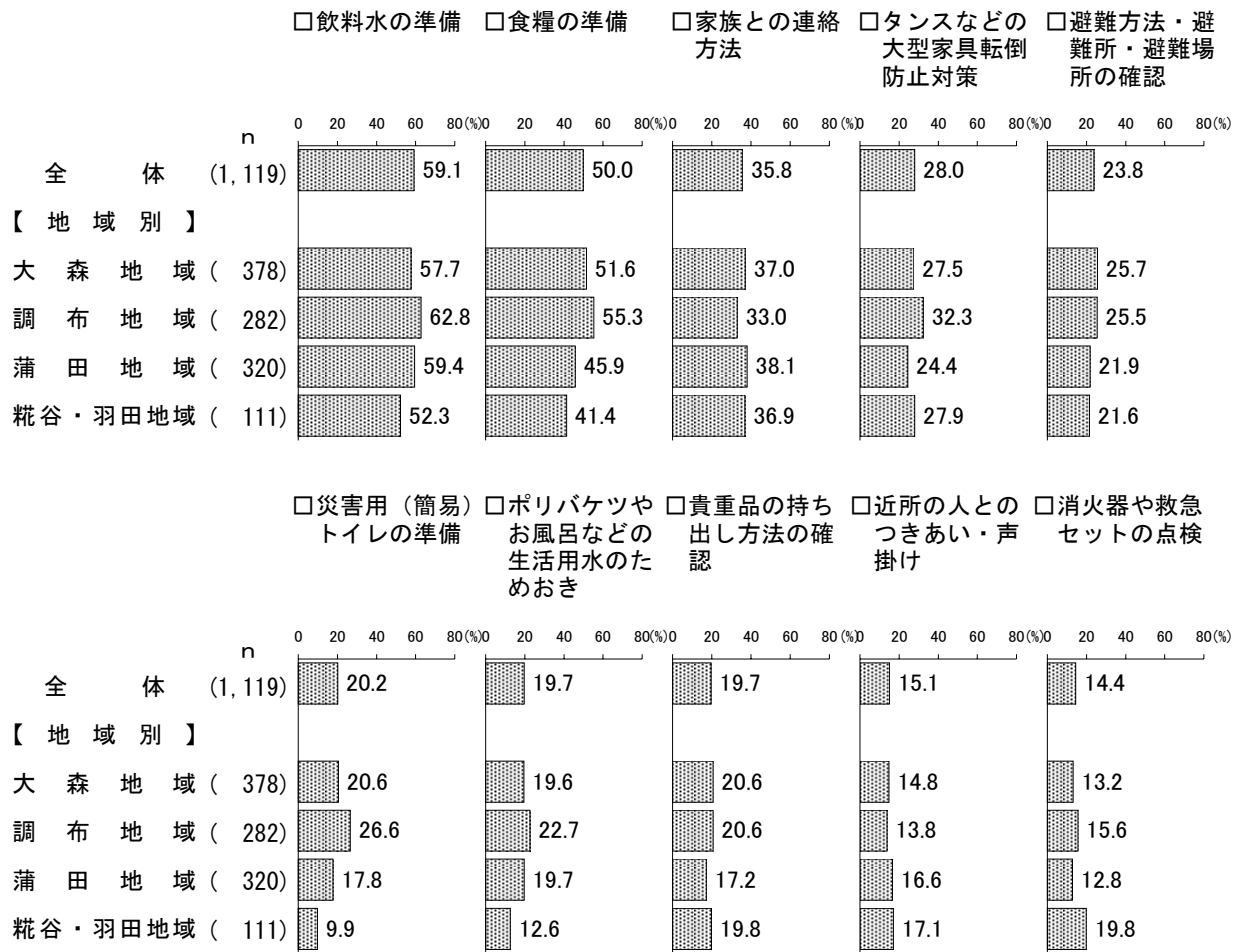
性／年代別で見ると、「飲料水の準備」は女性50代（71.7%）で7割を超え高くなっている。また、「食糧の準備」は女性50代（61.3%）と男性70歳以上（60.2%）で6割台、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は女性50代（42.5%）で4割を超え高くなっている。（図12-2-2）

図 12-2-3 震災対策の実施状況—住居形態別（上位 10 項目）



上位 10 項目を住居形態別で見ると、「飲料水の準備」は借家／一戸建て（72.7%）で 7 割を超え、「家族との連絡方法」は借家／一戸建て（51.5%）で 5 割を超え高くなっている。（図 12-2-3）

図 12-2-4 震災対策の実施状況—地域別（上位 10 項目）



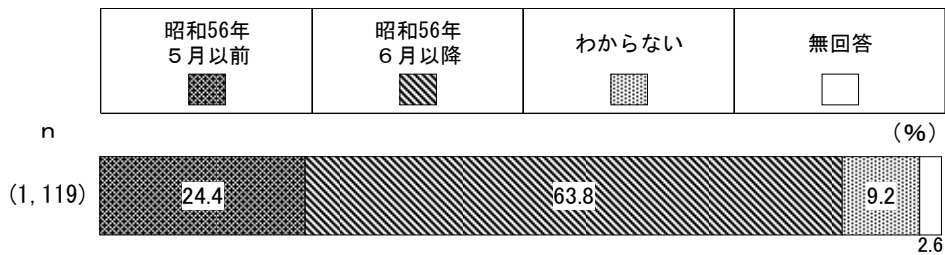
上位10項目を地域別で見ると、「飲料水の準備」は調布地域（62.8%）で6割を超え、「食糧の準備」は調布地域（55.3%）で5割半ばと高くなっている。（図12-2-4）

(3) 住まいの建物が建てられた時期

◇「昭和56年6月以降」が6割を超える

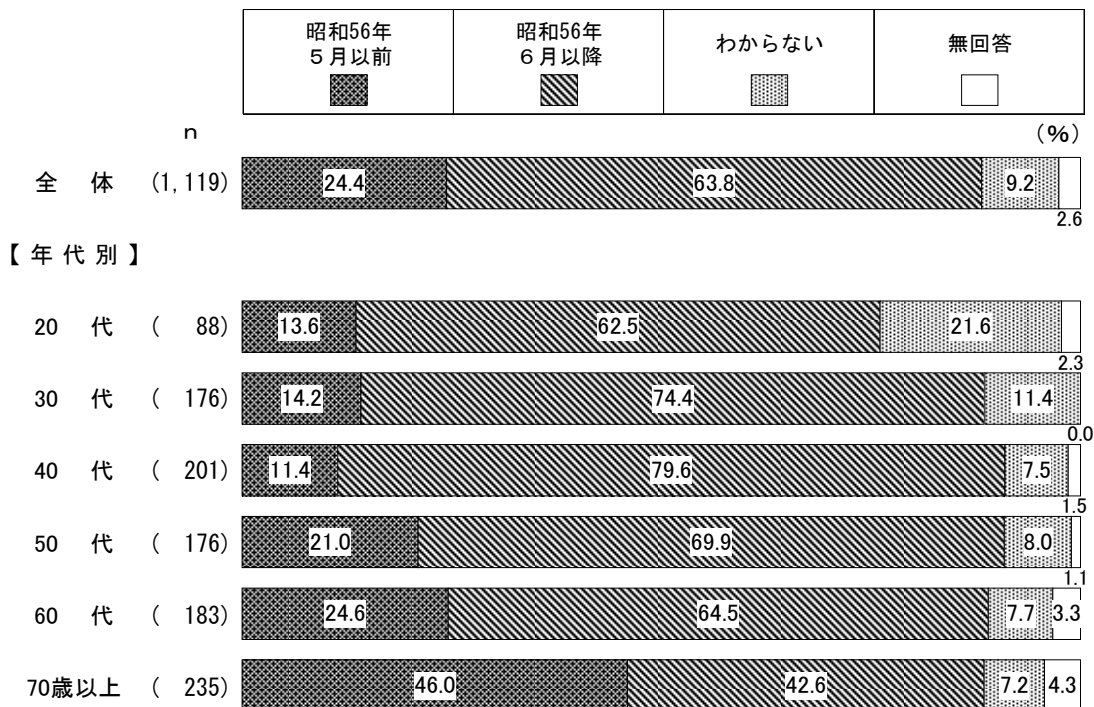
問 23 あなたがお住まいの建物は、いつ建てられたものですか。(○は1つだけ)

図 12-3-1



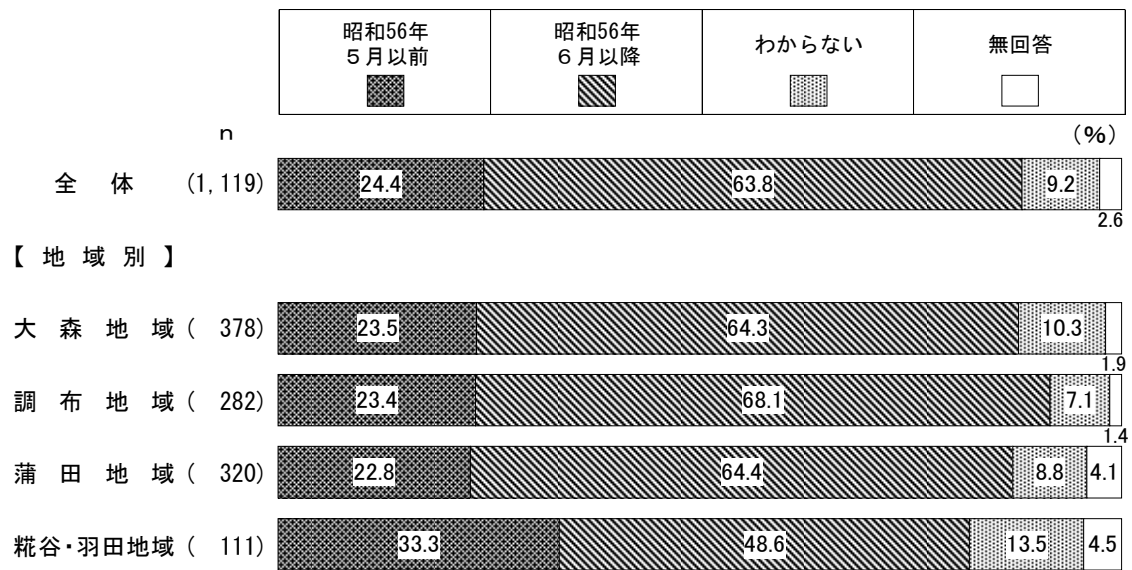
住まいの建物が建てられた時期を聞いたところ、「昭和56年5月以前」(24.4%)は2割半ば、「昭和56年6月以降」(63.8%)が6割を超えている。(図12-3-1)

図 12-3-2 住まいの建物が建てられた時期一年代別



年代別で見ると、「昭和56年5月以前」はおおむね年代が高くなるほど割合が高く、70歳以上(46.0%)で4割半ばと高くなっている。また、「昭和56年6月以降」は40代(79.6%)で8割と高くなっている。(図12-3-2)

図 12-3-3 住まいの建物が建てられた時期—地域別



地域別でみると、「昭和56年5月以前」は糀谷・羽田地域（33.3%）で3割を超え高くなっている。また、「昭和56年6月以降」は調布地域（68.1%）で7割近くと高くなっている。（図12-3-3）

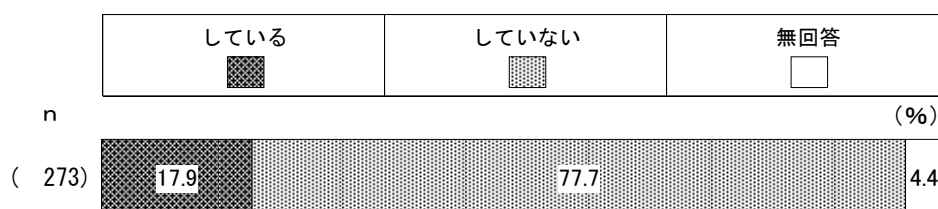
(4) 耐震補強工事の状況

◇「していない」が8割近く

(問 23 で、「昭和 56 年 5 月以前」と回答した方に)

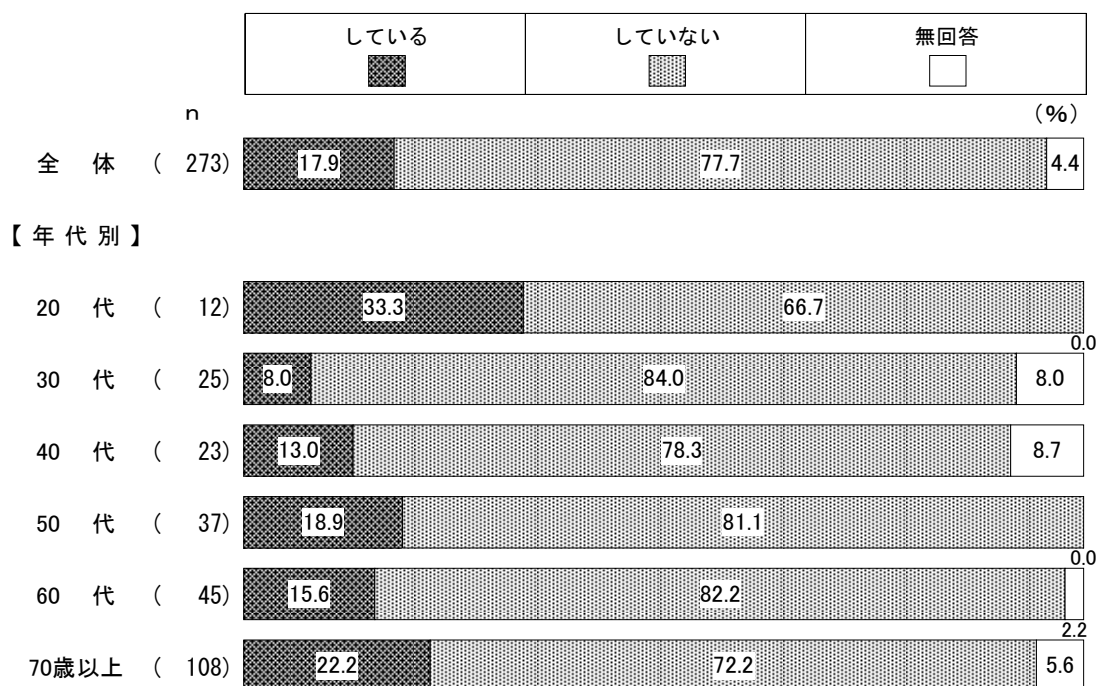
問 23-1 あなたの家庭は、耐震補強工事をしていますか。(○は1つだけ)

図 12-4-1



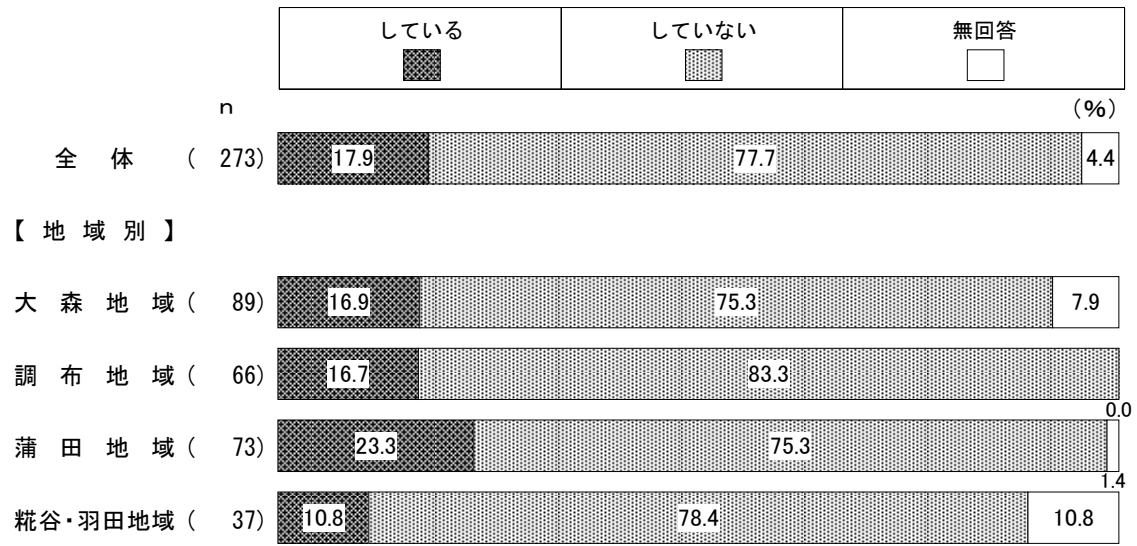
「昭和 56 年 5 月以前」に建てられた建物に住んでいると答えた人 (273 人) に、耐震補強工事を行っているか聞いたところ、「している」(17.9%) は2割近く、「していない」(77.7%) が8割近くとなっている。(図 12-4-1)

図 12-4-2 耐震補強工事の状況—年代別



年代別でみると、「していない」は30代(84.0%)で8割半ばと高くなっている。(図 12-4-2)

図 12-4-3 耐震補強工事の状況—地域別



地域別でみると、「している」は蒲田地域（23.3%）で2割を超え高くなっている。一方、「していない」は調布地域（83.3%）で8割を超え高くなっている。（図12-4-3）

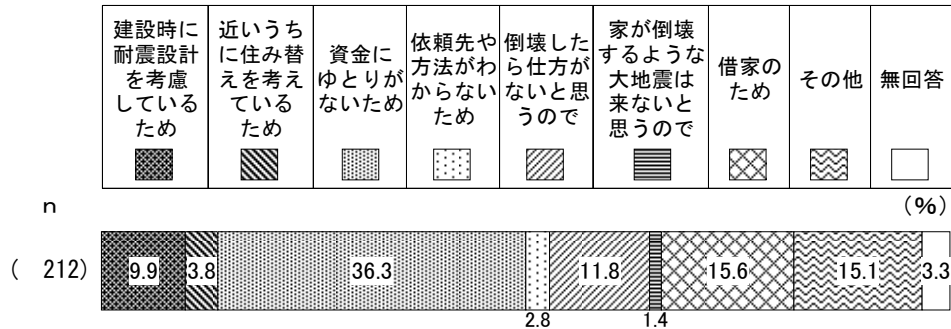
(5) 耐震補強工事をしていない理由

◇「資金にゆとりがないため」が3割半ば

(問 23-1 で、「していない」と回答した方に)

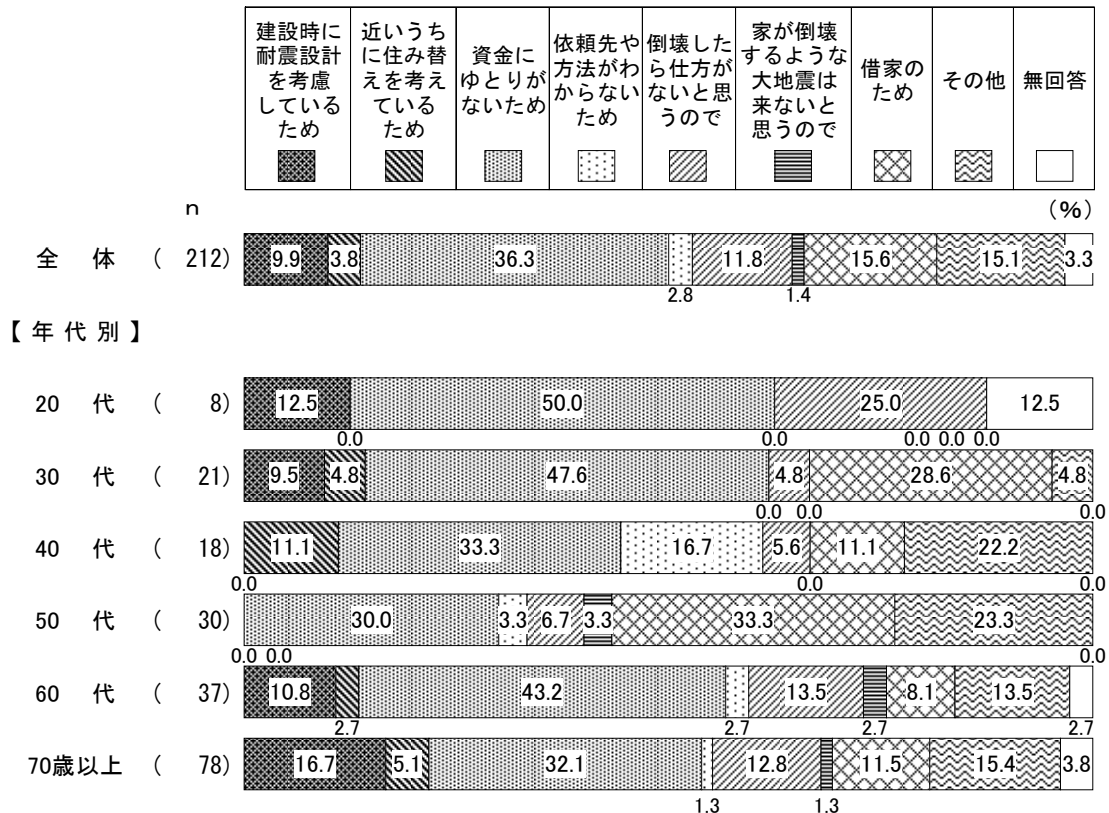
問 23-2 耐震補強工事をしていない理由は何ですか。(○は1つだけ)

図 12-5-1



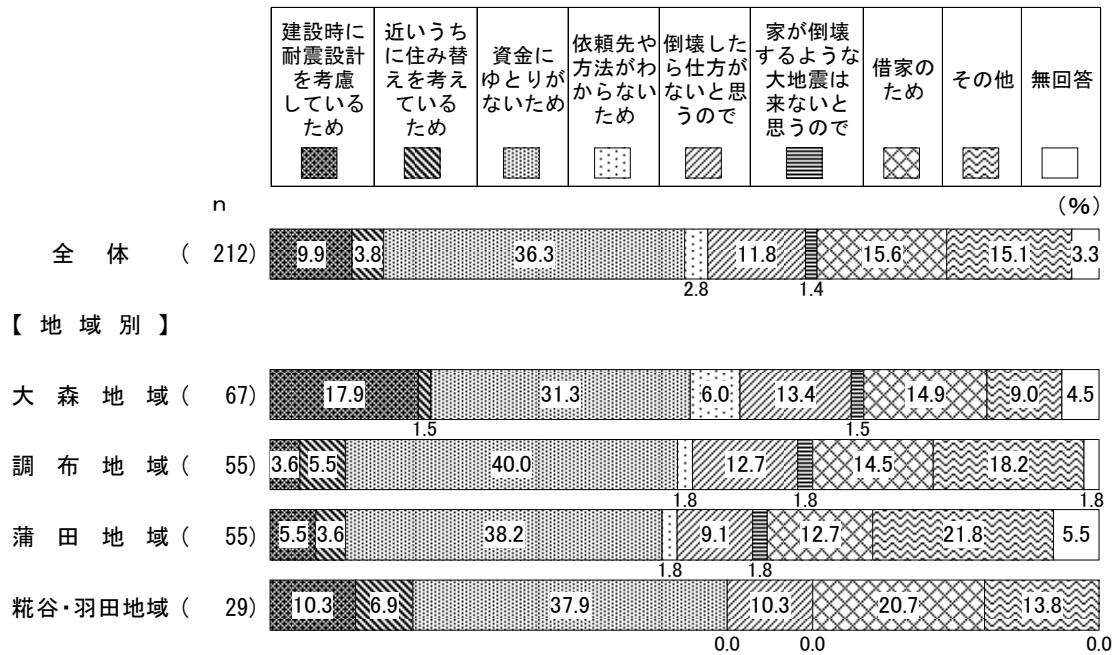
耐震補強工事を「していない」と答えた人 (212 人) に、その理由を聞いたところ、「資金にゆとりがないため」(36.3%) が3割半ばで最も高く、次いで「借家のため」(15.6%)、「倒壊したら仕方がないと思うので」(11.8%)、「建設時に耐震設計を考慮しているため」(9.9%) などの順になっている。(図 12-5-1)

図 12-5-2 耐震補強工事をしていない理由一年代別



年代別でみると、「借家のため」は50代(33.3%)で3割を超え高くなっている。(図 12-5-2)

図 12-5-3 耐震補強工事をしていない理由—地域別



地域別で見ると、「資金にゆとりがないため」は調布地域（40.0%）で4割、「建設時に耐震設計を考慮しているため」は大森地域（17.9%）で2割近くと高くなっている。（図12-5-3）

(6) 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度

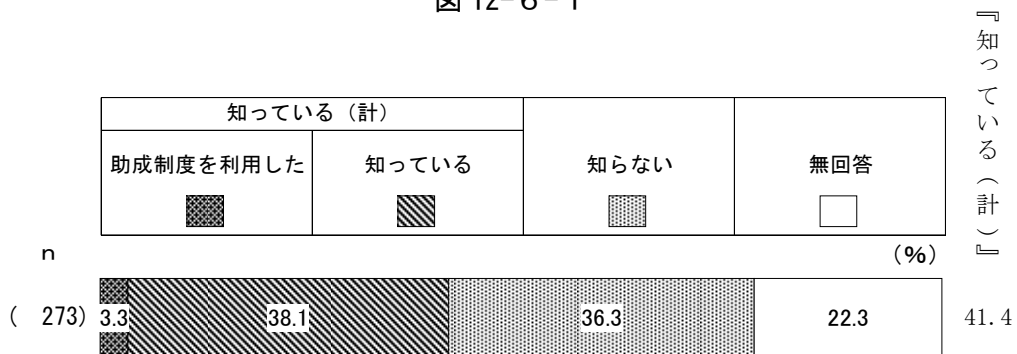
◇「助成制度を利用した」と「知っている」を合わせた『知っている（計）』が4割を超える

(問 23 で、「昭和 56 年 5 月以前」と回答した方に)

問 23-3 大田区では災害に強いまちづくりを進めるため、昭和 56 年 5 月以前の耐震基準で建てられた住宅やマンションの耐震化を推進しています。耐震診断や耐震改修工事を行う際に助成制度を設けていますが、あなたは、この制度をご存知ですか。

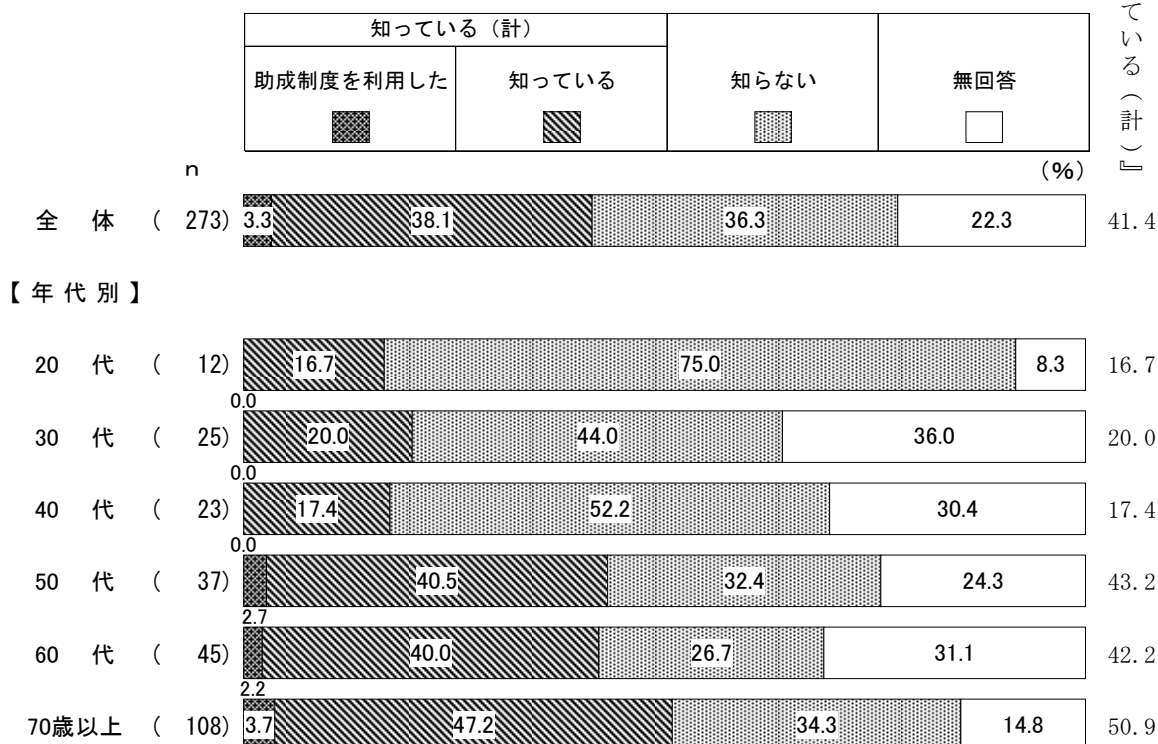
(○は1つだけ)

図 12-6-1



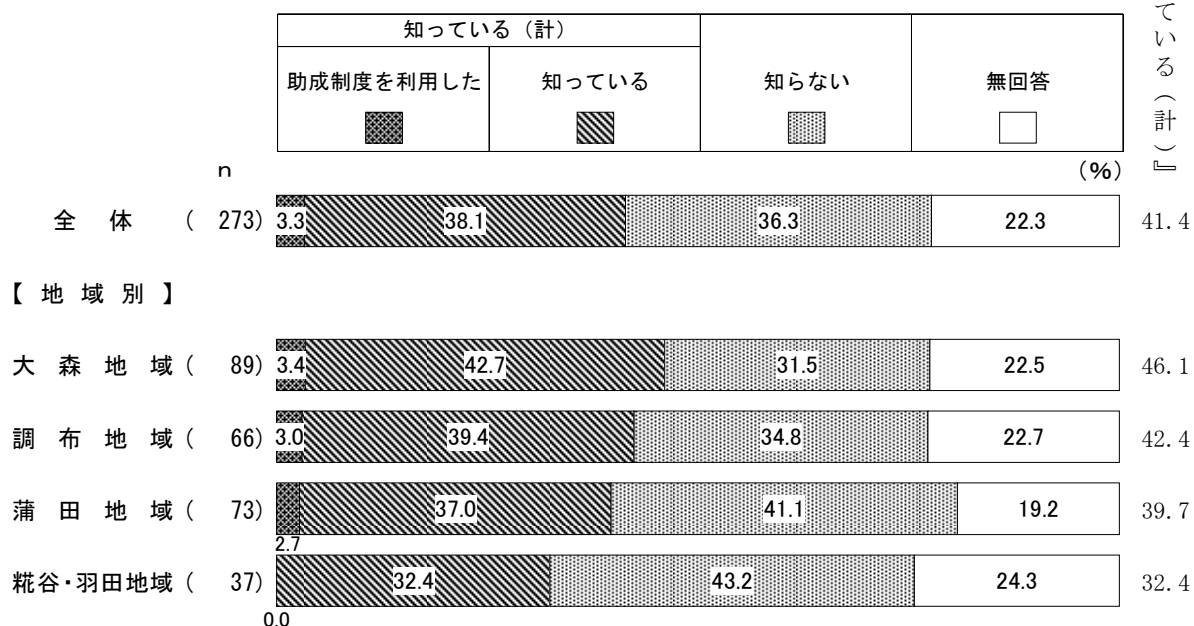
「昭和 56 年 5 月以前」に建てられた建物に住んでいると答えた人 (273 人) に、耐震診断や耐震改修工事を行う際に助成制度を設けていることを知っているか聞いたところ、「助成制度を利用した」(3.3%) と「知っている」(38.1%) を合わせた『知っている (計)』(41.4%) は 4 割を超えている。一方、「知らない」(36.3%) は 3 割半ばとなっている。(図 12-6-1)

図 12-6-2 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度一年代別



年代別で見ると、『知っている (計)』は70歳以上 (50.9%) で約5割、50代 (43.2%) と60代 (42.2%) で4割を超え高くなっている。(図12-6-2)

図 12-6-3 耐震診断・耐震改修工事の助成制度の認知度一地域別



地域別で見ると、『知っている (計)』は大森地域 (46.1%) で4割半ばと高くなっている。一方、「知らない」は糎谷・羽田地域 (43.2%) と蒲田地域 (41.1%) で4割を超え高くなっている。

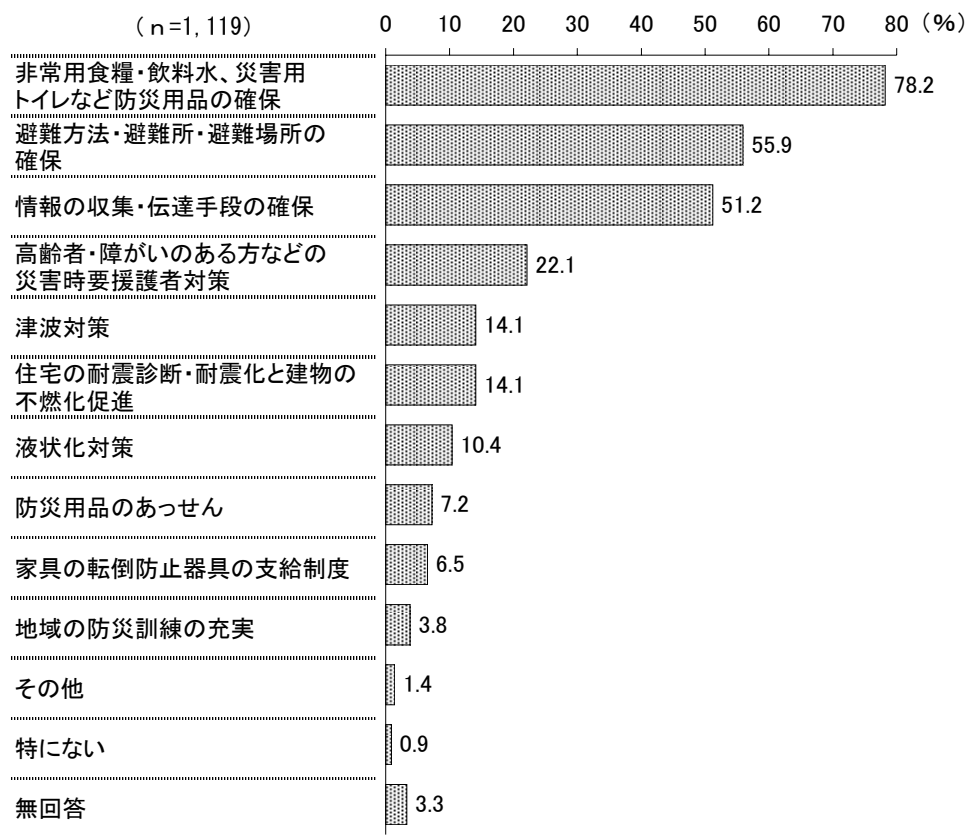
(図12-6-3)

(7) 力を入れてほしい防災対策

◇「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」が8割近く

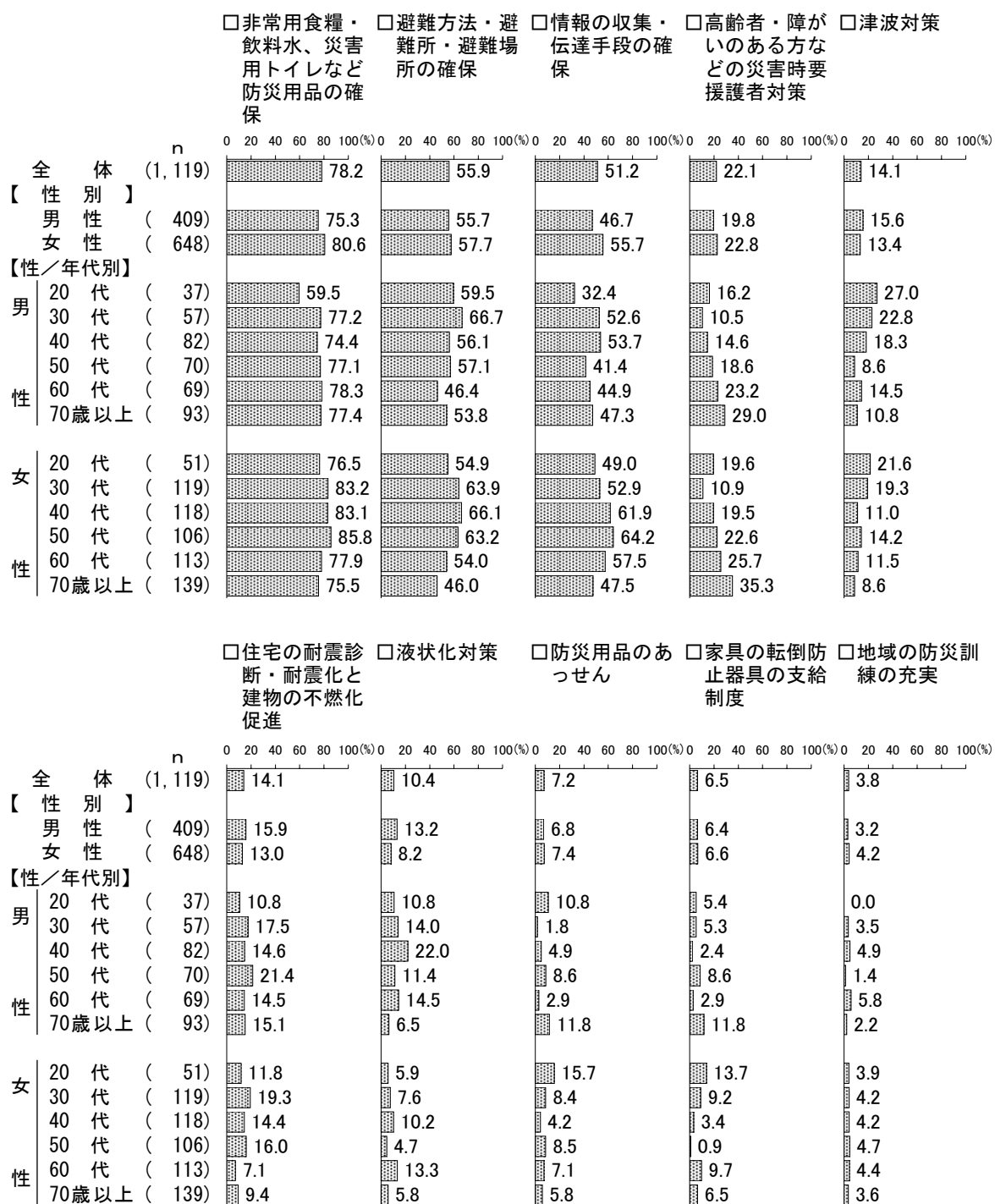
問 24 あなたが、大地震の際の防災対策として、大田区に特に力を入れてほしいことは何ですか。(〇は3つまで)

図 12-7-1



大地震の際の防災対策として、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」(78.2%)が8割近くで最も高く、次いで「避難方法・避難所・避難場所の確保」(55.9%)、「情報の収集・伝達手段の確保」(51.2%)、「高齢者・障がいのある方などの災害時要援護者対策」(22.1%)などの順になっている。(図 12-7-1)

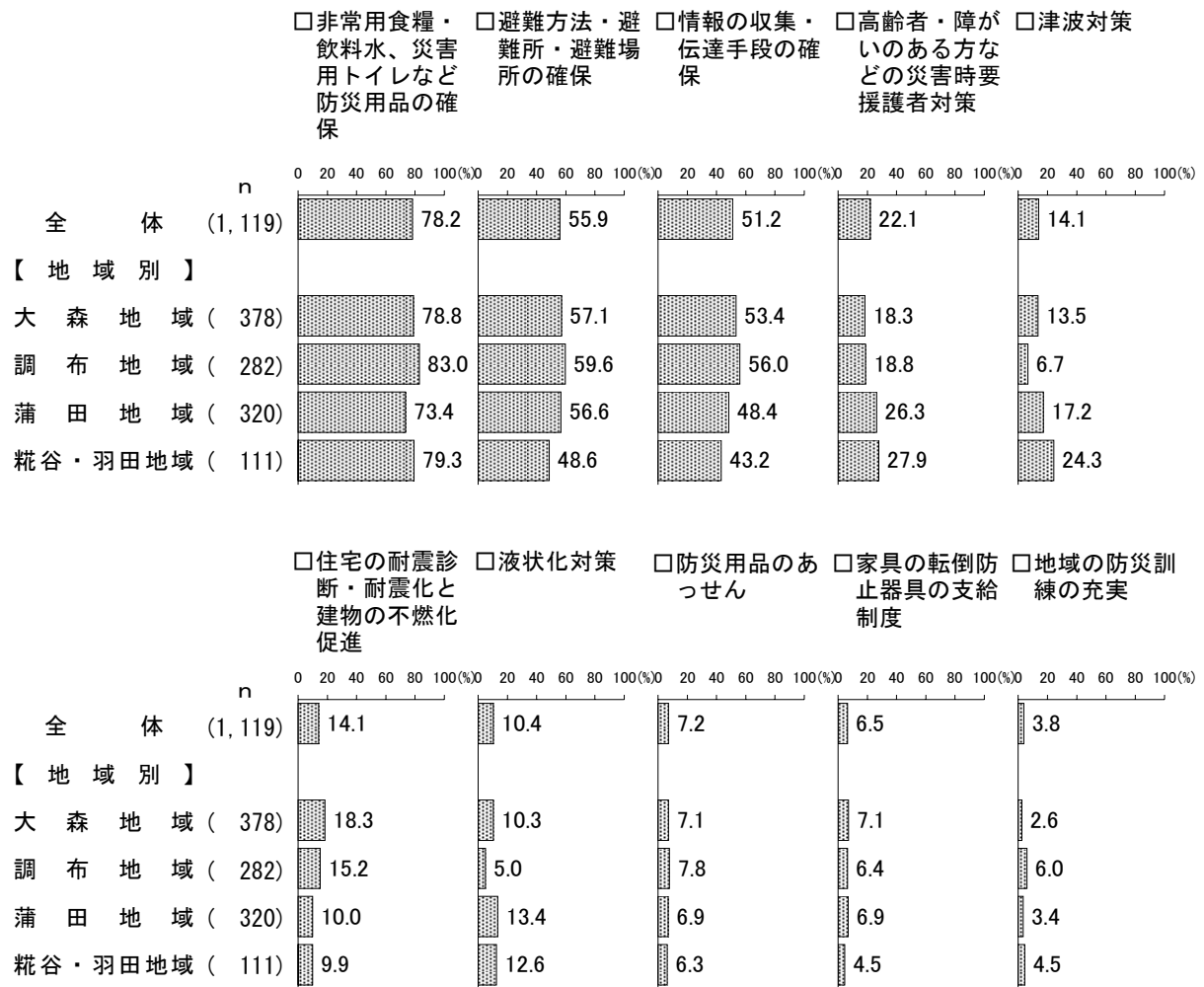
図 12-7-2 力を入れてほしい防災対策－性／年代別



性別で見ると、「情報の収集・伝達手段の確保」は女性（55.7%）が男性（46.7%）より9.0ポイント高くなっている。一方、「液状化対策」は男性（13.2%）が女性（8.2%）より5.0ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」は女性の30代（83.2%）、40代（83.1%）、50代（85.8%）で8割台と高くなっている。また、「避難方法・避難所・避難場所の確保」は男性30代（66.7%）と女性の30代（63.9%）、40代（66.1%）、50代（63.2%）で6割台と高くなっている。（図12-7-2）

図 12-7-3 力を入れてほしい防災対策—地域別



地域別でみると、「非常用食糧・飲料水、災害用トイレなど防災用品の確保」は調布地域（83.0%）で8割を超え、「避難方法・避難所・避難場所の確保」は調布地域（59.6%）で6割と高くなっている。（図12-7-3）

(8) 飼育している動物

◇「飼育している」は2割を超える

問 25 あなたの家庭では、どのような動物を飼育していますか。(〇はいくつでも)

図 12-8-1 動物の飼育状況

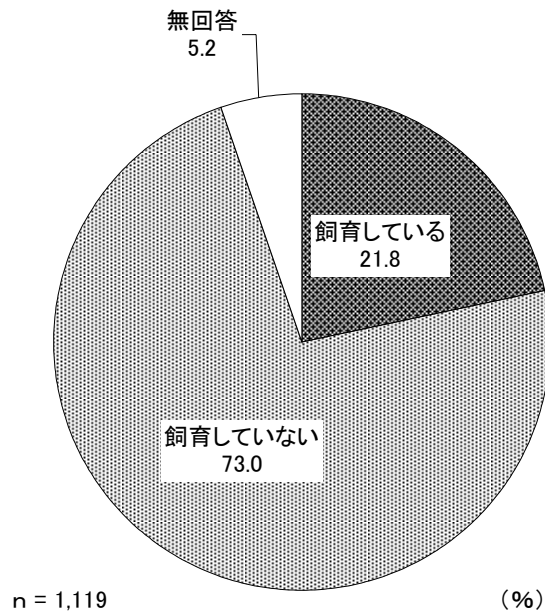
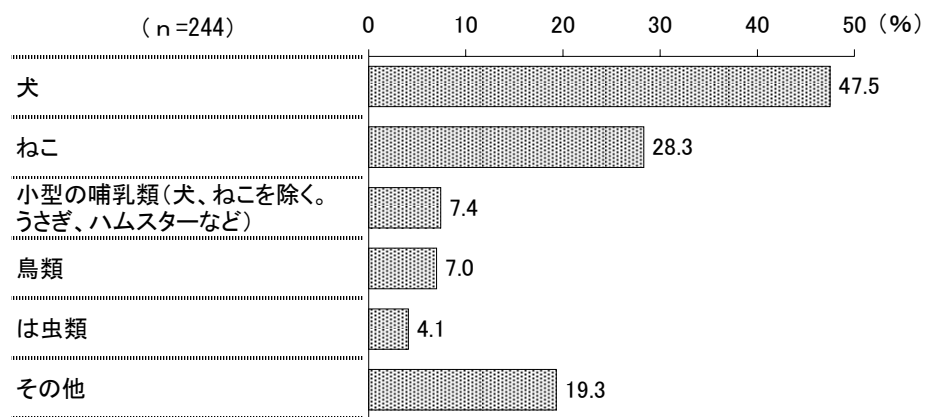


図 12-8-2 飼育している動物

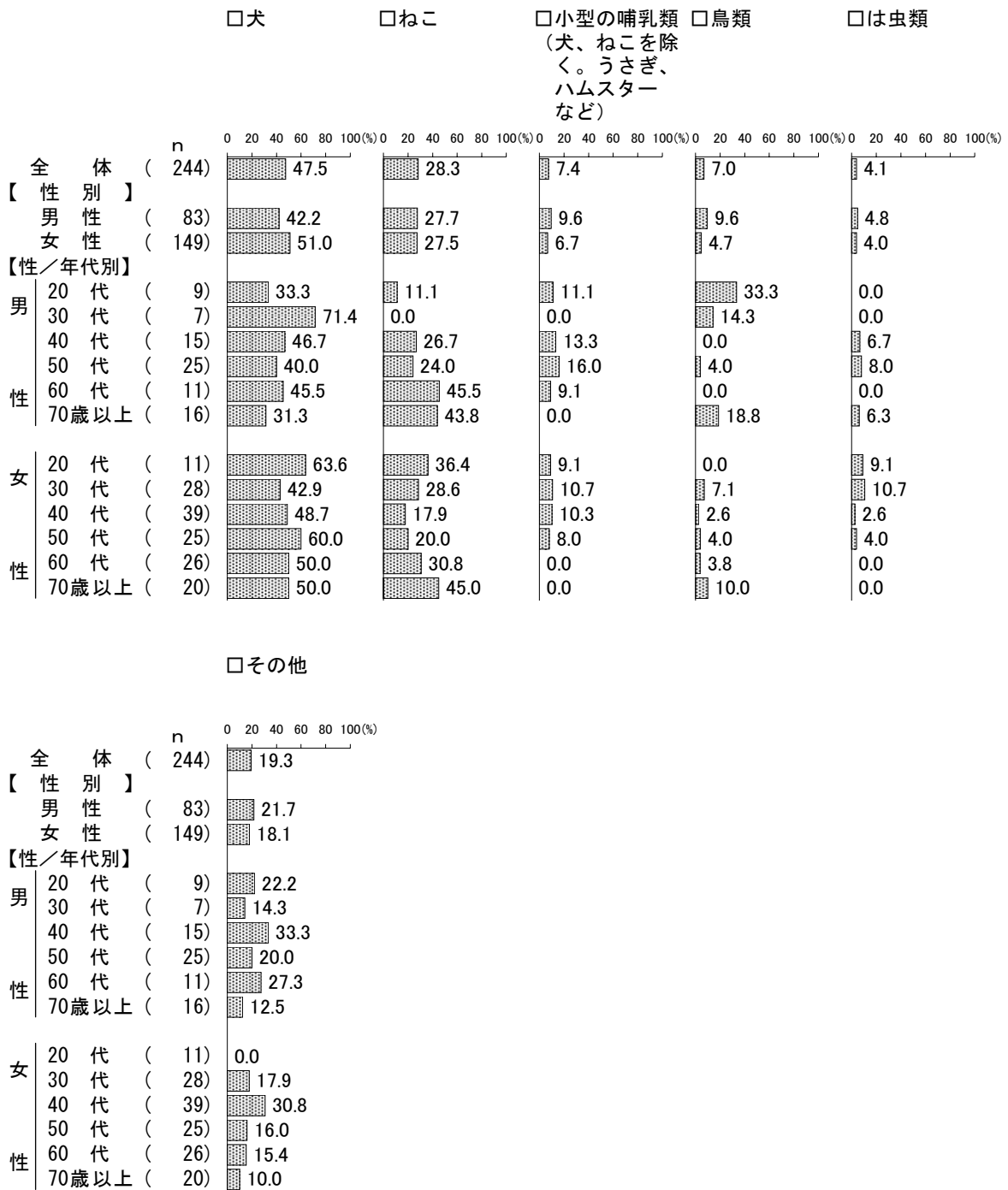


動物の飼育状況を聞いたところ、「飼育している」(21.8%)は2割を超え、「飼育していない」(73.0%)が7割を超えている。(図12-8-1)

「飼育している」人(244人)の飼育している動物をみると、「犬」(47.5%)が5割近くと最も高く、次いで「ねこ」(28.3%)、「小型の哺乳類(犬、ねこを除く。うさぎ、ハムスターなど)」(7.4%)、「鳥類」(7.0%)などの順になっている。

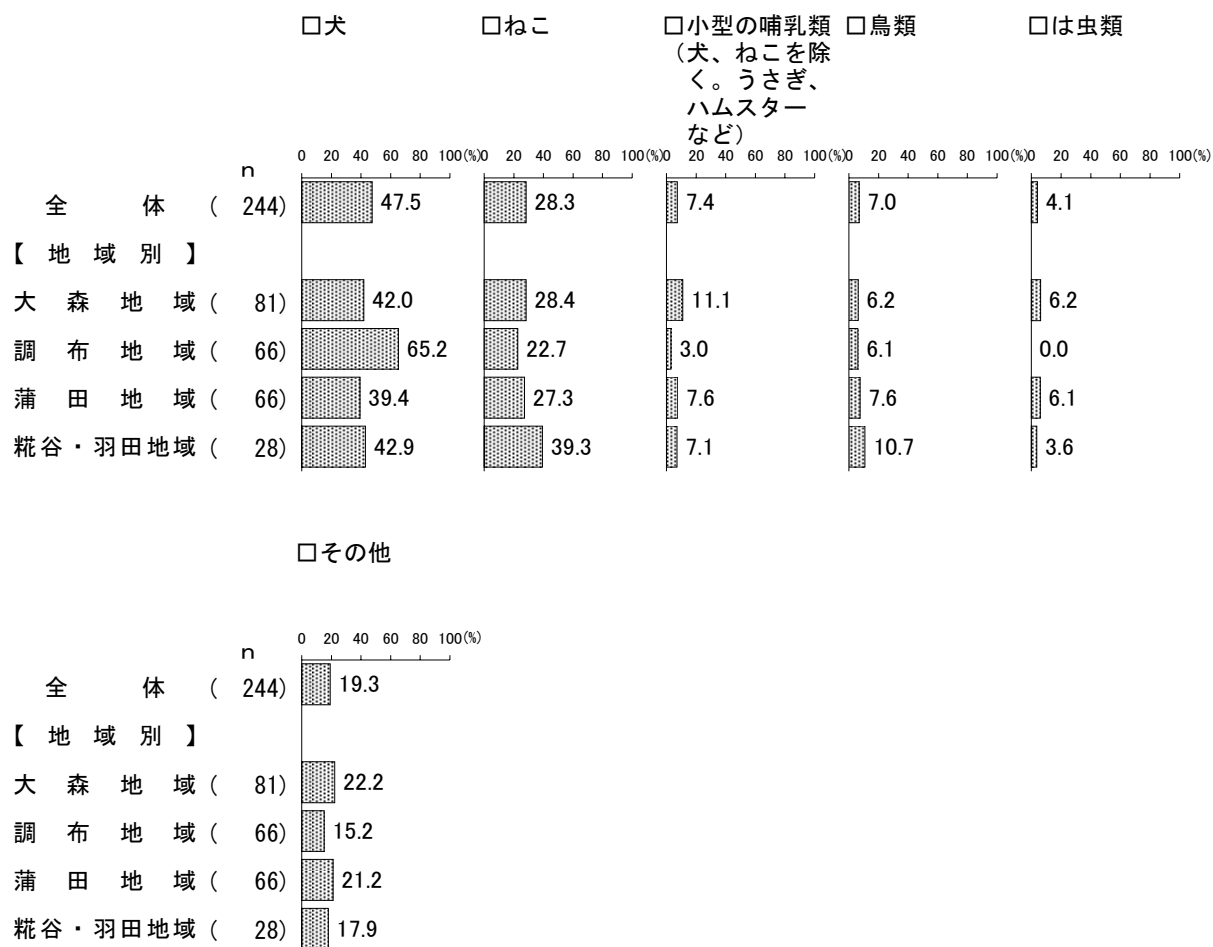
「その他」への回答として、「金魚」、「カメ」などがあげられている。(図12-8-2)

図 12-8-3 飼育している動物—性／年代別



性別で見ると、「犬」は女性（51.0%）が男性（42.2%）より8.8ポイント高くなっている。性／年代別で見ると、「犬」は男性30代（71.4%）、女性の20代（63.6%）と50代（60.0%）で6割以上と高くなっている。また、「ねこ」は男性の60代（45.5%）と70歳以上（43.8%）、女性70歳以上（45.0%）で4割台と高くなっている。（図12-8-3）

図 12-8-4 飼育している動物—地域別



地域別でみると、「犬」は調布地域（65.2%）で6割半ば、「ねこ」は糞谷・羽田地域（39.3%）で約4割と高くなっている。（図12-8-4）

(9) ペットと避難するための準備

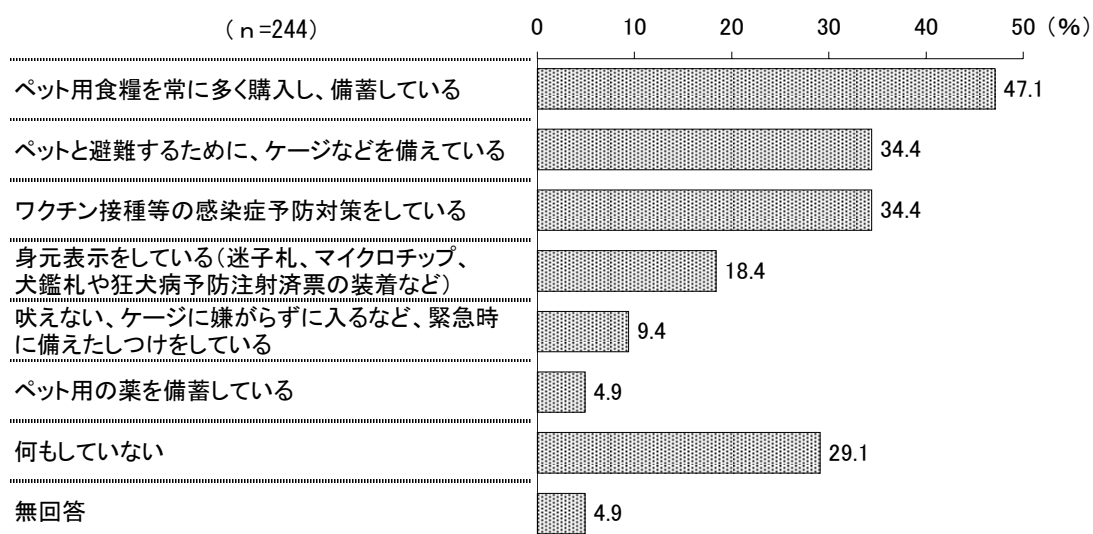
◇「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」が5割近く

(問 25 で、「動物を飼育している」と回答した方に)

問 25-1 東日本大震災の被災地では、自宅に残したペットが餓死をしたり、ペットと車の中で過ごしていた飼主がエコノミー症候群で死亡するなどの事例が報告されています。ペットと避難するための準備として、どのような取り組みをしていますか。

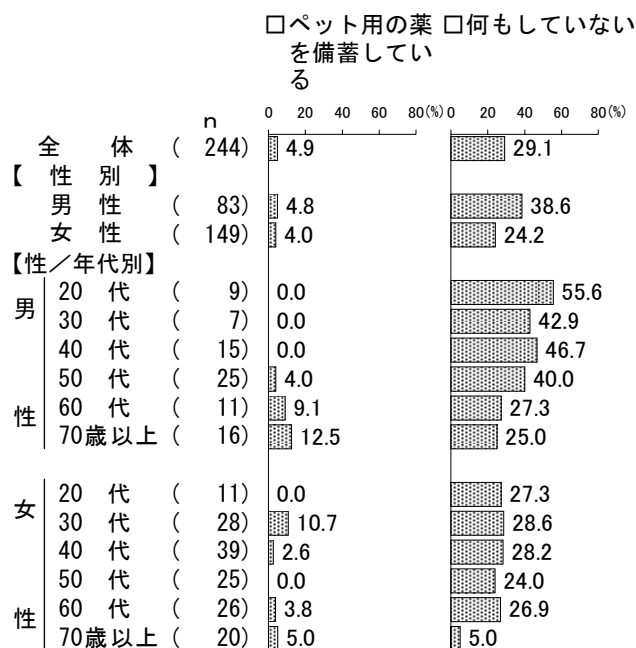
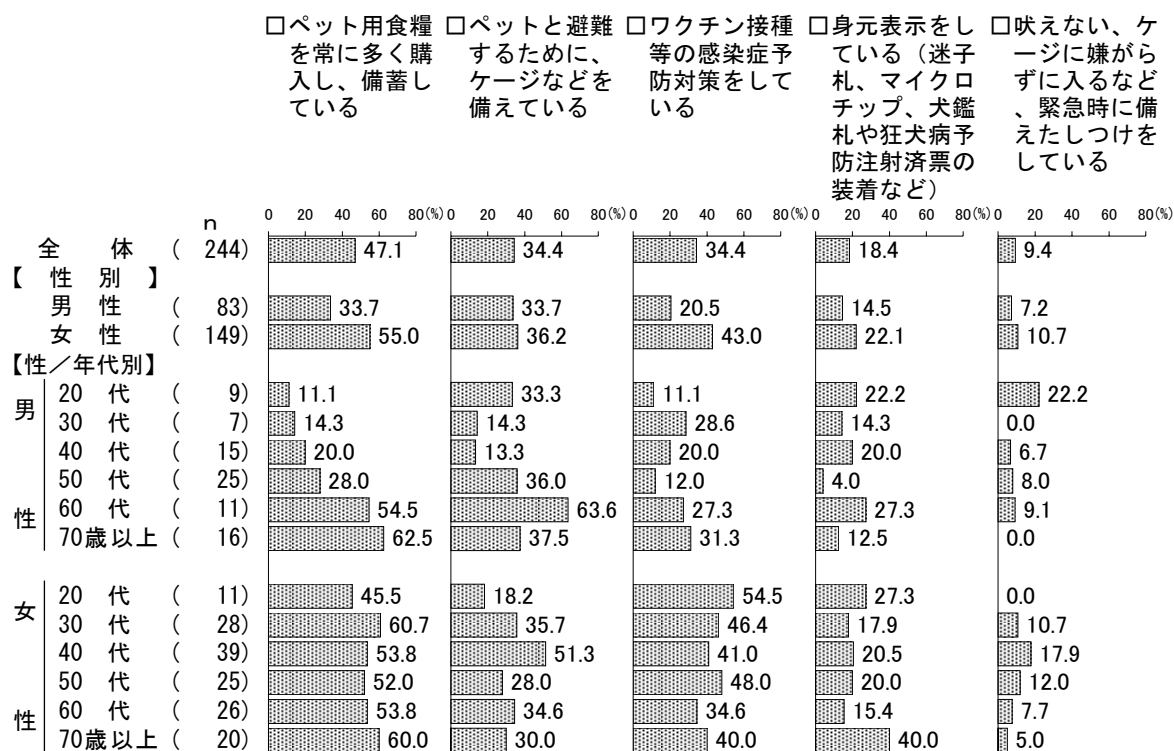
(○はいくつでも)

図 12-9-1



「動物を飼育している」と答えた人(244人)に、ペットと避難するための準備として、どのような取り組みをしているか聞いたところ、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」(47.1%)が5割近くで最も高く、次いで「ペットと避難するために、ケージなどを備えている」と「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」(ともに34.4%)、「身元表示をしている(迷子札、マイクロチップ、犬鑑札や狂犬病予防注射済票の装着など)」(18.4%)、「吠えない、ケージに嫌がらずに入るなど、緊急時に備えたしつけをしている」(9.4%)などの順になっている。一方、「何もしていない」(29.1%)は約3割となっている。(図12-9-1)

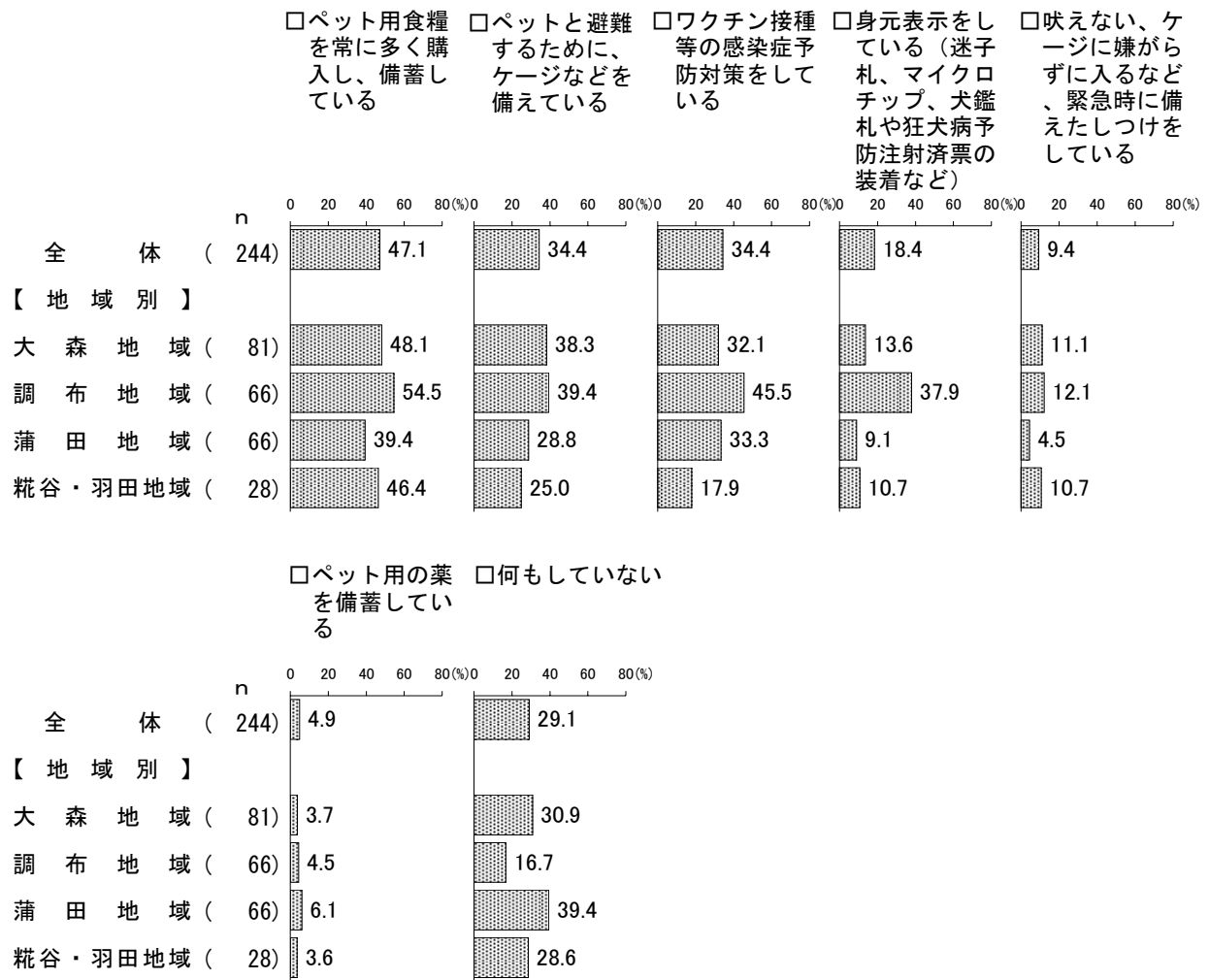
図 12-9-2 ペットと避難するための準備－性／年代別



性別でみると、「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」は女性（43.0%）が男性（20.5%）より22.5ポイント高く、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は女性（55.0%）が男性（33.7%）より21.3ポイント高くなっている。一方、「何もしていない」は男性（38.6%）が女性（24.2%）より14.4ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は男性では年代が高くなるほど割合が高くなっている。また、「ペットと避難するために、ケージなどを備えている」は男性60代（63.6%）と女性40代（51.3%）で5割以上と高くなっている。（図12-9-2）

図 12-9-3 ペットと避難するための準備—地域別



地域別でみると、「ペット用食糧を常に多く購入し、備蓄している」は調布地域（54.5%）で5割半ば、「ワクチン接種等の感染症予防対策をしている」は調布地域（45.5%）で4割半ばと高くなっている。一方、「何もしていない」は蒲田地域（39.4%）で約4割と高くなっている。

(図12-9-3)

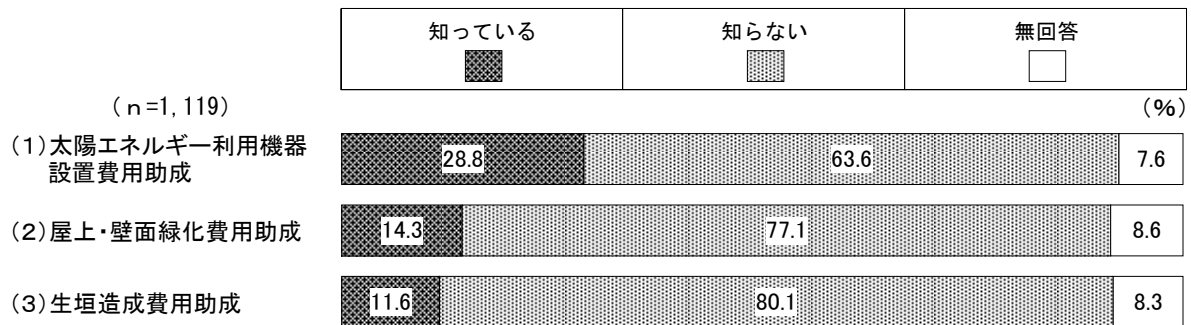
13. 緑化推進・省エネ推進

(1) エコライフ活動・緑化活動推進のための一部助成の認知度

◇「知っている」は“太陽エネルギー利用機器設置費用助成”で3割近く

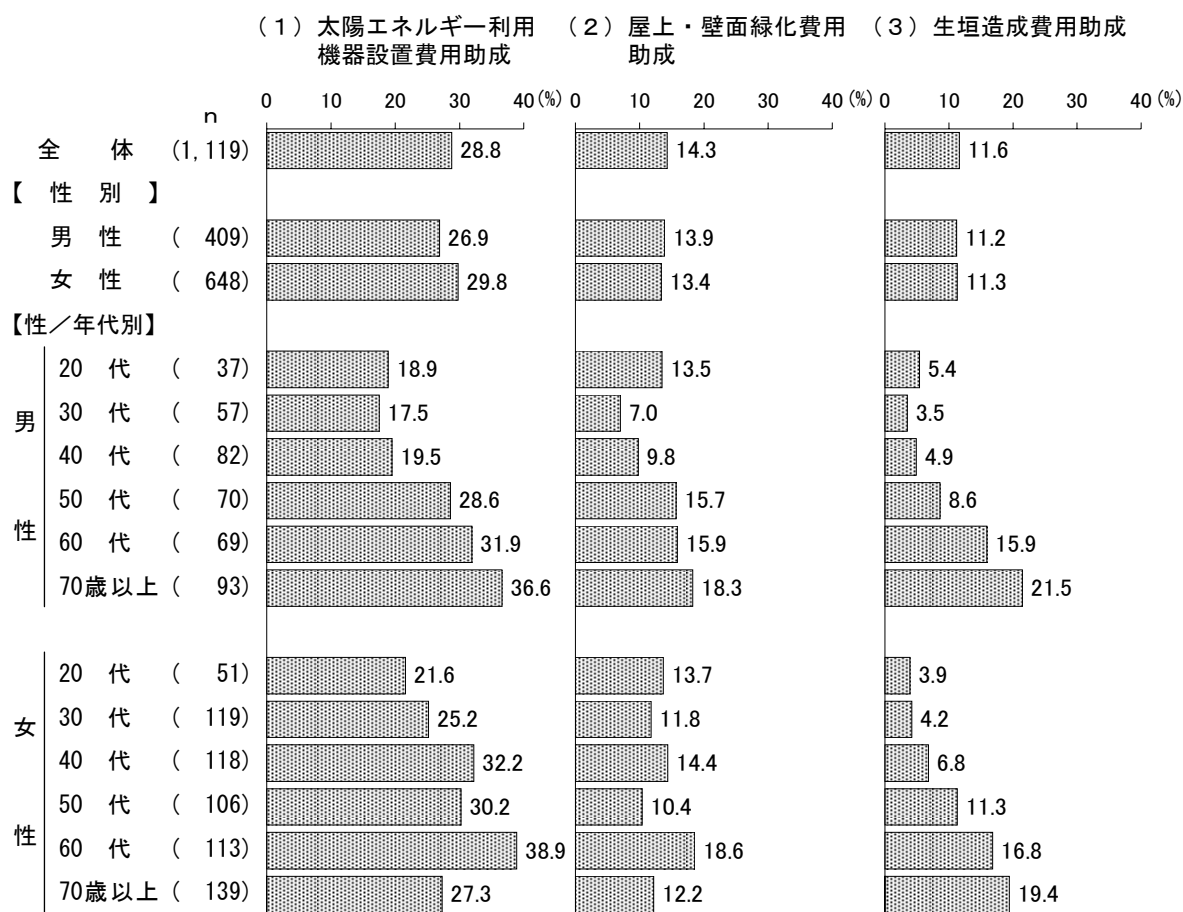
問 26 エコライフ活動・緑化活動を推進するにあたり、大田区では工事費等の一部費用を助成しています。あなたは、下記制度についてご存知ですか。(○はそれぞれ1つ)

図 13-1-1



エコライフ活動・緑化活動を推進するにあたり、工事費等の一部費用を助成する制度を知っているか聞いたところ、「知っている」は“太陽エネルギー利用機器設置費用助成”（28.8%）で3割近く、“屋上・壁面緑化費用助成”（14.3%）で1割半ば、“生垣造成費用助成”（11.6%）で1割を超えている。（図 13-1-1）

図 13-1-2 エコライフ活動・緑化活動推進のための一部助成の認知度
 一性／年代別（「知っている」回答率）

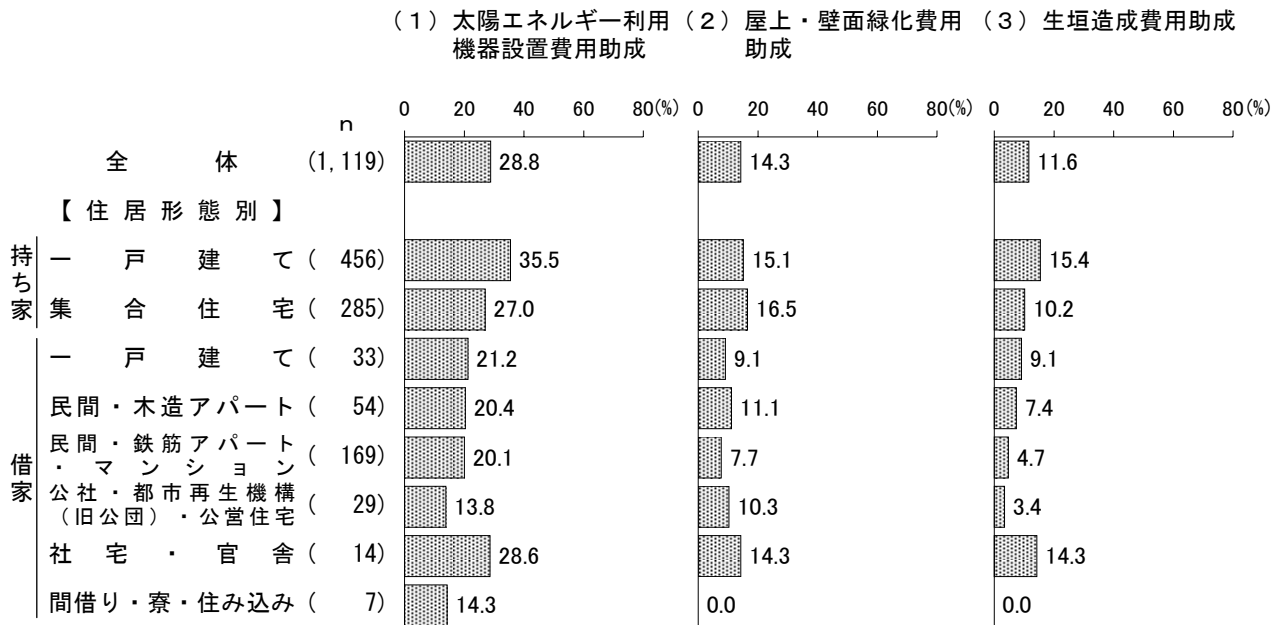


「知っている」のみの回答率を性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、“太陽エネルギー利用機器設置費用助成”は女性60代（38.9%）で4割近く、男性ではおおむね年代が高くなるほど割合が高くなっている。また、“生垣造成費用助成”は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上（21.5%）で2割を超え高くなっている。（図13-1-2）

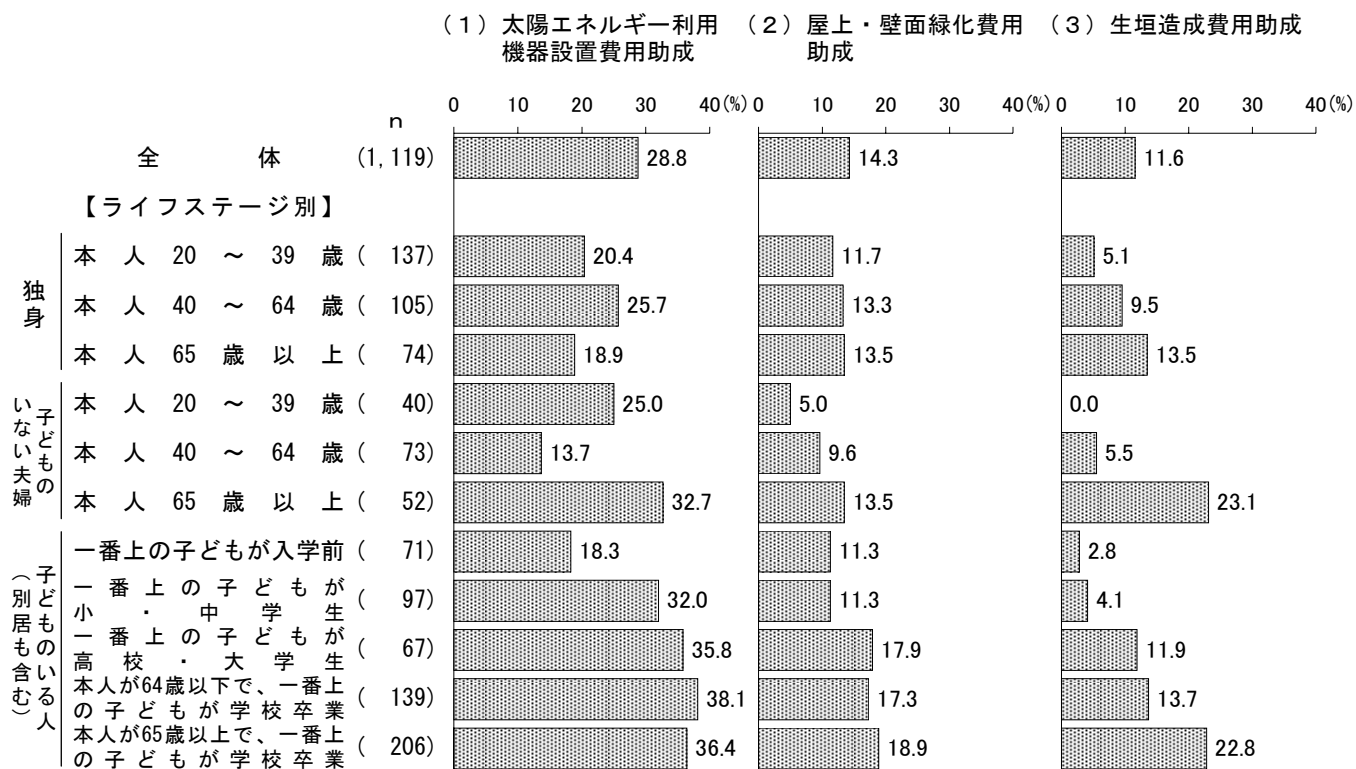
図 13-1-3 エコライフ活動・緑化活動推進のための一部助成の認知度

－住居形態別（「知っている」回答率）



「知っている」のみの回答率を住居形態別で見ると、“太陽エネルギー利用機器設置費用助成”は持ち家／一戸建て（35.5%）で3割半ばと高くなっている。また、“屋上・壁面緑化費用助成”は持ち家／集合住宅（16.5%）で2割近く、“生垣造成費用助成”は持ち家／一戸建て（15.4%）で1割半ばと高くなっている。（図 13-1-3）

図 13-1-4 エコライフ活動・緑化活動推進のための一部助成の認知度
 —ライフステージ別（「知っている」回答率）



「知っている」のみの回答率をライフステージ別で見ると、“太陽エネルギー利用機器設置費用助成”は子どものいる人（別居も含む）／本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業（38.1%）で4割近くと高くなっている。また、“生垣造成費用助成”は子どものいない夫婦／本人65歳以上（23.1%）と子どものいる人（別居も含む）／本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業（22.8%）で2割を超え高くなっている。（図 13-1-4）

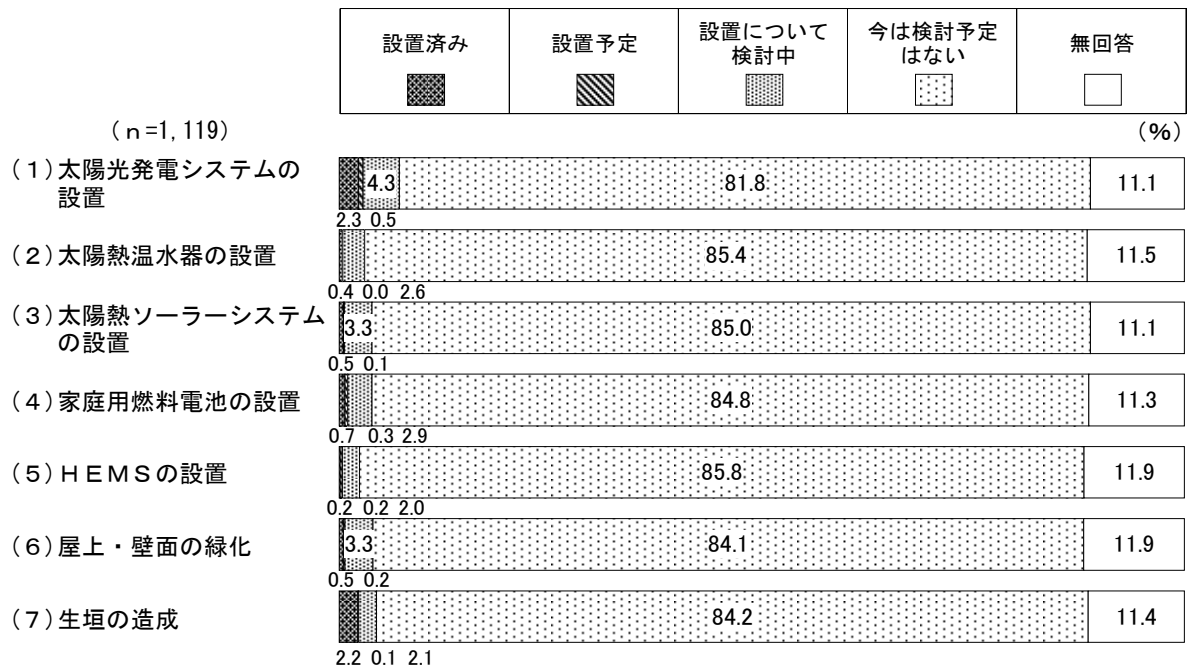
(2) エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況

◇「今は検討予定はない」が全ての設備で8割台

問 27 あなたは、今後、ご自宅でもできるエコライフ活動・緑化活動に関する下記の内容について、設置される予定はありますか。(○はそれぞれ1つ)

- ※1 太陽電池を利用し、太陽光のエネルギーを直接的に電力に変換する発電方式のシステム
- ※2 太陽光に含まれる赤外線を利用することで水を温める装置で、建物の屋根の上に設置する集熱器とタンクが一体となっているもの
- ※3 太陽光に含まれる赤外線を利用することで水を温める装置で、タンクと集熱器を分離させたもの
- ※4 ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と化学反応させて発電し、同時に発生する熱を給湯や暖房に利用するもの
- ※5 住宅用エネルギー管理システム。住宅内のエネルギー消費機器や発電設備をネットワークでつなぎ、各機器を最適な状態に制御し、省エネを実現するシステム

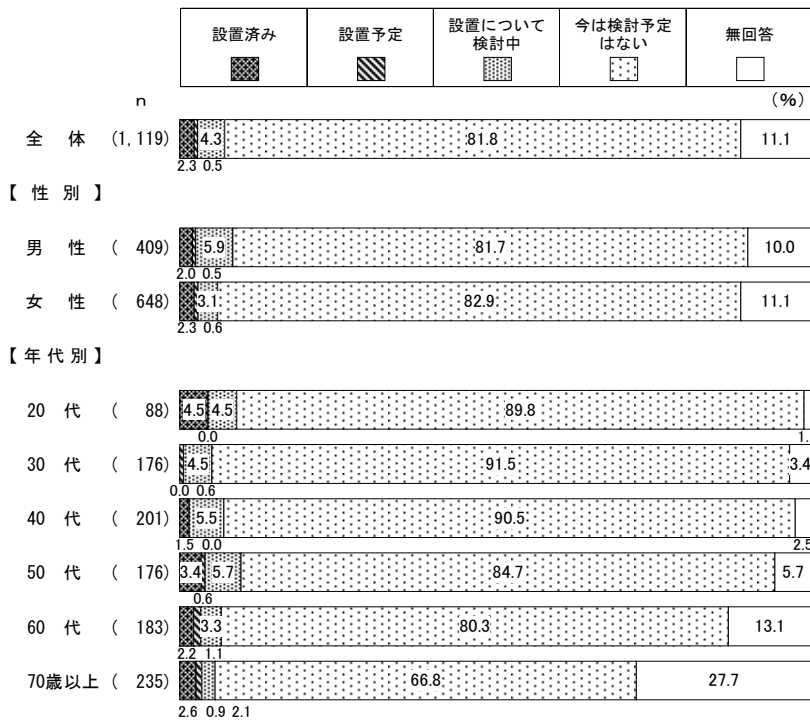
図 13-2-1



エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況を聞いたところ、「今は検討予定はない」が全ての設備で8割台となっている。一方、「設置済み」、「設置予定」、「設置について検討中」は全ての設備でわずかとなっている。(図 13-2-1)

図 13-2-2 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別

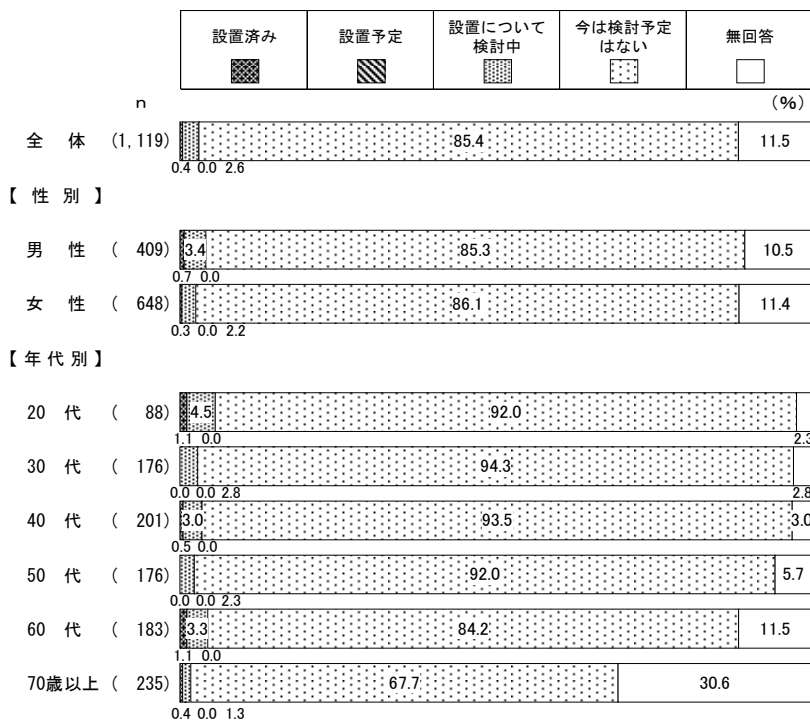
【(1) 太陽光発電システムの設置】



“太陽光発電システムの設置”を性別で見ると、大きな違いはみられない。年代別で見ると、「今は検討予定はない」は30代(91.5%)と40代(90.5%)で9割台と高くなっている。(図13-2-2)

図13-2-3 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別

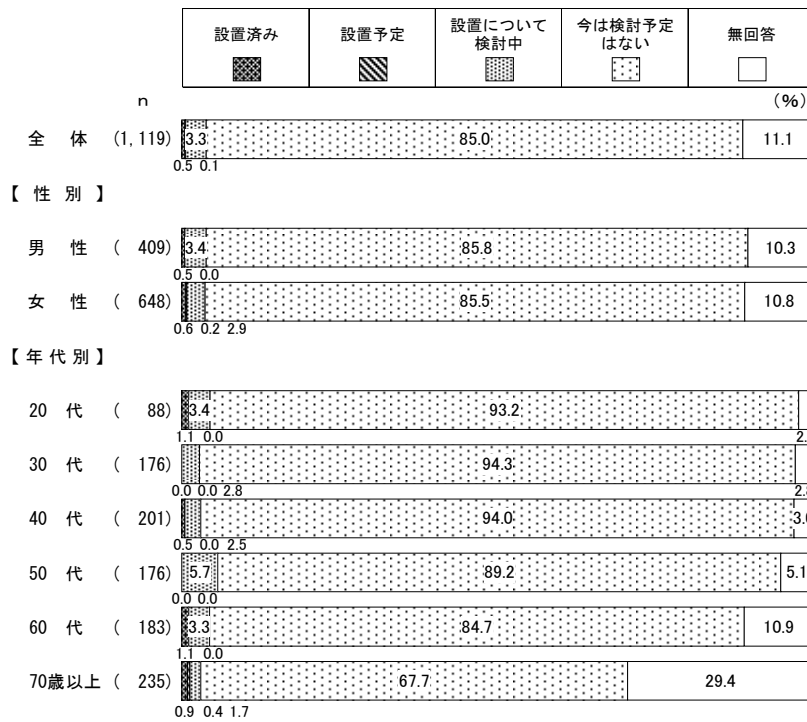
【(2) 太陽熱温水器の設置】



“太陽熱温水器の設置”を性別で見ると、大きな違いはみられない。年代別で見ると、大きな違いはみられない。(図13-2-3)

図 13-2-4 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別

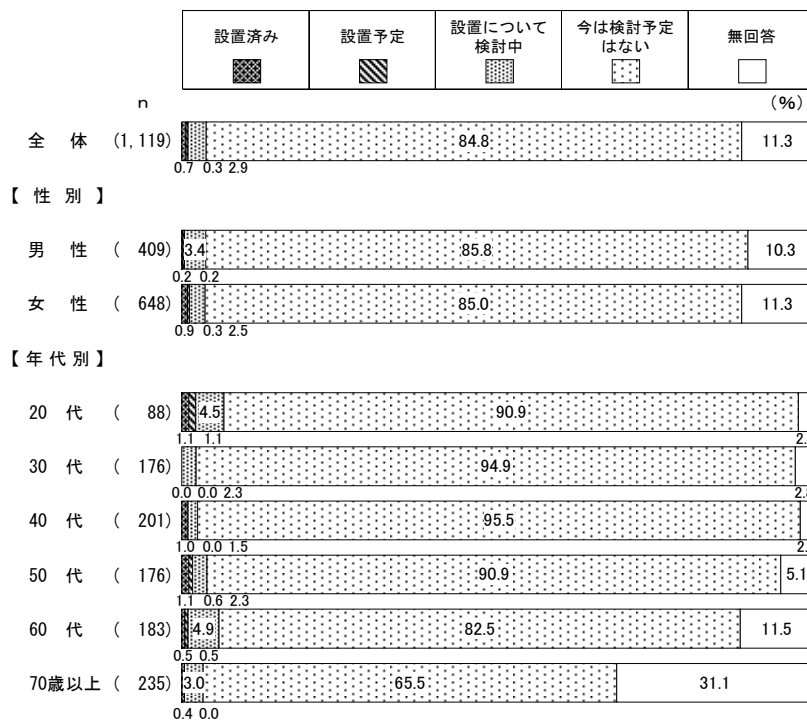
【(3) 太陽熱ソーラーシステムの設置】



“太陽熱ソーラーシステムの設置”を性別で見ると、大きな違いはみられない。年代別で見ると、「今は検討予定はない」は20代（93.2%）、30代（94.3%）、40代（94.0%）で9割台と高くなっている。（図13-2-4）

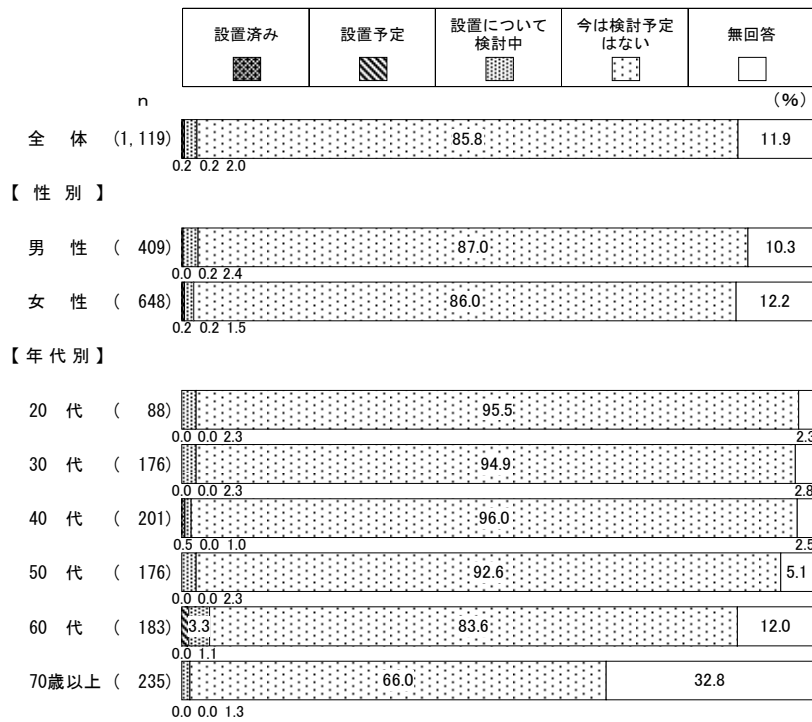
図 13-2-5 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別

【(4) 家庭用燃料電池の設置】



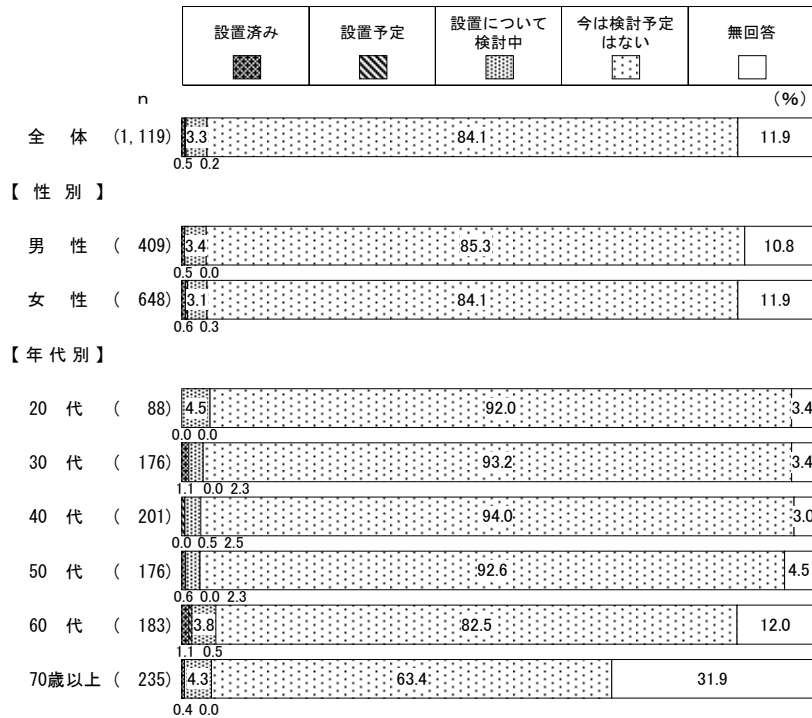
“家庭用燃料電池の設置”を性別で見ると、大きな違いはみられない。年代別で見ると、大きな違いはみられない。（図13-2-5）

図 13-2-6 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別
【(5) HEMS の設置】



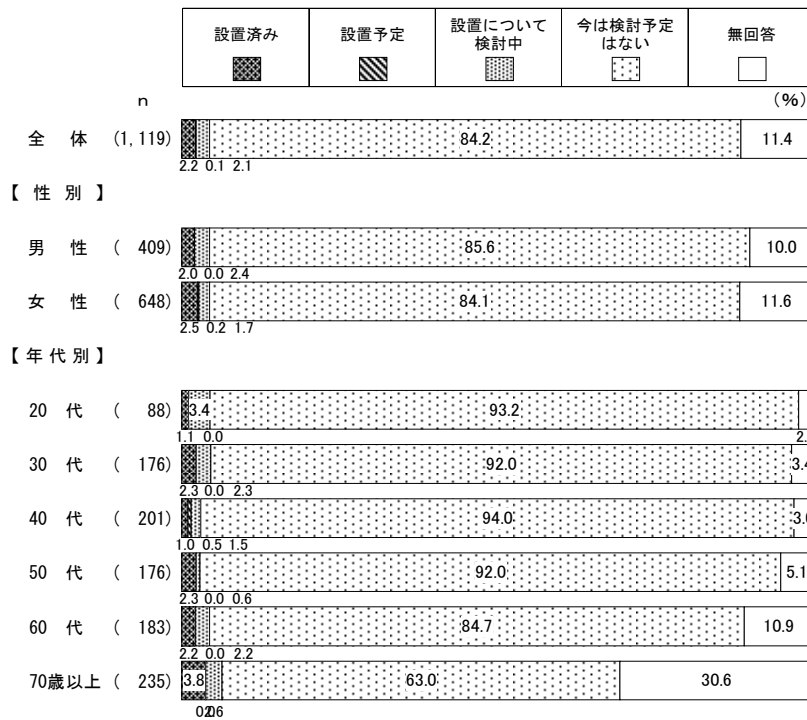
“HEMS の設置” を性別で見ると、大きな違いはみられない。
年代別で見ると、大きな違いはみられない。(図13-2-6)

図 13-2-7 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別
【(6) 屋上・壁面の緑化】



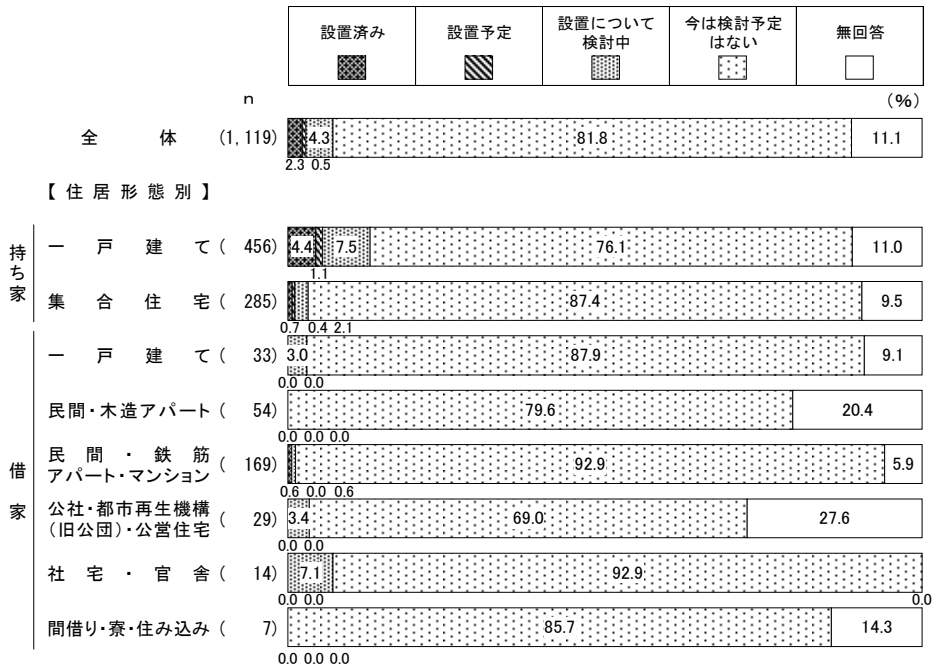
“屋上・壁面の緑化” を性別で見ると、大きな違いはみられない。
年代別で見ると、大きな違いはみられない。(図13-2-7)

図 13-2-8 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－性別、年代別
【(7) 生垣の造成】



“生垣の造成”を性別で見ると、大きな違いはみられない。
年代別で見ると、大きな違いはみられない。(図13-2-8)

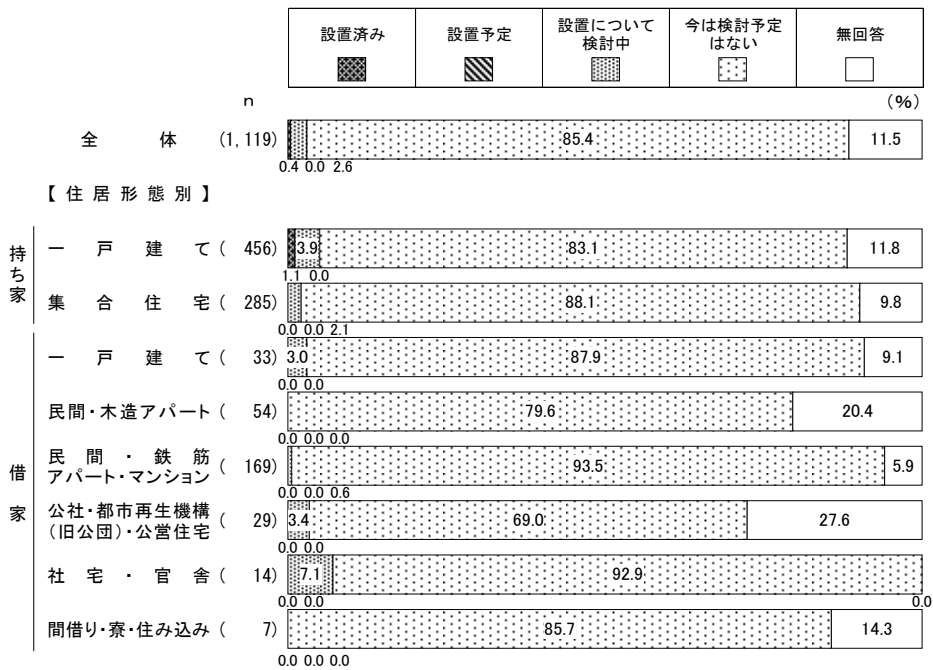
図 13-2-9 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別
【(1) 太陽光発電システムの設置】



“太陽光発電システムの設置”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (92.9%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-9)

図 13-2-10 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

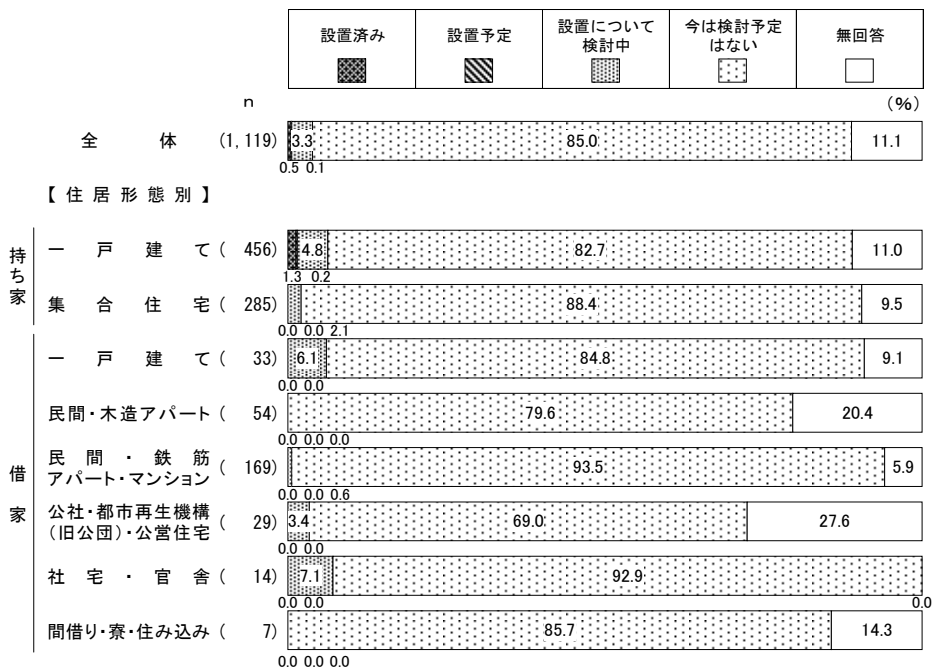
【(2) 太陽熱温水器の設置】



“太陽熱温水器の設置”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (93.5%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-10)

図 13-2-11 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

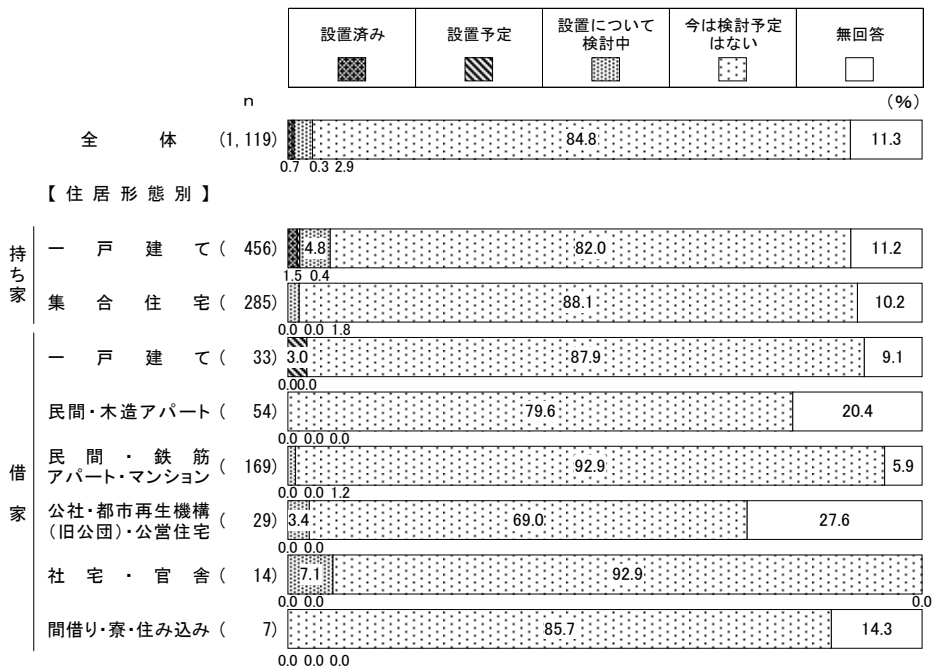
【(3) 太陽熱ソーラーシステムの設置】



“太陽熱ソーラーシステムの設置”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (93.5%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-11)

図 13-2-12 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

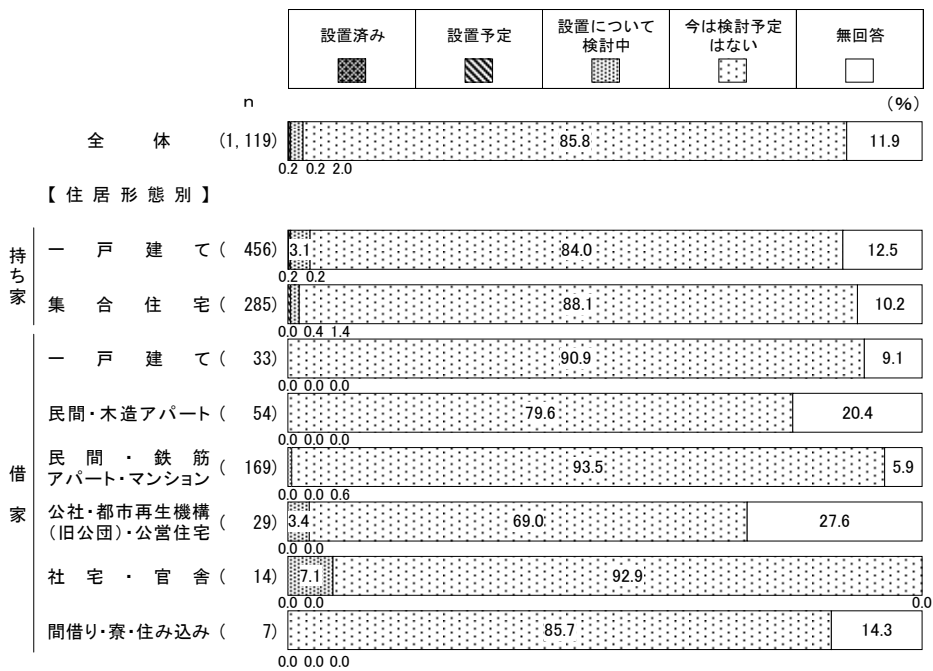
【(4) 家庭用燃料電池の設置】



“家庭用燃料電池の設置”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (92.9%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-12)

図 13-2-13 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

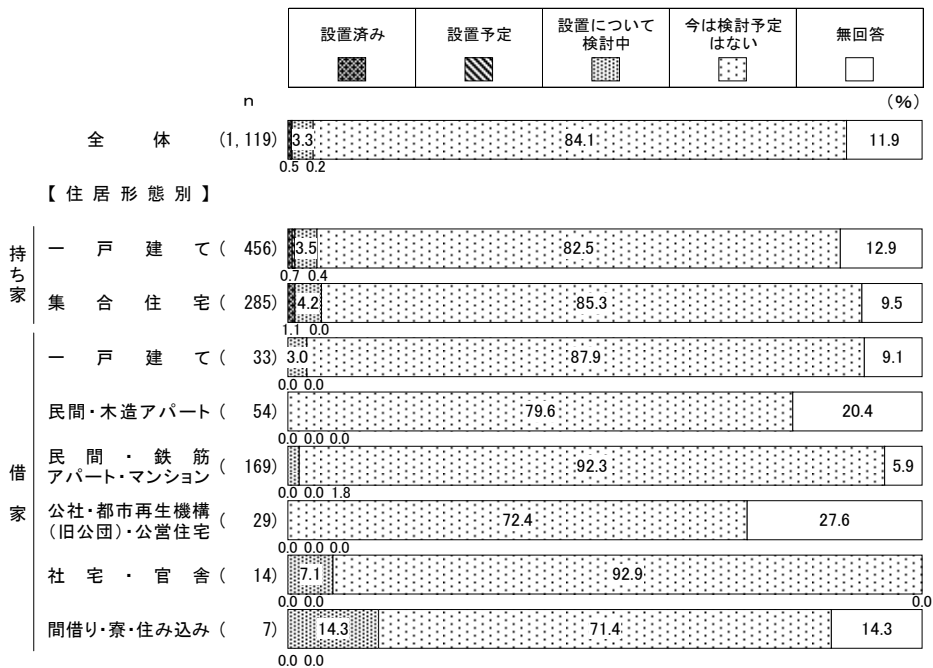
【(5) HEMSの設置】



“HEMSの設置”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (93.5%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-13)

図 13-2-14 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

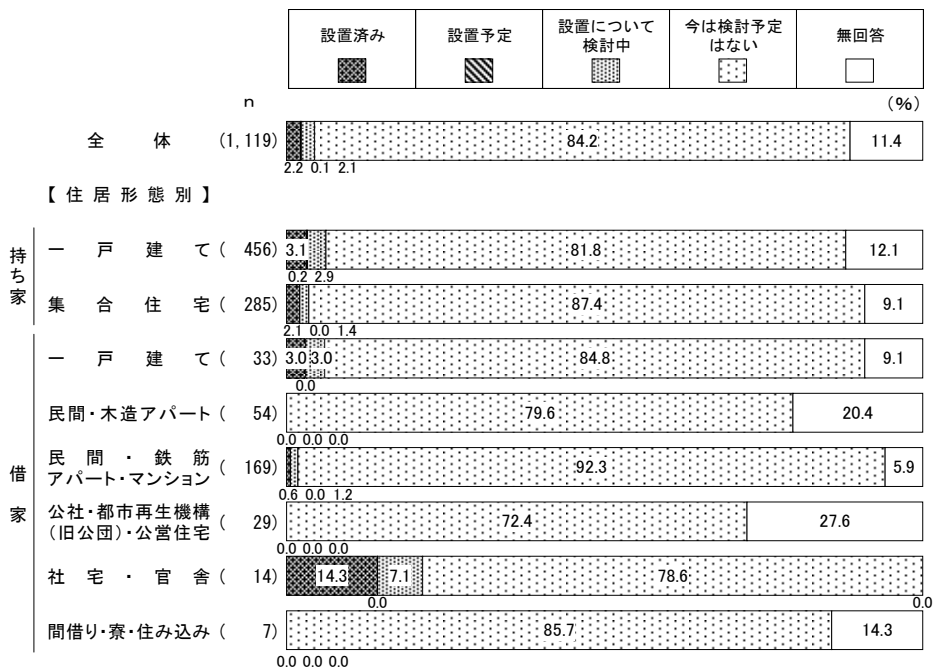
【(6) 屋上・壁面の緑化】



“屋上・壁面の緑化”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (92.3%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-14)

図 13-2-15 エコライフ活動・緑化活動に関する設備の設置状況－住居形態別

【(7) 生垣の造成】



“生垣の造成”を住居形態別で見ると、「今は検討予定はない」は借家／民間・鉄筋アパート・マンション (92.3%) で9割を超え高くなっている。(図 13-2-15)

14. 地球環境

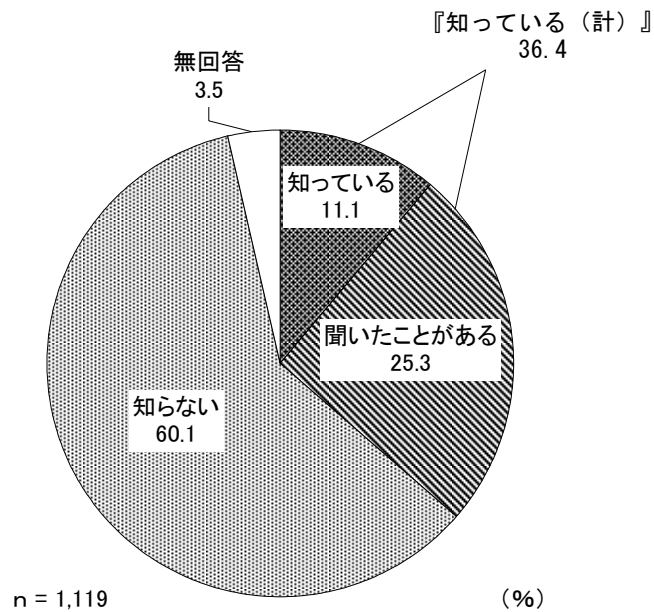
(1) 「生物多様性」の認知度

◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は3割半ば

問 28 大田区では、平成 24 年 3 月に大田区環境基本計画を作成し、生物多様性の保全に取り組んでいます。あなたは、「生物多様性」をご存知ですか。(○は1つだけ)

※「生物多様性」とは、あらゆる生物種の多さと、生態系の豊かさやバランスが保たれている状態を言い、さらに、生物の遺伝子の多様さまでを含めた幅広い概念です。

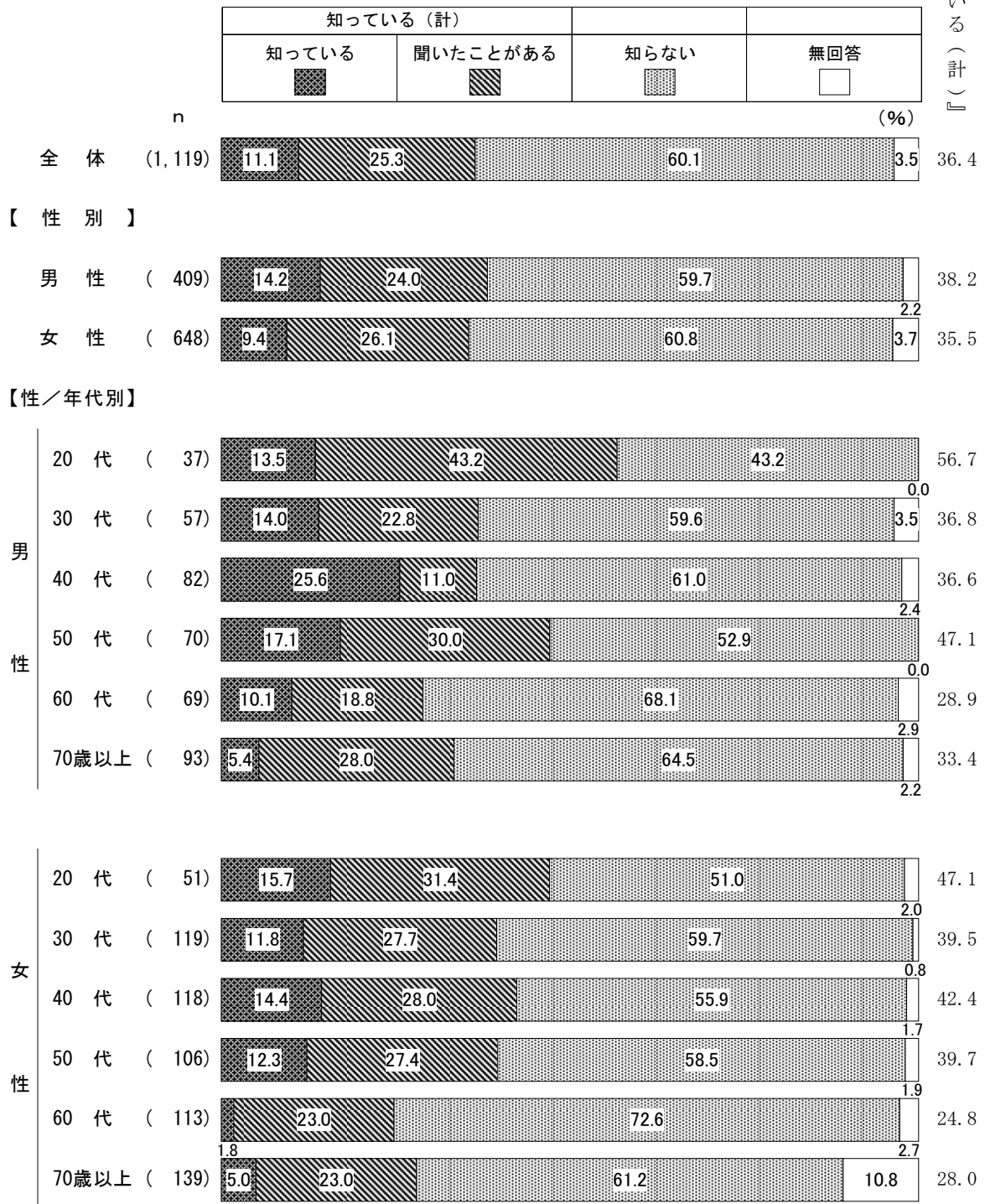
図 14-1-1



「生物多様性」を知っているか聞いたところ、「知っている」(11.1%)と「聞いたことがある」(25.3%)を合わせた『知っている(計)』(36.4%)は3割半ばとなっている。一方、「知らない」(60.1%)が6割となっている。(図 14-1-1)

図 14-1-2 「生物多様性」の認知度－性／年代別

『知っている（計）』



性別で見ると、「知っている」は男性（14.2%）が女性（9.4%）より4.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『知っている（計）』は男性20代（56.7%）で6割近くと高くなっている。一方、「知らない」は女性60代（72.6%）で7割を超え高くなっている。（図14-1-2）

(2) 「コアジサシ」の認知度

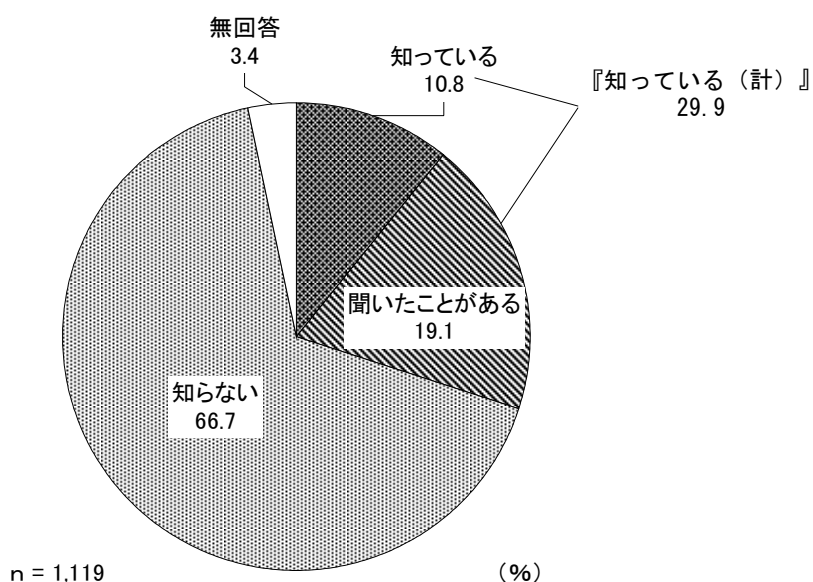
◇「知っている」と「聞いたことがある」を合わせた『知っている(計)』は3割

問 29 生物多様性の保全の取り組みのひとつとして、絶滅の恐れのある渡り鳥「コアジサシ」※1の営巣地の整備作業をNPOと一緒にを行っています。あなたは、「コアジサシ」をご存知ですか。(○は1つだけ)

※1 「コアジサシ」とは、日本には夏鳥として渡ってきて、海岸の砂浜や河川の河原・中州でコロニーと呼ばれる集団を作り、繁殖します。環境省レッドリスト※2では、「絶滅危惧Ⅱ類(VU)」に指定されています。

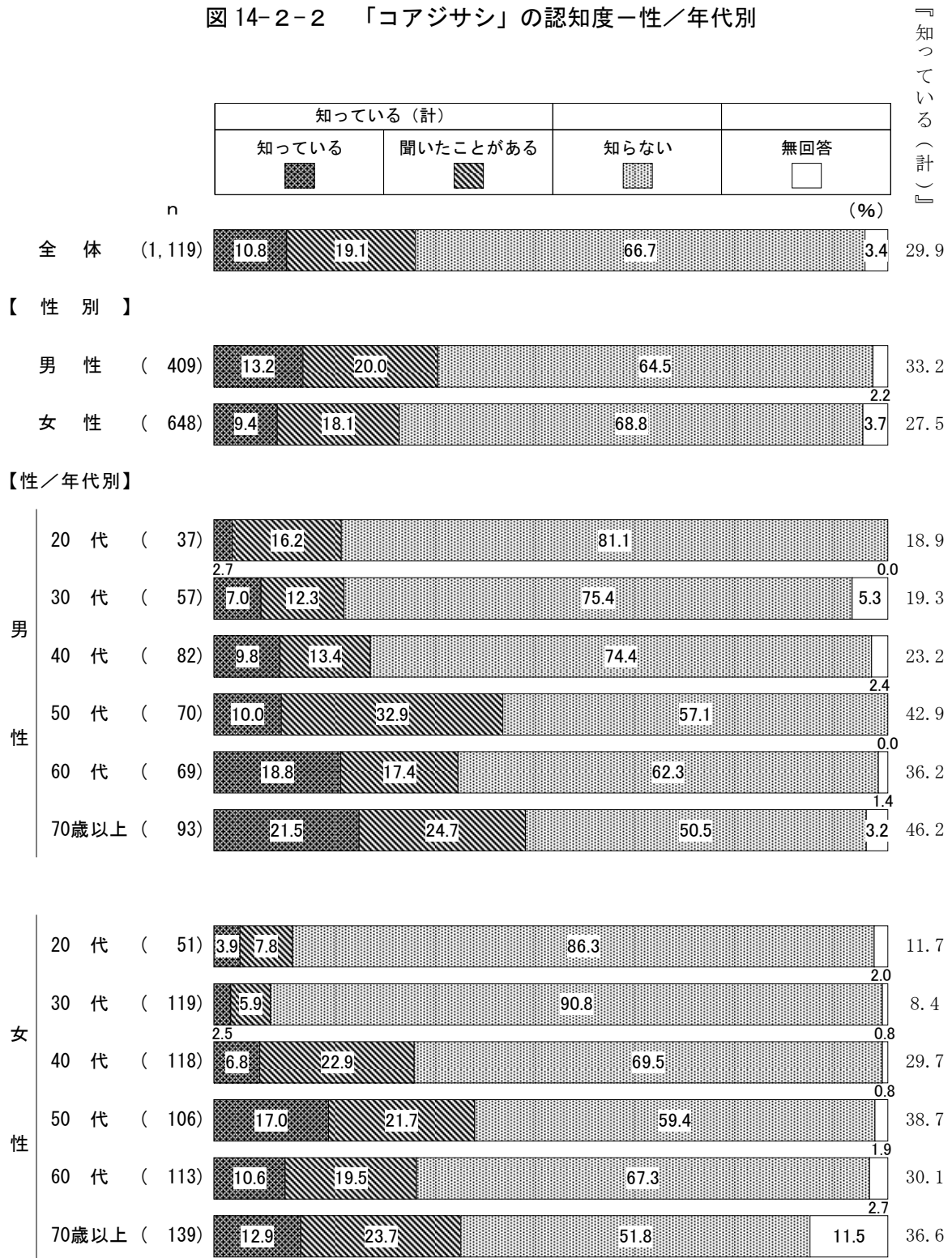
※2 「環境省レッドリスト」とは、環境省が整理した保護が必要な生物のリスト。危険度が高い順にEX、EW、CR、VU、NT、DD、LPの7ランクで評価。

図 14-2-1



「コアジサシ」を知っているか聞いたところ、「知っている」(10.8%)と「聞いたことがある」(19.1%)を合わせた『知っている(計)』(29.9%)は3割となっている。一方、「知らない」(66.7%)が7割近くとなっている。(図 14-2-1)

図 14-2-2 「コアジサシ」の認知度－性／年代別



性別で見ると、『知っている（計）』は男性（33.2%）が女性（27.5%）より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『知っている（計）』は男性の50代（42.9%）と70歳以上（46.2%）で4割台と高くなっている。一方、「知らない」は女性30代（90.8%）で約9割と高くなっている。

(図14-2-2)

15. 清掃・リサイクルの推進

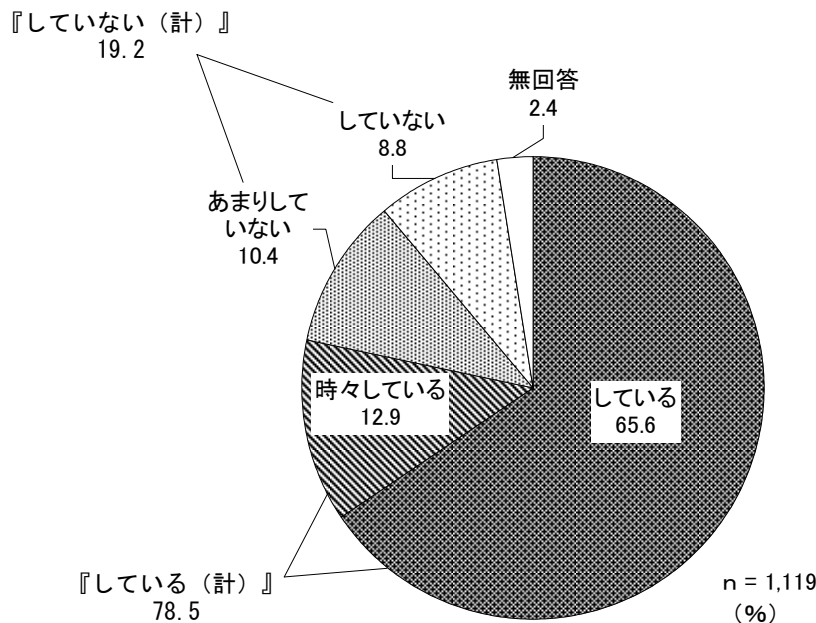
(1) 紙ごみの分別状況

◇「している」と「時々している」を合わせた『している(計)』が8割近く

問 30 あなたの家庭で資源化できる紙ごみの分別はしていますか。(○は1つだけ)

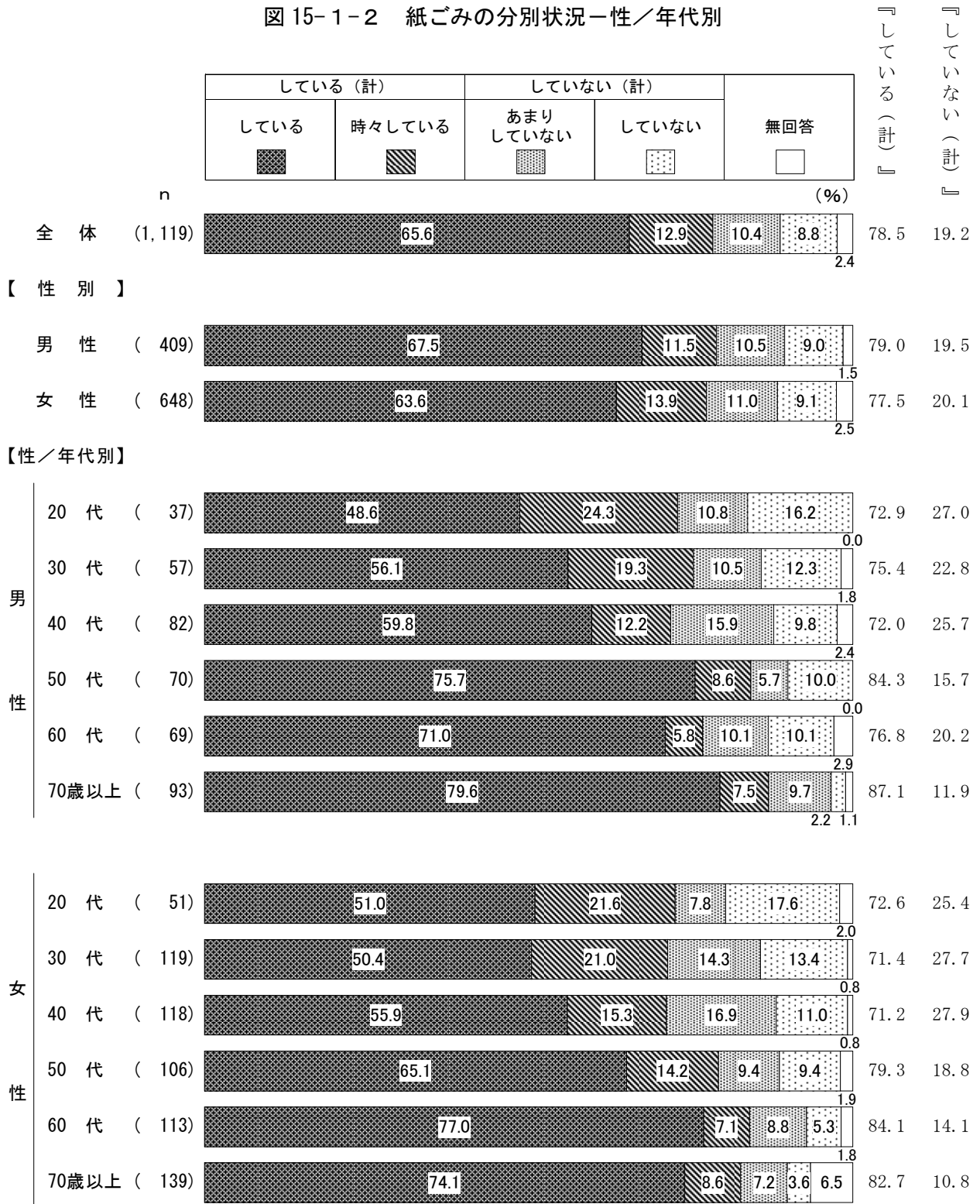
※区が収集した可燃ごみの中には、資源化できるトイレトペーパーやラップの芯・包装紙・封筒・菓子箱・ティッシュの箱・紙袋などの紙ごみ(雑がみ)が20%入っています。雑がみは、紙袋に入れてしばって「資源」の日に出していただくとごみの減量と資源化を進めることができます。

図 15-1-1



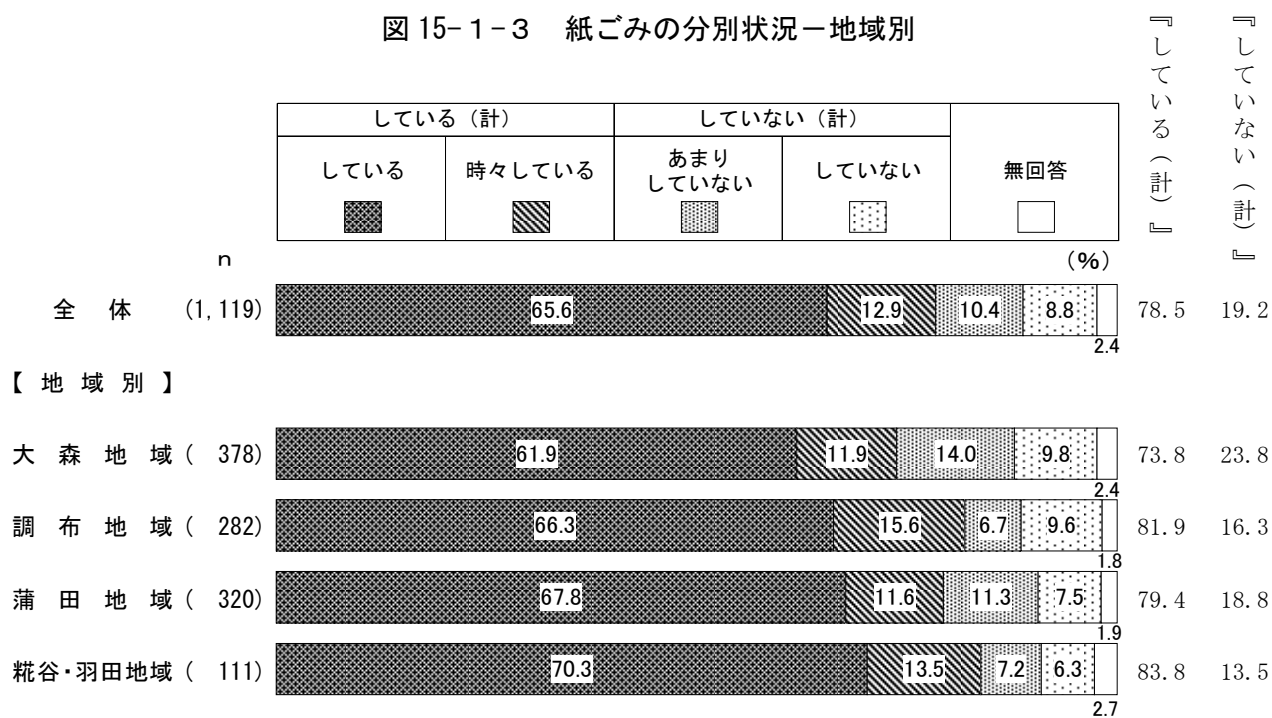
家庭で資源化できる紙ごみの分別をしているか聞いたところ、「している」(65.6%)が6割半ばで最も高く、これに「時々している」(12.9%)を合わせた『している(計)』(78.5%)は8割近くとなっている。一方、「あまりしていない」(10.4%)と「していない」(8.8%)を合わせた『していない(計)』(19.2%)は約2割となっている。(図 15-1-1)

図 15-1-2 紙ごみの分別状況－性／年代別



性別でみると、「している」は男性 (67.5%) が女性 (63.6%) より3.9ポイント高くなっている。
 性／年代別でみると、『している (計)』は男性70歳以上 (87.1%) で9割近くと高くなっている。
 一方、『していない (計)』は女性の30代 (27.7%) と40代 (27.9%)、男性20代 (27.0%) で3割近くと高くなっている。(図15-1-2)

図 15-1-3 紙ごみの分別状況—地域別



地域別でみると、『している (計)』は糎谷・羽田地域 (83.8%) と調布地域 (81.9%) で8割を超え高くなっている。一方、『していない (計)』は大森地域 (23.8%) で2割を超え高くなっている。(図15-1-3)

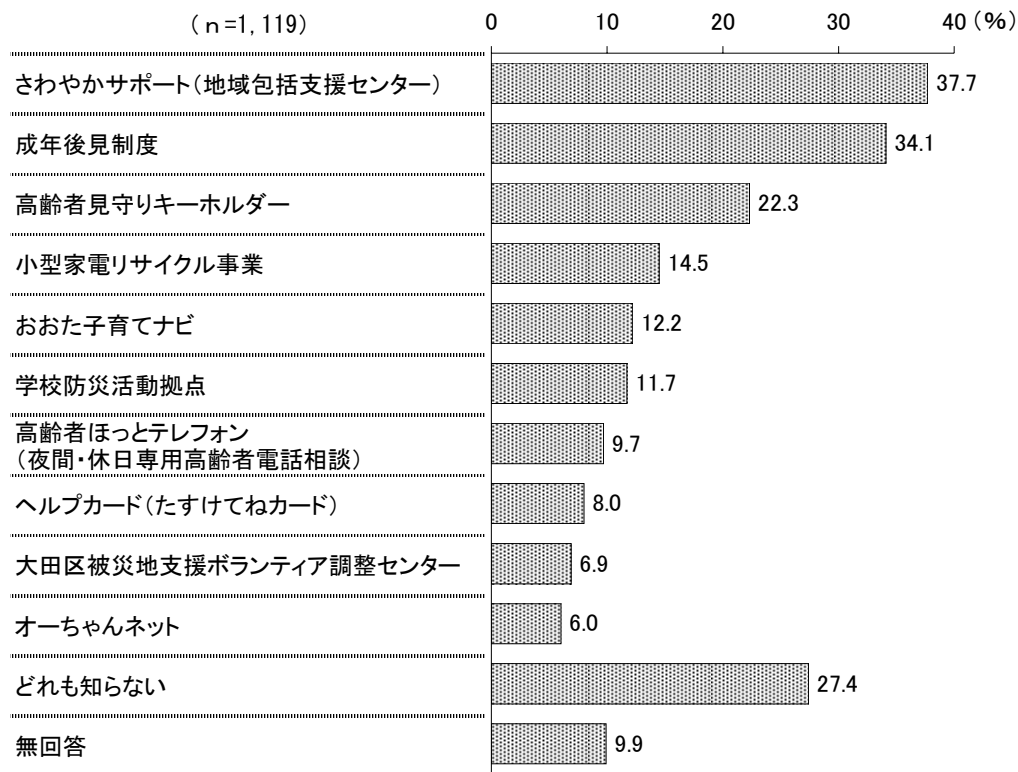
16. 区政への関心と要望

(1) 区の制度・施策・施設の認知度

◇「さわやかサポート（地域包括支援センター）」が4割近く

問 31 下記の大田区の制度、施策、施設のうち、あなたをご存知なものをすべて挙げてください。(〇はいくつでも)

図 16-1-1



区の制度、施策、施設について知っているものを聞いたところ、「さわやかサポート（地域包括支援センター）」(37.7%)が4割近くで最も高く、次いで「成年後見制度」(34.1%)、「高齢者見守りキーホルダー」(22.3%)、「小型家電リサイクル事業」(14.5%)、「おおた子育てナビ」(12.2%)などの順になっている。(図 16-1-1)

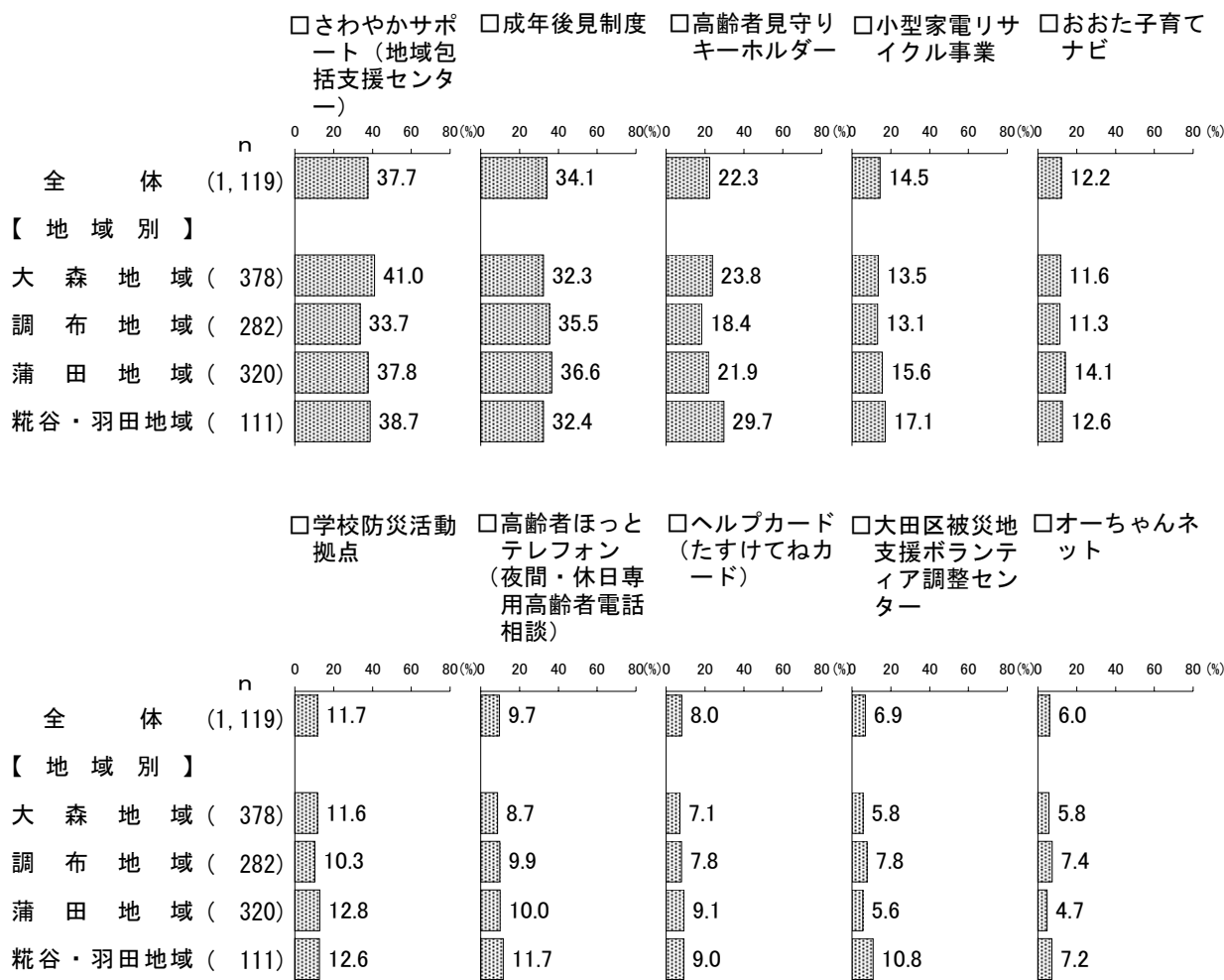
図 16-1-2 区の制度・施策・施設の認知度－性／年代別



性別で見ると、「おおた子育てナビ」は女性（16.2%）が男性（6.4%）より9.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「さわやかサポート（地域包括支援センター）」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、女性70歳以上（61.2%）で6割を超え、男性70歳以上（54.8%）で5割半ばと高くなっている。また、「成年後見制度」は女性50代（49.1%）で約5割、「高齢者見守りキーホルダー」は女性70歳以上（48.9%）で5割近くと高くなっている。（図16-1-2）

図 16-1-3 区の制度・施策・施設の認知度—地域別



地域別でみると、「さわやかサポート（地域包括支援センター）」は大森地域（41.0%）で4割を超え、「高齢者見守りキーホルダー」は糎谷・羽田地域（29.7%）で3割と高くなっている。

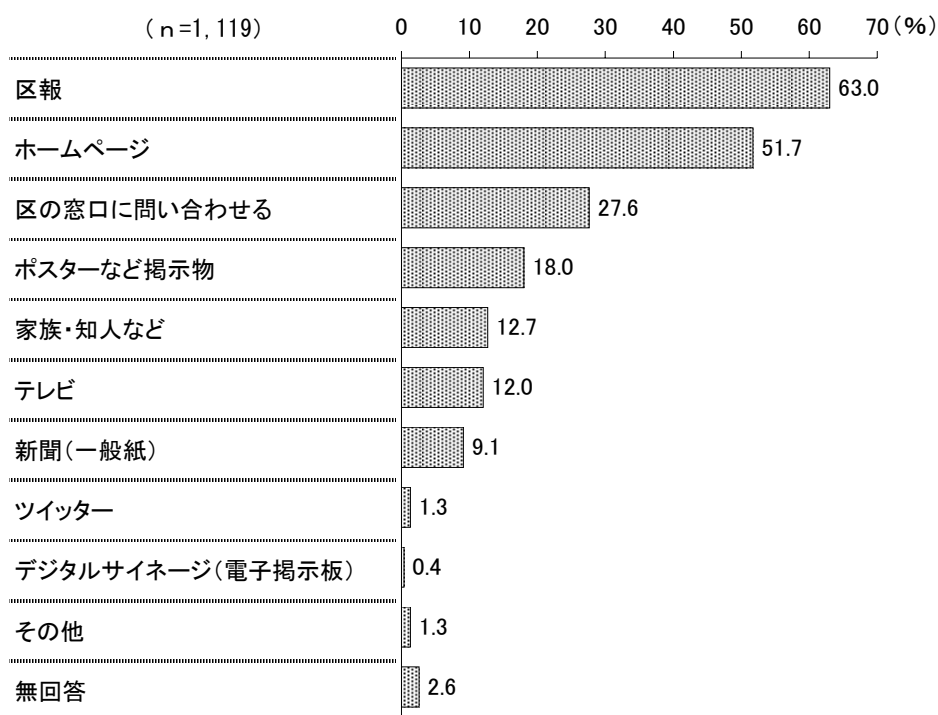
（図16-1-3）

(2) 区の情報を知るために利用する媒体

◇「区報」が6割を超える

問 32 あなたは、大田区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用しますか。(〇はいくつでも)

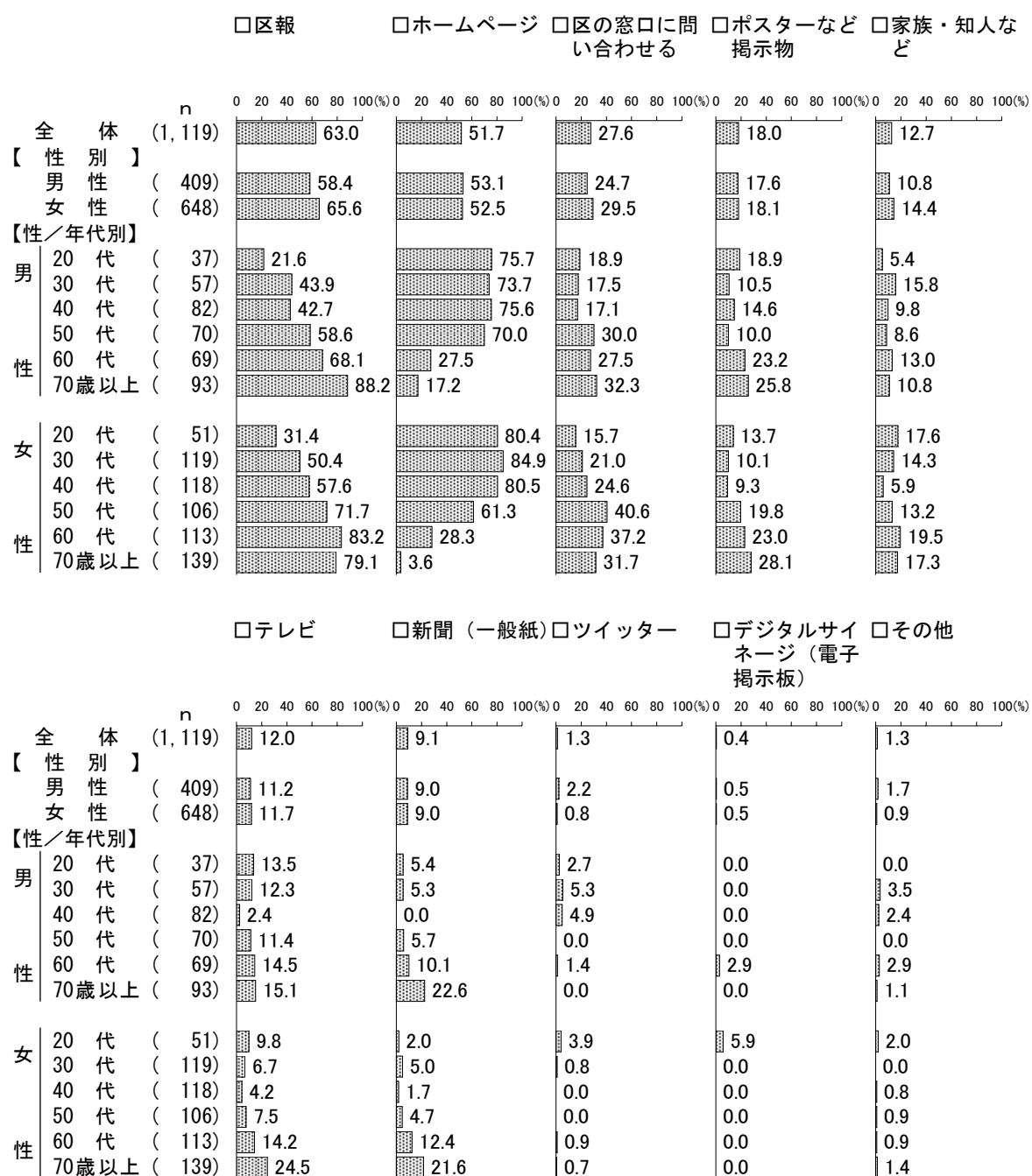
図 16-2-1



区の制度、施策、施設などの区の情報を知りたいとき、何を利用するか聞いたところ、「区報」(63.0%)が6割を超え最も高く、次いで「ホームページ」(51.7%)、「区の窓口にお問い合わせる」(27.6%)、「ポスターなど掲示物」(18.0%)、「家族・知人など」(12.7%)などの順になっている。

(図 16-2-1)

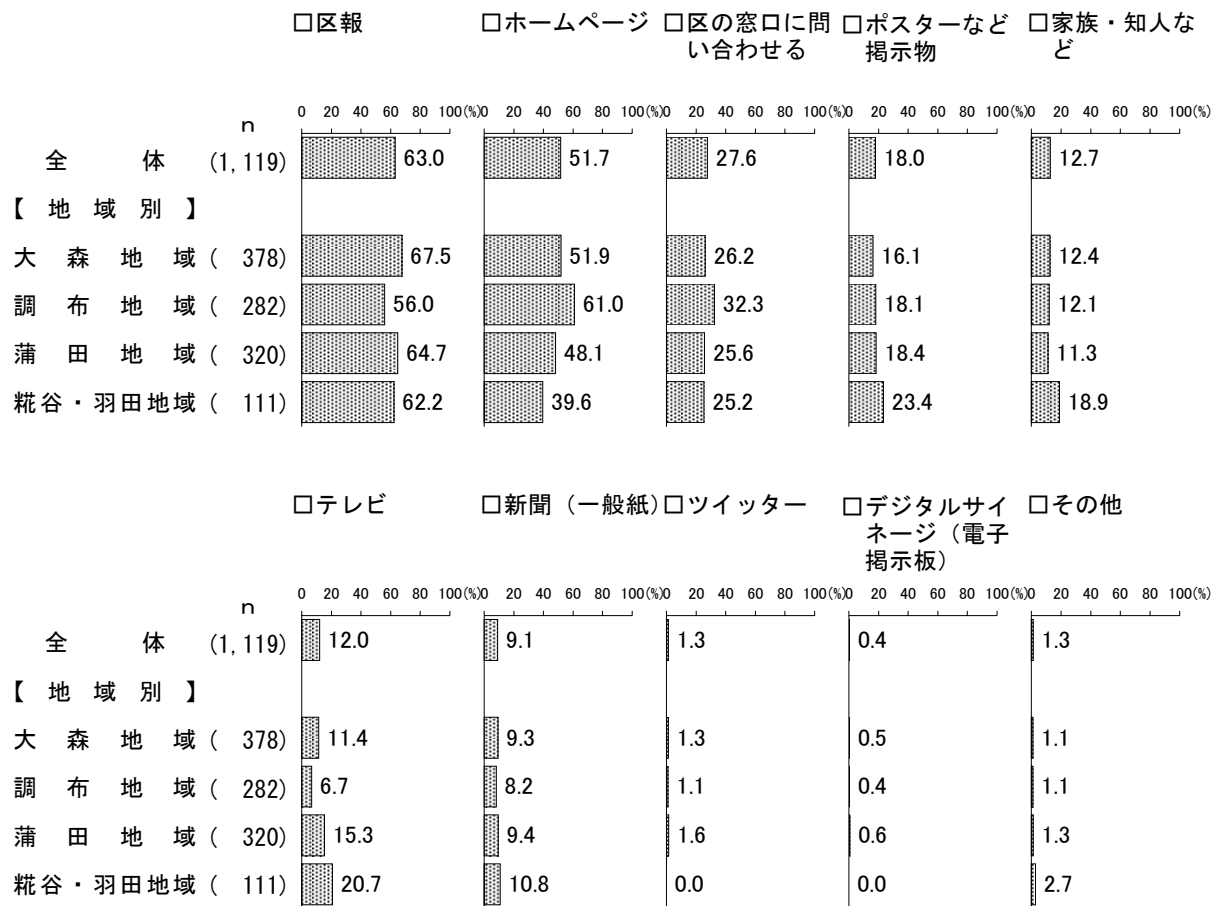
図 16-2-2 区の情報を知るために利用する媒体—性／年代別



性別でみると、「区報」は女性（65.6%）が男性（58.4%）より7.2ポイント高くなっている。
 性／年代別でみると、「区報」は男女ともにおおむね年代が高くなるほど割合が高く、男性70歳以上（88.2%）で9割近くと高くなっている。また、「ホームページ」は女性30代（84.9%）で8割半ば、「区の窓口にお問い合わせ」は女性50代（40.6%）で約4割と高くなっている。

(図16-2-2)

図 16-2-3 区の情報を知るために利用する媒体—地域別



地域別でみると、「区報」は大森地域(67.5%)で7割近く、「ホームページ」は調布地域(61.0%)で6割を超え高くなっている。また、「区の窓口にお問い合わせ」は調布地域(32.3%)で3割を超え、「ポスターなど掲示物」は糎谷・羽田地域(23.4%)で2割を超え高くなっている。

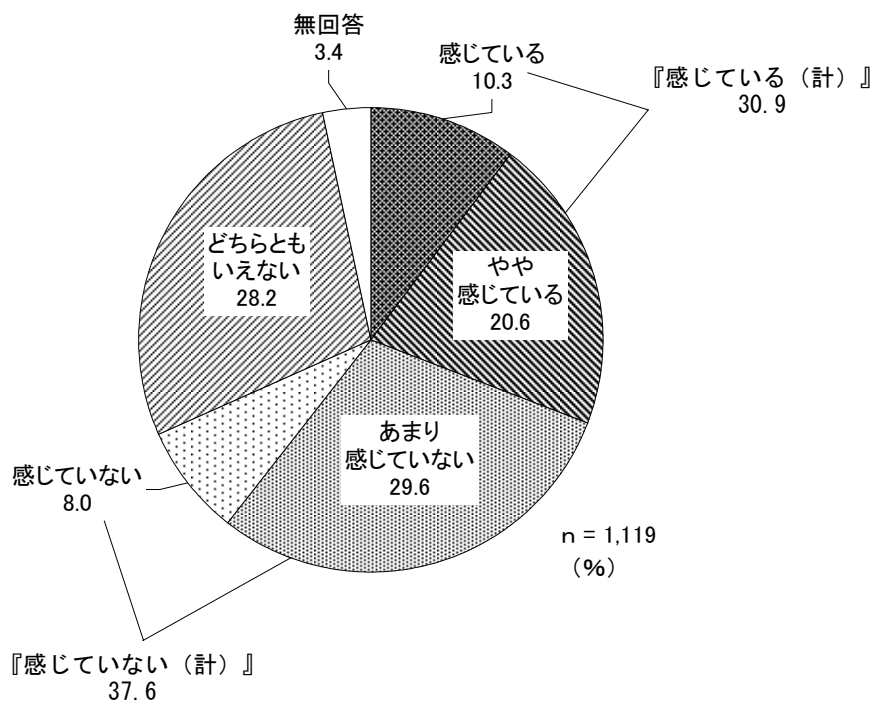
(図16-2-3)

(3) 区の情報公開

◇「感じている」と「やや感じている」を合わせた『感じている（計）』は約3割

問 33 あなたは、区政情報が適切に公開されていると感じていますか。（○は1つだけ）

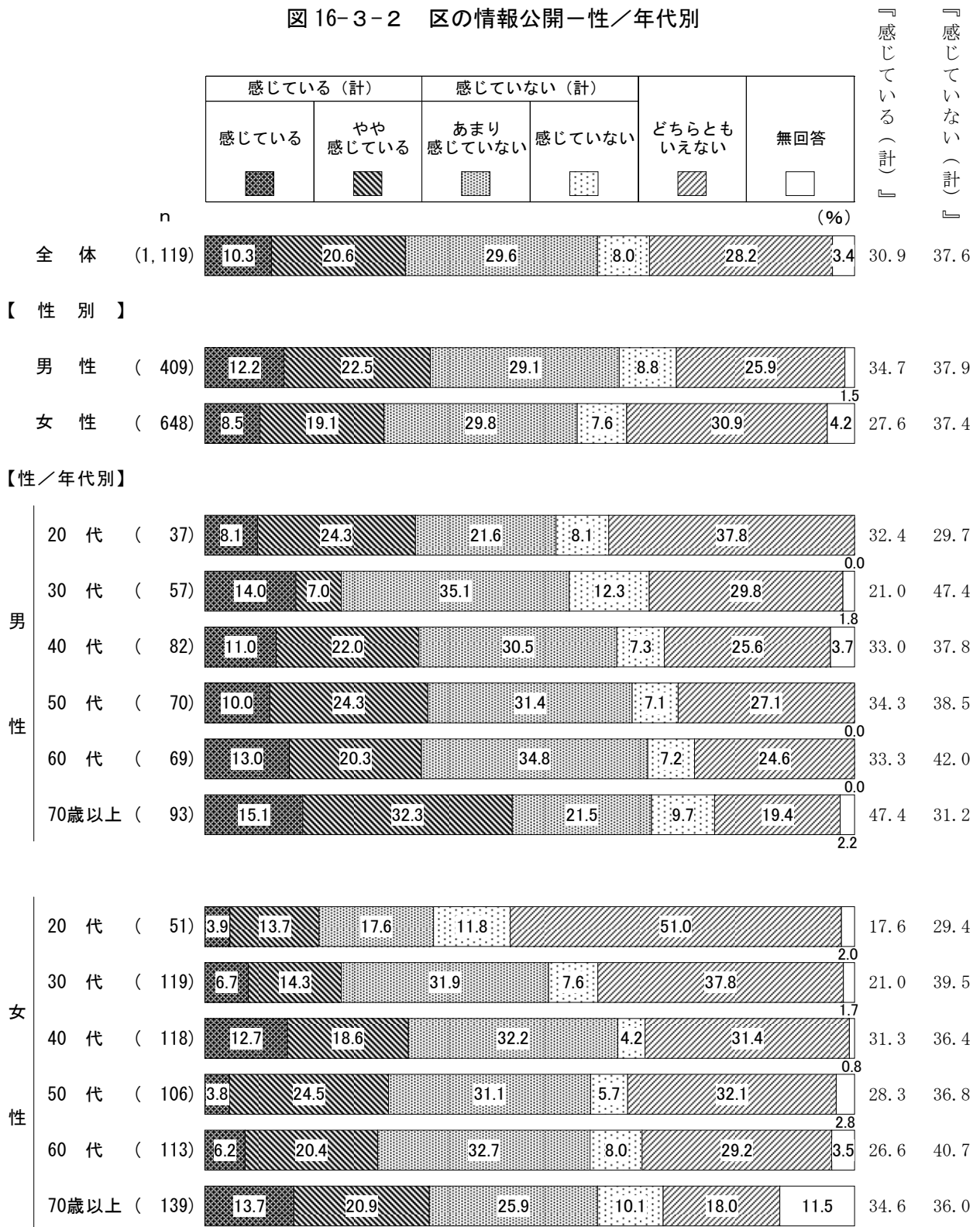
図 16-3-1



区政情報が適切に公開されていると感じるか聞いたところ、「感じている」（10.3%）と「やや感じている」（20.6%）を合わせた『感じている（計）』（30.9%）は約3割となっている。一方、「あまり感じていない」（29.6%）と「感じていない」（8.0%）を合わせた『感じていない（計）』（37.6%）は4割近くとなっている。また、「どちらともいえない」（28.2%）は3割近くとなっている。

(図 16-3-1)

図 16-3-2 区の情報公開一性／年代別

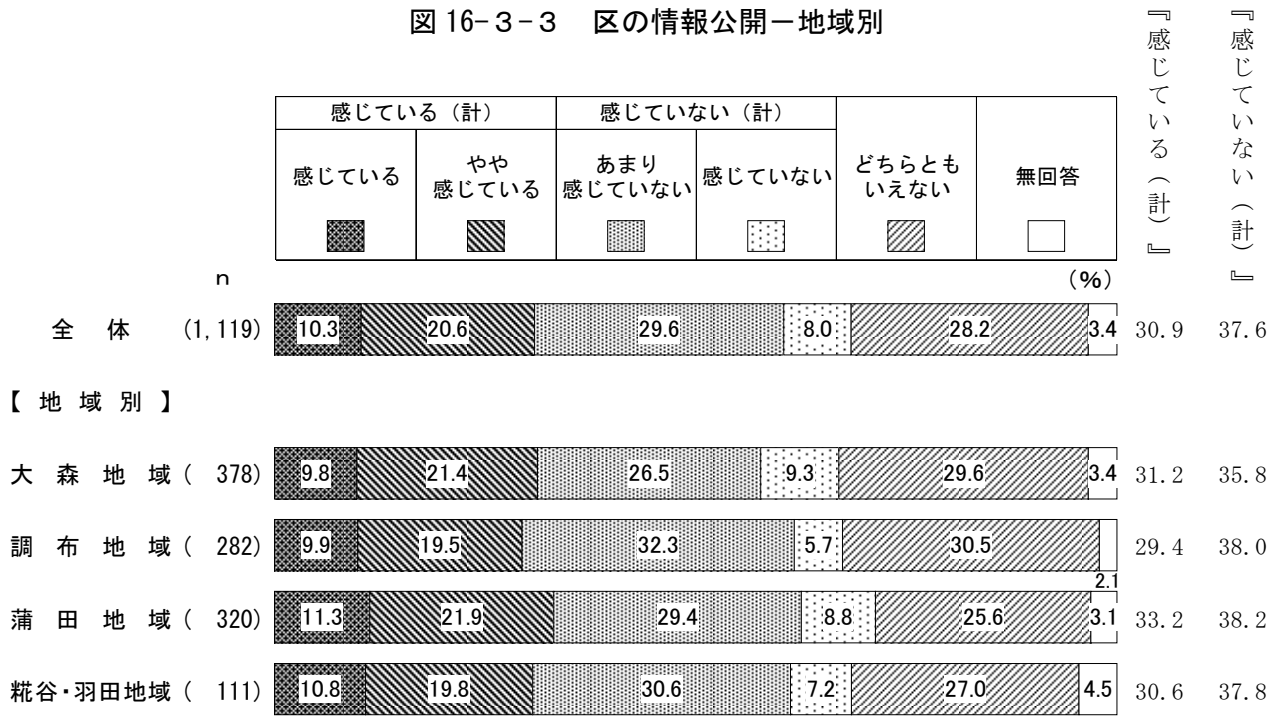


性別で見ると、『感じている (計)』は男性 (34.7%) が女性 (27.6%) より7.1ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、『感じている (計)』は男性70歳以上 (47.4%) で5割近くと高くなっている。一方、『感じていない (計)』は男性30代 (47.4%) で5割近くと高くなっている。

(図16-3-2)

図 16-3-3 区の情報公開—地域別



地域別でみると、『感じている (計)』は蒲田地域 (33.2%) と大森地域 (31.2%) で3割を超え高くなっている。(図16-3-3)

(4) 区政への参画状況

◇参画したことが「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”で7割半ば

問 34 あなたは、今までに下記の区政に参画したことがありますか。(○はどちらか1つ)

図 16-4-1 区政への参画状況

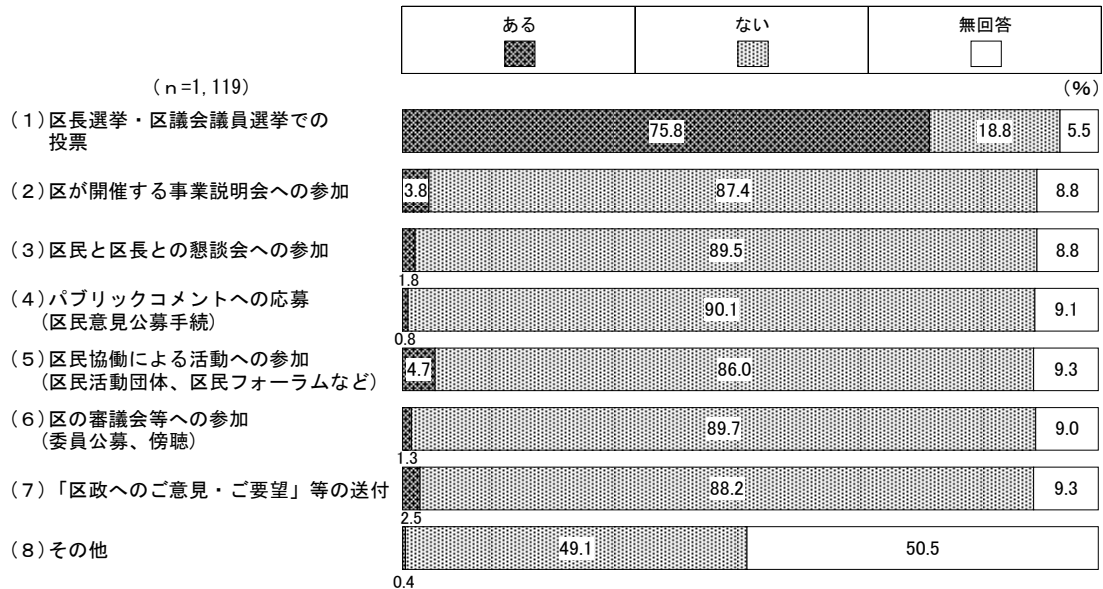
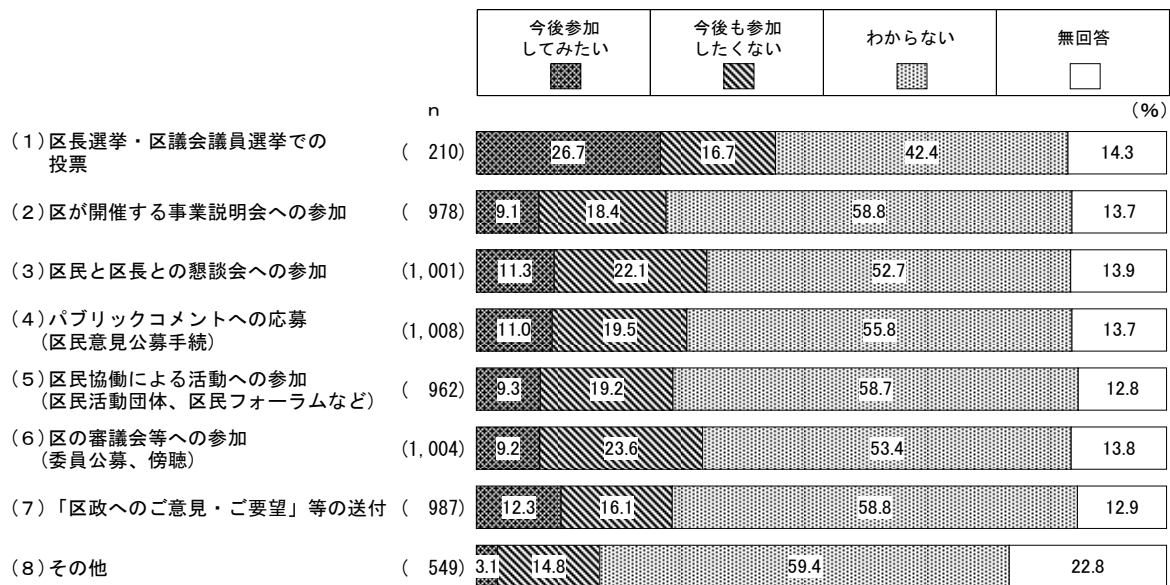


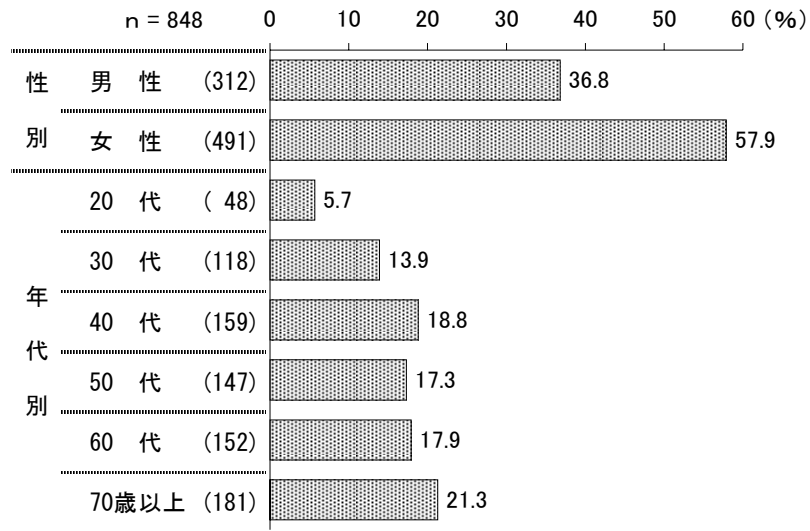
図 16-4-2 今後の参画意向



区政に参画したことがあるか聞いたところ、「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票” (75.8%) で7割半ばとなっているが、その他の全ての項目でわずかとなっている。(図 16-4-1)

参画したことが「ない」人に、今後の参画意向を聞いたところ、「今後参加してみたい」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票” (26.7%) で3割近くとなっている。一方、「今後参加したくない」は“区の審議会等への参加 (委員公募、傍聴)” (23.6%) と“区民と区長との懇談会への参加” (22.1%) で2割を超えている。(図 16-4-2)

図 16-4-3 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(1) 区長選挙・区議会議員選挙での投票】

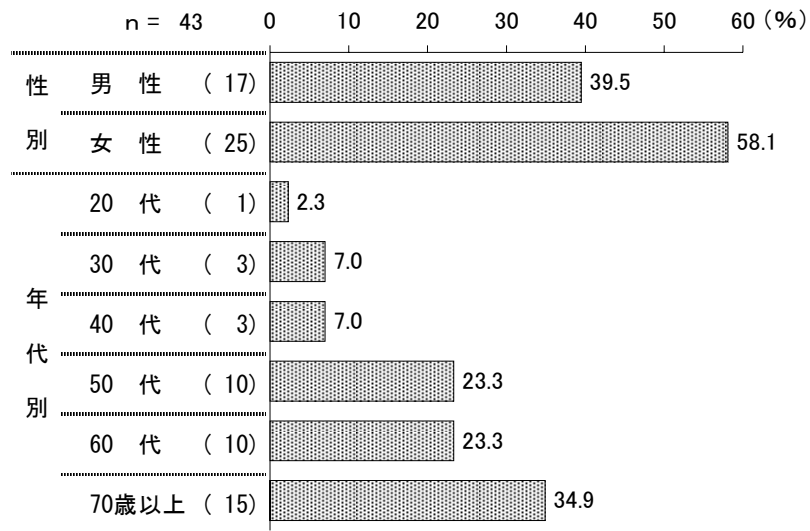


“区長選挙・区議会議員選挙での投票”で「ある」と答えた人（848人）の性別をみると、女性（57.9%）が男性（36.8%）より21.1ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は70歳以上（21.3%）で2割を超え高くなっている。

（図16-4-3）

図 16-4-4 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(2) 区が開催する事業説明会への参加】

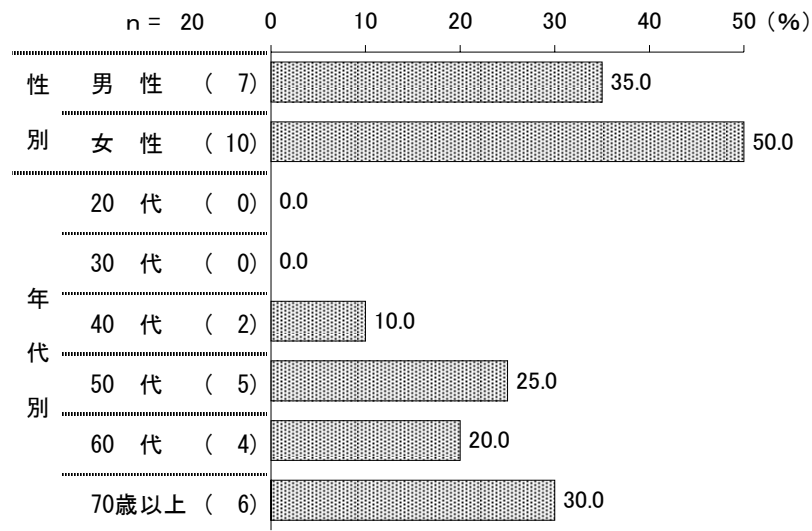


“区が開催する事業説明会への参加”で「ある」と答えた人（43人）の性別をみると、女性（58.1%）が男性（39.5%）より18.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は70歳以上（34.9%）で3割半ばと高くなっている。

（図16-4-4）

図 16-4-5 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(3) 区民と区長との懇談会への参加】

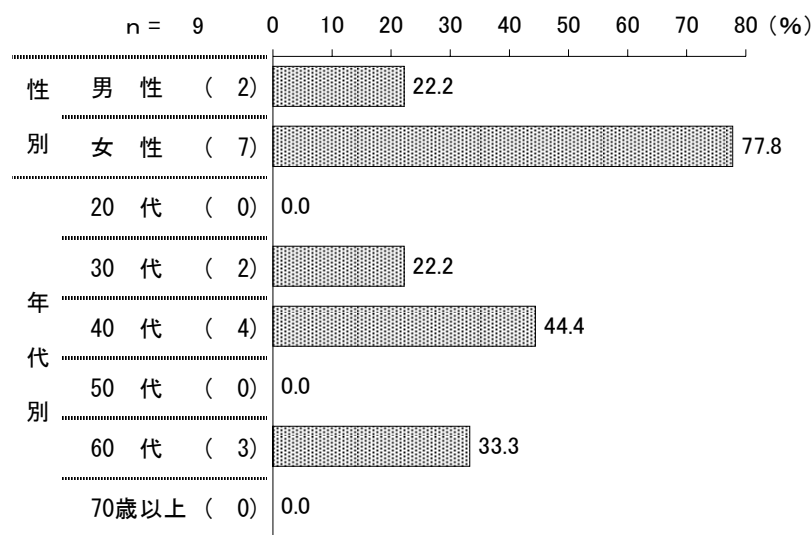


“区民と区長との懇談会への参加”で「ある」と答えた人(20人)の性別をみると、女性(50.0%)が男性(35.0%)より15.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は70歳以上(30.0%)で3割と高くなっている。

(図16-4-5)

図 16-4-6 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(4) パブリックコメントへの応募(区民意見公募手続)】

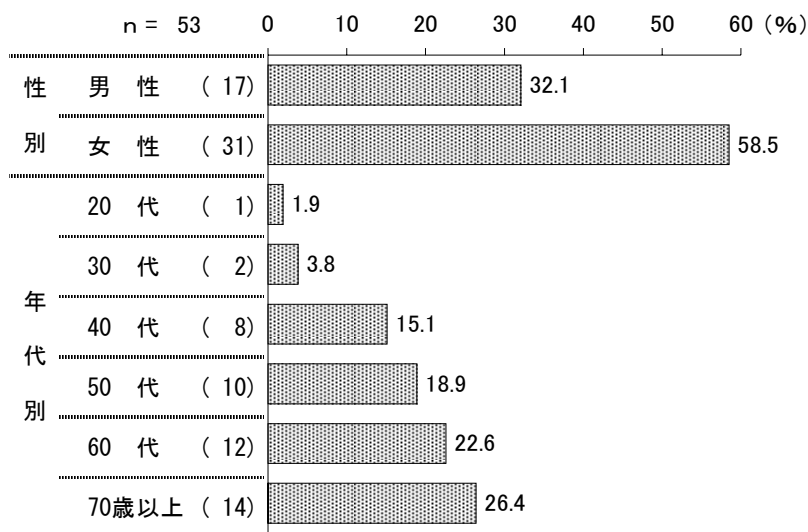


“パブリックコメントへの応募(区民意見公募手続)”で「ある」と答えた人(9人)の性別をみると、女性(77.8%)が男性(22.2%)より55.6ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は40代(44.4%)で4割半ばと高くなっている。

(図16-4-6)

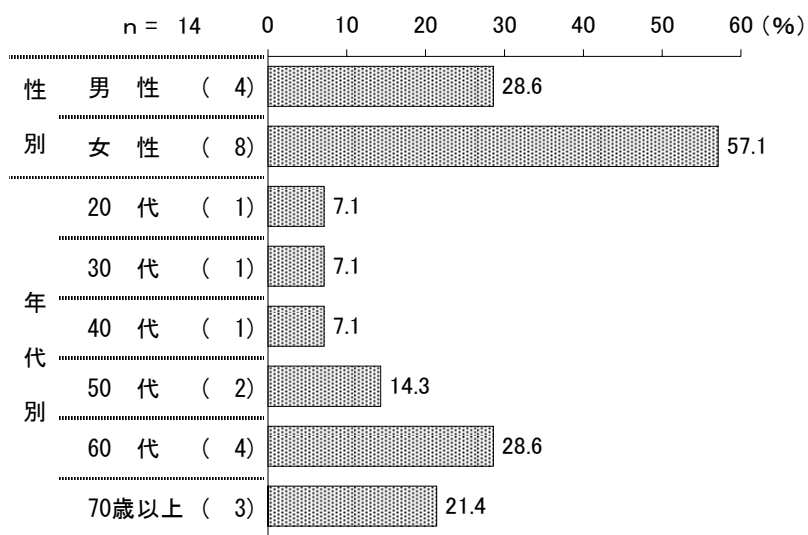
図16-4-7 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(5) 区民協働による活動への参加（区民活動団体、区民フォーラムなど）】



“区民協働による活動への参加（区民活動団体、区民フォーラムなど）”で「ある」と答えた人（53人）の性別をみると、女性（58.5%）が男性（32.1%）より26.4ポイント高くなっている。年代別でみると、「ある」と答えた人は70歳以上（26.4%）で2割半ばと高くなっている。

（図16-4-7）

図16-4-8 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(6) 区の審議会等への参加（委員公募、傍聴）】

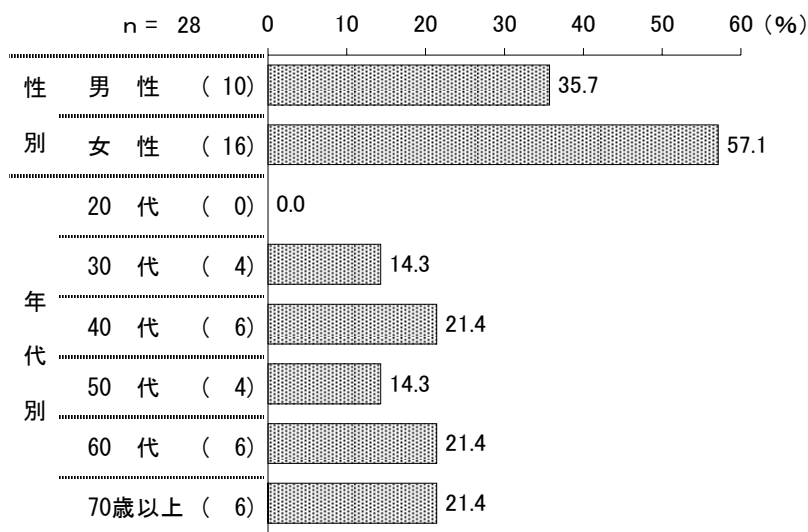


“区の審議会等への参加（委員公募、傍聴）”で「ある」と答えた人（14人）の性別をみると、女性（57.1%）が男性（28.6%）より28.5ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は60代（28.6%）で3割近くと高くなっている。

（図16-4-8）

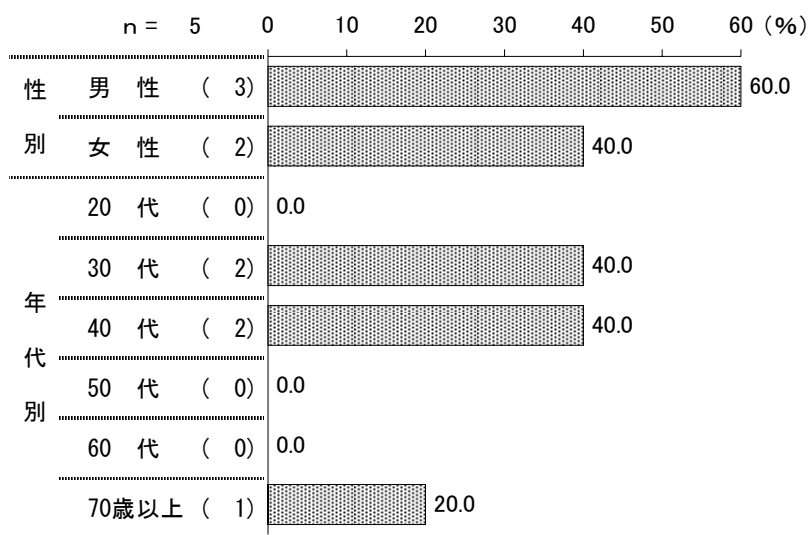
図16-4-9 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(7)「区政へのご意見・ご要望」等の送付】



“「区政へのご意見・ご要望」等の送付”で「ある」と答えた人（28人）の性別をみると、女性（57.1%）が男性（35.7%）より21.4ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は40代、60代、70歳以上（いずれも21.4%）で2割を超え高くなっている。（図16-4-9）

図16-4-10 区政への参画状況—参画したことが「ある」と答えた人の性別、年代別
【(8) その他】

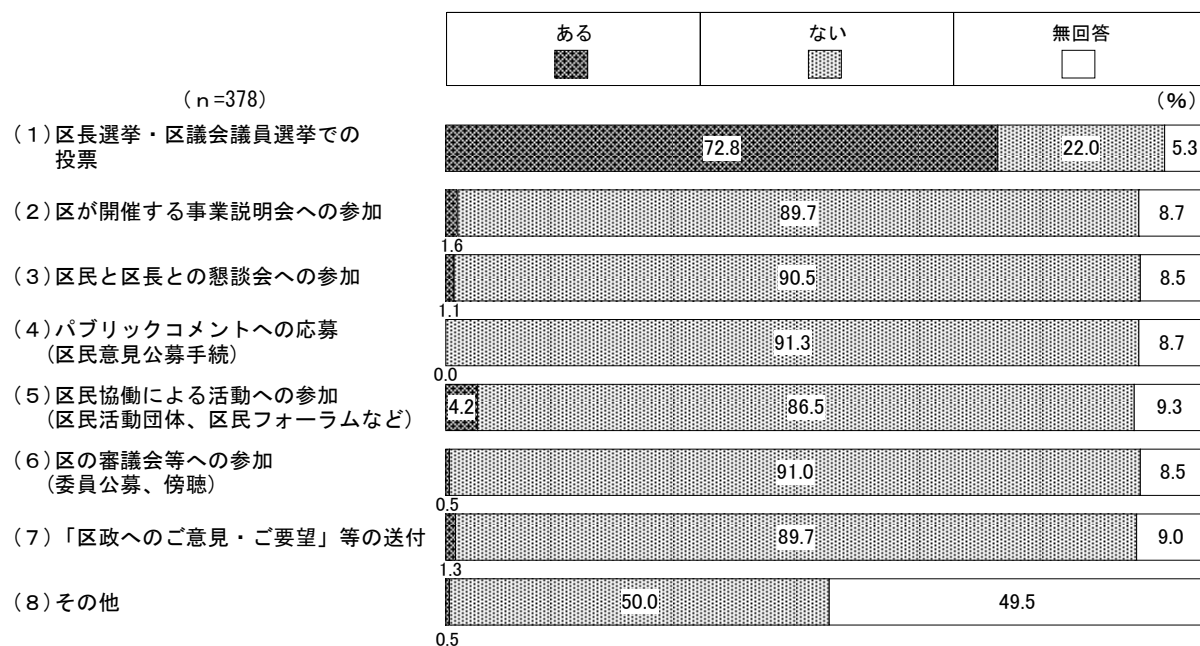


“その他”で「ある」と答えた人（5人）の性別をみると、男性（60.0%）が女性（40.0%）より20.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、「ある」と答えた人は30代と40代（ともに40.0%）で4割と高くなっている。

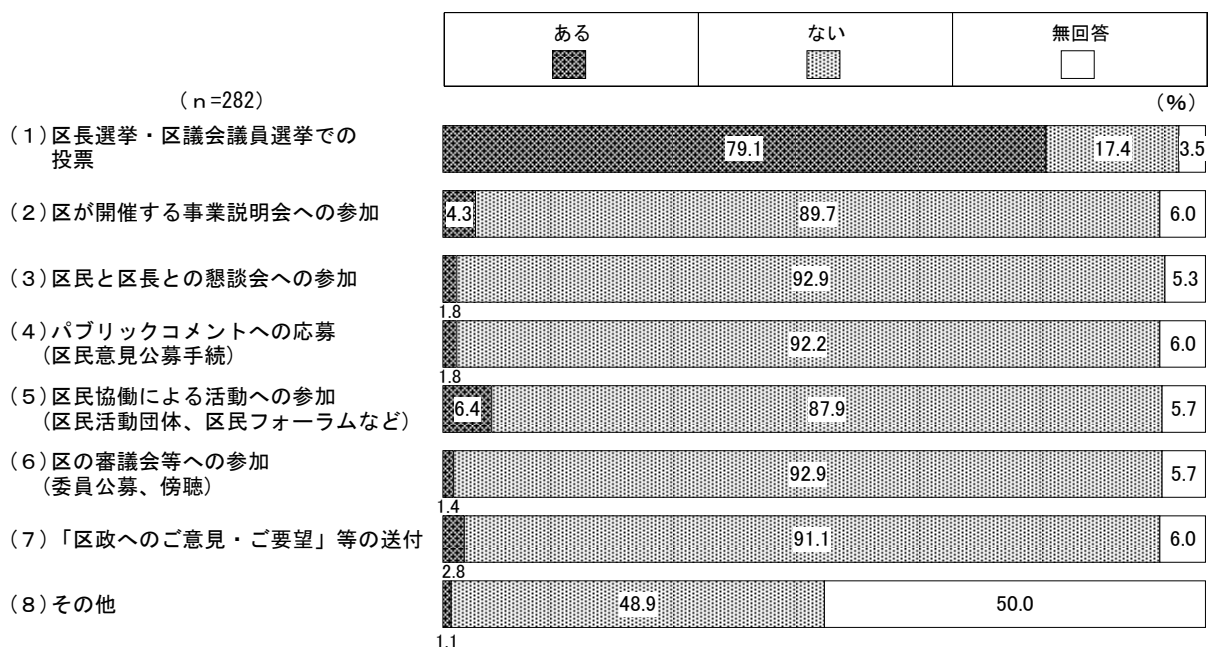
（図16-4-10）

図 16-4-11 区政への参画状況—地域別【大森地域】



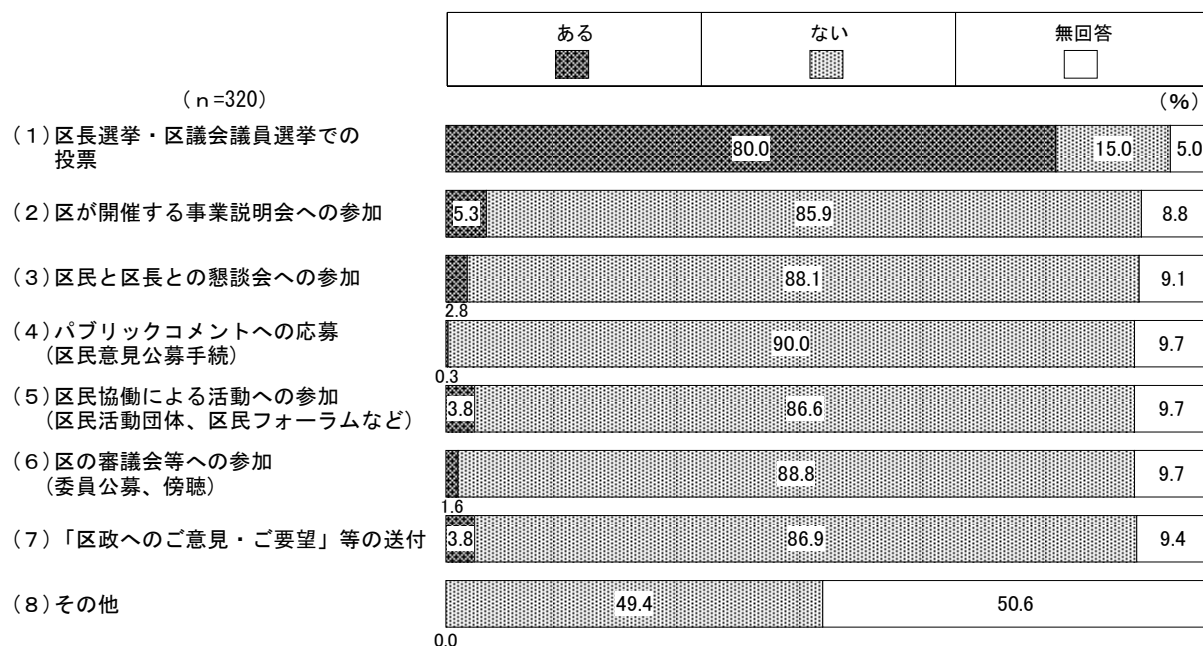
区政への参画状況を“大森地域”でみると、「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”(72.8%)で7割を超えているが、その他の全ての項目でわずかとなっている。(図16-4-11)

図 16-4-12 区政への参画状況—地域別【調布地域】



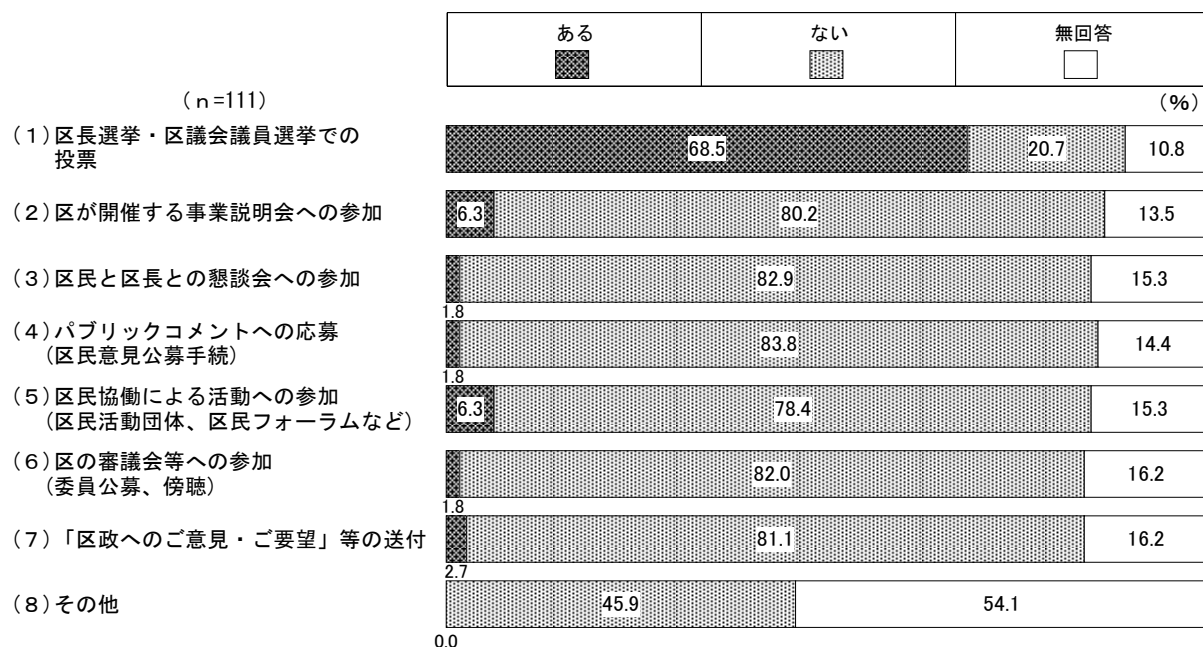
区政への参画状況を“調布地域”でみると、「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”(79.1%)で約8割となっているが、その他の全ての項目で1割未満となっている。(図16-4-12)

図 16-4-13 区政への参画状況—地域別【蒲田地域】



区政への参画状況を“蒲田地域”で見ると、「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”（80.0%）で8割となっているが、その他の全ての項目で1割未満となっている。（図16-4-13）

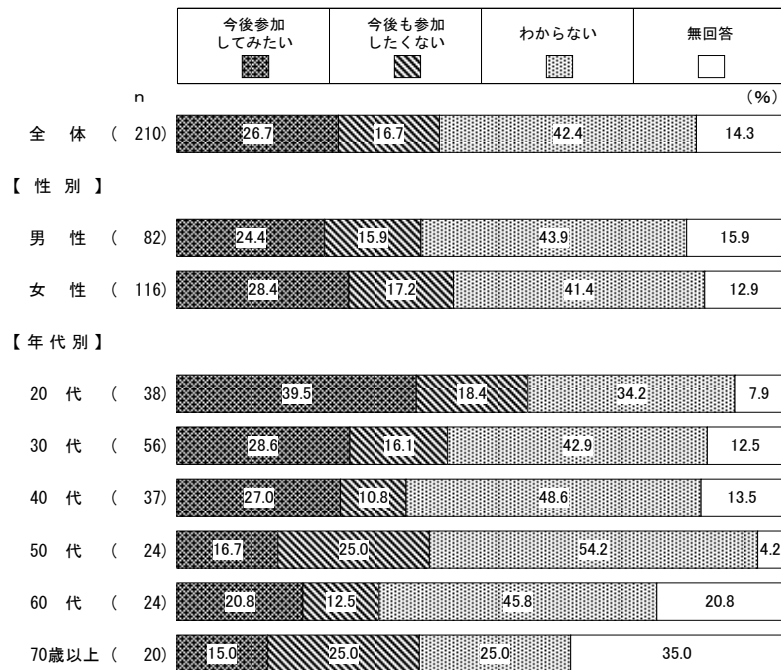
図 16-4-14 区政への参画状況—地域別【糀谷・羽田地域】



区政への参画状況を“糀谷・羽田地域”で見ると、「ある」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”（68.5%）で7割近くとなっているが、その他の全ての項目で1割未満となっている。

（図16-4-14）

図16-4-15 今後の参画意向—性別、年代別【(1) 区長選挙・区議会議員選挙での投票】

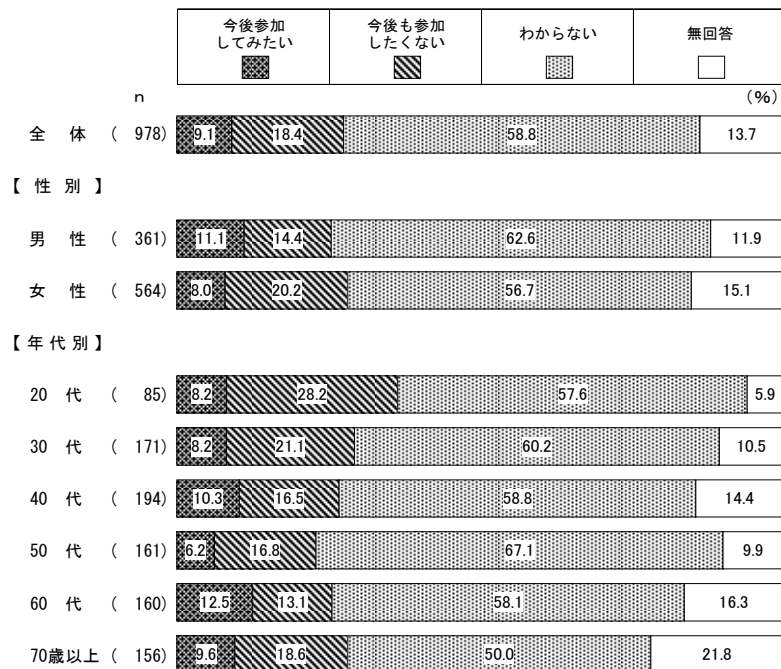


区政に参画したことが「ない」人の、“区長選挙・区議会議員選挙での投票”について今後の参画意向を性別でみると、「今後参加してみたい」は女性(28.4%)が男性(24.4%)より4.0ポイント高くなっている。

年代別でみると、「今後参加してみたい」は20代(39.5%)で4割と高くなっている。

(図16-4-15)

図16-4-16 今後の参画意向—性別、年代別【(2) 区が開催する事業説明会への参加】

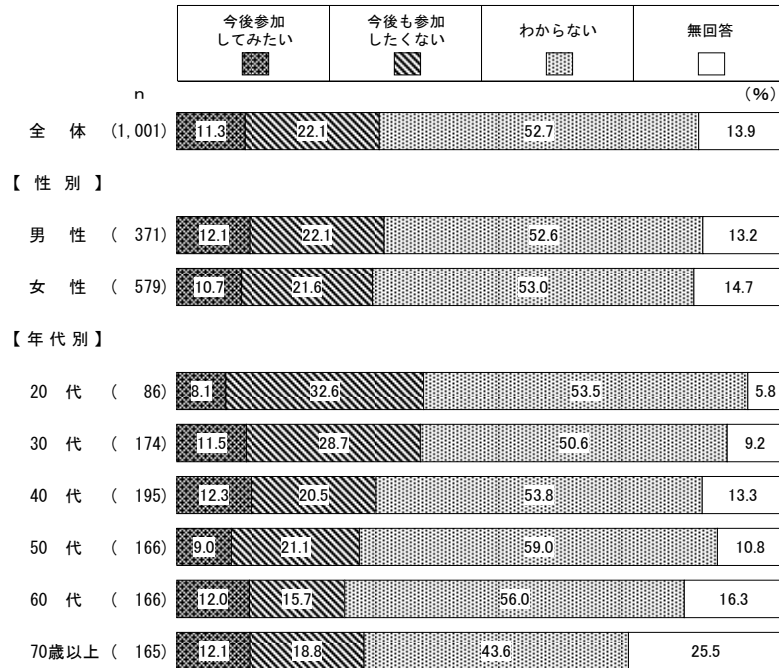


区政に参画したことが「ない」人の、“区が開催する事業説明会への参加”について今後の参画意向を性別でみると、「今後参加したくない」は女性(20.2%)が男性(14.4%)より5.8ポイント高くなっている。

年代別でみると、「今後参加してみたい」は60代(12.5%)で1割を超え高くなっている。

(図16-4-16)

図 16-4-17 今後の参画意向－性別、年代別【(3) 区民と区長との懇談会への参加】

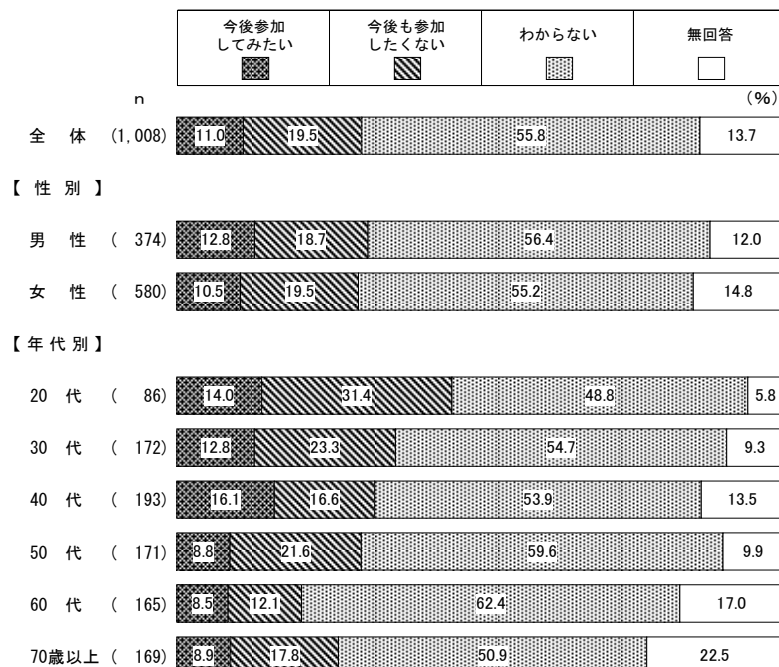


区政に参画したことが「ない」人の、“区民と区長との懇談会への参加”について今後の参画意向を性別でみると、大きな違いはみられない。

年代別でみると、「今後も参加したくない」は20代 (32.6%) で3割を超え高くなっている。

(図16-4-17)

図 16-4-18 今後の参画意向－性別、年代別【(4)パブリックコメントへの応募(区民意見公募手続)】

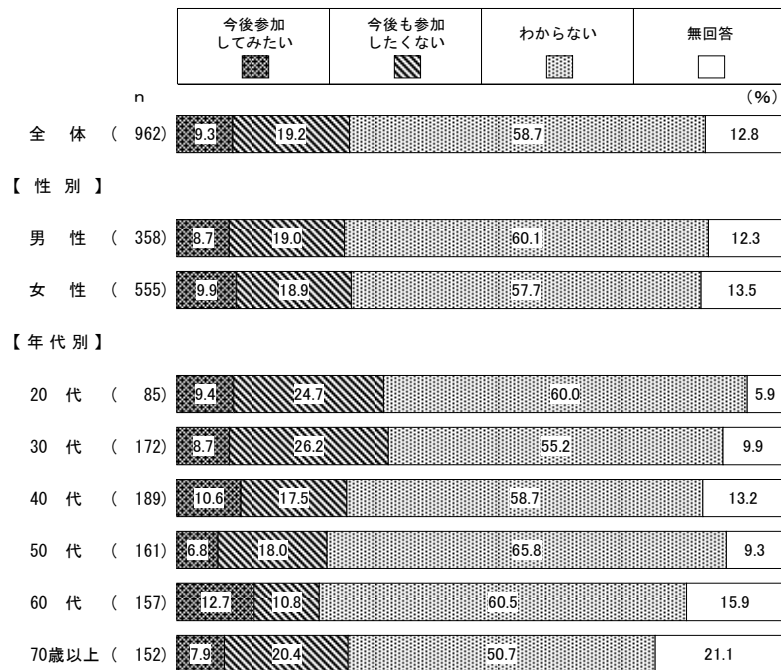


区政に参画したことが「ない」人の、“パブリックコメントへの応募(区民意見公募手続)”について今後の参画意向を性別でみると、大きな違いはみられない。

年代別でみると、「今後参加してみたい」は20代 (14.0%) と40代 (16.1%) で1割半ばと高くなっている。(図16-4-18)

図 16-4-19 今後の参画意向－性別、年代別

【(5) 区民協働による活動への参加（区民活動団体、区民フォーラムなど）】

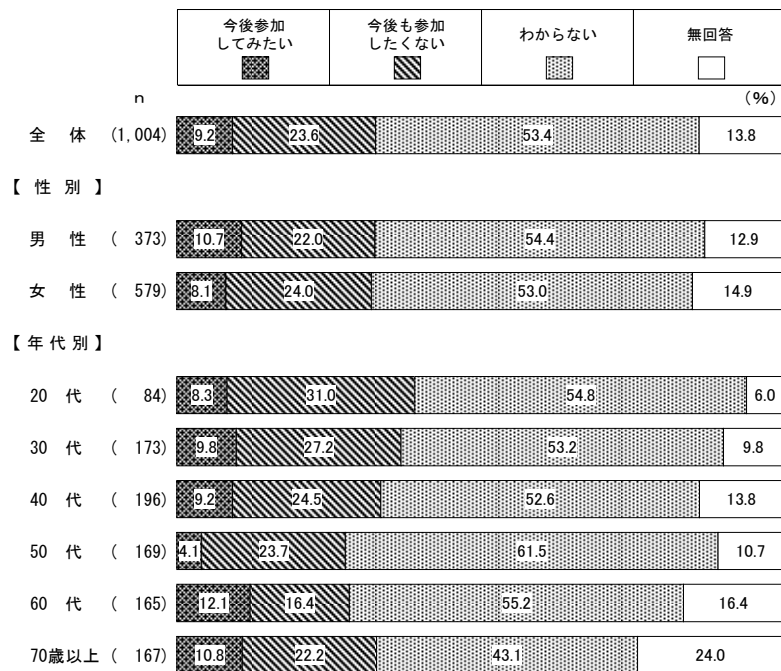


区政に参画したことが「ない」人の、“区民協働による活動への参加（区民活動団体、区民フォーラムなど）”について今後の参画意向を性別で見ると、大きな違いはみられない。

年代別で見ると、「今後参加してみたい」は60代（12.7%）で1割を超え高くなっている。

(図16-4-19)

図 16-4-20 今後の参画意向－性別、年代別【(6) 区の審議会等への参加（委員公募、傍聴）】

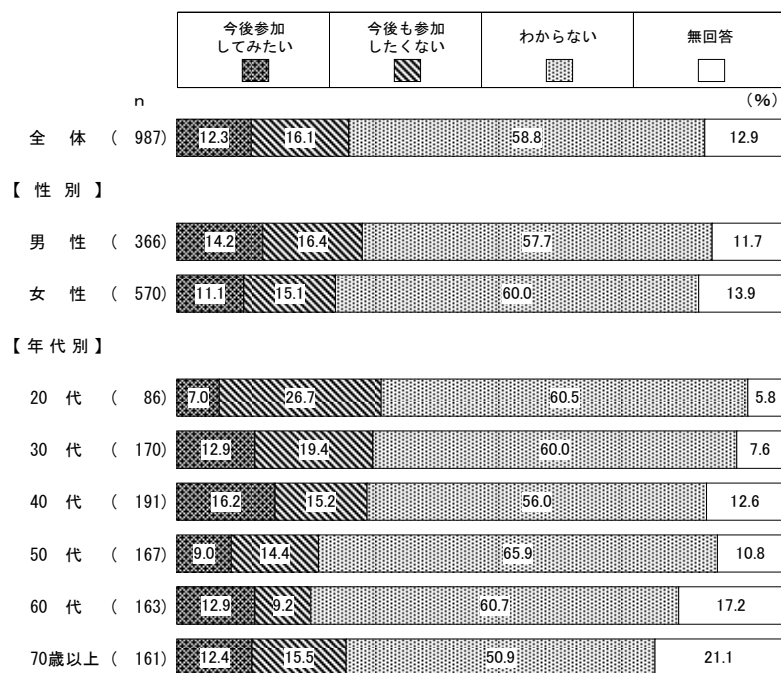


区政に参画したことが「ない」人の、“区の審議会等への参加（委員公募、傍聴）”について今後の参画意向を性別で見ると、大きな違いはみられない。

年代別で見ると、「今後参加してみたい」は60代（12.1%）で1割を超え高くなっている。

(図16-4-20)

図 16-4-21 今後の参画意向－性別、年代別【(7)「区政へのご意見・ご要望」等の送付】

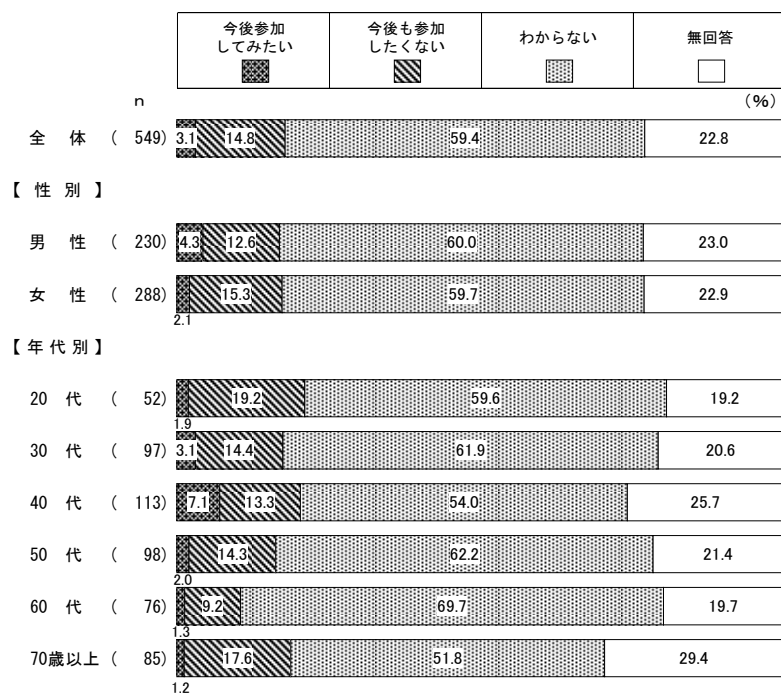


区政に参画したことが「ない」人の、“「区政へのご意見・ご要望」等の送付”について今後の参画意向を性別で見ると、「今後参加してみたい」は男性（14.2%）が女性（11.1%）より3.1ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「今後参加してみたい」は40代（16.2%）で1割半ばと高くなっている。

(図16-4-21)

図 16-4-22 今後の参画意向－性別、年代別【(8) その他】

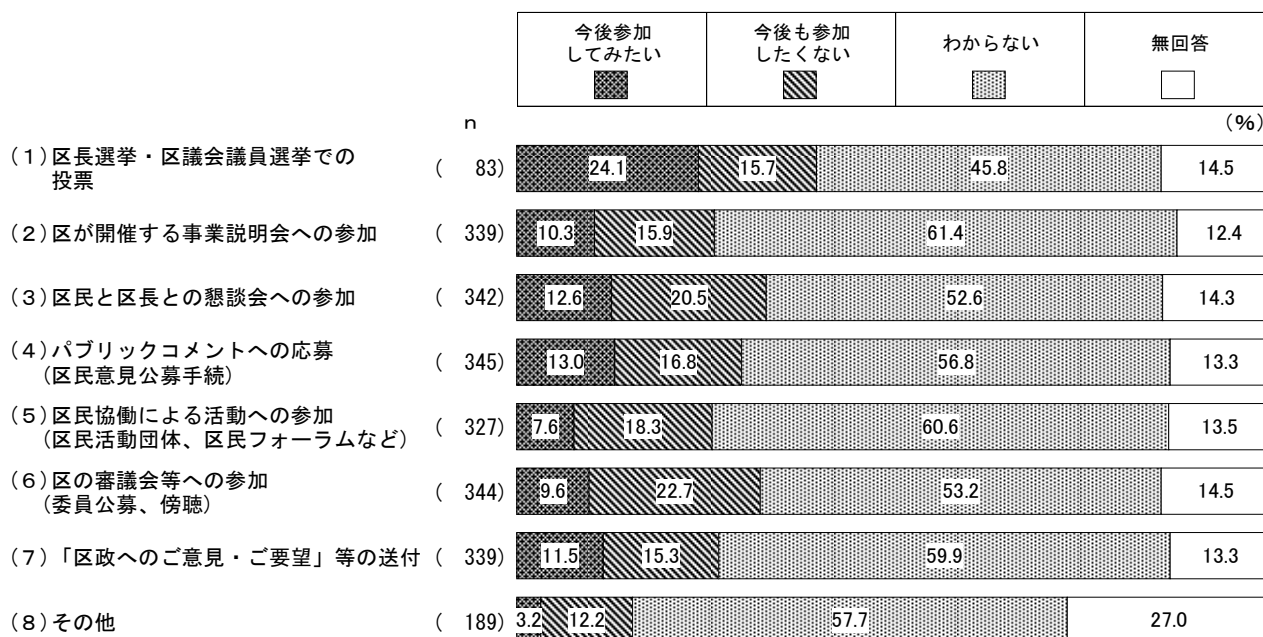


区政に参画したことが「ない」人の、“その他”について今後の参画意向を性別で見ると、大きな違いはみられない。

年代別で見ると、「今後も参加したくない」は20代（19.2%）で約2割と高くなっている。

(図16-4-22)

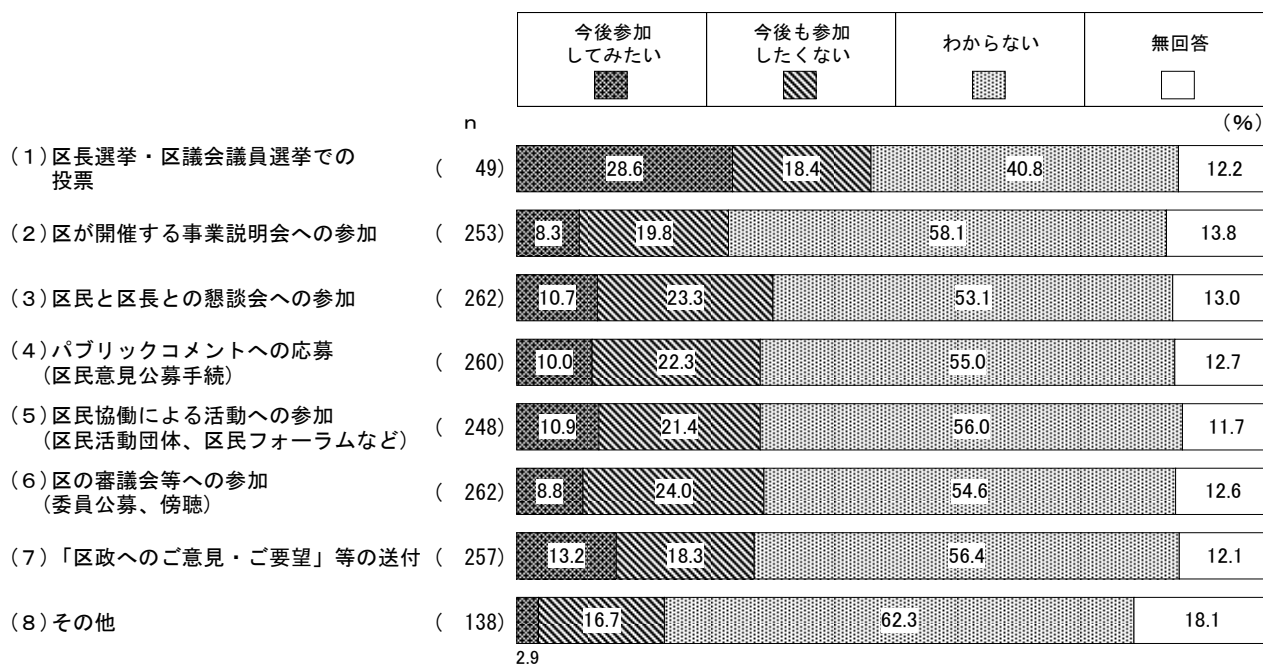
図 16-4-23 今後の参画意向—地域別【大森地域】



区政に参画したことが「ない」人の、今後の参画意向を“大森地域”でみると、「今後参加してみたい」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”（24.1%）で2割半ばと高くなっている。

(図 16-4-23)

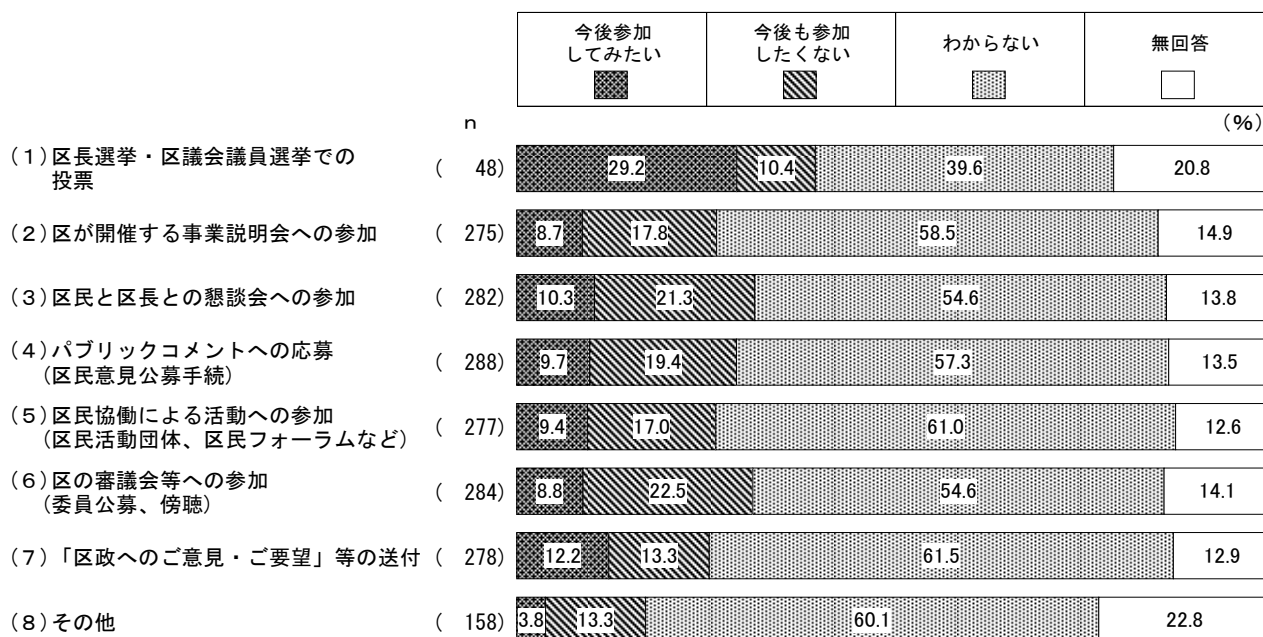
図 16-4-24 今後の参画意向—地域別【調布地域】



区政に参画したことが「ない」人の、今後の参画意向を“調布地域”でみると、「今後参加してみたい」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”（28.6%）で3割近くと高くなっている。

(図16-4-24)

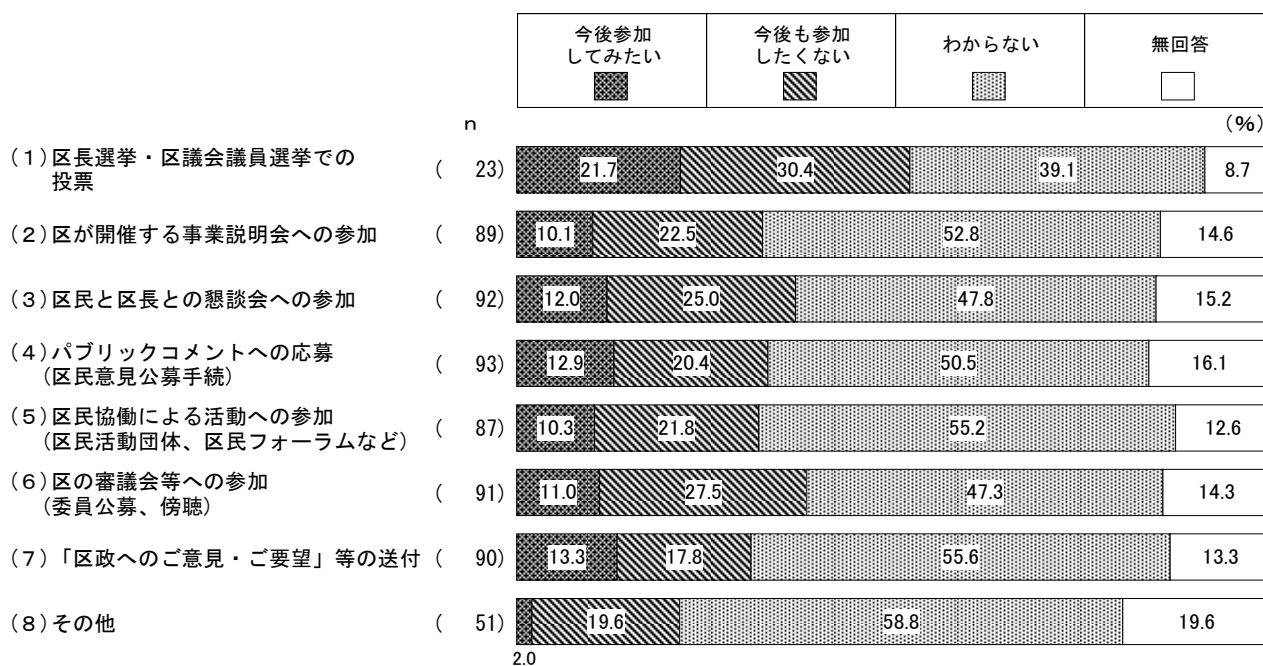
図 16-4-25 今後の参画意向—地域別【蒲田地域】



区政に参画したことが「ない」人の、今後の参画意向を“蒲田地域”で見ると、「今後参加してみたい」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”(29.2%)で約3割と高くなっている。

(図16-4-25)

図 16-4-26 今後の参画意向—地域別【糀谷・羽田地域】



区政に参画したことが「ない」人の、今後の参画意向を“糀谷・羽田地域”で見ると、「今後参加してみたい」は“区長選挙・区議会議員選挙での投票”(21.7%)で2割を超え高くなっている。

(図16-4-26)

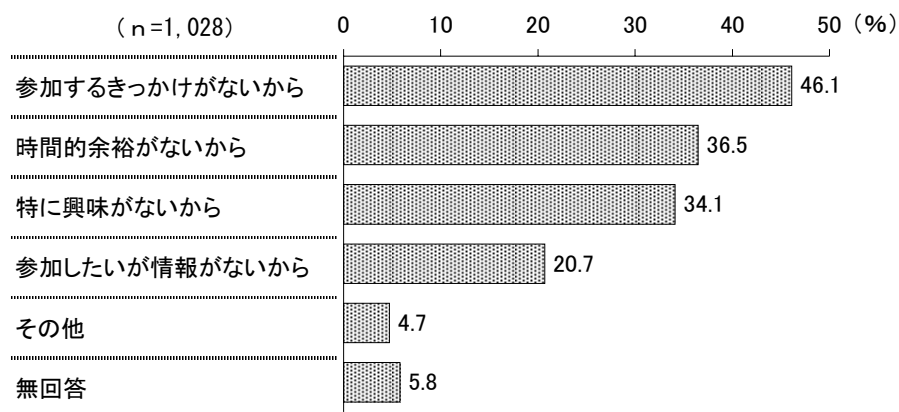
(5) 区政に参加したことがない理由

◇「参加するきっかけがないから」が4割半ば

(問34で、1つでも「参加したことがない」と回答した方に)

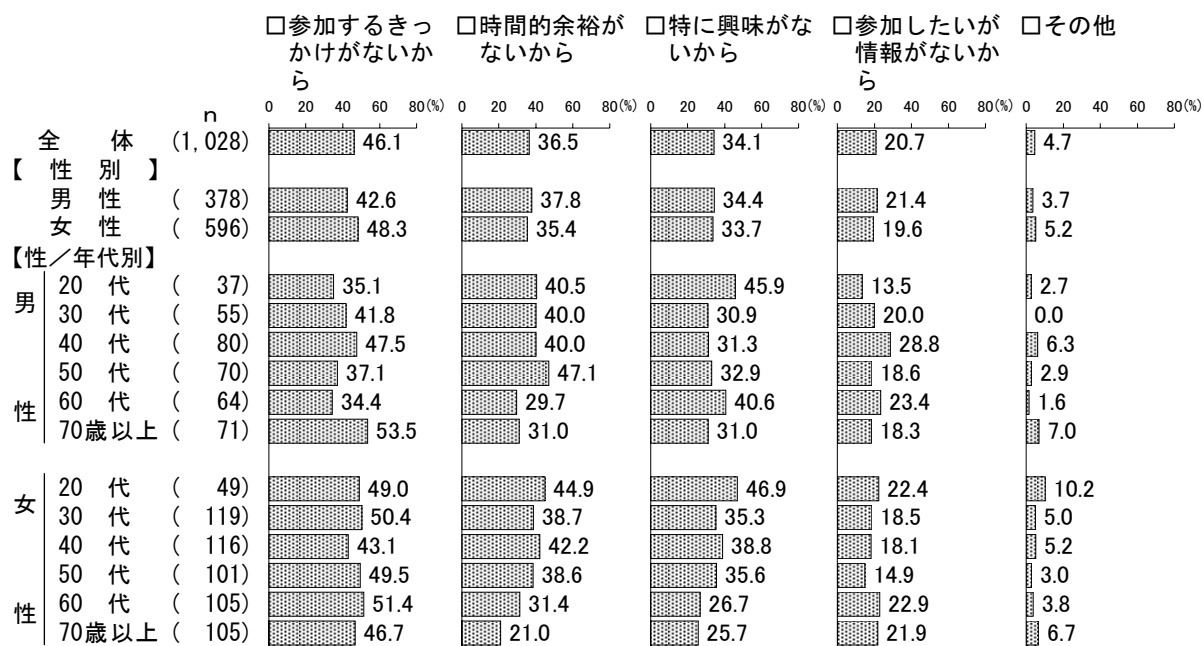
問34-1 参加したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 16-5-1



問34の区政について、1つでも「参加したことがない」と答えた人(1,028人)に、その理由を聞いたところ、「参加するきっかけがないから」(46.1%)が4割半ばで最も高く、次いで「時間的余裕がないから」(36.5%)、「特に興味がないから」(34.1%)、「参加したいが情報がないから」(20.7%)の順になっている。(図16-5-1)

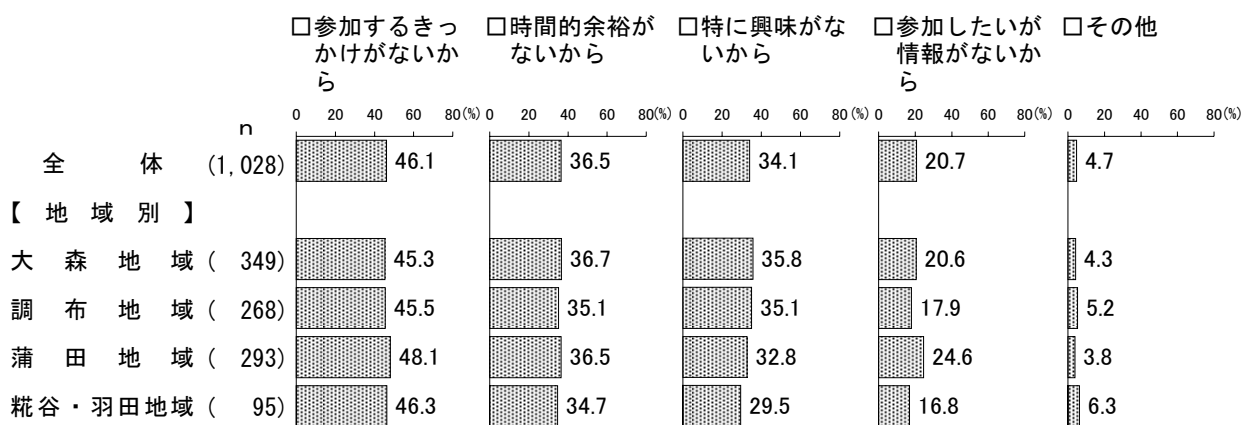
図 16-5-2 区政に参加したことがない理由－性／年代別



性別でみると、「参加するきっかけがないから」は女性（48.3%）が男性（42.6%）より5.7ポイント高くなっている。

性／年代別でみると、「参加するきっかけがないから」は男性70歳以上（53.5%）と女性60代（51.4%）で5割を超え、「時間的余裕がないから」は男性50代（47.1%）で5割近くと高くなっている。（図16-5-2）

図 16-5-3 区政に参加したことがない理由－地域別



地域別でみると、「参加するきっかけがないから」は蒲田地域（48.1%）で5割近く、「参加したいが情報がないから」は蒲田地域（24.6%）で2割半ばと高くなっている。（図16-5-3）

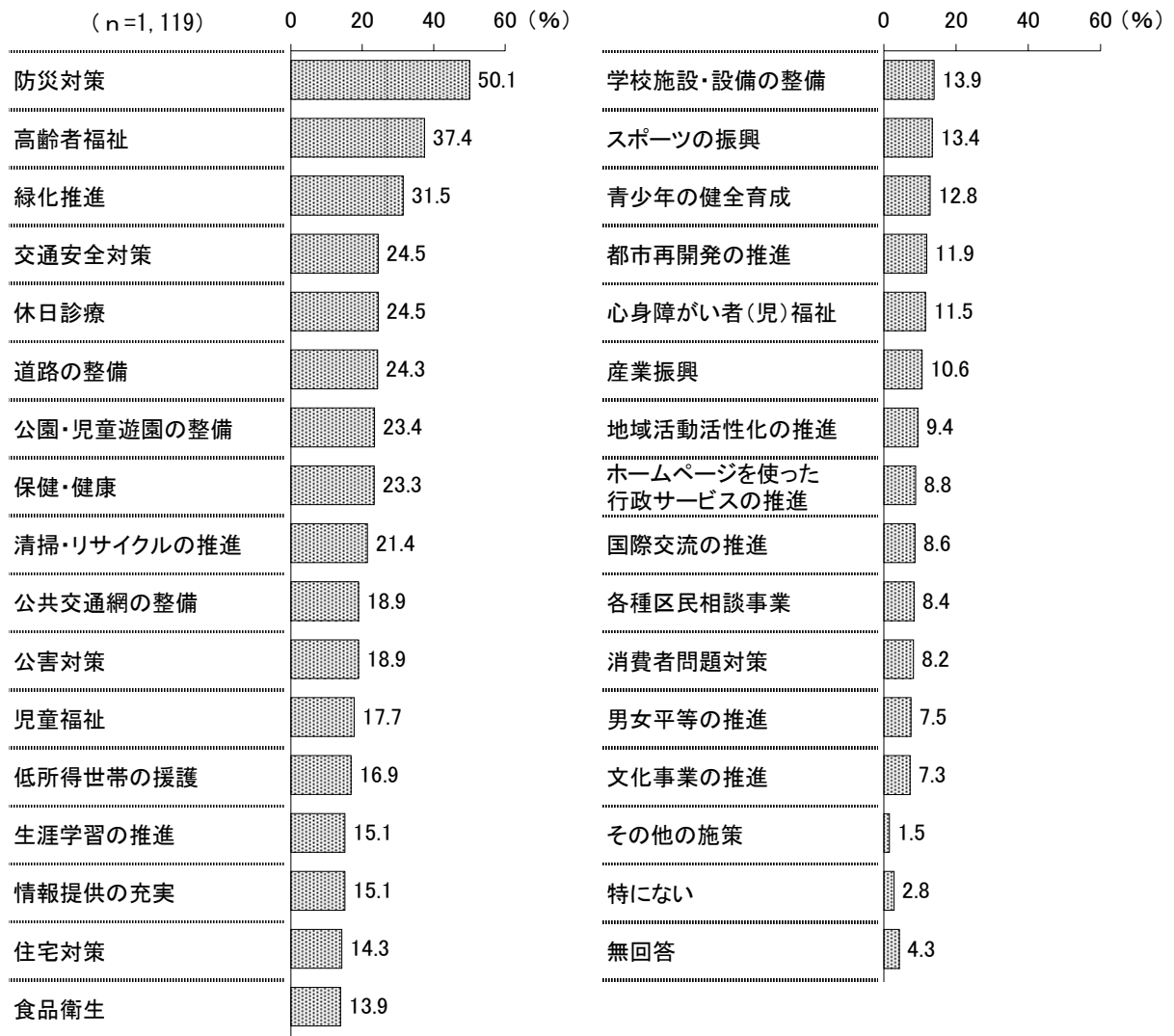
(6) 施策要望

◇「防災対策」が5割

問 35 あなたは、大田区の施策の中で、特に何に力を入れてほしいと思いますか。

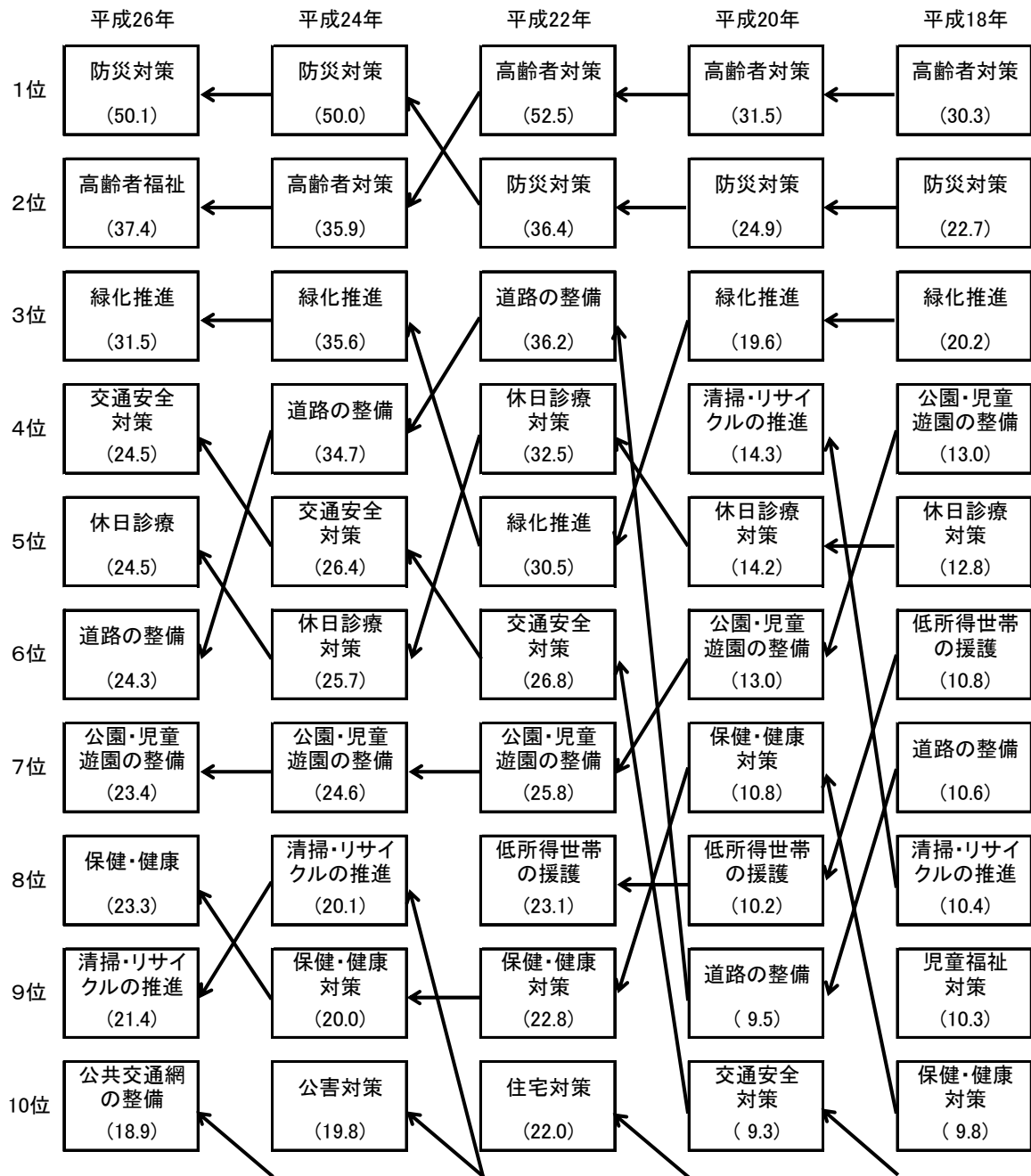
(〇はいくつでも)

図 16-6-1



区の施策の中で、特に力を入れてほしいことを聞いたところ、「防災対策」(50.1%)が5割で最も高く、次いで「高齢者福祉」(37.4%)、「緑化推進」(31.5%)、「交通安全対策」と「休日診療」(ともに24.5%)などの順になっている。(図16-6-1)

図 16-6-2 施策要望一経年比較（上位 10 項目）



※平成 22 年度から施策要望の回答条件が「3 つまで」から「いくつでも」に変更となっている。

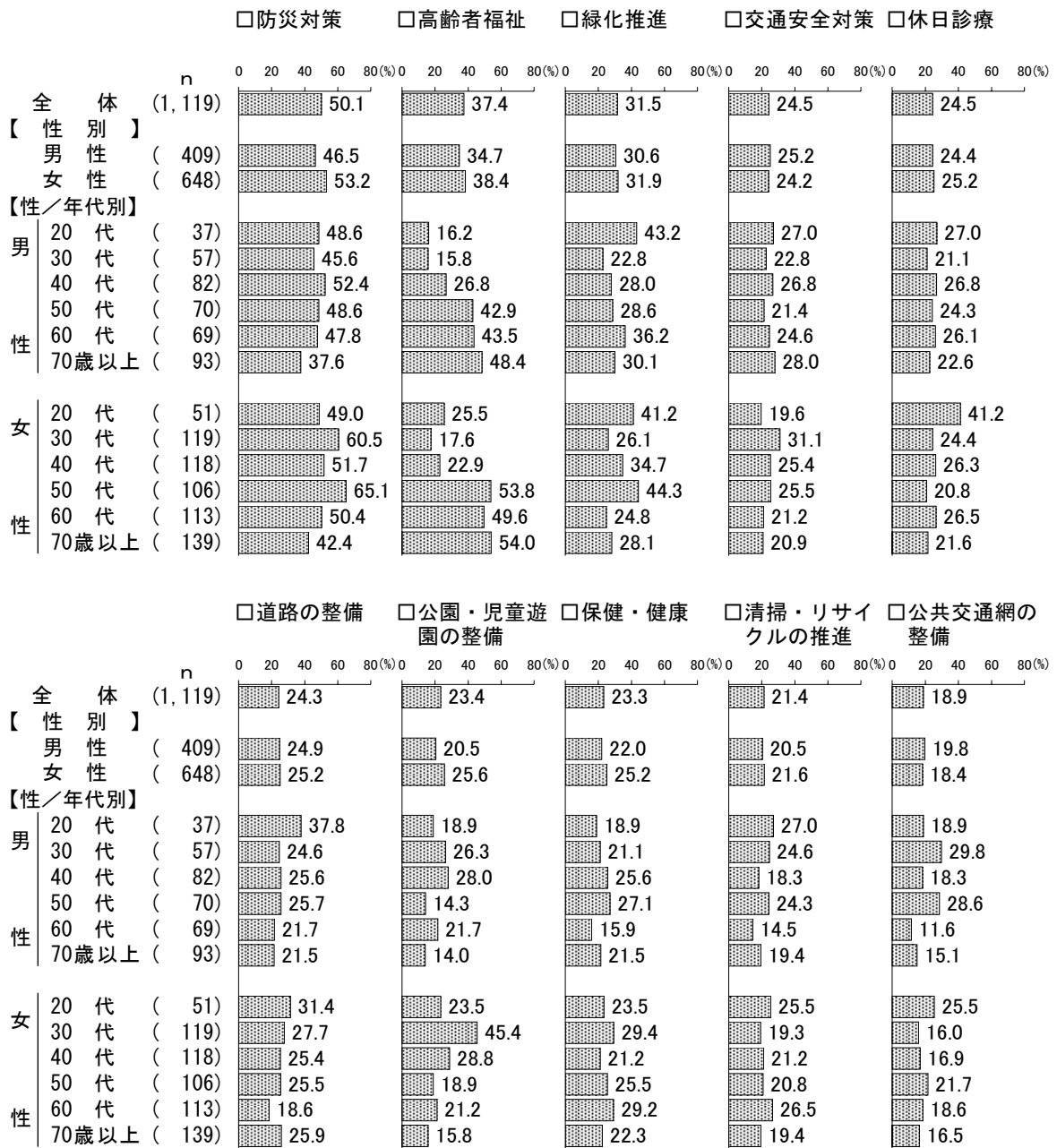
そのため、割合の変化について平成 20 年度以前と比較する際は要注意。

※「高齢者福祉」は平成 24 年度までは「高齢者対策」、「休日診療」は平成 24 年度までは「休日診療対策」、
「保健・健康」は平成 24 年度までは「保健・健康対策」としていた。

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

過去 4 回の調査結果と今回の調査結果の推移をみると、上位 3 項目については前回から順位の変動はなく、前回 5 位の「交通安全対策」が今回 4 位、前回 6 位の「休日診療」が今回 5 位と順位を上げている。また、前回 10 位以内に入らなかった「公共交通網の整備」が今回 10 位に順位を上げている。(図 16-6-2)

図 16-6-3 施策要望一性／年代別（上位 10 項目）



上位10項目を性別で見ると、「防災対策」は女性（53.2%）が男性（46.5%）より6.7ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「防災対策」は女性50代（65.1%）で6割半ば、「高齢者福祉」は女性の50代（53.8%）と70歳以上（54.0%）で5割台と高くなっている。また、「緑化推進」は女性50代（44.3%）で4割半ば、「公園・児童遊園の整備」は女性30代（45.4%）で4割半ばと高くなっている。

（図16-6-3）

表 16-6-1 施策要望—地域別（上位5項目）

	n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体	1,119	防災対策 (50.1)	高齢者福祉 (37.4)	緑化推進 (31.5)	交通安全対策 (24.5)	休日診療 (24.5)
大 森 地 域	378	防災対策 (49.5)	高齢者福祉 (37.3)	緑化推進 (33.1)	道路の整備 (24.3)	公園・児童 遊園の整備 (23.3)
調 布 地 域	282	防災対策 (55.3)	高齢者福祉 (34.4)	交通安全対策 (30.5)	緑化推進 (29.4)	休日診療 (27.3)
蒲 田 地 域	320	防災対策 (48.8)	高齢者福祉 (41.9)	緑化推進 (31.3)	道路の整備 (26.9)	休日診療 (26.3)
糀谷・羽田地域	111	防災対策 (45.0)	高齢者福祉 (36.0)	緑化推進 (35.1)	道路の整備 (28.8)	休日診療 (27.9)

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

上位5項目を地域別で見ると、「防災対策」は全ての地域で1位、「高齢者福祉」は全ての地域で2位となっている。また、3位に上げられている項目は大森地域、蒲田地域、糀谷・羽田地域で「緑化推進」、調布地域で「交通安全対策」となっている。(表16-6-1)

17. 自由意見

今回の調査では、大田区政についてのご意見・ご要望をご記入いただく自由意見欄を設け、298人の方から449件のご意見・ご要望をいただきました。いただいたご意見・ご要望を「おおた未来プラン10年」の基本目標別に仕分けした区分ごとに分類し、内容を抜粋して掲載しております。

基本目標1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち

1 子育て支援

- ・子を産み育てる環境の整備を強く望みます。病児保育、24時間託児所等。若い世代に手厚い助成を。
- ・ファミリー世代の暮らしやすいまちに。そのためには、幼小中環境整備、子育てサポート、通学路安全確保、住環境整備、お金がかからないのではなく、お金をかけても住みたいまちにしていこう。
- ・学童施設が少ない。小学校での預り場所を増やしてほしい。
- ・高齢者対策に偏っており、他区に比べ、子育て支援が遅れていると感じる。
- ・馬込に小児科・公園等なく、子育て環境が整っていないと思う。
- ・3人目の子どもに対する手当の突出した拡充が必要。例えば、3人目出産したら給付金100万円というような。3人目を経済的理由から諦める人は多い。
- ・学童保育について：学校内にない所が多く、移動中の事故等が心配。夏休み中は、プールのために学童から学校へ移動があり子どもにとって負担。定員が少なく、小2で入れない子が多いと聞きます。6年生まで入れるよう拡大してほしい。
- ・幼稚園くらいの子が遊べる施設が少ないのでもっと増やしてほしい。
- ・子どもの医療費が中学校を卒業するまでかからないのは本当に助かっている。
- ・少子化対策（妊娠の促進）等を促進してほしい。休日に相談窓口を開く等。
- ・屋内で子どもを自由に遊ばせることができるような施設で、大型なものを作ってほしい。児童館などは休日・祭日はお休みだし、小型な施設は小さい子と大きい子が同時に遊ぶことができないなどの課題があると思う。土日・休日も子どもをのびのびとさせることができると、非常にうれしい。
- ・子育てについてエリアで利用の差がある。例えば、コラボの幼児の利用制限（地区によって参加できないプログラムがある。）区外で病院を利用した時、本庁まで行かなくとも出張所で医療費の手続きができれば良いと思う。
- ・待機児童の解消。働いている若いお母さん方への支援。
- ・3人子どもがいるが、行政の手助けはほとんどない。子どもが増えれば増えるほど生活が苦しくなる国が良くなるわけがない。国がやらないなら大田区がやるべきなのでは？
- ・学校の放課後、小学生の子どもが安心して遊んだり、過ごしたりできる場、預けられる場をもっと充実させてほしいと思う。品川区の小学校は、“スマイル”という小学生の子が放課後学校で過ごせるしくみがある。大田区もそのようなものがあったら、少しでも安心して働く母親が増えるのではないかと思う。
- ・学童を7時まで（保育と同じように）にしてほしい。
- ・女の人が安心して出産できるようにしてください。働く場や保育所、児童手当など。
- ・子どもの医療費が中3までなのは、とてもありがたいと思っている。
- ・児童館、キッズな等を、日曜日、祝日も開放してほしい。キッズな等をもっと増やしてほしい。一時保育の施設を増やしてほしい。
- ・衣食住のすべてにおいて、子育てのしやすいまちを目指してもらいたい。
- ・子育て世帯へのサポートが十分ではないです。住環境には満足していますが、仕事と子育ての両立のために、大田区外へ引っ越しをせざるを得ない状況になっています。
- ・民間学童が進出しやすいようにしてほしい。
- ・所得制限のない、子ども助成のご検討をお願いいたします。子ども3人の専業主婦世帯ですが、3人の子どもを抱えた状態では妻の就業は現実的に無理であり、かつ所得制限で国の助成対象からは外され、家計面では非常に苦慮しております。
- ・児童館、学校、ドクターが一体となって発育障害の子どもの正しい教育の徹底化。強制力を持ったものが必要。

- ・子どもを増やすためにも、産科（産む場所）を増やしてほしい。小児科が少ない（六郷地区）。予防接種の助成が少ない。渋谷区はロタやB型肝炎も助成がある。

2 保育サービス

- ・保育サービスの充実、設備等に力を入れていただきたい。
- ・待機児童問題をもっとスピード感を持って解決してほしい。
- ・区立の保育園に入園できるよう待機児童をなくす取り組みに力を入れてください。
- ・保育園がまだ足りていない。1歳になると定員が2～3名となるため、1月～3月の早生まれの子が入所できていない現状がある。
- ・保育園をたくさん作ってほしい。待機児童問題をなんとかしてほしい。大規模マンションが建つときには保育園、幼稚園が足りなくならないよう気を使うようにしてほしい。（足りないなら大規模マンションを建てないでほしい。）
- ・保育園を増やして、待機児童問題を解決していただきたいです。久が原エリアは不足しているようです。遠方の保育園では毎日の通勤や生活が体力的に厳しく、子どもに負担もかかります。
- ・保育園や学童保育の公立をなくして、企業にやらせたりするのではなく、公立保育園や児童館はそのまま、さらに、認可保育園を作ってほしい。公立の施設がなくなると、区が責任を持つ範囲が狭められて、必ず質の低下をまねくからです。
- ・認可、認証保育園以外にも認定こども園なども増やしていただけたらと思います。
- ・保育園の数がたりない。待機児童の0をめざせ。
- ・保育園の数を増やしてほしい。子どもが保育園に入るまで10ヶ月ほど待ちました。働きたいが働けずとても苦しい生活をしていました。今年の4月に入所することができましたが、友人にはまだまだ待っている方々がいます。このままでは2人目、3人目…と子どもを産むことが不安です。
- ・保育サービスも他区に比べて充実しておらず、子育て世代への支援が少ないと思います。
- ・働けない母子の保育施設の充実を。働いて自立したい。
- ・保育園の増設。
- ・保育園を増やしてください。
- ・希望する保育園に入れず、理由も教えてもらえず、納得がいかなかった。入園できない理由を明確にしてほしい。
- ・保育園の拡充。世帯所得に応じた保育料ではなく、働く母親の所得に応じた保育料にしてほしい。

3 学校教育

- ・IT化が遅れている。（特に教育面）ネットワークの整備、タブレットの導入など検討してほしい。
- ・情緒不安定の児童・生徒用の固定学級（小・中学校）の設置を希望。我が子が発達障害児のため、通級指導教室に通っています。しかし週1回の通級では改善されず、在籍校（普通級）で迷惑がられています。かといって知的障害児ではないので知的障害クラス（固定級）にも当てはまらず、健常児の方に迷惑をかけながら通っている状況。我が子だけでなく、同じ通級クラスの複数の保護者から同じ意見が出ました。
- ・学校給食費を公会計化して、給食費未納問題を解決してほしい。
- ・小・中学校の建物がかなり古くなっているように見えます。建て替え計画を作り、その情報を早い段階で公報した方がいいでしょう。
- ・小学校があまりにも古いので、改修工事をお願いしたい。せめてトイレだけでも洋式に…。
- ・土曜授業や国、都、区学力テスト等は減らし、子ども達のがのびのびと学校生活を送ることができるようにしてください。
- ・他の区より教育面で遅れを感じます。他の区では、土曜授業がされているのに、大田区は、対応が遅いと思います。
- ・情緒障がいの子のための中学校の支援学級（通級など）があまりに少ないので、増やしてほしい。
- ・小学生に持たせる、防犯ブザー改善。今どき防犯ブザー？と思います。品川区のように携帯電話にも使える様にすればもっと安心して過ごすことができると思います。
- ・学校も古い設備が多く、トイレやプールなど子どもたちが多く使う設備が整っていないと思います。
- ・小学校、幼稚園などで子ども達におはなしを（授業中に）届けていますが、大田区は東京都の中で講師助成額が少ないです。他区のように、子ども達の文学や本への興味を深めている活動を理解し

て、サポートしてほしいです。

- ・義務教育のお金をケチらないでほしい。
- ・学校施設の床がすべるとの声を生徒さんから聞きました。
- ・大田区立館山さざなみ学校を廃校にしないでください。

4 幼児教育

- ・幼稚園への補助、子育て支援を強化し、こども園を推進してください。働く親のための子育て支援をもっと充実させてください。学童へ100%入れるようにしてください。学童を朝8時から入れるようにしてください。

5 健康づくり

- ・今年度から偶数年齢の対象者にも、女性特有の健康診断で負担金を出さないといけなくなったのは、残念だと思いました。それ以外にもですが、医療関係の費用はなるべく負担の少ない方向でやって頂きたいと思っております。
- ・毎年のガン検診は、いつも希望者多数のため、近くの病院（診療所）で受診できず、遠くの（バスに乗って）診療所に行かなければならない。歩いて行ける診療所で受診できるように、検診者数の割り振りをお願いします。（中馬込1丁目在住です。）
- ・区健康診断が有料化になりました。今までどおり無料化にするべきです。
- ・ガン診や、健康診断も有料になり家計が苦しいです。
- ・近所にあった小児科がなくなり、代わりの先生を補充するつもりもないと言われ、大変困っている。子どもが少なくなったとはいえ、もっと考えてほしい。
- ・特定不妊治療助成制度について。23区の中では世田谷区などでも、さらに区が助成制度を設けているところもあるので、負担の大きいこの治療に関して、大田区も区としての対策、支援をしていただきたいと思えます。
- ・大田区のガン検診はすぐ予約がいっぱいになってしまい取りづらい。多少多めにお金を払っても、もっと受けやすくしてほしい。
- ・子宮頸がん検診の案内が、申請したら届くのではなく何もしなくても案内が郵送頂けるのが良いと感じている。でも以前は無料検診できた気がします…。
- ・タバコの対策をしてほしいです。妊婦や赤ちゃん連れは特に困ると思います。閉鎖式の喫煙スペースなど対策としてほしいです。大田区に引っ越してきて喫煙者の多さがびっくりしています。
- ・公共施設の喫煙コーナーの位置を再考してほしい。

6 衛生

- ・飼い猫か野良猫か分からないが、近所の人がエサをあげて困っている。野良猫、犬対策をやってほしい。エサをあげないでの張り紙や注意だけでは意味がないです。
- ・道に犬の糞がたくさん落ちている。マナー向上のよびかけをしてほしい。
- ・犬を飼っている人のマナーが非常に悪いと感じております。道のあちこちに糞が落ちていたり、放し飼いで散歩をさせたり、人の庭に平気でおしっこさせたり、非常識な方が犬を飼っているケースが多いようです。
- ・飼いネコだと思えるのですが、隣の家の方がエサを与えるため毎日ネコが来ていて、迷惑しています。飼いネコを放つことはルール違反だと思うので、放つことはしないよう指導してもらえると助かります。
- ・近所でネコへのエサやりをする方がたくさんいます。エサやりする方は自宅周辺ではなく、どこからか現れて、エサをやり帰っていきます。尿、フン被害で困っています。

7 障がい者福祉

- ・精神障がいを発病した、弱者の声も行政に届くシステムづくりは、不可能でしょうか？障がいが、あってもなくても互いを尊重し、認識し、笑顔で生き抜けたらいいと感じます。新しくできる、障

- がい者サポートセンター（仮称）の実益のある運用を期待しています。
- ・駅辺りの治安・障がい者への配慮不足。

8 スポーツ

- ・空き地の有効活用。野球、サッカーを子どもができる所を増やしてほしい。
- ・体育館の空き時間帯を使った、スポーツの推進を希望します。室内テニス、バドミントン、卓球 etc。
- ・芝のサッカーグラウンドを作ってください。（六郷グラウンドやガス橋グラウンドは日陰もなく、夏場の酷暑が子ども達に心配。）
- ・マイナースポーツのやる場所がない。ex スケートボード。
- ・河川敷は野球場が多すぎる。他のスポーツもできる場所を作してほしい。

9 図書館

- ・図書館での色々な催し物サービスは必要ない。
- ・大田区は図書館が使いづらいです。蔵書の充実した、大きな図書館を建ててほしい。

10 生涯学習

- ・大田のはずれに在住なので、区の催事に参加しづらい。品川区、目黒区と共同の行事・大田の遺産のツアー・ウォーキング関係の行事を多くしてほしい。
- ・区民センターなどでできる習い事をいろいろ増やしてほしい。
- ・知人が埼玉県に在住であるが、「生きがい大学」「生きがい大学校友会」など60歳程度以上の県民、市民参加で、知育・体育、健康増進のサポートを行っている。結果的には健康増進に繋がり、自治体の健康保健の出費が長期的に押さえられ、明るい地域づくりに貢献出来ているように感じます。

11 生活保護・支援

- ・私は身体障がい生活保護を受けております。誠に有難く、いくらもない人生を送れる事に感謝しております。
- ・低所得世帯の援護に力を入れすぎて、少し上の低所得の家族に目が行ってない気がする。もっともっと真剣に調べてほしい。
- ・生活保護費を簡単に使ってほしくないです。いただく年金は保護者の方より少なく、年金では食べていけない。
- ・大田区では他の区より生活保護者が多い。なぜ？保護費を支払うときは、きちんと調べてください。区民税を考えると、納得できません。
- ・外国人の生活保護支援はやめてほしい（見直しが必要）。
- ・今年において消費税が5%から8%に増加したため、給付対象に臨時福祉給付金がある。と開きましたが、大田区においても実施されていますか。

12 高齢者福祉

- ・家族が介護を受けており、大田区には感謝しております。保険関係では大変助かってます。
- ・品川区では介護申請し非認定でもそれなりのサービスを受ける事ができます。私の周りにも認定外で苦勞されている方が沢山います。今一度、検討してみてもはいただけないでしょうか。
- ・年1回のマッサージサービス券とか私は幸いにもマッサージの先生が出してくださいと言ってくださりハガキを出しましたが、もうすこし皆さんにお知らせをしていただければいいと思います。老人に親切さが必要だと思います。
- ・介護保険を使ったいろいろなサービスを受けるための手続きが非常に複雑すぎる。もっと簡素化すべき。又、受けられるサービス（訪問介護）（デイサービス）などの情報をもっとわかりやすく公開されるべきだと思います。（知らない人がほとんど）
- ・高齢者福祉に力を入れて頂き感謝して居ります。今後共宜しく願いたします。

- ・65歳以上の方が緊急連絡先や医療情報等を区に登録する（高齢者見守りキーホルダー）場合は区の窓口はどの窓口にいったらいいか教えてください。
- ・高齢者福祉施設（安価な）グループホーム（安価な）高額過ぎで普通の家では無理。
- ・高齢者施設をもっと整備してほしいです。
- ・特別養護老人施設が不足していると思います。
- ・駅前開発や大型の公共事業にお金をかけていますが、介護保険料を安くしたり、区として特養を建てるなどしてほしい。
- ・身体の弱い主人と私は、60才すぎで、半分認知症の主人の母を看ています。ヘルパーさんに協力してもらっていますが、できれば、養護老人ホームに入りたいのですが（夜が心配で）、点数で入れない。老人が多い中、ホームが少ないのでは？
- ・老人ホームの増設。
- ・私82才、95才の義姉と2人で生活しております。この事でヘルパーの方とゆっくり話をしてみたいと思います。
- ・高齢者で生活に困っている人がたくさんいます。親切に相談にのってあげてほしいです。あまり聞いてくれないそうです。
- ・高齢者の認知症の予防の集り、運動、レクリエーションを定期的にやってほしい。
- ・シルバー人材を活かしてほしい。
- ・特養老人ホームをもっと設置してほしい。人口に対して少なすぎる。今後が大いに不安。
- ・後期高齢者との名称に不満。

基本目標 2 まちの魅力と産業が世界に向けて輝く^{まち}都市

1 まちづくり

- ・自転車レーン・道路の拡充・整備・ドッグランの増設・区民住宅の拡充・公園（というより広場）の拡充・整備。
- ・まちづくりを見直してこれ以上高層マンションを住宅地に建てないでほしい。
- ・低層の住宅地で富士山も見えて、皆がほっとできる地域だったのに、高層マンションが1つできる度に、環境が破壊され、古くから長年住んでいる人々の地域への愛着心も壊されてきています。地域の良さが代々受けつがれるよう条例をつくってもらいたいです。
- ・駅周辺の緑化、きれいな歩道や街路樹、ペットや家族連れで憩える広い公園、区民全員で使える文化施設（公民館やホールなど）豊かな地域に生活したいのに、現状は、ゴチャゴチャとした駅前、自転車が所せましと行きかかって危ない。小さな誰も使わない公園しかなく、公民館は古く、畳のささくれだった汚い施設しかありません。外の地域から来る友人達に、“見せたくない地域”。商店街の道路をきれいなタイルにするとか、少しでも若い人達の活気につながるおしゃれなまちづくりをしてほしいです。
- ・ベビーカーでの移動が困難。電車内での専用の場所がないので混雑している中で、迷惑がられる。また、駅内でのエレベーター位置が、不便な場所にあり、大変だ。
- ・蒲田駅（JR・東急）について。西口の駅ビルはよく利用するのですが、駅を出てみると娯楽施設が目についてしまい、とてももったいなく感じます。娯楽施設を利用する方は一人でも移動に差し障りのない方が多いかと思うので、駅の近くの便利な場所にこそ、高齢者や障がい者、お子様連れの方でも利用しやすい環境（施設）が整うことを願っています。また、羽田空港で国際線が運航されるようになったので外国人の方々に向けての日本（東京）の窓口的な場所にもなってほしいと願います。
- ・駅周辺の自転車、バイクの放置、歩道をすごいスピードで走る自転車、道巾せまい山王地域、駅前（池上通り）周辺
- ・京急蒲田駅も川崎のように大きなショッピングモールをつくったり、再開発（とくに西口）をしてほしい。
- ・蒲田駅前を整備してほしいです。京急の商店街をきれいにしてほしいです。
- ・JR蒲田と京急蒲田のまちなみの魅力のなさには、変化のなさにはあきれています。京急蒲田へは

利用するのも行くつもりなし。JR川崎駅の方が便利。

- ・蒲田駅前広場をきれいにしてほしい。
- ・治安は良い。緑は多いが虫も多い。買い物が不便。地価（家賃）が高い。買い物が便利で家賃も安い川崎に引っ越し予定。
- ・相続後の土地が売られ、とても細かく分譲されている事が多い。一軒家を最低でも30坪単位までとならないかと思う。
- ・東京の蒲田駅南玄関口であるのに、あまり明るいイメージがなくまちが汚い。不労者が蒲田駅でたむろしているのはとてもがっかりする。住宅地はとても良いと思う。
- ・古い一軒家が解体され、高層マンションばかり作られる。これは景観悪くまちの魅力を低下させ隣近所との付き合いも減少し不安になる。新築の階数を3階までと制限したり、緑地を増やしてほしい。小川や空き地をそのままにしておいてほしい。再開発などいらぬ。製造業を生かすまちづくりをしてほしい。
- ・洗足池周辺の活用。以前はレストランや休み所があったが、老人のために是非復活してほしい。区民農場など区民に環元できる緑化を。大岡山駅前、又は周辺に駐輪場だけではなく、地下駐車場を何故造らなかつたか。遠路、足の不自由者にとり自転車は難。
- ・セットバックで建替できない小さい土地を買ってください。
- ・他の区民からうらやましがられるようなまちづくりをお願いします。場所や利便性など好条件なのに、あまり人気がないのが残念です。
- ・お隣川崎市は駅前などの開発がどんどん進み、大変便利になっている。最寄りの雑色駅はなかなか工事が終わらず、使いにくい。
- ・高層マンションの乱立に規制をかけてほしい。景観が損なわれ隣近所付き合いも減少し不安になる。幹線道路沿い以外は新築階数制限を3Fまでにしてほしい。緑も増やしてほしい。古い家を大事にしてほしい。そんな家はないかも知れないけど、古い家を保つための職人を維持するための制度があってもいい。再開発も必要ない。大田区の強味が製造業にあるのなら製造業を生かすまちづくりをしてほしい。京急蒲田とJR蒲田を空中回廊で結ぶのもいいと思う。水平移動のエスカレーター。それも無料。新たに線路を作る必要性は感じない。まあ大田区は大田区にあるもの特徴を生かしたまちづくりをしてください。
- ・蒲田駅前をきれいにしてください。パチンコが多すぎだし、風紀を乱している。犯罪がいつ起きてもおかしくない。小さい子が安心して住めるまちづくりを目指してほしい。
- ・蒲田駅周辺に地下街や駐車場を整備して再開発を行うことで、地域活性化を目指してほしい。
- ・大田区には他の周辺住宅地域と違い大きなショッピングセンター、スーパーが少ないと感じます。生活する上でこれらは一般的なインフラの次に利用者が多いはず。もっと駅前整備等誘致に力を入れてはどうでしょうか？
- ・京急蒲田駅周辺の歩道橋を早急に整備して下さい。完成予想図にある歩道橋が1本しか完成していません。改札口から産業プラザまで時間がかかりすぎます。
- ・街灯について 暖色系の街灯にしたなら、街に温かみがでて良いと思います。（西馬込の桜並木など）
- ・羽田空港が近くに有るのでこれを生かした経済効果を生むまちづくりをしてください。

2 交通網

- ・蒲蒲線は、中途の駅での下車は見込めなく、かえってお客さんが減ってしまうと思いますが、いかがでしょうか？京急の高架下は大変便利になりました。
- ・JR蒲田駅と京急蒲田駅とを早く電車でつないでほしい。せめて、シャトルバスのようなものでも、走らせてほしい。とても不便を感じている。
- ・大田区から、東急電鉄さんに、東急池上線の車両を増加、池上駅のバスターミナル増加をお願いしてほしい。20年住んでいますが、マンションも増え、人口は（利用者）増えていると思う。
- ・荏原病院に行くのにバスが通らず不便。雪谷大塚あたりからバスが通るといい。
- ・西蒲田1丁目4丁目、中央8丁目あたりにコミュニティバスなどが走ると便利。
- ・（糞谷）停まる電車が都内なのに20分に1本という不便さは最悪です。羽田空港のギセイになっていて、空港周辺の都市開発のメリットはまったく感じられない。せめて交通機関などで補ってほ

しいです。

- ・ J R 蒲田駅と羽田空港を結ぶ鉄道の整備を望みます。
- ・ 以前より計画はあるかと思いますが、京急蒲田と J R 蒲田をつなぐ電車路線の実現を早くめざしてほしいと思います。
- ・ 京急をよく理用しますが、10 時以降、品川へ直通電車がなく不便です、空港利用者には便利になったのですが、毎日利用する地域の人々にはどうなのでしょう？
- ・ 「蒲蒲線」は不要。J R・東急蒲田駅を使う者として、京急蒲田駅は別地域の路線。税金をかけて地下に整備するのは大反対。東急と京急の相互乗り入れが不可能なのは明白で、乗り換えてまで京急線を利用する必要はない。それより、「下丸子駅」の朝の混雑は事故に連がると皆言っています。羽田への利便性のために、住民としてのメリットは蒲々線にはありません。羽田へは別ルートで行きます。
- ・ 高齢者のため、西蒲田地域にミニバスをお願いしたいです。（バスに乗っても約 10 分荷物を持って歩いて帰ります。）
- ・ 多摩川線になってとても不便を感じるし、矢口地区あたりは軽く扱われているように感じる。
- ・ 私の住む地域は坂が多いので、港区のようにコミュニティバスを走らせて頂けると有難いです。
- ・ 大田区はだんだん住みにくくなっているし、不便になって来ている。池上線を利用している人は空港に行くのに不便で行くことができなくなる。何故蒲田を通過するのか？大田区内に空港があるのに他区の人に便利にし、住民は不自由にする役所仕事は、ゆるせない。
- ・ 蒲蒲線は必要ない（レンタル自転車とか地下駐車場の方が利用しやすい）自転車道の整備・冷却道路をもっと延長してほしい（日陰ができない歩道など）。
- ・ タマちゃんバスを住民の利便性を考え、もっと、多くの経路を。
- ・ 大田区内の京急線沿線は J R や東急線などの連絡が悪すぎる。オリンピックに向け、海外からたくさんの方が来ると思うが、23 区内に空港がある唯一の区なのに鉄道の連絡が悪すぎやしないか。改善を希望する。
- ・ 大森駅、蒲田駅間が長く駅がないため、自転車通勤者が多く朝は結構危険である。さらに池上通りもバスによる渋滞があり通勤時間が読めないと同時に、バスの定期代も電車に比べ非常に高いので家計への負担も大きい。ぜひ大森駅と蒲田駅の間駅をつくってほしい。

3 道路

- ・ 西馬込駅の国道沿いの歩道が狭く、雨の日は傘をさすのですれ違うのがやっとな。高校が 2 つ開校し、通行人数も増えており、歩道を拡げて頂きたいです。朝晩の通勤時間帯だけでも、駅周辺の車道を歩行者天国帯にしてほしいです。
- ・ 公園、道路等の掃除は、フォローできていません。道路掃除も週に 1 回位、区の方が、やるようにしていただきたい。道路の歩行者用に段差がありすぎる。
- ・ 道路工事、ガス、水道、電気の工事を突然はじめて、道路を通行止めにされるのは本当に困るのではじめる前に、前もってチラシでも入れてくれると助かります。
- ・ 道路の交通標識でミラーがトンチンカンの方向を向いたまま、また当然道路上に「止まれ」のペンキがあるむきなのに消えたまま、何年も放置されているところを全点検されて、改善されるよう望みます。
- ・ 公道で遊ぶ子どもが沢山います。子どものみならず大人も一緒になり野球やバドミントンやサッカーや自転車乗りまわしなど普通に道路でほぼ毎日遊んでいて大変危険です。近くに公園があるけれども道路を公園化させていて、ボールや石が家に飛んで来る事もしばしば、車や自転車や歩行者の妨げにもなっています。
- ・ 蒲田周辺の歩行者用道路は、歩行者やベビーカーに優しくありません。例えば一方通行の道路なのに、車道が 2 台通れるぐらい広いのに歩行者用道路はとてもせまく、歩行者同士がすれ違えなくて、車道を歩かなくてはいけないし、途中電信柱があつてベビーカーは車道を通っています。
- ・ 水道工事などで道路がガタガタで、自転車に乗っていても気になる。歩道と車道の段差がありすぎて、車が来てよけようにもすぐ歩道に上がれず困る。
- ・ 道路整備…歩道、車道、自転車道 3 つのレーンをしっかり分け、歩行者と自転車の事故がないよう

しっかりとした整備をお願いします。特に、「池上通り」「東邦医大前通り」などなど。

- 道路の整備など、進められている様子は、感じております。更なる整備をいただけると助かります。
- 馬込地区に住んでいます。環七近くは緑も少なく、空気が汚いです。街路樹も少ない所があります。坂道で車も自転車もスピードが出ているので小さな子どもを連れていると恐いです。歩道は広めですが、自転車ゾーンと分かれています。
- 通勤時自転車を利用しています。子育て中ベビーカー利用時にも感じていました。道の悪さです。工事跡の道がデコボコで通りたくない道があります。
- 大森駅の山王側から出て左に向かう線路沿いの道と線路の間にごみが多数捨てられていて、時折悪臭もするのが気になります。
- 駅に通じる一般住宅道路の下水用側溝の蓋の穴めがけ吸殻を投げ捨てる人が多い。穴に金網をはり、中に吸殻が入らないようにするか、上にペンキで禁止マークを目立つように標しておけば、結果的にポイ捨てをする人も少なくなるのではないかと思う。
- 行政指導の事項で予算をさほど要せずできる環境面でマイナス要因を改善するだけで良く感じる事項が沢山あると思います。例：商店街の道路に置いて有る看板、サイン等を撤去されれば安全で快適になる（道路まで商品を出している事自体おかしい）。
- 私道も防犯のため4mと決めていながら、10年以上経ってもあいまい。角地の家はいいけど中の人達は毎日が不安。1日も早くそれこそ区として進めるべき。
- 道路がすべてバリアフリーになり、車いすでも安心して通行できる様お願いしたい。
- 蒲田陸橋の坂をなんとかしてください。登る時つらい。
- 道路の整備、舗装をしてほしい。（歩道が狭く、でこぼこ）ベビーカーと車イスが通れる程度の横幅を確保してほしい。（ガードレールの真ん中に電柱があつたりする）道路の清掃してほしい。ゴミ、犬のフンがたくさん落ちている。
- 山王3丁目26と27のあいだ？の崖が木の根っこが舗装を突き破りそうだし、上の倉庫みたいのが手入れもされず、崩れ落ちそうなのですが、こういうのってどこに連絡すればいいのでしょうか？防災課ですか？
- 道端にある花壇の草とりなど整備をもっと頻繁にしてほしい。整備、清掃間隔が長いせいで荒れていて近隣のイメージを低下させている。
- 自転車レーン・道路の拡充・整備。
- 自転車専用道路の設置を進めてもらいたい。
- 自転車専用道路をつくってほしい。

4 公園

- 公園をキレイにしてほしい。汚い。整理されていない。一戸建てが立ち並び震災のときの大火災が心配。耐火や少しでも空きスペースに公園をつくるなど、積極的に対策をおねがいします。
- 大田区では緑化をすすめているようですが、公園、道路等のそうじは、フォローできていません。
- 公園の緑化をお願いします。
- 道路で遊ぶ子どもが多く、騒がしかったり近所迷惑に感じることもある。何度か事故になりそうな場面も見ている。公園と子どものバランスがあっていないと、感じる。遊ぶ場所が限られてしまっているのかと思うことがある。
- 大田区内で緑のある場所が限られている。地区ごとに大きな公園がほしい。
- 都市を再開発する時には、無料駐輪場や、公園を必ず作るなどしてほしいです。また、公園も作ってそのままにするのではなく、区として責任を持って清掃もしてください。
- 馬込地区に住んでいます。近くに小さな公園はありますが、暗くあまりきれいではなく、虫もいて、誰も遊んでいません。品川区側がきれいなので、利用しています。
- 洗足池の植木の剪定や植樹に対して皆が不満に思っています。木はずたずた、植えた木に水もやらず枯れたら又植えなおす繰返しで本当にお金の無駄使いです。植えたら責任を持ってほしいです。
- 桜の季節に公園に露店を入れるのは中止してほしい。
- 公園はたくさんありますが、魅力的な公園が少ないです。すべり台しかなかったりブランコしかなかったり、そのため人気の公園に人が集中し、人気のない公園は誰も利用しない。数は減ってもよ

いので魅力的な公園にしてほしいです。

- ・公園がせまく、子どもたちがサッカーや野球などの球技をすることを禁じた公園や遊具が少ないところが多いので、思う存分に体を動かすことが難しいと感じています。
- ・キャンプ場（城南島海浜公園）をよく利用しています。きれいで、オートキャンプは家族限定で使いやすいです。
- ・ドッグランの増設、公園（というより広場）の拡充・整備。

5 自転車対策

- ・放置自転車対策の強化。監視カメラの設置台数を増やしてほしい。
- ・蒲田駅前の早朝は特にゴミが多い。美化の対策（大きいゴミ箱等）及び自転車が道をふさいでいる対策を考えて下さい。
- ・自転車マナーアップをしてほしい。
- ・バイクの50cc以上の駐輪場が無いので増やしてほしい 特に駅の周辺に作ってほしいです。
- ・駐輪場が少なすぎて困ります。大森駅は朝から通勤通学の人が、止めてしまい、地域の人が使えなくなる、とはどういうことでしょうか。お金を使ってでも、大森駅周辺の整備をお願いします。品川駅のように、地下への収納も考えていただけないのでしょうか。
- ・蒲田周辺の駐輪場や自転車専用通路等、整備してほしいです。
- ・駅前の取り締まりが始まってから、かえって放置自転車が増え、以前より悪質なものが増えた（マンションの住民のようなふりをして敷地内においていく等）放置自転車と共にバイクの撤去もしてほしい。
- ・辺りの治安 自転車（施設）の置き場の不足等改善を希望します。
- ・みじかな道路に自転車をとめないように、取り締まってほしい。
- ・第一京浜国道の夫婦橋脇の親水公園の周囲は不法駐輪場になっていて、毎日のように自転車を整理し、不法車であることをうながす紙を貼っている。整理するのはよいが、紙を貼るのはやめた方がいいのでは？ごみを増やすだけ。
- ・駐輪場が少ない。駅に作るなど対策を考えてほしい。
- ・自転車置場を増やしてほしい。
- ・駅前の駐輪場を増やしてほしい。（放置自転車が多い）
- ・どこに出掛るにも必ず自転車を利用するのが多い大田区だと思います。駅周辺の駐輪場はまだまだ少ないです。

6 住宅

- ・低所得世帯向けの住宅対策として、空き家の利用などを積極的に取り組んでほしい。
- ・都営住宅をもう少し広い窓口で考えてほしいです。3、4回出しましたが当りません。
- ・区で管理している住宅をもう少し増やしてほしい。（20代～40代の家庭向け、2LDK～3LDKで家賃が抑えられているもの）
- ・都営住宅、区民住宅が少なすぎる。家賃が高いので区で運営する安い住宅があると、もっと、大田区に住む人達が多くなると思う。
- ・区民住宅の拡充。

7 交通安全

- ・特に最近目立つことで自転車が左側通行もせず、しかも私たちの近くをとばしている人が多く老人が迷惑しています。自動車も同じように横断歩道も止ってくれないで歩行者泣かせです。
- ・昨今、自転車に乗る人が増えていますが、モラル・交通安全の認識等自動車を運転する事と同等にマナーを身につける様、教育・教習する。
- ・歩道での自転車通行についてのルールの周知徹底を。
- ・自転車のマナーですが、子どもの頃から学ぶ機会を。自転車の標識やカーブミラー等便利なものが沢山あり理解すれば子どもでも使えると思います。
- ・自転車の走り方について、統一してほしいと思います。歩道を走るのか、車道を走るのか明確では

ないので、危険を感じる事が多くあります。

- 最近の自転車事情の新たな問題に取り組んで頂きたく思います。特に、スピードが出る自転車（いわゆるスポーツバイク）のマナーです。土手のサイクリングコースにおいてものすごいスピードで走り抜ける、夜にすごい明るさのライトを上向にして対向の歩行者がよけなくてはならない等歩行者無視の自転車マナーには疑問を感じます。スピードが出ないように鉄柵をもっとせまい間隔で設置するなどのそういった意見を土手作りに活かして頂きたく願いますし、一度意見会を開いて頂きたいと考えています。いつか事故以上の事が起きると思います。
- 自転車に乗る人のマナーが悪すぎる。
- 池上通りからくらやみ坂へ右折する信号に右折信号を設置してほしい。
- 狭い道に大型車が入って来る。一時停止をもっとはっきりとした標識にしてほしいです。児童が通る道なのに「とまれ」がすぐはがれる。
- 山王のくらやみ坂通りは危険すぎる（スピードを出す車が多いため）警察と協力して安全な道となる様規制等も含め早急に解決してほしい。
- 北千束の5差路は環7の車の量も多く、5差路から車が来るため横断の際の危険度が高い。北千束は高齢者も多いので歩道橋又は横断の際に安心して渡れるように考える必要があるのでは。車の事故も何度か見えています。
- 自転車のマナーが悪く、母があてられケガをしたことがあります。自転車教室を小学校でやってほしい。その過程で何かテストのようなものにパスした証明を出し、それがないと講入できないようにするなど、対策が必要であると思われる。罰則が必要です。歩きスマホも恐いです。
- 自転車をつかわれている方が多くいますが、乗り方が他の区に比べて荒らかったり、危なっかしいのが怖いです。
- 自転車の信号無視が多い。子どもと歩いていてこわい。
- 他地域に比べて信号機が異常に多い。いくら信号機を増やして自動車ばかり規制をかけても、歩行者や自転車等が交通ルールを守らなければ、全くの無駄。そしてストップアンドゴーによる排気ガスの無駄な増加での環境破壊。
- 自転車への交通ルール遵守の徹底、違反者の取り締まりを強化してほしい。歩道に歩行者と自転車が混在しているので、歩いている時に事故につながりそうな怖い思いをしたことが数度ある。
- 自転車マナーアップをしてほしい。
- 蒲田周辺の駐輪場や自転車専用通路等、整備してほしいです。

8 空港臨海部

- 東京オリンピックを見据え、羽田空港周辺地域を中心とした地域振興の長期的ビジョンを明確にし、区民が一体となって取り組める雰囲気づくりをしてほしい。
- 現在、大田区と江東区は新しい東京湾の埋立地をめぐる争っている。すでに両区は埋立地の拵下によって区積は増している、これは湾に接しているため、新しい埋立地は飛地になってもよいから内陸の区にゆずったら如何がなものか。
- お台場にできるカジノを大田区のものにしてほしい。
- これから、オリンピックにむけ、羽田からの開発がますますさかんになりますが区民の声をきき、まず区民ありきで取り組んでほしい。

9 国際交流

- 羽田を擁する大田区は、東京の日本の玄関口なので、他区に先駆けて本物の国際化に取り組んでほしい。英会話や他言語のレッスンの無料化や区民割引クーポン等の発行、異文化交流（他国の文化への理解を深める講座の開設やNPOの支援）等、大田区には先進的な取組を期待したい。
- 行きすぎた国際交流はしないでください。区に住むからには、そのルールを守ってもらうのが基本で、今まで根付いてきたルールを安易に外国人にあわせるよう変更することは絶対にしないでください。
- ユニバーサルデザインなのかどうか分からないが、駅等で日本語・英語の他に中国語・韓国語表記が目立つのが不愉快。JR東海のように英語のみで良いと思う。または世界各国で多く使用されて

いる言語を採用すべきだと思う。

- ・オリンピックに向け、国際化をもっと進めてほしい。

10 産業

- ・町工場の街として有名だが、中小企業への経営支援等はあまり目立ったものがない。
- ・駅前の商店街が寂しくなっているのは仕方のない事なのかと、配偶者と話しております。
- ・商店街で商品が道路までハミ出ている、車など通った時危ないので商店の人に注意を呼かけてください。
- ・多摩川の土地近くには大型店（食糧品）が少なく買物難民になるのでは…と心配です。
- ・子育て中の就業が難しい。たぶん就職、あっせんなど…あると思いますが、年齢制限があるのかと思うと…相談も無意味かな…とってしまいます。
- ・駅周辺以外の商店街やスーパーの充実。買物難民の改善。
- ・蒲田駅前、商店街は、歩いて楽しいとか入ってみようとか思う店が少なく1週毎に変わる様な店のスペースが多いのが気になる。

11 観光

- ・池上本門寺があるのだから、大田区でNHK大河ドラマに日蓮聖人等、大田区に関わる人のドラマの陳情をしてほしい。
- ・有名な文士達が住んでいた馬込・山王（最近では村岡花子も注目されているので）などの素材を生かし文化的なイメージアップに取り組んでもらいたい。（大田区はどちらかというと工業的・工場的・職人的イメージが強いがそれだけではなく文化的な側面もアピールしてもらいたい）東京オリンピックに海外から来る方が泊まれる、観光できるまちづくりをすすめてもらいたい。（現状では羽田空港に着いてから素通りして都心に行ってしまうと思う。）

基本目標 3 地域力と行政の連携がつくる人と地球に優しいまち

1 地域社会・文化

- ・《お祭りや盆踊り等の地域活動について》この時代、常識では考えられない事が多く、近所の者は大迷惑している。（例えば、大騒音、路上（家の前）座り、家の隅でのトイレ、夜中の大声、騒ぎ）主催者や警察へ対策をお願いするがまだまだ不十分。巡回等、関係者すべての協力のもと、安全環境対策を切に願います。
- ・同じ地区に住んでいても、あいさつもしない。近所に誰が住んでいるか分からない。
- ・最近アプリコ等のホールで開催されるコンサートが無に近い状況です。せっかく箱があるのですから、クラシックのコンサート等、様々なプランを企画し、活用されるべきと感じます。
- ・青年の人達（中高生）が集まったりする場も少なすぎです。
- ・他の市区町村と比べ、芸術分野への区の活動が貧弱。
- ・独り暮らしの高齢の方と子ども達が直接触れ合える集会所があるといいなと思います。（例、現在の児童館を活用して昔あそびを伝承するイベント、読み聞かせ、戦争体験、おた町工場の歴史を語って頂くなど）
- ・北千束は生活が目黒や品川に近い大田区のニュースや情報が身近に感じられない。
- ・地域で町会費を順番で担当されているが、老人にとり、又は勤務している者にとり、不能。これは、何のために使うのか。電球を買ったり、資料作製費等だと聞かすが、税金で賄うべきではないのか。アルバイトを使うべき。使途不明の意見多し。
- ・婚活推進など地域活動と紐づけてできないか。
- ・東急の管轄かもしれませんが、以前、多摩川線鶴の木駅の外観があまりにもひどかったのが、公共施設においては、二度と外観を損なうようなものにしないよう指導してほしい。そうでなくても、個人の好みで左右されそうな外観はやめてほしい。

2 区民施設

- ・近所で楽しく過ごすことのできるレクリエーション施設が少ないと思う。カラオケ、体操、いろいろな趣味でご近所の方達とコミュニケーションが自然に取れ挨拶だけの交流を、もう一步親しく話せるきっかけ作りがほしいのだが、なかなかそんな場所がない。
- ・多摩川沿いに、マンションがたくさん建っているが、「図書館・集会所」等が無い。人口密度からいえば、当然あるべきである。税金で建てた立派すぎる体育館で「プロレス・プロボクシング」をやっていますが、区民のためになっていますかね？
- ・区民保養所を大田区からもっと近い場所に作ってください。
- ・雨の日でも子どもが遊べる施設がほしい。プールを増やしてほしい。
- ・子どもがサッカーをしたりスケートボードする場所をみじかな場所で作ってほしい。
- ・子どもがボールで遊べる場所がほとんどない。ネットで囲まれているサッカー等できる設備がほしい。
- ・文化センター予約をネットでできるように早期対応してほしい。
- ・品川区のゲートシティにあるような自由に使えるサロンがほしい。

3 消費者生活

- ・駅周辺に牛丼チェーン、カフェチェーン、お弁当チェーンなど食事ができる店があってほしい。東急ストアも閉店したので、買いものが不便。商店街はあるが魅力がない。
- ・近所にあるスーパーは価格が高すぎ、品数も少ないので、毎日の買い物に困る。安いスーパー（大型）がほしい。ファストフードやファミレスも少ない。

4 防災

- ・近所は、一戸建てが立ち並び震災のときの大火災が心配です。倒壊よりもそのあとの火災で死人がでるのではないかと考えています。耐火や少しでも空きスペースに公園をつくるなど、積極的に対策をおねがいします。
- ・防災対策をもっと整備してほしい。
- ・私道の入りくんだ住宅地に住んでいます。住宅は狭少化か集合住宅として次々と新築されています。新しい方々が増え、まちは活性化されますが心配なことは、下水管の容量不足により雨水の住宅への浸水です。浸水に限らず、災害に強いまちづくりは区民が共通して願っている事案ではないでしょうか。
- ・大震災が発生した場合の避難場所をはやく、高台に設定してほしいです。起きてからでは遅いです。
- ・地震の時の避難場所をちゃんと教えるべきだ。よくわからない。
- ・毎年、地域防災訓練に参加していますが、地域の学校の避難場所の体育館だけでは、せますぎだと思います。又、防災訓練は年1回だけではなく、年2回にした方が良いと思います。又、震災が発生した場合を考えて、住宅対策と火災対策に少し手を入れてください。
- ・最近では工場とか駐車場の跡地にどんどんと家が建ち、地震が発生した時には避難場所など探す事などできないと思います。役所の方で、この地域はどここの場所に避難して下さい、と各町会に通知して検討してみてもは如何でしょうか。
- ・都市直下型地震の際、大田区は震度7クラスとされているが、具体的に大田区のエリアを詳細に表わしたものがほしい。建物の倒壊、地盤の液状化、津波など、わかりやすく、提案してほしい。
- ・ガードの下に川がありますが、大雨で災害につながらないのかももう少し地域を細かく区報にでも載せてもらいたい。災害の時地盤のかたさ、津波は大地震の時どの辺迄くるのか（中央の方は？）全然わからないのももう少し詳しく発表してもらいたい。細かく分けてわかりやすくお願いします。
- ・道が狭い所が多い。救急の時などに不便で不安を感じます。セットバックをしていない住居には、税金を加算などしてでも、きちんと災害に備えて（子どもの通学路等は特に）セットバックを推進して行って頂きたいです。電線に木がかかっている所などは、天候悪化の昨今、危険を感じるため、木を切って頂きたいです。
- ・地震がもっとも心配です。安心できるよう指導し、かつ準備を区がやってください。

5 安全・安心

- ・道路の夜間照明や防犯カメラの設置。
- ・街路灯の明りの差が気になります。特に大田区立矢口東小学校、裏門に面する街路灯は3m先で人がすれ違う時でも、認識できず、防犯性、自転車と歩行者との接触など、安全性に欠けています。管轄は自治会になるようですが、区政の一環として、今後、風通しの良い策定を進めてほしいです。
- ・子どもが保育園に通っています。公園などで不審者がいた場合、保育園には張り紙があつて注意を呼びかけているのですが、休みの時だと分かりません。また保育園などに行っていない方たちは知ることがないのでは？その後捕まったというニュースも一度も聞いてないし、不審者が出た公園では怖くて遊ばせられません。もっと広く知らせてほしいです。
- ・夜、暗い道が多いのももう少し街灯を増やしてほしい。私が学生の頃からそう感じていたのもう10年以上はそういった整備がされていないと思う。
- ・駅辺りの治安・水商売関係の客引き。
- ・最近、町工場だったところが空き家になってきて、ゴミや自転車が置いてあつたり、夜間は暗く、人通りが少なく、防犯の面でも心配です。何年もずっと放置してあるようなところは区政で何とかならないのか？と思います。あと、マンション中で高齢者が増えているので災害時、または孤独死など、色々心配です。
- ・街灯をもう少し、明るくしてほしい。ひったくり、ドロボー多く、身の危険を感じる事しばしば。蒲田は品物、食品は安く生活しやすい交通も便利だが暗い感じのするまちに思える。
- ・大田区内で地震が起きた時に実施してほしいことは、道路の整備や建物の整備と交通安全対策をしっかりやってほしいと思います。
- ・一般住宅街の電線には、インターネット用の箱状のものが、電柱近くに何軒分ものがぶらさげられ、見た目も悪いし、重みで何かの折に電線がどうにかなくなってしまわないかと心配になる。
- ・外観を重視するあまり、防犯に対する対応がなすすぎる。（具体的には並木に設置されている街灯が少ない、木々の葉がうっそうとして夜は怖くて歩けない。）
- ・不審者などが増えているので、何か、区として、対策をしてほしいです。駅前の治安、又駅周辺が汚れていることが多いので、子どもを育てる環境としては、もっときれいで、安心して住めるようお願いしたいと思います。
- ・高齢者のボランティアを。登下校時の安全安心のまちづくり。
- ・治安面に不安があります。治安強化を期待します。
- ・ホームレスや危険人物を取り止めてほしい。
- ・大田区は犯罪が多いイメージがありましたが、住んでみてちょっと危ないと感じることはありません。住みやすい環境として公共サービスの充実も勿論大切ですが、治安をよくすることがイメージUPにつながると感じます。そのため、道などをクリーンにしたり、違法自転車やバイクを整理したり…身近に一番接する部分をキレイにしていくのが良いかなと感じます。
- ・暴力団排絶。
- ・治安が悪いというイメージを徐々にでも払拭したい。
- ・海外からの労働者の影響で、治安が悪い。
- ・子どもの防犯対策に力を入れてほしい。

6 環境保全

- ・歩きタバコ。指定の喫煙場所を設けたのはいいが、囲いがないので煙が流れてくる。区役所でも、ビルの脇に作るんじゃなくて屋上など高い所に喫煙スペースを作って煙が歩いている人にこないよう配慮してほしい。
- ・羽田空港の今後の騒音問題には強い関心があります。増便に伴うルート変更はしっかりと住民の声を聞いてほしい。
- ・現在も一部施行されていますが、呑川の上をふさいで緑地化や道路化して頂きたい。川のにおいや細かい虫が非常に多く環境が悪い。
- ・歩きタバコをなくしてほしい。

- ・タバコの対策してほしいです。歩きタバコ・自転車タバコがなくなるようにしてほしいです。
- ・羽田空港の夜間利用に関連して、航路が増えることでの騒音や事故の問題が心配です。
- ・緑化をもっと整備してほしい。
- ・歩きたばこも多い。
- ・呑川の整備、不法船。
- ・緑化の設問が良く記るされるが、水（春川下流地域）←（小坂川）上記の汚なさ、臭いの件について改善望む。
- ・歩きタバコ禁止条例が施行されたと思うが、ちゃんと周知されてないので、全然減らない。中央区のように表記をしっかりとするなり、取り締まるなり対策を講じてください。これでは、施行されてないのと同じです。
- ・羽田空港の夜間飛行の騒音対策。
- ・歩きたばこを禁止してほしいです。
- ・馬込地区に住んでいます。環七近くは緑も少なく、空気が汚ないです。
- ・歩きタバコをする人がいまだに多くとても不快です。
- ・煙草のマナー、喫煙場所を限定、歩きながらはやめてほしい。
- ・蒲田駅西口の喫煙所ですが、サークル内すべてが、スモークエリアのようになってしまっている。毎朝通るのに迷惑です。あの内側なら、灰皿そばでなくても良い、花壇に座りながらたばこを吸うようになってしまった。カラス対策もしっかりしてほしい。特に駅前のゴミの日は、きたなくて店に指導をしてほしい
- ・放射能汚染に対する取り組みがほとんどない。
- ・呑川へ投棄されるゴミをどうにかならないのだろうか。スカイツリー脇の堀は見違えるようにきれいになった。呑川もあのようにならないのだろうか。きれいにする団体があるようだが、何をやっているのかとんと聞こえてこない。
- ・呑川の水質が池上あたりから急に臭くなる。生物が生息できる川底の改良と水質改善すべきだ。
- ・問27について。集合住宅に住んでいるので個人の判断ではできませんがシステムとしては賛成です。
- ・緑の多いまち作りをしてほしいです。
- ・ごみのポイ捨て、自転車や歩行中のスマホ、喫煙など本気で取り締まってほしい。カラス対策。（ごみが散乱、ふん害など困っている。）
- ・歩きながらタバコを吸っている人が多く怖い。子どもの近くで、吸ってほしくない。やけどさせられそう。
- ・路上喫煙は全面禁止にするべきだと思う。

7 ごみ・リサイクル

- ・カラス対策。ゴミ収集場所にネットだけでなく、BOX式のもの（施錠できるもの）にしてほしい。
- ・蒲田駅前の早朝は特にゴミが多い。美化の対策を。
- ・ごみの分別がやりやすいので、助かっています。
- ・区報には目を通すようにしているが、知らないことが多いと感じた。リサイクルの推進。ゴミの分別にしても、もっと多方面から発信していかないと理解・浸透していかないと思う。
- ・大森町周辺はゴキブリがとて多くて、夜に窓もあけられず困っています。何かまちのゴミ捨て場に問題があるのでしょうか。
- ・食品の大量廃棄の改善。スーパーや飲食店で期限切れで廃棄されるゴミがなんとかならないのか。
- ・区政ではないと思うがゴミの個別収集を希望。
- ・プラスチックのゴミは分別回収を行うべき。
- ・ペットボトルや缶、新聞紙などのリサイクルは行われていますが、衣服のリサイクルシステムがないのが、大変残念です。
- ・ゴミの分別が細分化されるのは良いことですが地域の外国人向けに英語でも案内があると助かります。
- ・リサイクルの推進、高齢者になり物を捨てるのに困っています。

- ・ゴミをもっていってもらうのに、自分の家の分1人分で持っていってもらっている人に対して有料にしてほしい。大田区民60万人の人の家にゴミ1人1人とりに行けますか。税金でみんなが言いだしたらどうするのですか。
- ・通勤時に通りがかりの人が内容物の分別してないゴミ袋を網もかぶせず置いていく事があるのと、出された分別ゴミを収集車が来る前に持ち去っていく人がいる。各家の入口にゴミ袋を置き、手間はかかるが、各戸に収集してもらいたい。
- ・資源回収方法を改善してほしい。現状では、集積場に各種の資源がばらばらに置かれ、回収効率も見てもよくないのではないのでしょうか。

8 広報

- ・私が老人なので区の情報が耳に入れにくいと思います。
- ・新聞をとっていないので、広報が来ません。神奈川のときは、配布されていました。
- ・もうちょっと、大田区の事がわかるように、まちの掲示板とかも、こまめに見回りして、キレイにした方がいいと思う。特に用事がないと区役所とかも行かないので、出張所とかにもパンフレットとか置いた方がいいと思う。
- ・区報はメール配信があれば、とても便利。
- ・開かれた区政とのコメントだけではなく、広く区民が体験できる場を公開して、その様子をホームページやCATVなどで紹介するなどして、垣根を下げる体制が必要。
- ・沢山の取り組みをされているのにあまり認知されていないような気がする。区民に対するアナウンスがきちんとされていくと住みやすくなり、区に対する信頼や愛着がわいてくるのではないのでしょうか。
- ・パソコン等を使えない人間もいるので、区報等紙での報告は続けてください。
- ・無駄が多いと思う→区報を配る時多すぎて捨てているもったいない減らすべき。
- ・このアンケートが届いて、初めて問31のような区施策があることを知った。区報はどのようにしたら入手できるのか知りたい。生物保護や省エネ推進など、たくさんの活動をしていることを知りおどろいた。ホームページをもっと見ないと情報が分からないと感じた。
- ・インターネットのない人への気配り。
- ・フルタイムで共働きでパソコン、スマホを持っていません。ホームページに頼る情報掲示や、休日の問い合わせや対応窓口・機関の少なさで区政と自分の生活がかけ離れているように感じます。
- ・情報の入手手段が紙・TV媒体からネット・モバイル媒体へ移行している若者世代に向けた正しい情報・入手しやすい情報の提供を市場調査・意見ニーズをふまえ検討ください。
- ・参加するにも情報が少ない。(ポスターなど)
- ・1日付の区報は自治会の回覧板で各家庭にまわされるが、新聞等の折り込みで各家庭に配布してもらいたい。
- ・おた区報は新聞購読者のみに配布されているので、できるのであれば、全世帯に配付してほしいと思う。
- ・以前住んでいた自治体では区報が充実していて定期的に状況を知る事ができた。が、大田区のそれはあまり情報量もページ数もないと思う。ホームページなどはこちらから知りたい情報を能動的にとりに行く時に活用するので、現状や、新しい取組などについて知るには最適とは言えない。区報の充実を望みます。
- ・区のサービスについての情報提供がほとんどないように感じる。大田区の将来のビジョンなど、全くわからない。
- ・問31に記載されている大田区の制度・施策・施設を区報に年1度位、連絡電話番号と共に掲載して頂きたいと思います。区民にとって大切な施設があっても、情報がないと活用する事が、できません。
- ・パソコンを使えないので、大田区報は昔から情報源として助かっています。
- ・サイトに情報が載るのがおそすぎる。
- ・区の行事や行政の情報が全く分からない。賃貸マンションに一人暮らしのため、組合もなく、町内の行事も知らない。孤独は感じないが、このまま老いた場合が気になる。

9**広聴**

- ・無料での法律相談（弁護士）ができる窓口を増やしてほしい。（時間も）
- ・当アンケートが、所有する i-pad では申請できなかった。セキュリティの問題、コスト等、事情があるかとは思いますが、協力を求めるならば、整備する必要があるのではと思います。
- ・このアンケートの設問も、何に活かせるのか疑問。これで仕事をした気にならないでください。
- ・区民の意見要望を区政にもっと取り入れるシステム（？）の構築。
- ・私は 80 才を迎える年になり、この様な調査を受けましてもお答するに悩みました。何度読んでも理解できず、それで出すのが遅れました。
- ・区政情報の公開。
- ・声をあげない住民の意向をくみ取る政策であってほしい。
- ・これって区に言えばいいのかな？と思ってもなかなか動けなかったのでこういう調査があるのはとてもよいと思う。
- ・こんな長いアンケートなので図書カードくらい送付したらどうか。まず、そういう気遣いが役所の人間は足りていない。民間企業は、もっともっと大変ですよ。
- ・あまり聞きなれない言葉もありました。良い勉強になりました。

10**職員**

- ・区役所本庁にて健康保険証のことでいった時、係の女性の方がこの保険証は私の方でもらいますと言われて取られましたが、医者にかかる時その保険証が無いと診断できないと言われ直ちに区役所に行ってそのことを申そうとした所、私の証を取り上げた女性の方の顔を覚えていたのでいおうとしたら奥の方に逃げるようにいってしまいました。そして別の方が出て来てすみませんと謝って保険証を新しく作ってくれましたが誤ったらその際は逃げずに謝って訂正してくれれば良いのに自分の責任を取るのが嫌でそんな行動をとられ、本当に驚きました。
- ・区民の相談に、決まり事ですからと返答するのでなく改善する様心がけてほしい。
- ・出張所の係の人が態度悪いから、こっちも気分悪くなりイライラします。
- ・最近は一応の知性を備えているはずの公務員の不祥事が多いように思う。これは複雑になりすぎた社会で事の“緩急、大小”の差を免えない幼稚な人間が増えているからか、大部分の人達は大丈夫と思うが是非この原点を自覚して事に当ってほしい。公務員は尊敬に耐えてほしい。
- ・区職員教育の充実、育成、再育成 *カスタマーサポート（相談者、特に高齢の方への対応が悪い所を目にした事が数回あります）。*中堅職員の再教育。
- ・中越地震の際、実家が震災で全壊し、新築するまで高齢の父を預かりました。歩行もままならない父に車椅子を、事情を知った区役所の方が無償で、貸出をしてくださいました。その後父は無事帰郷する事ができました。役所に車椅子をお返しに上がった際、区役所の方が父に心温かい言葉をかけてくださり父は涙を流して感謝しておりました。役所の方の臨機応変な対応を本当に嬉しく、ありがたく、大田区に住んでいて良かったと心から思いました。ありがとうございました。
- ・本庁の方の対応が不親切。
- ・外国人が多く住んでいる今日、行政の窓口で語学のできる人がいないので多くの人が大変困っている話を良く聞きます。語学を習っている者として心外に思います。
- ・役所内でも案内不十分。隣の係の方もわかっていなかった。老人にあっちへいけ、こっちにいけでは老人のことを考えていないと思う。
- ・区の職員の方々が懸命に区民のことを考えてくださっているの、これからも、よりよい大田区になっていくと思います。期待しています。
- ・区職員の皆さんの頑張りを期待します。

11**組織・制度**

- ・近くに住む孫達が、健かに成長できる区政をお願いしたい。
- ・大田区は臨海工業地帯（中小企業）から住宅地まで幅広い地域を有しており、区政の方針については複雑化していると感じる。よりメリハリのある政策が必要であり、全ての住民に受け入れられる政策はあり得ないとする。難しい時代での区政の舵取りは、区長の先見と英断に期待したい。

- ・長く大田区に住んでいる人に還元されているという感じはしない。大田区でよかったと思えることが1つくらいあったらいいなと思います。
- ・区役所に行くような用事もなく、またわざわざインターネットで区のページを見るような機会も今までなかったので、自分が大田区の取り組みについてほぼ何も知らないことに、このアンケートに回答して初めて気づいた。ただ、それは今の住環境やその他いろいろな制度に不満や不便を感じたことが全くなく、非常に満足しているからかもしれない。私が大田区の1番好きなのは、都心で利便性が高い土地にも関わらず、緑の多いところなので、そこはこれからもずっと変わらないでいてほしいと思う。
- ・今後も発展していく区だと思いました。手に職のある職人の町工場が沢山あり、大企業と不景気との板ばさみで苦しいままであるのは残念です。海イコール港と空の港がある大田区は東京の要となる期待の区であると感じます。リニアの駅が追加されればなおさらの事です。区民全体の底上げを考えるに教育の充実と治安の良い町づくりを希望します。私の様な主婦も子ども（塾に通えない子）の勉強をみるなど、ボランティアに貢献できる人は多いと思います。
- ・大森福祉事務所の場所が不便です。
- ・透明性のある区政運営・区民によりそった対応。
- ・現在でも区政はおおむね適正、前向きで良いと思われます。しかし、今後住民の高齢化などにより福祉の維持が大変だと思います。どうか頑張って下さい。
- ・高齢者対策が一番しっかりしていると感じるが、夫婦のみや子どもに対する対策をもっとたてたほうが良いと感じる。少なくとも、子どもがいない2人暮らしの若い人達には、魅力のあるまちだとはあまり感じる事ができない。もう少し、児童や将来性のある所や内容に、お金を使ってほしい。
- ・安全・安心なまちづくり。地域活性化への貢献 地域が子ども達を育てる社会
- ・行政サービスを提供しているエリアが東部地域にかたより過ぎ。大田区より目黒区のサービスを受けた方がいいと思う。
- ・公務員を減らすべし。
- ・大田区がもっともっと良くなるようガンバってください。
- ・隣接の港区、品川区と比べて生活環境が劣っていると感じている。
- ・市民では、ボーナスが出ない方が、多数いる中公務員の方々はたくさん貰っているように思えます。市民が苦しんでいるのにどうしてですか？
- ・パスポートの申請を、区役所などでできる様にして頂きたい。
- ・大田区以外に住む人と話す時、「大田区は〇〇なんだよね」と区政の特長を上げることができない気がします。自信をもって「大田区だけなんだよ」と自慢できる施策を打ち出してください。
- ・今までやってきた良いことはやめずに、その上にさらに、良い施策をしていくのが、行政の責任だと思います。税金を払っているのは区民なので、その区民の生活が豊かになることに、お金が使われるのが本当の姿だと思います。特に弱者と呼ばれる人達のところにお金が使われるようにしてほしいです。また、区民の声（すべて聞いてそのとおりにできるとも思いませんが）はしっかり聞いて、それを反映させるという立場に立ってほしいです。行政や議会の方が上で、住民は、その下にあるという意識を変えてください。効率ばかり考えて施策をするのではなく、そこに「心」がなくては、良くなりません。いっしょうけんめい働いている力を「区民生活が豊かになる」方にむけてほしいです。
- ・住みやすいまちづくりに推進や区の施策の充実をより一層図っていただきたいです。
- ・増税や年金不安等将来に不満・不安を感じる将来の世代のために住みよい区としての希望あるまち振興に期待します。
- ・行政に関する説明会や、青年（30～40代）を中心とした地域活動の推進。土・日も何かイベントを行う。窓口の土・日（祝）を開設（区職員のシフト制）。
- ・お隣の品川区は常に区民の要望を取り入れ、一歩先行く行政がおこなわれているように思えます。近いだけにいつも目につきます。大田区も区民の要望をできるだけ、スピーディーに取り入れて実行に移してほしいです。
- ・現在は満足しております。

- ・行政サービスを日曜日でも営業してほしい。
- ・特別出張所の数をもう少し増やしてほしい。現在は徒歩で10分以上もかかっており大変不便。区役所での手続き時間をもっと効率化し待たせないで。また休日でも行なえる（取扱いできる）業務も増やしてほしい。
- ・千束地区に住んでいますますが区の端っこということもあり、大田区のサービスを受けられる機会が少ないと感じます。（蒲田・大森などでのサービスが多いと思います。）
- ・無駄なお金は使わないでください。
- ・おきなわの基地を少しでもへらすために、かたがわりできることを、進んでおこなう方法をとってください。
- ・証明書、発行以外は特別出張所の必要性はない。廃止を。
- ・子ども達育成へのサポート、「ものづくり大田区」の躍進への助け合う、又力を貸し合う組織へのサポートをお願いします。
- ・他区より昨年移転（40年程居住）して1年あまりなので大田区政の内容等がまだよくわかりません。これからすこしずつわかれたらいいなと思っています。
- ・子どもの頃にも選んでも、清掃、状況が大変悪く又マナーのない住民が非常に増えていると思います。自分の住んでいるまちを、美しいまちにしたいと思っている住民が少ない。他区の友人からも大田区はレベルの低いまちといわれています。教育の不足なのか、住んでいたいと思いません。
- ・区民になって3年になりますが、これほどの多種多様な施策を講じていただいているとは知りませんでした。これからも区民の目線で「暮らしやすい」「これからも暮らしたい」まちづくりをお願いします。
- ・より住みやすいまちを目指していただければと思います。
- ・大田区役所が蒲田駅前に移られたことは本当に有難い。幼いころから、この大田区は何よりも大森、蒲田、羽田が主であり、それは確かに認めるが、自分の住む千束は何となく無関心のもとに置かれているような感じをもっていた。しかし自分は紛れもない大田区民であるし、そのことに誇りをもっている。
- ・実際、住んでみて良いところだと思うがイメージが悪い地域がありそれが大田区全体のイメージとなっている。交通が不便な場所も多いが住みやすい地域は非常に多いので商店街や多くのメディアを巻き込んだまちのイメージ向上作戦が今後の大田区にとって良いことと思う。羽田だけ推してもダメだと思う。
- ・元気で明るい生活ができますようにお金はほどほどに。

12 税金

- ・区税を公平に分配されているか、違法に使われていないか等チェック機関を設け、責任の所在を明らかにすべき。
- ・少子化対策のために医療の中学生までの無料化は大変。税金のむだ使い。多少の有料化はやむをえない。病院利用の暴走化につながる。ありとあらゆる支出に対し、無駄なものはないか日々考え、税金の使い方はどうあるべきなのか、検討していただきたい。
- ・安心して生活できる様、年金生活者への援助 税金の軽減等高齢者への福祉に目を向けて頂きたい。
- ・税金が江戸時代より高いのなんとかしてください。
- ・大田区は税金が高いと良く聞きますが、どうしてですか？
- ・区民税が高い。
- ・特別区民税。都民税がこの4～5年でいっきに上がり、大変不満である。税を上げるのではなく、節税をなささい。健康保険料も同様である。
- ・住民税を低くしてほしい。
- ・年金収入が少ないのに税金が高すぎる。
- ・税金の高い事。待遇がへらされたのに、税金は毎年高くなっています。
- ・都民税、区民税の減額。もっと住みやすい、暮らしやすい環境作りをしていただければと思います。
- ・税金を下げてほしい。

- ・家族構成によって税金の使われ方が不公平。子どもやお年寄のいない家庭では、税金分の利益、恩恵を享受している実感がない。
- ・税金を地域の活性化に使ってほしい。
- ・日本の税制の悪さを痛感している。もっと、スウェーデンの税制を学ぶべきである。老後に不安があるナンセンス社会。
- ・年収 500 万程度の、住民税が相対的に高い。
- ・医療費控除も利用させていただきありがとうございます。

13 議会

- ・区議会議員、区職員の人件費が、本当に、どこまで、必要かわからないです。
- ・大田区議・職員の皆様、他県で不正請求・水増し請求が話題になっていますが、区民を裏切らぬ様祈ります。
- ・議員を減らすべし。
- ・テレビでも問題になりましたが、議員さんへのいろいろな名称の手当等の金額が適切なのか、添付書類など、どうなのか、検討し、適切に行ってもらいたいです。
- ・区議会議員の数を 1 / 2 にしてほしい。政策調査費の公開。
- ・議員の経費の使い方の内訳を公開して下さい。いつでも閲覧できることを希望します。第三者（オンブズマン）を導入。

14 選挙

- ・区議選くらいは、インターネット経由で投票させてほしい。

15 戸籍・住民登録

- ・住民票や印鑑証明をもっと安く（無料）してほしい。

16 国保・年金

- ・国民健康保険料の算出説明不足。住民税と同じ算出方式に希望する。区から配布される無料健康診断受診は必要なし。本人の自由、その分国保等の税金を少しでも軽減希望。
- ・生活保護を受けている人より我々の年金の方が少ない。生活できない。
- ・長年サラリーマンとして働いてきて年金は減る一方、安心して生活できる様、年金生活者への援助税金の軽減等高齢者への福祉に目を向けて頂きたい。
- ・特別区民税、都民税がこの 4 ~ 5 年でいっきに上がり、大変不満である。健康保険料も同様である。

IV 調査結果の概観

IV 調査結果の概観

(1) 定住性

ここでは、定住意向（問2）と生活環境の満足度（問4）をクロス集計し、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足的项目を明らかにしていく。

1. 問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「ずっと住み続けたい」、「当分は住み続けたい」：定住意向のある人

「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

上記と問4をクロス集計し、生活環境への評価点を算出する。

(2) 生活環境の満足度

ここでは、生活環境の満足度（問4）を取りあげて、区民の回答結果の項目間で何らかの影響や共通性があるかなどの特徴を明らかにしていく。

1. 生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）と生活環境個別評価の15項目との間にどのような関係があるかを偏相関係数の算出により分析する。
2. 生活環境個別評価の項目群は、大きく分類するとどのような共通の要素から成り立っているのかを把握する。
3. 「2」の分析により、どのような項目が生活環境評価（＜全体としての「暮らしやすさ」＞）の形成にどの程度影響しているのか、また改善点となる項目は何かなどを分析する。

(1) 定住性

問2の定住意向と問4の生活環境の個別評価から、定住意向・転出意向を持つ区民の満足・不満足の項目を明らかにしていく。

ここでは、問2の選択肢を下記に置き換えて集計する。

「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」：定住意向のある人

「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」：転出意向のある人

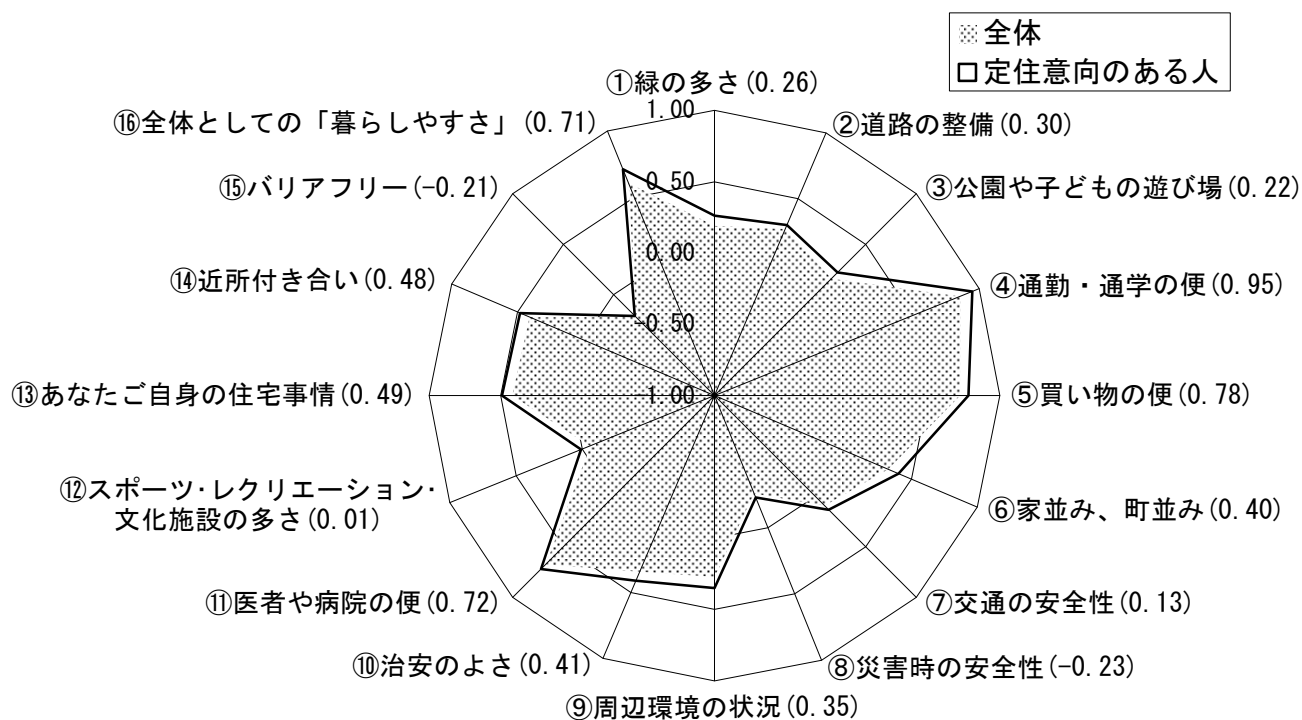
また、47 ページで求めたと同様に、16項目にわたる生活環境評価の比較をやすくするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{(再掲)} \quad \text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-1.00 から 1.00 の間に分布し、1.00 に近いほど評価が高く、-1.00 に近いほど評価が低いことになる。

【定住意向のある人】

問2：「ずっと住みたい」、「当分は住みたい」と回答した人（n=970）

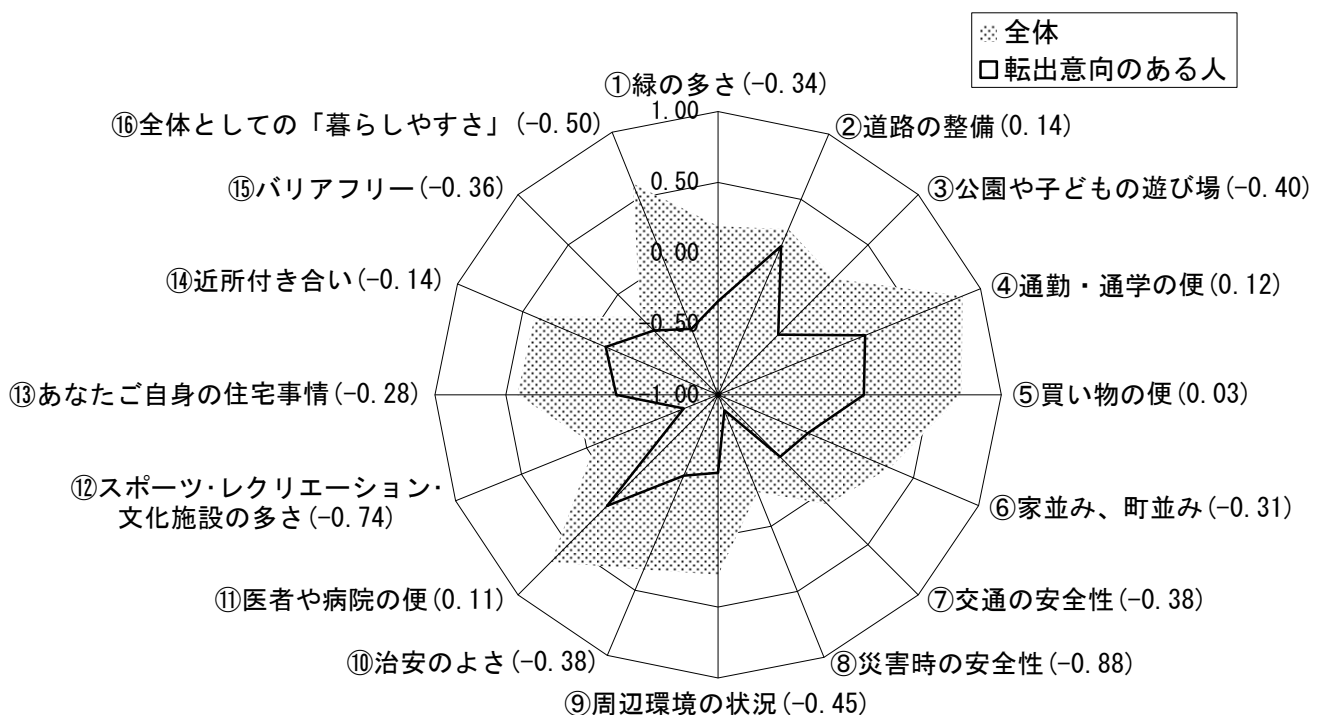


全ての項目で全体を上回っており、特にく全体としての「暮らしやすさ」 > (0.71) が 0.10 ポイント、「通勤・通学の便」(0.95) が 0.09 ポイント上回っており、評価が高くなっている。

一方、全体より評価は高いものの、“定住意向のある人”の中で評価の低い項目は、「災害時の安全性」(-0.23)、「バリアフリー」(-0.21)、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」(0.01)の順となっている。

【転出意向のある人】

問2：「できれば大田区外へ移りたい」、「大田区外へ移りたい」と回答した人（n=58）



全ての項目で全体を下回っており、特にく全体としての「暮らしやすさ」 > (-0.50) が 1.11 ポイント、「通勤・通学の便」(0.12) が 0.74 ポイント、「周辺環境の状況」(-0.45)と「治安のよさ」(-0.38) がともに 0.72 ポイント下回っており、評価が低くなっている。

一方、全体より評価は低いものの、“転出意向のある人”の中で評価の高い項目は、「道路の整備」(0.14)、「通勤・通学の便」(0.12)、「医者や病院の便」(0.11)の順となっている。

【評価点一覧】

問4 生活環境の評価	全体 評価点	定住意向のある人 評価点	転出意向のある人 評価点
①緑の多さ	0.19	0.26	-0.34
②道路の整備	0.27	0.30	0.14
③公園や子どもの遊び場	0.16	0.22	-0.40
④通勤・通学の便	0.86	0.95	0.12
⑤買い物の便	0.72	0.78	0.03
⑥家並み、町並み	0.32	0.40	-0.31
⑦交通の安全性	0.09	0.13	-0.38
⑧災害時の安全性	-0.26	-0.23	-0.88
⑨周辺環境の状況	0.27	0.35	-0.45
⑩治安のよさ	0.34	0.41	-0.38
⑪医者や病院の便	0.67	0.72	0.11
⑫スポーツ・レクリエーション・ 文化施設の多さ	-0.06	0.01	-0.74
⑬あなたご自身の住宅事情	0.42	0.49	-0.28
⑭近所付き合い	0.41	0.48	-0.14
⑮バリアフリー	-0.22	-0.21	-0.36
⑯全体としての「暮らしやすさ」	0.61	0.71	-0.50

「道路の整備」、「通勤・通学の便」、「買い物の便」、「医者や病院の便」は定住意向の有無にかかわらずプラスの評価となっており、今後もこの水準を維持していきたい点と考えられる。一方、「災害時の安全性」、「バリアフリー」は定住意向の有無にかかわらずマイナスの評価となっており、改善が必要な点と考えられる。

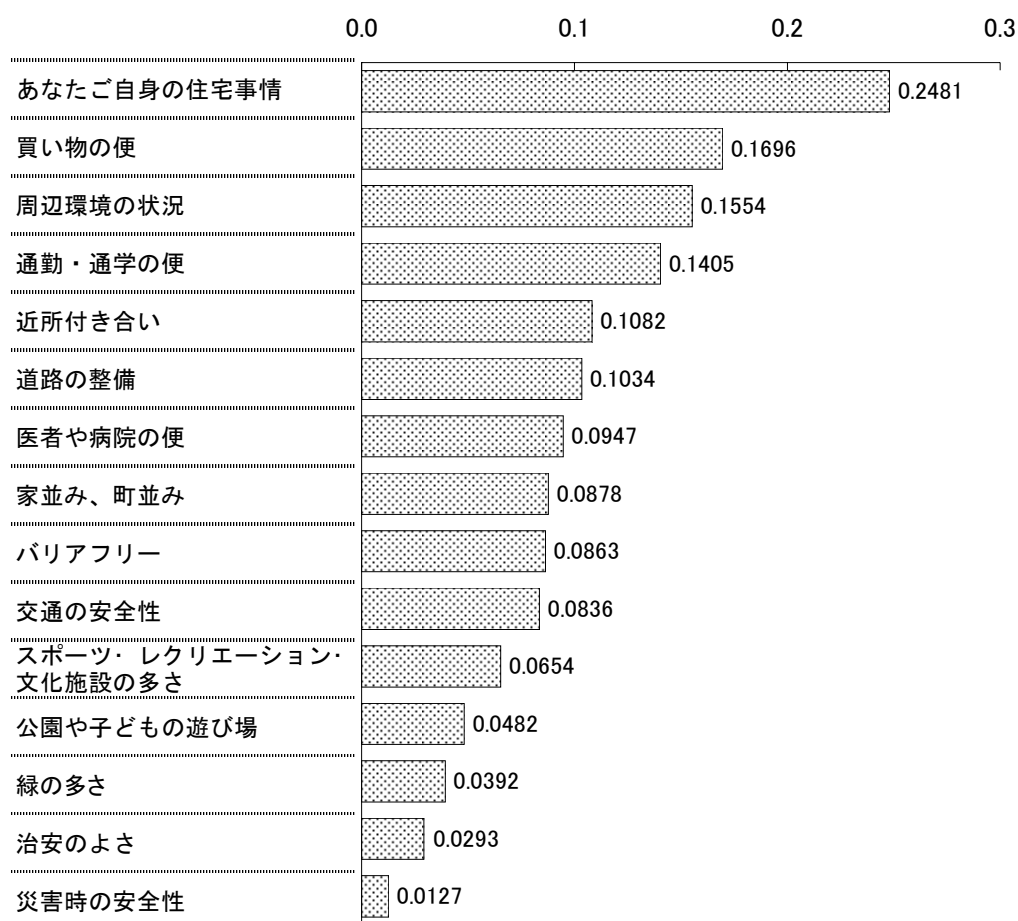
(2) 生活環境の満足度

生活環境の個別評価と〈全体としての「暮らしやすさ」〉の関係

問4の生活環境の満足度から、生活環境の個別評価と〈全体としての「暮らしやすさ」〉との相関関係についてみるために偏相関係数を算出した。偏相関係数とは、2つの項目（ここでは生活環境の個別評価それぞれと〈全体としての「暮らしやすさ」〉）の純粋な相関係数を表すものであり、その関係の大きさは絶対値で示される。

これで見ると、〈全体としての「暮らしやすさ」〉の評価との相関は、「あなたご自身の住宅事情」が最も高くなっている。次いで「買い物の便」、「周辺環境の状況」、「通勤・通学の便」、「近所付き合い」、「道路の整備」、「医者や病院の便」などの順になっている。

この傾向をみると、〈全体としての「暮らしやすさ」〉の評価とのつながりが強いのは、「あなたご自身の住宅事情」、「買い物の便」、「周辺環境の状況」といった日常生活を送る上で、自身に近い環境の影響が強いと考えられる。



下図は縦軸に問4の評価点、横軸に偏相関係数をとり、15項目の指標をプロットしたものである。

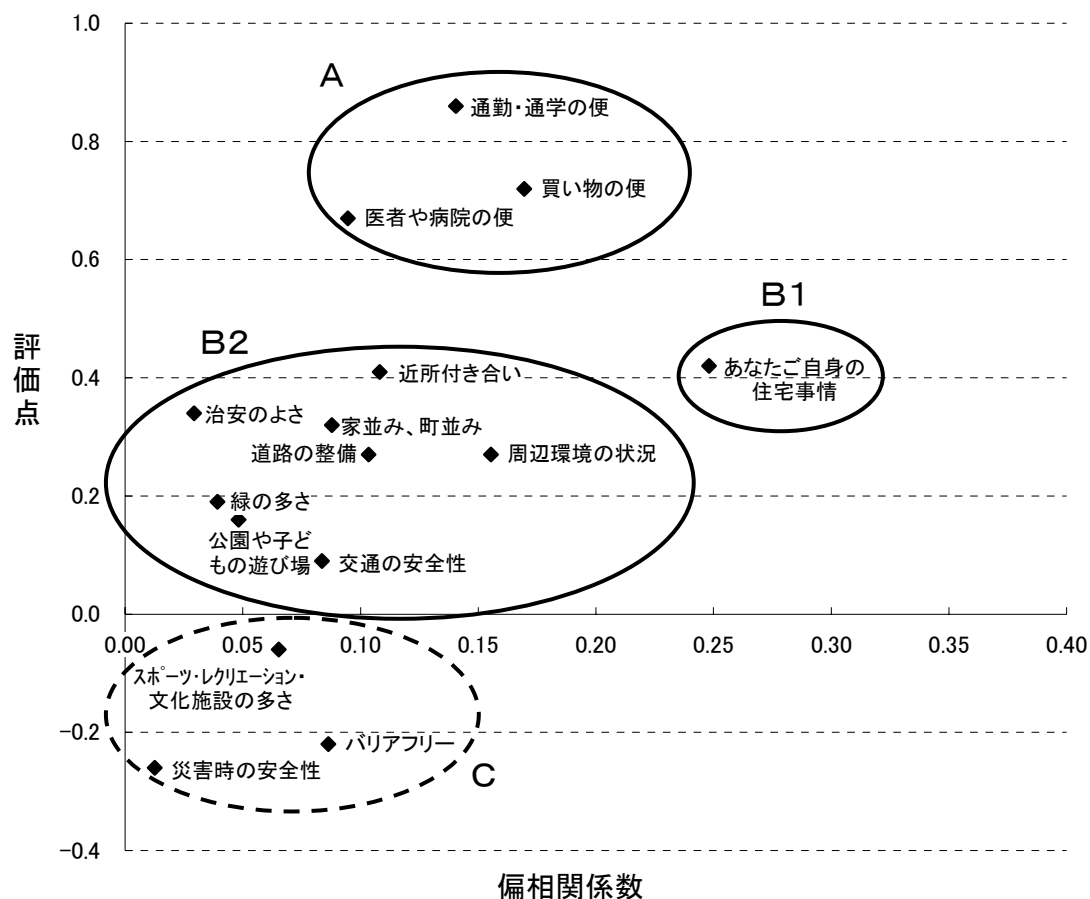
Aグループにある「通勤・通学の便」、「買い物の便」、「医者や病院の便」といった利便性に関する項目は、偏相関係数は低いものの評価点が高く、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価改善に対する寄与度は低いと考えられる。しかしながら、今後も同水準を維持する努力が必要な点と考えられる。

Bグループは、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価を高める今後の改善点となるグループと言える。

BグループのB1は偏相関係数は高いものの、評価点が低い項目である。しかし、「あなたご自身の住宅事情」という項目の特徴上、外部要因による改善は容易ではない。

BグループのB2に属する項目は、比較的偏相関係数が高い項目から低い項目が含まれる。また共通して評価点が低い項目群であり、その点ではB1グループと類似した項目群である。ただし、B1グループと違い、「家並み、町並み」、「治安のよさ」、「周辺環境の状況」、「道路の整備」など外部からのアプローチで改善可能な項目であり、＜全体としての「暮らしやすさ」＞への評価を高めるには、B2グループに属する項目が今後の課題と考えられる。

また、Cグループは偏相関係数は低いのが、評価点がマイナスであり、改善が必要な点と考えられる。



大田区政に関する世論調査

平成26年12月発行

発行 大田区 区長政策室 区民の声課

東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話：03-5744-1135

FAX：03-5744-1504

実施機関 株式会社エスピー研

東京都千代田区飯田橋三丁目11番20号

電話：03-3239-0071（代表）

FAX：03-3239-0072
